秋田県文化財調査報告書第73集

鵜沼城跡発掘調査報告書

1980・3

秋田県教育委員会

序

鵜沼城跡は昭和53年度に県営圃場整備事業に係る遺跡でありました。ところが遺跡の面積が広いことから，単年度で予備調査もなく発掘調査するのは不可能に近いということで，圃場整備を一年延期していただいたのです。その間教育委員会では昭和53年の秋，範囲確認調査で包含層の厚さ，遺構の保存状態など本調査の予備的な調査を実施しました。

これを基礎に今年度国庫補助を得て発掘調査を実施しました。調査の結果，中世末期から近世にかけての建物跡，井戸跡，それに陶器，漆器など多くの遺構，遺物が発見され，それをまとめたのが本報告書です。

中世の平城が全面発掘された例は県内でははじめてのことであり，東北地方においても例は少ないと思います。したがってこの成果は貴重な資料になると考えられます。しかし，工事の関係で広い面積にもかかわらず短期間に調査を進めなければならなかったわけで，いろいろな所に無理がありました。こうした悪条件の中でも埋蔵文化財を保護しようという事に情熱をかけてきた仕事の一つと評価していただければ幸甚に思います。

最後に圃場整備を一年延期して調査に協力してくださった地元平城の土地所有者，同土地改良区及び雄勝農林事務所の方々に心から感謝の意を表します。

昭和55年３月

秋田県教育委員会
教育長　畠　山　芳　郎

例　　言

1．本書は，秋田県教育委員会が昭和54年度に発掘調査を実施した鵜沼城遺跡の調査報告書である。

2．本書の作成にあたり，以下のように分担して執筆した。

目次の第1章……富樫　泰時

第2章，第4章，第6章……畠山　憲司

第3章……橋本　高史

第4章1節の2……渡部健太郎

第5章……塩谷　順耳

3．遺構の写真撮影は畠山が行った。遺物の写真撮影は佐藤(和)，鈴木(功)が行った。

4．本書中の出土遺物の実測図の縮尺は木製品，石製品は⅓他は½にした。全体図及び遺構実測図は任意の縮尺であり，それぞれスケールを付した。方向は全て磁北である。

5．土色の表記は主に小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帳』を活用した。

6．井戸の分類に関しては山本博『井戸の研究』を活用した。

7．出土陶磁器に関しては宮内庁書陵部陵墓課。井上喜久男氏（現愛知県立陶磁館）に御教示していただいた。又，第5章は塩谷順耳氏（県立秋田高校教諭）に執筆をお願いした。両氏に対し記して感謝の意を表する。

8．銅，鉄製品の実測及び原稿に際しては秋田県立博物館　庄内昭男氏の協力を得た。

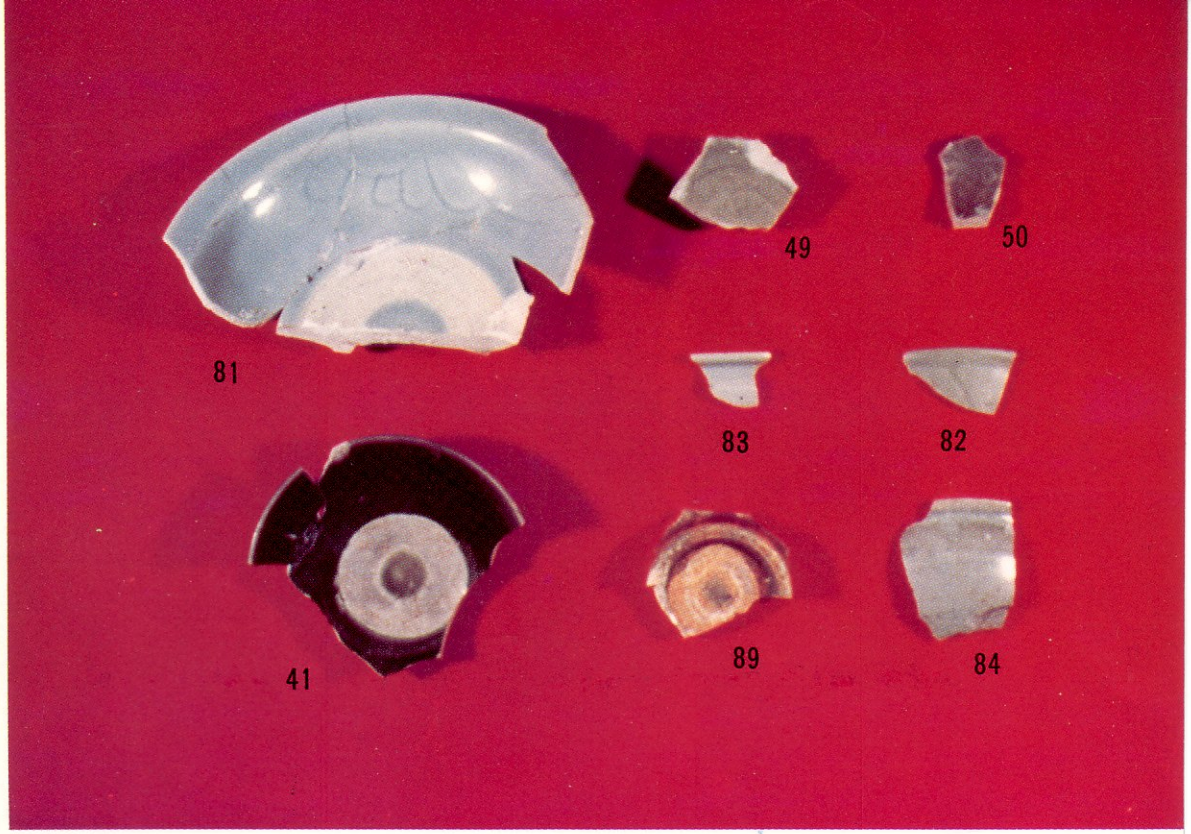
9．建物跡については，秋田工業教諭五十嵐典彦氏にご教示を仰いだ。

目　　次

序
第１章　はじめに…… 1
　第１節　発掘調査に至るまで…… 1
　第２節　調査の組織と構成…… 1
第２章　遺跡の立地と環境…… 4
　第１節　立地と環境…… 4
　第２節　歴史的環境…… 4
　第３節　周辺遺跡…… 4
第３章　発掘調査の概要…… 6
　第１節　遺跡の概観…… 6
　　１．遺跡の層序…… 6
　　２．遺構の分布…… 6
　　３．遺物の出土状況…… 6
　第２節　調査の方法…… 7
　第３節　調査の経過…… 7
第４章　調査の記録…… 9
　第１節　発見遺構…… 9
　　１．掘立柱建物跡…… 9
　　２．井戸跡……49
　　３．土　坑……86
　　４．堀・溝跡……93
　第２節　出土遺物……95
　　１．縄文時代の遺物……95
　　２．奈良～平安時代の遺物……95
　　３．中世～江戸期の遺物……95
第５章　鵜沼城の周辺…… 125
　第１節　雄勝地方の国人層…… 125
　第２節　記録に見る鵜沼城…… 126
　第３節　まとめ…… 130
第６章　まとめ…… 131

巻頭図版 1　鵜沼城跡遠景（航空写真　西▶東）

巻頭図版２　遺 跡 全 景（左が北）


81
49
50
83
82
41
89
84

96
95
7
101
103
51
12
127
126
11
136
138
130
132

巻頭図版３　出 土 陶 磁 器

第1章　はじめに

第1節　発掘調査に至るまで

雄勝郡雄勝町に所在する鵜沼城跡は，昭和37年の秋田県埋蔵文化財分布調査の際に登録された，いわゆる周知の遺跡である。この地域が昭和53年度より実施される県営圃場整備地域内にはいるため，秋田県教育委員会が主体となって，昭和53年10月２日～10月21日まで，遺跡の性格及び範囲を確認する調査を行った。その結果，建物跡・井戸跡・柱列等の遺構，青磁・白磁等の中世陶器が発見され，遺構の残りの比較的よい事がわかった。

しかし，現況の水田は小さく入り組み，農道も使用に耐え得なくなってきているため，圃場整備事業は不可欠と判断された。計画通り工事が実施されると，水田下の遺跡が破壊される恐れが生じたため，記録保存をはかり，今後の資料とするものとして，工事着工前に発掘調査を実施した。

こうして，鵜沼城跡は県営圃場整備に係る埋蔵文化財（鵜沼城跡）発掘調査として，昭和54年５月15日から発掘調査が開始された。調査対象面積は約19,250m²である。

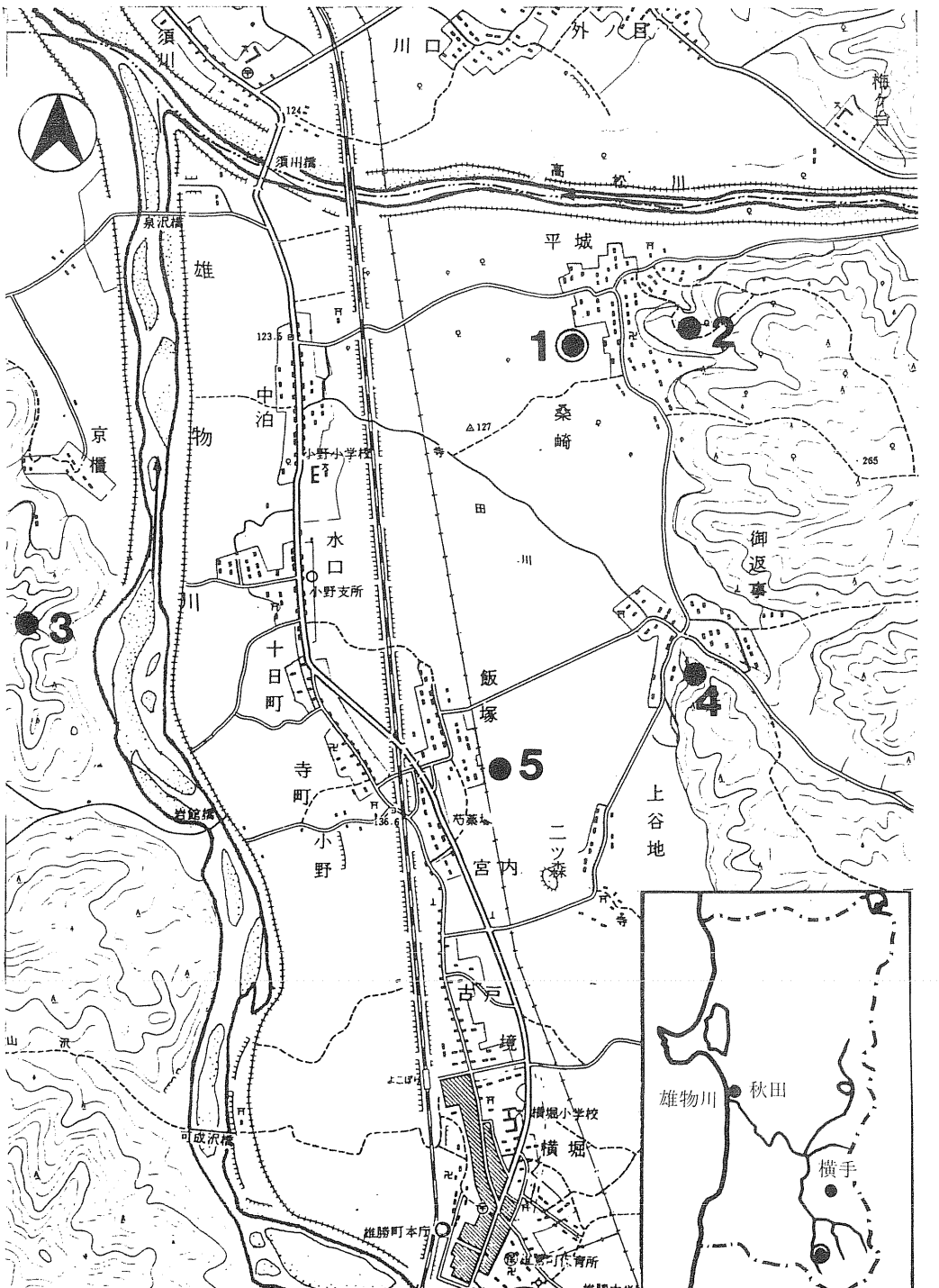
第2節　調査の組織と構成

遺跡名	鵜沼城跡
遺跡所在地	秋田県雄勝郡雄勝町桑ケ崎字平城
調査期間	昭和54年５月15日～10月６日
調査対象面積	19,250m²
調査面積	15,000m²
調査主体	秋田県教育委員会
調査担当者	畠山憲司，橋本高史（秋田県教育庁文化課）
調査員	山田貞吉（平鹿町教育委員会）
調査補助員	佐藤和弘，渡部健太郎，高橋俊宏，桑原隆，高橋浩樹，鈴木秋良，花田幹雄
事務補助員	錦織亮子
調査協力機関	秋田県雄勝農林事務所土地改良課
	雄勝町教育委員会
	秋田県南高等学校考古学研究協議会

発掘調査参加者　大滝達也，嶋村友子(早稲田大学学生)，本田嘉之(法政大学学生)，高橋功，今勝蔵，高橋円之助，簗瀬藤蔵，佐々木耕治，金子一郎，阿部喜一，阿部繁太郎，柴田隆四郎，金子恭蔵，渡部国雄，渡部勝義，高橋長之助，菅野幸四郎，石川泰次郎，佐々木正一，柴田勝美，姉崎義一，佐々木清一，渡部勝也，金子直治，太田勝蔵，竹内千代春，竹内源次郎，菅野松雄，菅野末吉，金子清美，金子芳雄，岸谷与吉，岸谷寛志，岸谷寿一，佐々木倉治，佐藤勇三，樋口隆，佐々木嘉八郎，太田トヨノ，高橋健子，菅原さだ子，阿部節子，金子イネ子，金子テツエ，金子美代子，樋口ケイ，金子恵美，立花ちよ子，金子ハル，阿部ツヤ，阿部チエ子，東海林トミ，太田登美子，阿部チカ，高橋サツ，柴田スミエ，柴田ムツ，佐藤テル，照井ミネ，金子和子，竹内イマ，門脇文子，門脇玲子，門脇輝子，渡部礼子，柴田清，佐々木イサ子，寺沢静子，渡辺友子，簗瀬瑶子

遺物整理協力者　熊谷恭子(秋田大学学生)，大石俊雄，鈴木功，天野恵子，荒沢孝子，石川静，石黒紀子，金子千賀子，神居トシ，小渕悌子，小町順子，佐藤連子，進藤ひとみ，諏訪節子，田松志津子，鶴谷左絵子，林ヒサ子，牧野一枝，山田文子，山崎節子

遺物整理事務所　富樫泰時（秋田県教育庁文化課）



1：25,000

0 500 1000 1500 2000m

第1図 遺跡の位置

1 鵜沼城跡
2 山城跡
3 小野城跡
4 御返事城跡
5 桐木田井戸跡

第２章　　遺跡の立地と環境

第１節　立地と環境

鵜沼城跡は横手盆地の南端部東側，奥羽山脈より西に延びた丘陵裾部に位置し，国鉄奥羽本線横堀駅の北 2.8 kmにある。遺跡の西には雄物川，出羽丘陵，北東に高松川，東鳥海山，南に遠く神室山地が控え，北側はわずかに開けて湯沢方面に通ずる平地となっている。

遺跡は平城部落の中央部から西に張り出した微高地とその縁辺部からなり，堀がその周囲を東西約 170 m南北約 150 mの不正五角形に廻る。微高地は強い粘質土，あるいは固くしまった砂礫土からなり，周囲の低地との比高差は１～２ mである。遺跡の南西～北西にかけてはかつて役内川が前記微高地の裾を洗って北流したこともあり，ゆるやかな低地になっている。

第２節　歴史的環境

雄勝町北部から湯沢市南部にかけては，雄物川を中心にして幅 1.5 ～ 2.0 kmの平地が南北に細長く続き，東西には 700 ～ 800 mの山地がせまって良好な河成段丘の発達は見られない。このため縄文時代の遺跡の多くは，院内川，高松川上流域に分布し，本遺跡周辺では，遺跡の南 1.8 kmの微高地上に占地する遺跡があるのみである。古代においては山形県最上地方から山北雄勝村に至る通路にあたり，横河（現在の横堀に比定）には駅もおかれた。

中世に入り，鎌倉時代初期頃には小野寺氏が山北の地頭として入部し，本遺跡の北東，東鳥海山の反対側稲庭の地に居を構えた。鵜沼城周辺地域もこれとほぼ同時に同氏の影響下に入ったものと思われる。また中世の頃は東側丘陵裾を南北に走る古代の道路がそのまま使用されていたようで，これに沿って多くの板碑が発見され，県内でも有数の板碑の多い地域である。この中で最も古いものは湯沢市山田鍋ケ沢所在の正和五年（1316）銘のある板碑である。

中世後半の鵜沼城周辺の情勢については第５章を参照されたい。

第３節　周辺遺跡

鵜沼城周辺に分布する中世城館は第84図に示したように非常に多い。この中でもごく隣接するものを第１図に表わした。図中５の桐木田井戸跡遺跡は本年度行った範囲確認調査において大溝，掘立柱建物と思われる柱穴などが発見され，本遺跡との類似性がうかがわれる。３の小

野城は東面する丘陵尾根を利用して構築された山城で，段状になった郭の他，空堀，土塁等も残存する。2は通称「館」と呼ばれ，山頂部郭部分の下の斜面に一条の空堀跡がめぐる。鶴沼城との関連が考えられ，「詰の城」である可能性もある。

第2図　発掘区と地形図

第３章　　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

1　遺跡の層序

鵜沼城跡は標高約 129 mの微高地と，その回りを１～２ mの比高差でめぐる堀跡からなる。耕作土が10～20cmと薄いため，当時の生活面が残っているところはほとんどなかった。微高地堀跡ともに現在は水田，一部が畑地になっているが，微高地と堀跡とでは層位が異なる。微高地部分の層位は概略以下のとおりであった。

微高地	第Ⅰ層	黒褐色土	耕作土。厚さ10～20cm
	第Ⅱ層	黒褐色土	赤色，黄褐色微粒子を含む粘性の強い土。北西部にのみ存在する。厚さ10cm。
	第Ⅲ層	にぶい黄褐色土	礫を多量に含む固くしまった土。地山。部分的には灰オリーブ色の粘質土がこれにかわる。

2　遺構の分布

鵜沼城跡から発見した遺構は，掘立柱建物，井戸，堀，溝，土坑等であるが，堀及び溝の一部を除いては全て微高地上に分布する。前述したように，この微高地は後世の耕作等により，その全面にわたり厚さ20～50cmほど削平を受けており，当時の生活面はほとんどが失われている。

掘立柱建物は微高地西側を除いてはほぼまんべんなく分布し，北部～北西部に特に濃密に存在する。井戸は建物とはやや反比例して西部～南部に多く，東部では両者相まっている。しかしながらこのことは，西部ほど削平されている度合が大きいことから，柱穴が全てとばされ，井戸の下半部だけ残った結果である可能性もある。

3　遺物の出土状況

前述したように当時の生活面はほとんど失われており，遺物がプライマリーな状態で出土することはまれであった。遺物は木製品の他は全て細破片で，耕作土下部，溝中，柱穴内，井戸埋土中及び底部などからの出土が大部分である。

第2節　調査の方法

鵜沼城跡はかつての地形がほぼ残っており，堀廻も推定できたので，その内側19,250m²を対象として発掘調査を行った。微高地上は昭和53年度の範囲確認調査の結果，高密度で遺構が存在することが確認されていたため，4m×4mのグリッド法により全面発掘することにした。また堀は数本のトレンチを入れ，断面観察を主に行うことにした。

グリッドの名称のつけ方は次の方法による。まず，遺跡中央北側に任意の基準杭を打ち，これを原点（MA50）とした。トランシットにより，磁北に沿って東西南北の任意の基線を決定した。これから4m毎に東西基線はアルファベット2文字の組み合わせ，南北基線は2桁の数字の組み合わせを用いた。すなわち，東西基線は8グリッド32mで2文字の前の方を替え，4m毎に後の方を替えた（西へMA，MB，…MH，NA……NH，OA……）。また南北基線は北へ行くにつれ，1グリッド4m毎に1ずつ増えることとした（北へ50，51,52……59,60…）。各グリッドの名称は東南隅の交点のアルファベットと数字の組み合わせを用いることとした（MA50，MA51……）。また32m四方の大グリッドを第2図のように設定し，M1，N2地区などと呼ぶことにした。

なお，実測は遣り方測量を用いて原則として縮尺1/20で行ったが，特に重要なものは縮尺1/10とした。土色は『新版標準土色帳』によった。遺構番号は井戸跡その他において01から，建物跡においては100から，検出順にふった。その後の調査で遺構でないことが明らかになったものは欠番とした。

第3節　調査の経過

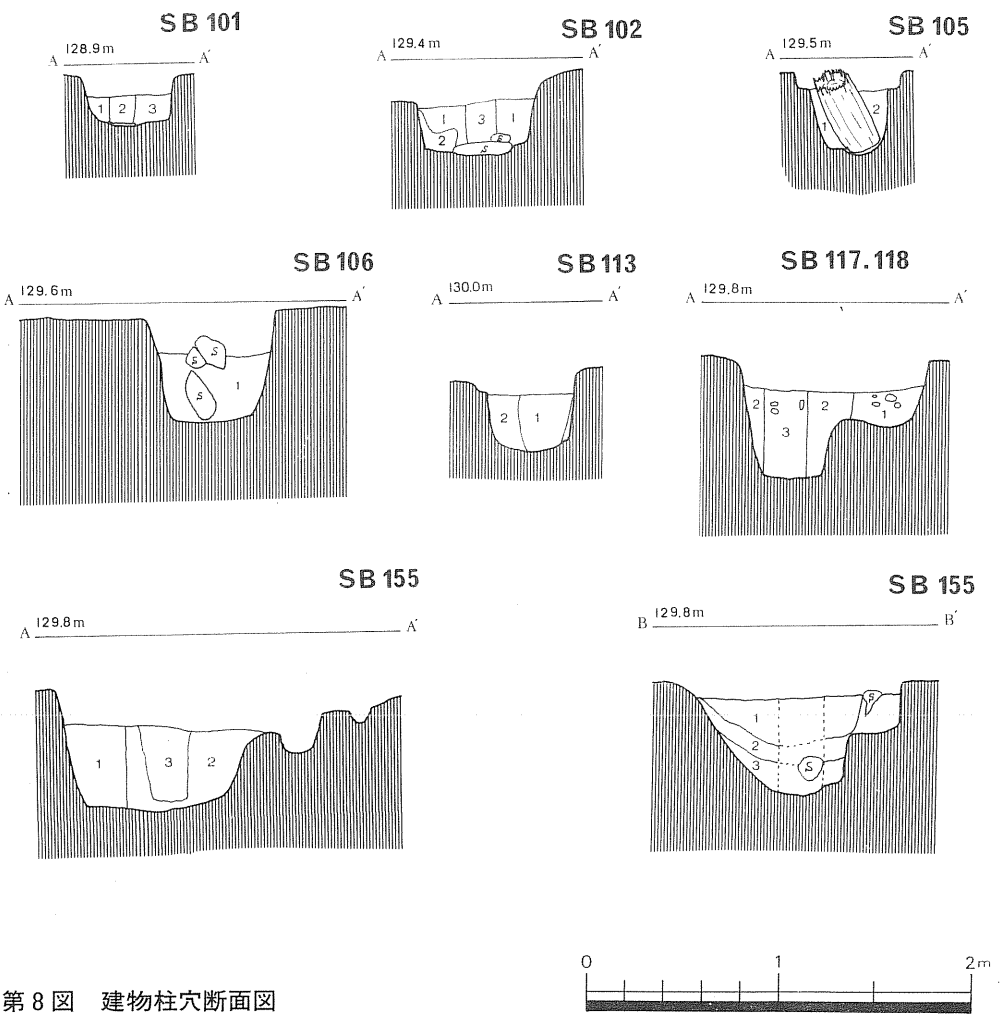
発掘調査は昭和54年5月15日から10月6日にわたって行われた。調査の全般的な経過は次の通りである。

微高地上は全体的に表土が薄く，その下の地山面が礫混じりの固くしまった土であり，また堀跡は底面に至るまで大分深いと予想されたので，微高地全体の表土及び堀の一部をバックホーにより排土することとし，5月15日から始めた。予想以上に排土した土砂の移動量が大きく天候等にも左右され予定より一週間遅れたが，6月2日にほぼ完了した。この間5月28日からは，遺跡南東部より，柱列，井戸跡等の遺構の検出に努めた。同31日から7月末日までは確認された遺構を遺構カードに記入し，同時に建物跡の発見を試みた。その結果，現場にて十数棟の建物跡が発見された。

ほ場整備事業の都合上，遺跡北側の用水路工事を早く進めたい旨の連絡があり，遺跡北部西

側（Ｍ４区周辺）に遣り方を組み，８月９日から実測にはいった。同31日には遺跡南部中央（Ｌ２区周辺），９月８日には遺跡南部西側（Ｍ２区周辺），18日には遺跡北部東側（Ｋ，Ｌ３区周辺），そして26日に残る遺跡南部東側（Ｋ２区周辺）を実測し，10月２日にほぼ全面実測を終えた。また，これと平行して堀跡に数本のトレンチを入れ，断面観察及び実測を行った。

10月３～５日に柱列のプロフィールや井戸断面の実測等の補足調査を行い，10月６日に器材の搬出等を行い，発掘調査を全て終了した。また，この調査期間中９月29日には現地説明会を行い，地元の埋蔵文化財保護の意識の高揚に努めた。



第８図　建物柱穴断面図

第4章　調査の記録

第1節　発見遺構

今回の鵜沼城跡発掘調査で発見した遺構は，掘立柱建物跡59棟，井戸跡68基，土坑27基，堀跡1条，溝16条などである。これまで述べたように，当時の生活面はほとんど全面にわたり，後世の耕作等により削平されていた。このため遺構の確認面は堀跡などの一部を除いて地山直上である。

1　掘立柱建物跡

発見された建物跡は59棟で全て掘立柱建物であるが，これは総発見柱穴の3分の1にも達しない。柱掘方は円形のものがほとんどであるが，まれに方形のものもある。柱アタリの確認できるもの，及び柱根の残存するものもあり，その限りでは角柱はなく，全て円柱である。柱の太さは径10～15cm，20cm前後，25cm以上のおおよそ3種くらいに分かれる。柱アタリの確認できない柱掘方内には，径20cm前後の河原石を詰め込んでいるものが多く，柱を抜き取ったものと考えられる。また，掘方底面に30cm×40cm前後の扁平な河原石を1～2個入れ，その中心部に柱を据えたものもある。それらの扁平な河原石の中央部には径20cm前後の黒色部が残っている。

建物桁行方向は磁北から東へ30°～50°，西へ40°～50°振れているものが，全体の約90%を占める。また柱掘方が，ある列をもって激しく切り合っている場合が多く，同一箇所での建て替えがくり返されている。

建物跡は全体や柱掘方の規模などから，合計6類に分類できるが，これは建物の時期差などとは関係ないものである。分類中，廂としたものは，下屋的なもの，あるいは土間である可能性もある。

A類：比較的大型で，1～2面の廂を持つ建物，その規模によってさらに3つに分けられる。

A－1＝身舎部分の梁間が1棟を除いて2間以上あり，廂が複雑に付いたり，張り出しがあったりする。

A－2＝A－1の単純化した建物，部分的に1面の廂が付くか，梁間が2間かである。

A－3＝梁間1間の細長い建物に一面の廂がつく。

B類：桁行が5間以上で梁間1間の細長い建物。

B－1＝梁間が5.9 m以上あるもの。

B－2＝梁間が4.5～5.5mのもの。

B－3＝梁間が4.4m以下のもの。

C類：4間×1間の細長い建物。

C－1＝梁間が6.0m以上のもの。

C－2＝梁間が5.5m前後のもの。

C－3＝梁間が4.8m前後のもの。

C－4＝梁間が4.0m以下のもの。

D類：3間×1間の長方形の建物

D－1＝梁間が4.8m以上のもの。

D－2＝梁間が4.5m前後のもの。

D－3＝梁間が4.0m以下のもの。

E類：2間×1間の建物

E－1＝平面形が略方形のもの。

E－2＝平面形が長方形のもの。

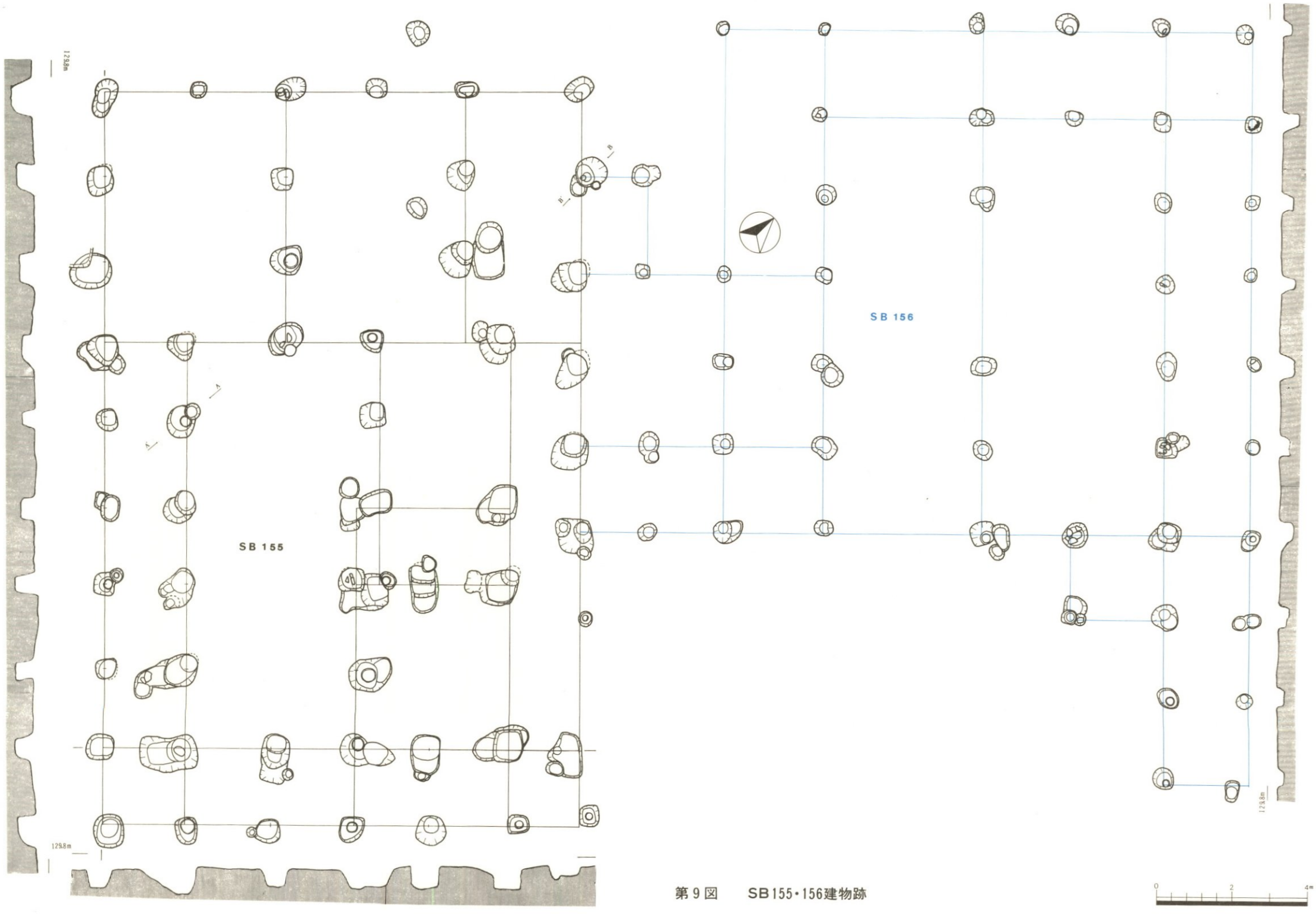
F類：その他

SB155，156建物跡（第4・9・10図，図版4）

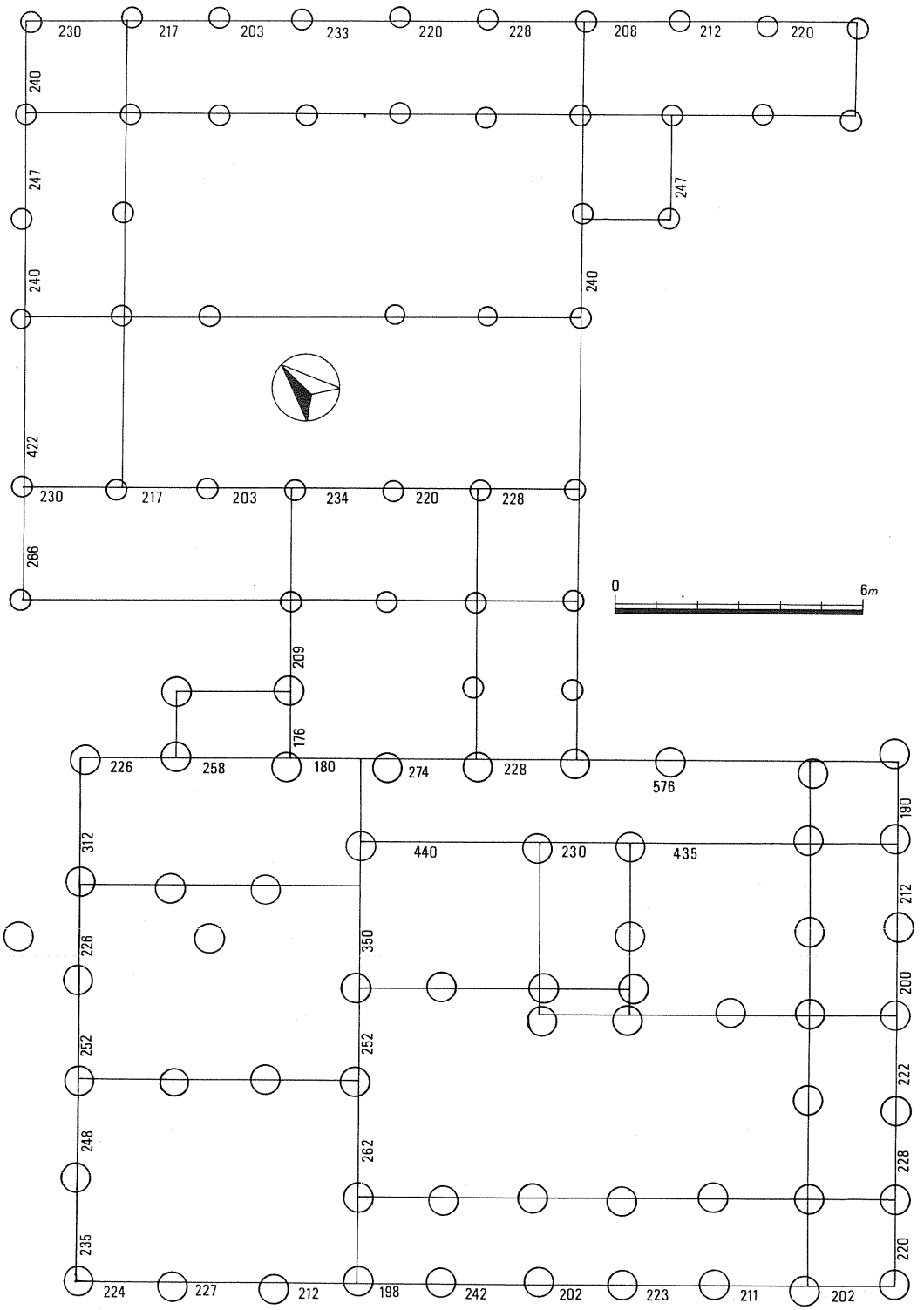
微高地北部で発見された建物跡で，SD200，201によって北東～南西が囲繞され，北～北西は比高差2mの斜面となっている。SB155，156は柱掘方の規模などの相異から別々の建物であると思われるが，桁行方向が両者ともN44°W（SD200はN45°W）で全く一致する。

SB155は桁行9間19.41m×梁間6間12.72mで，南西面の3分の2と北東面に1間の廂を持つ。廂部分にのみ関していえば1尺＝30.3～30.4cmの計画尺で7尺等間となる。柱穴は深さが30～60cmであるが，南側部分と北側部分で掘り方に大きな差がある。南側部分はほぼ垂直に掘っており，部分的に古い掘方かと思われるところもあるのに対し，北側部分では，南から北に傾斜して掘られており，若干深い。また両者の柱筋も身舎内では異なっている。

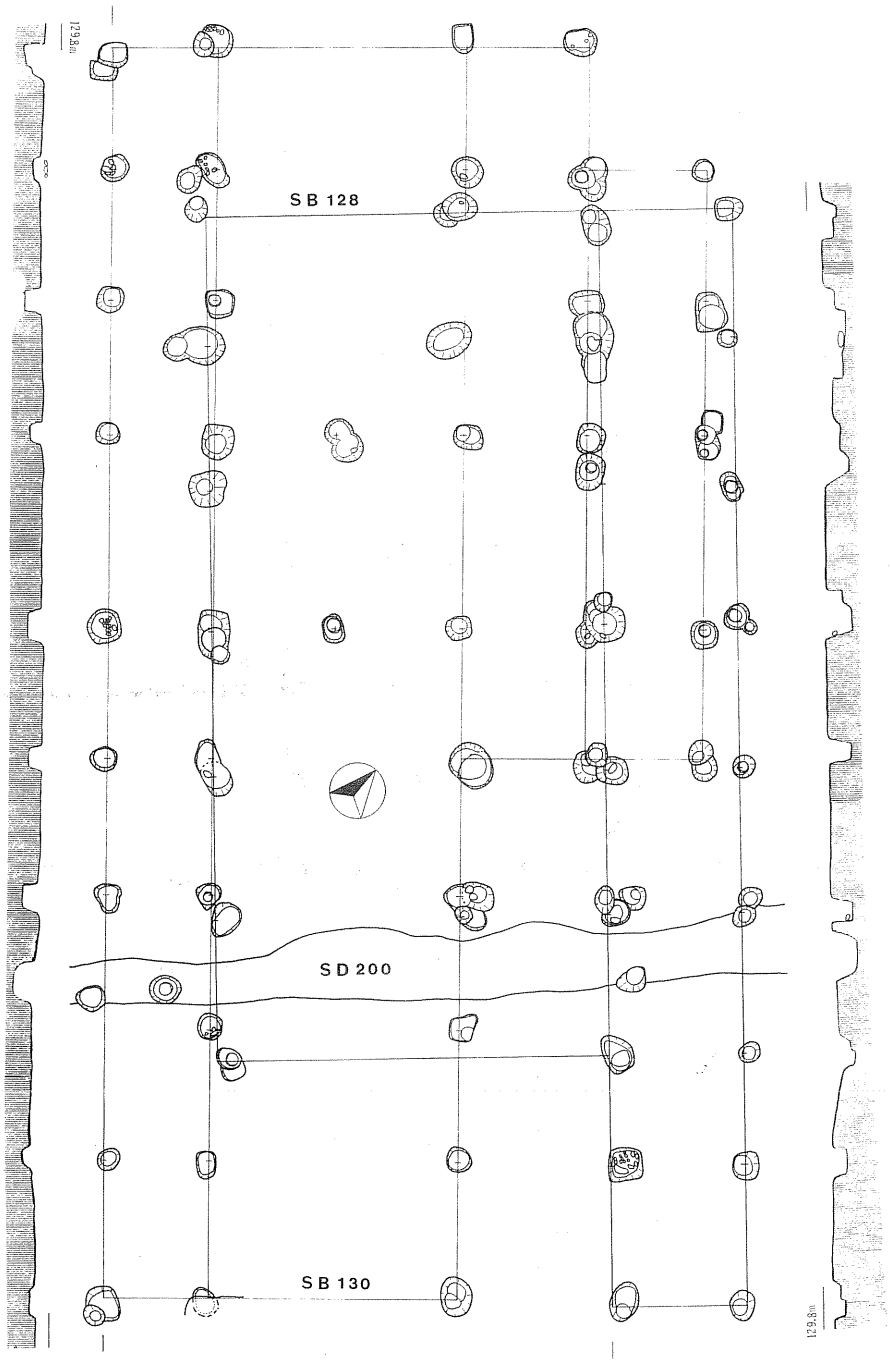
SB156は北東隅の張り出し部を除いて，桁行6間13.31m×梁間7間14.05mの建物で，北東と北西側に幅2.30mの廂が付く。



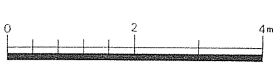
第9図　SB155・156建物跡



第10図　SB155・156建物跡模式図

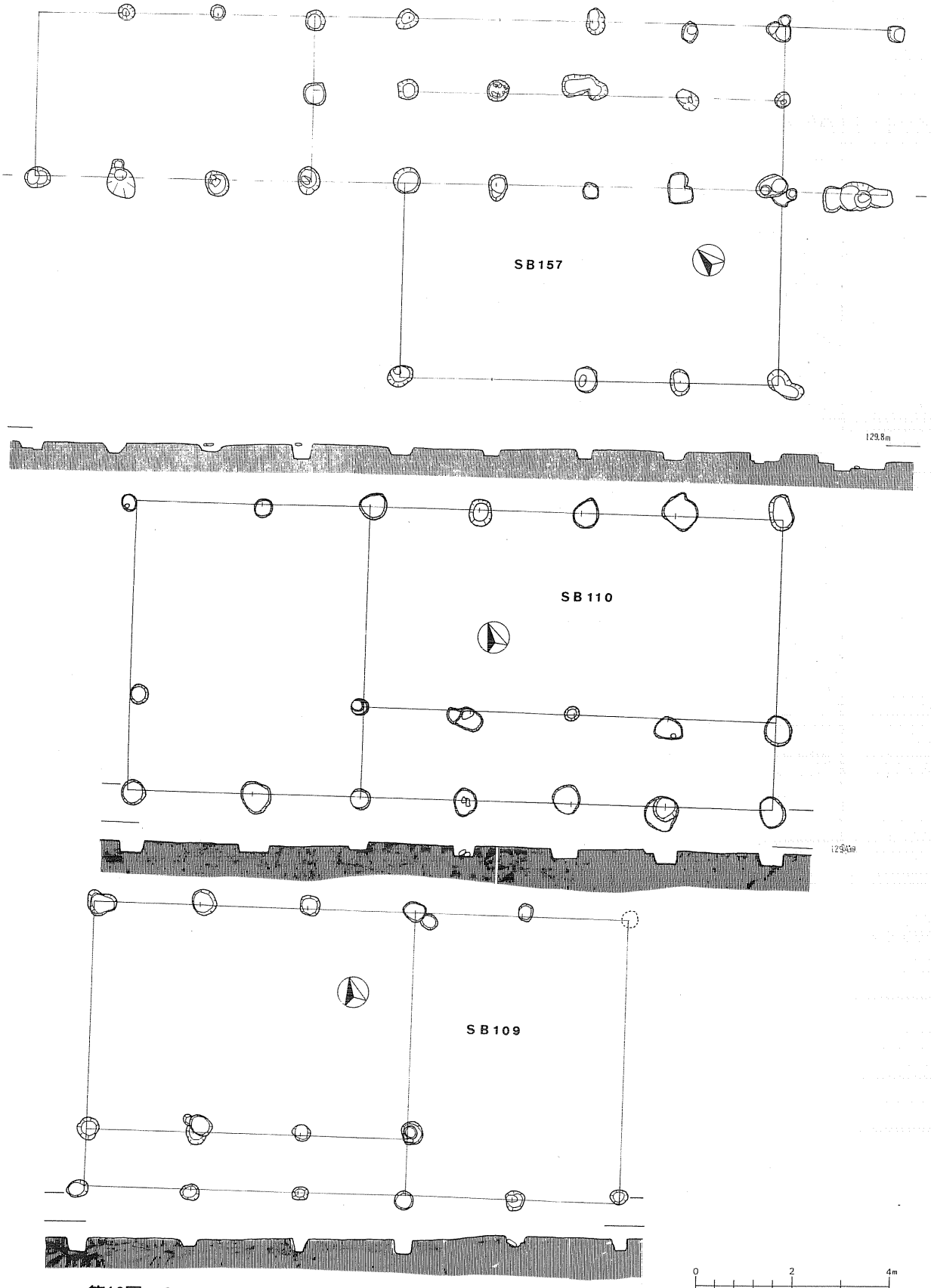


第11図　SB128・130建物跡



SB 128 建物跡	検出地点　K3,K4,L3　大グリッド	図版番号　5	分類番号　A－1
規模　17.38×8.30m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.1cm	
身舎　桁行　6間 13.41m 梁間　1間　6.20m	NW→SE, 203＋230＋223＋230＋230＋230＋223 →　,	7 ＋7.5＋7.5＋7.5＋7.5＋7.5＋7.5 (尺) 20.5尺	
廂　1面　幅 2.11m,　長さ　17.38m		主軸方位　N41.5°W	
柱堀方平均値　径　50cm,　深さ　34cm,　柱痕の太さ　cm			
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他　SB130と重複関係にあり，SB130より新しい。またSD200よりは古い。			

SB 130 建物跡	検出地点　K3，L3　大グリッド	図版番号　5	分類番号　A－1
規模　19.89×9.40m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.1cm	
身舎　桁行　9間 19.84m 梁間　2間　5.85m	NW→SE, 194＋209＋213＋313＋202＋218＋214＋208＋219 SW→NE, 393＋192	7 ＋ 7 ＋ 7 ＋10＋ 7 ＋ 7 ＋ 7 ＋ 7 ＋ 7 (尺) 13＋ 6 (尺)	
廂　2面　幅1.67m×長さ19.89m, 幅1.87m×長さ9.36m		主軸方位　N40°W	
柱堀方平均値　径　55cm,　深さ　25cm,　柱痕の太さ　15cm			
出土遺物　青縁釉(?),　染付皿,　磁器皿			
遺物記述頁　95P	時期　16C末～17C初	挿図番号　57図4～6	図版番号　30
その他　SB128, SD200よりも古い。			

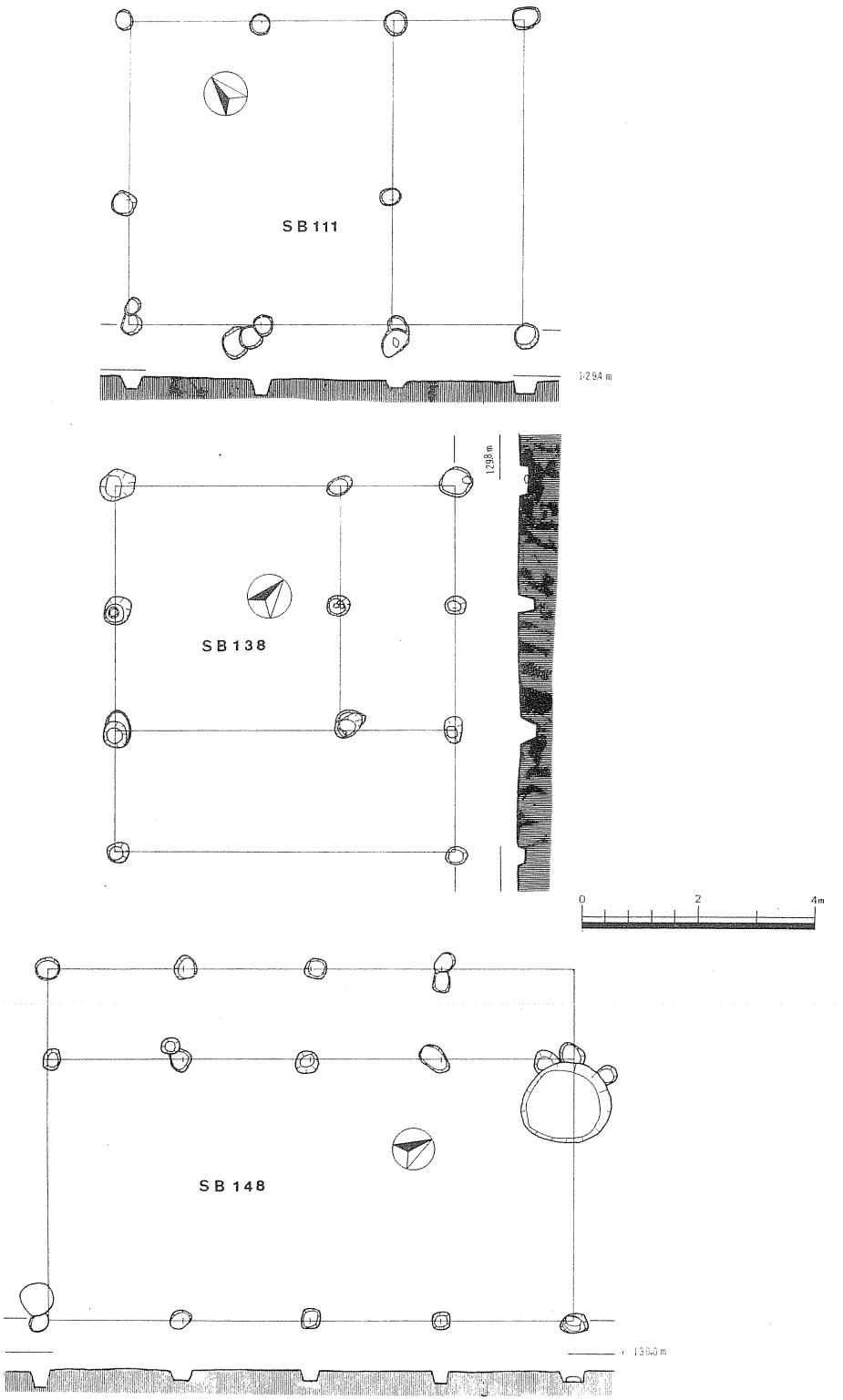


第12図　SB109・110・157建物跡

SB 157 建物跡	検出地点　K3，L3，L4　大グリッド	図版番号	分類番号　A－1
規模　17.90×7.60m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.2cm	
身舎	桁行　8間 15.70m 梁間　2間　7.60m	NW→SE，186＋194＋201＋196＋192＋196＋201＋203 SW→NE，410＋348	6.5尺等間 13.5尺＋11.5尺
廂	1面　幅1.55m(5尺)，長さ9.87m		主軸方位　N45°W
柱堀方平均値	径　48cm，　深さ　20cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	北東隅に2.20m×3.48mの張り出し部が付く，廂とした部分は土間である可能性がある。		

SB 110 建物跡	検出地点　L2　大グリッド	図版番号　6	分類番号　A－2
規模　13.56×6.12m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.8cm	
身舎	桁行　6間 13.56m 梁間　1間　4.19m	SE→NW，224＋196＋215＋229＋229＋267 →　，	7＋7＋7＋7＋7＋9(尺) 14尺
廂	1面　幅　1.93m(6尺)		主軸方位　N66°W
柱堀方平均値	径　51cm，　深さ　25cm，　柱痕の太さ　30cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	身舎が(8.70m×4.19m)＋(4.86m×6.12m)で(1.93m×8.70m)の廂が南西面に部分的に付くという形も考えられる。		

SB 109 建物跡	検出地点　K1，2，L1，2　大グリッド	図版番号	分類番号　A－2
規模　11.25×6.00m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.0cm	
身舎	桁行　5間 11.25m 梁間　1間4.80～6.00m	SE→NW，225＋225＋225＋225＋225 →　，	7.5尺等間 16尺
廂	1面　幅1.20m，長さ6.75m (4尺＋22.5尺)		主軸方位　N79°W
柱堀方平均値	径　42cm，　深さ　29cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	3間×1間(6.75m×4.80m)と2間×1間(4.50m×6.00m)に廂が付いた形。廂は下屋，あるいは土間とも考えられる。		

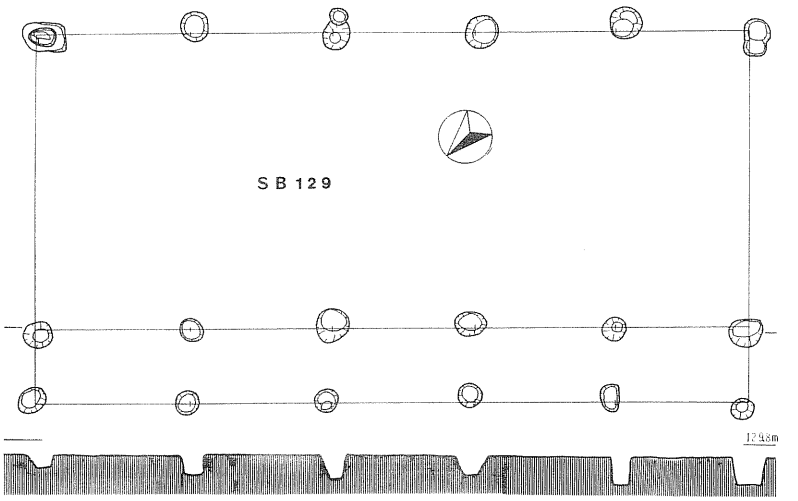


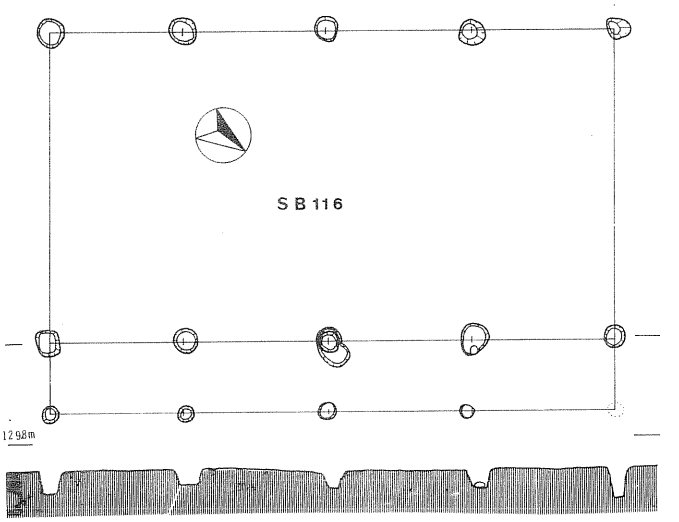
第13図　SB111・138・148建物跡

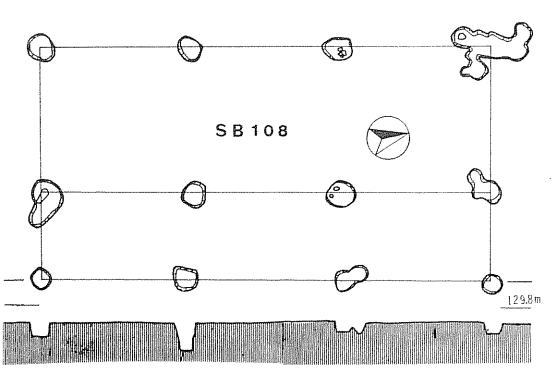
SB 111 建物跡	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　A－2
規模　6.85×5.30m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.4cm	
身舎	桁行　3間6.85m 梁間　2間5.30m	SE→NW, 228＋227＋230 SW→NE, 218＋312	7.5尺等間 7.5＋10尺
廂	面　幅		主軸方位　N51°W
柱堀方平均値	径　40cm,　深さ　24cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　95頁	時期	挿図番号　58図13	図版番号
その他			

SB 138 建物跡	検出地点　K 4，L 4　　大グリッド	図版番号	分類番号　A－2
規模　6.36×5.91m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.2cm	
身舎	桁行　3間6.36m 梁間　1間3.92, 5.91m	SE→NW, 212＋212＋212 →　,	7尺等間 13尺，19.5尺
廂	1面　幅1.97m，長さ4.27m		主軸方位　N47°E
柱堀方平均値	径　42cm,　深さ　30cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	身舎は(4.27m×3.92m)＋(2.12m×5.91m)でこれに 6.5尺×14尺の廂部分が付いた形とも考えられる。		

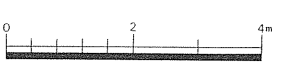
SB 148 遺物跡	検出地点　K 2，K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　A－3
規模　9.13×6.13m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.4cm	
身舎	桁行　4間9.13m 梁間　1間4.56m	SW→NE, 235＋222＋225＋231 →　,	7.5尺等間 15尺
廂	1面　幅1.57m（5尺）		主軸方位　N29°E
柱堀方平均値	径　42cm,　深さ　24cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	SE06より新しい。		







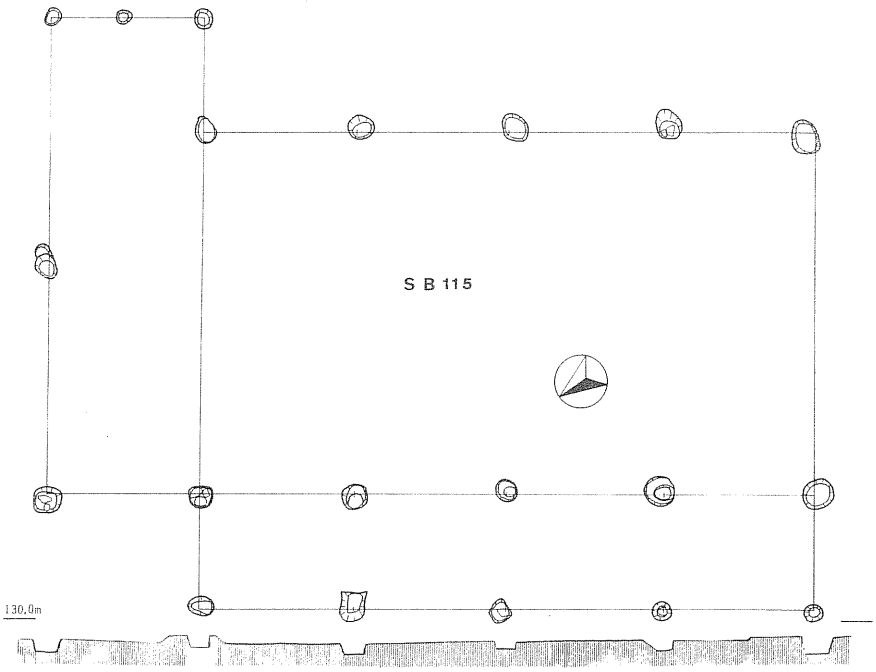
第14図　SB108・116・129建物跡

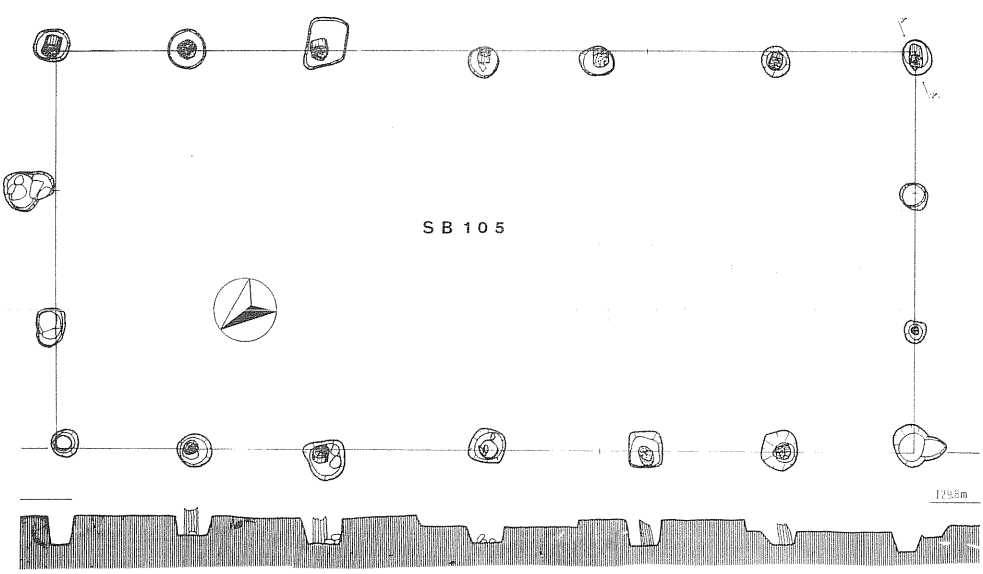


SB 129 建物跡	検出地点　K3,K4,I.3　大グリッド	図版番号　11	分類番号　A－3
規模　11.30×5.86m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.1cm	
身舎 桁行　5間 11.30m	SW→NE, 246＋225＋224＋223＋212	8＋7.5＋7.5＋7.5＋7(尺)	
身舎 梁間　1間　4.69m	→　,	16尺	
廂　1面　幅1.18m（4尺）		主軸方位　N43°W	
柱堀方平均値	径　45cm,　深さ　45cm,　柱痕の太さ　20cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	桁行は7.5尺（1尺＝30）等間とも考えられる。		

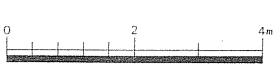
SB 116 建物跡	検出地点　L3，M3　大グリッド	図版番号　9	分類番号　A－3
規模　8.96×6.06m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎 桁行　4間8.96m	SE→NW, 228＋229＋228＋212	7.5＋7.5＋7.5＋7(尺)	
身舎 梁間　1間4.93m	→　,	16.5尺	
廂　1面　幅1.13m		主軸方位　N39°W	
柱堀方平均値	径　40cm,　深さ　30cm,　柱痕の太さ　22cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	廂の北隅柱は，地山が下降しており，不明であるが，あったと思われる。		

SB 108 建物跡	検出地点　K2　大グリッド	図版番号	分類番号　A－3
規模　7.14×3.70m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.8cm	
身舎 桁行　3間7.14m	SW→NE, 238＋238＋238	8尺等間	
身舎 梁間　1間2.30m	→　,	8尺	
廂　1面　幅1.40m		主軸方位　N78°W	
柱堀方平均値	径　45cm,　深さ　20cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	廂部分は身舎の1間とも考えられる。SB134と重複する。		



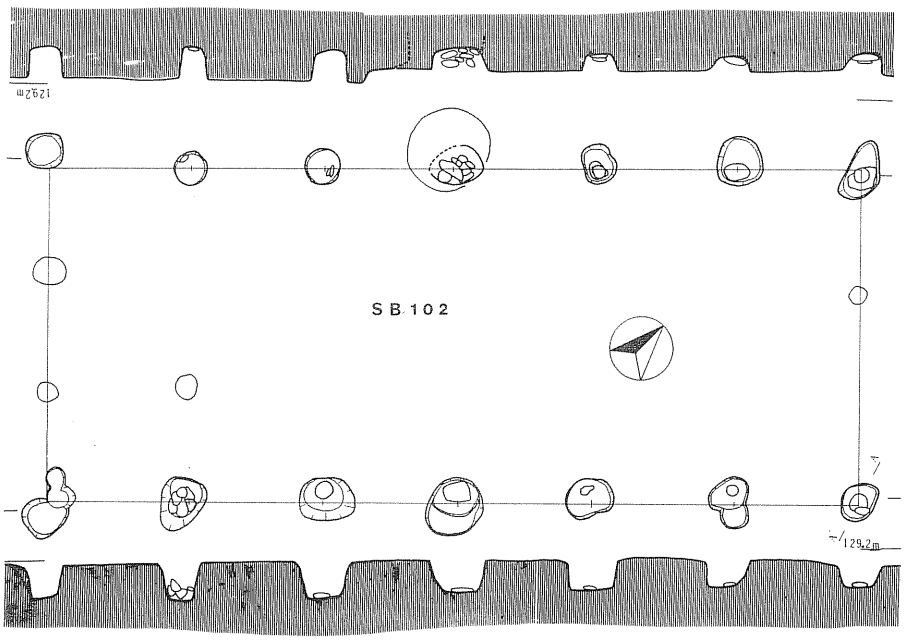


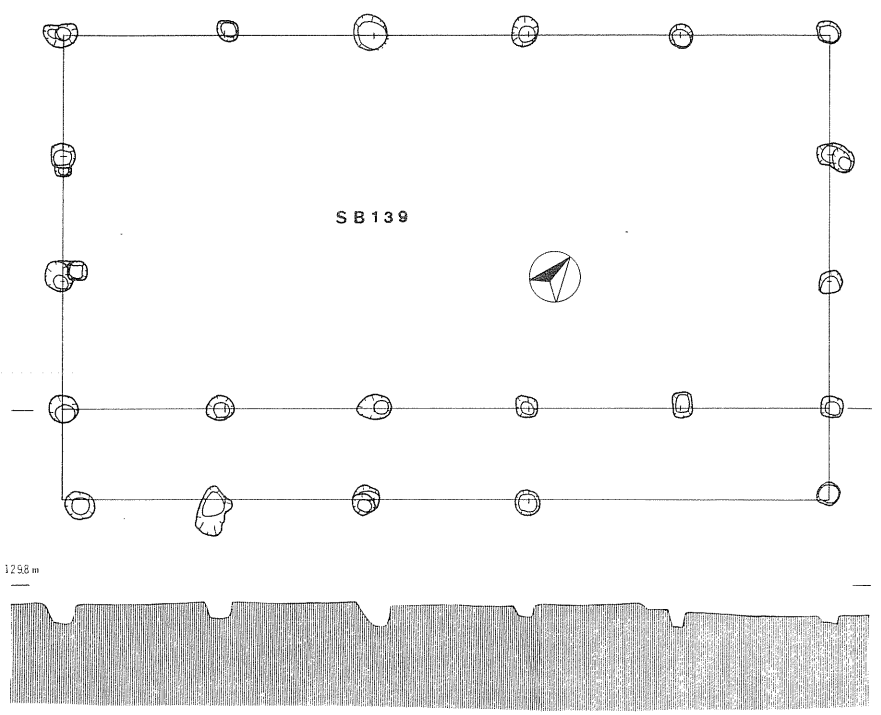
第15図　SB105・115建物跡



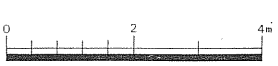
SB 115 建物跡	検出地点　J2,K2,K3　大グリッド	図版番号　10	分類番号　A－2
規模　12.10×7.58m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.4cm	
身舎	桁行　5間 12.10m	SW→NE, 238＋250＋241＋243＋244	8尺等間
	梁間　1間　5.75m	→　,	19尺
廂	1面　幅1.83m,　4間9.71mの廂	主軸方位　N31.5°E	
柱堀方平均値	径　40cm,　深さ　20cm,　柱痕の太さ　20cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	北東部に2.44×1.83mの張り出し部がある。		

SB 105 建物跡	検出地点　K2, L2　大グリッド	図版番号　7	分類番号　B－1
規模　13.60×6.33m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.6cm	
身舎	桁行　6間 13.60m	SW→NE, 220＋206＋258＋258＋209＋209	7＋7＋9＋9＋7＋7(尺)
	梁間　3間　6.33m	SE→NW, 225＋219＋219	7.5＋7＋6 (30.4)尺
廂	面　幅	主軸方位　N37°E	
柱堀方平均値	径　60cm,　深さ　43cm,　柱痕の太さ　25cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	桁行東側柱列はSW→NEで212＋273＋182＋242＋212＋212(7＋9＋6＋8＋7＋7)となる。SB106, 107, 134, 135などと重複関係にありSK78より新しい。		





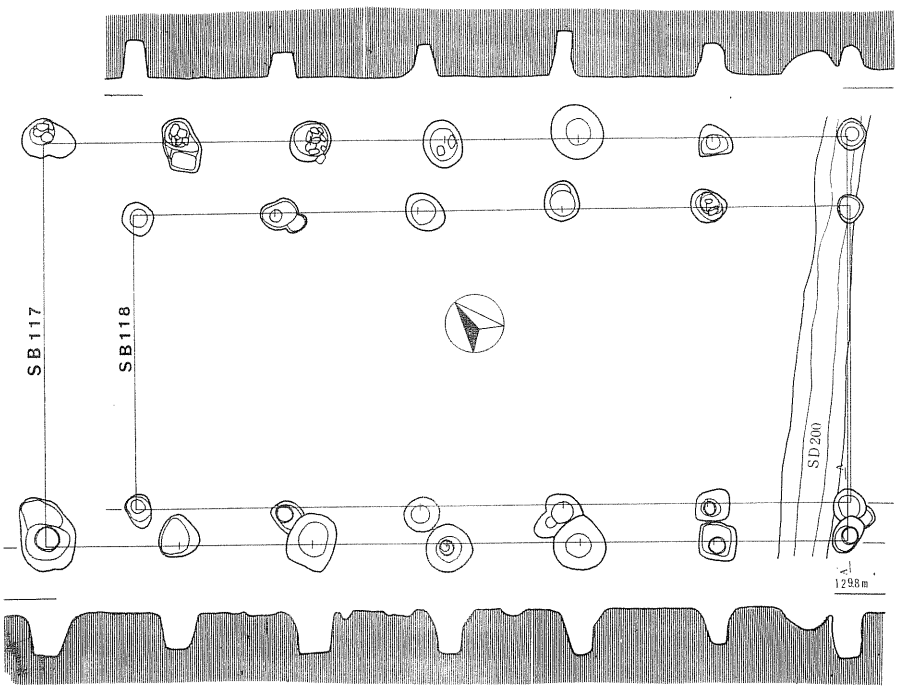
第16図　SB102・139建物跡

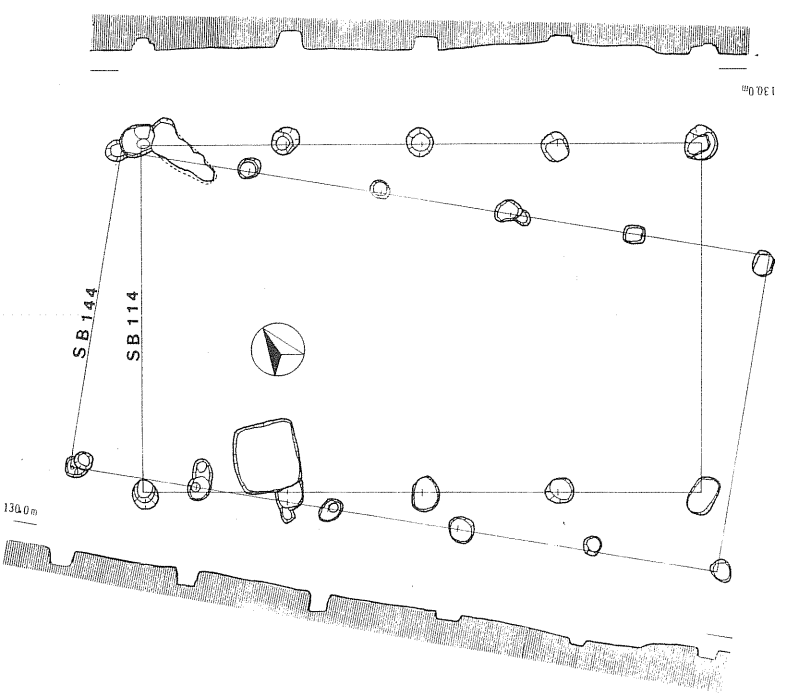


SB 102 建物跡	検出地点　M1，M2　　大グリッド	図版番号　6	分類番号　B－2
規模　12.84×5.13m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.6cm	
身舎	桁行　6間 12.84m 梁間　1間　5.13m	SW→NE, 214＋214＋214＋214＋225＋197 →　,	7尺等間 17尺
廂	面　　幅	主軸方位　N45°E	
柱堀方平均値	径　64cm,　深さ　47cm,　柱痕の太さ　15cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他	梁間は北西から187cm＋169cm＋157cmの3間になる可能性もある。柱穴底面の扁平な石の中心部には，柱アタリと思われる径15cmほどの黒くなった部分が認められる。(図版13)		

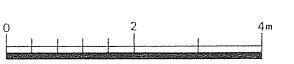
SB 139 建物跡	検出地点　K4，L4　　大グリッド	図版番号	分類番号　A－3
規模　12.10×7.40m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎	桁行　5間 12.10m 梁間　3間　5.91m	SE→NW, 252＋238＋243＋241＋237 SW→NE, 191＋200＋200	8尺等間 6.5尺等間
廂	1面　　幅1.49m　5尺	主軸方位　N42°W	
柱堀方平均値	径　41cm,　深さ　30cm,　柱痕の太さ　　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他	SB156と重複関係にある。		

SB 114 建物跡	検出地点　K2　　大グリッド	図版番号　10	分類番号　C－2
規模　8.85×5.52m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.7cm	
身舎	桁行　4間8.85m 梁間　1間5.52m	NW→SE, 229＋214＋213＋228 →　,	7.5＋7＋7＋7.5(尺) 18尺
廂	面　　幅	主軸方位　N55°W	
柱堀方平均値	径　45cm,　深ち　30cm,　柱痕の太さ　25cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他	SB144の建替えの可能性がある。		





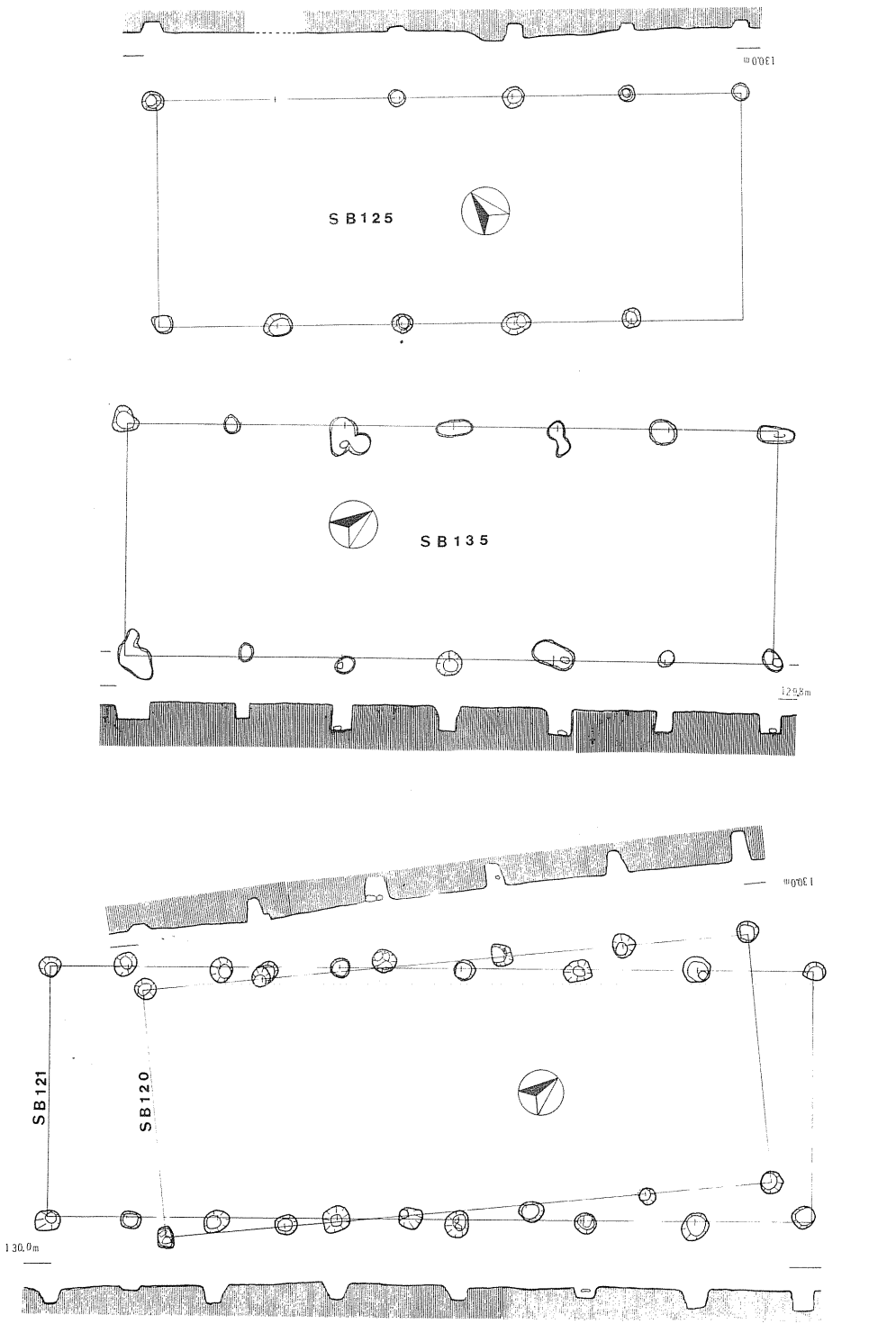
第17図　SB114・117・118・144建物跡



SB 117 建物跡	検出地点　K 3，L 3　大グリッド	図版番号　5	分類番号　B－1
規模　12.73×6.36m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎　桁行　6間 12.73m 梁間　1間　6.36m	SE→NW, 212＋212＋212＋212＋212＋212 →　,	7尺等間 21尺	
廂　面　幅		主軸方位　N49°W	
柱堀方平均値	径　75cm,　深さ　55cm,　柱痕の太さ　25cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	SB118を同位置にやや拡大して建て替えた建物。SD200より古い。		

SB 118 建物跡	検出地点　K 3，L 3　大グリッド	図版番号　5	分類番号　B－2
規模　11.35×4.70m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎　桁行　5間 11.35m 梁間　1間　4.70m	SE→NW, 227＋227＋227＋227＋227 →　,	7.5尺等間 15.5尺	
廂　面　幅		主軸方位　N49°W	
柱堀方平均値	径　55cm,　深さ　55cm,　柱痕の太さ　21cm		
出土遺物	青縁釉(?)皿，染付碗		
遺物記述頁　95P	時期	挿図番号　57図2，3	図版番号
その他	SB117より古く，SB118を同位置にやや縮少してSB117を建て替えたものと思われる。SD200よりも古い。		

SB 144 建物跡	検出地点　K 2，K 3　大グリッド	図版番号　10	分類番号　B－2
規模　10.37×5.08m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.6cm	
身舎　桁行　5間 10.37m 梁間　1間　5.08m	NW→SE, 204＋211＋207＋208＋207 →　,	7尺等間 17尺	
廂　面　幅		主軸方位　N46°W	
柱堀方平均値	径　36cm,　深さ　28cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			



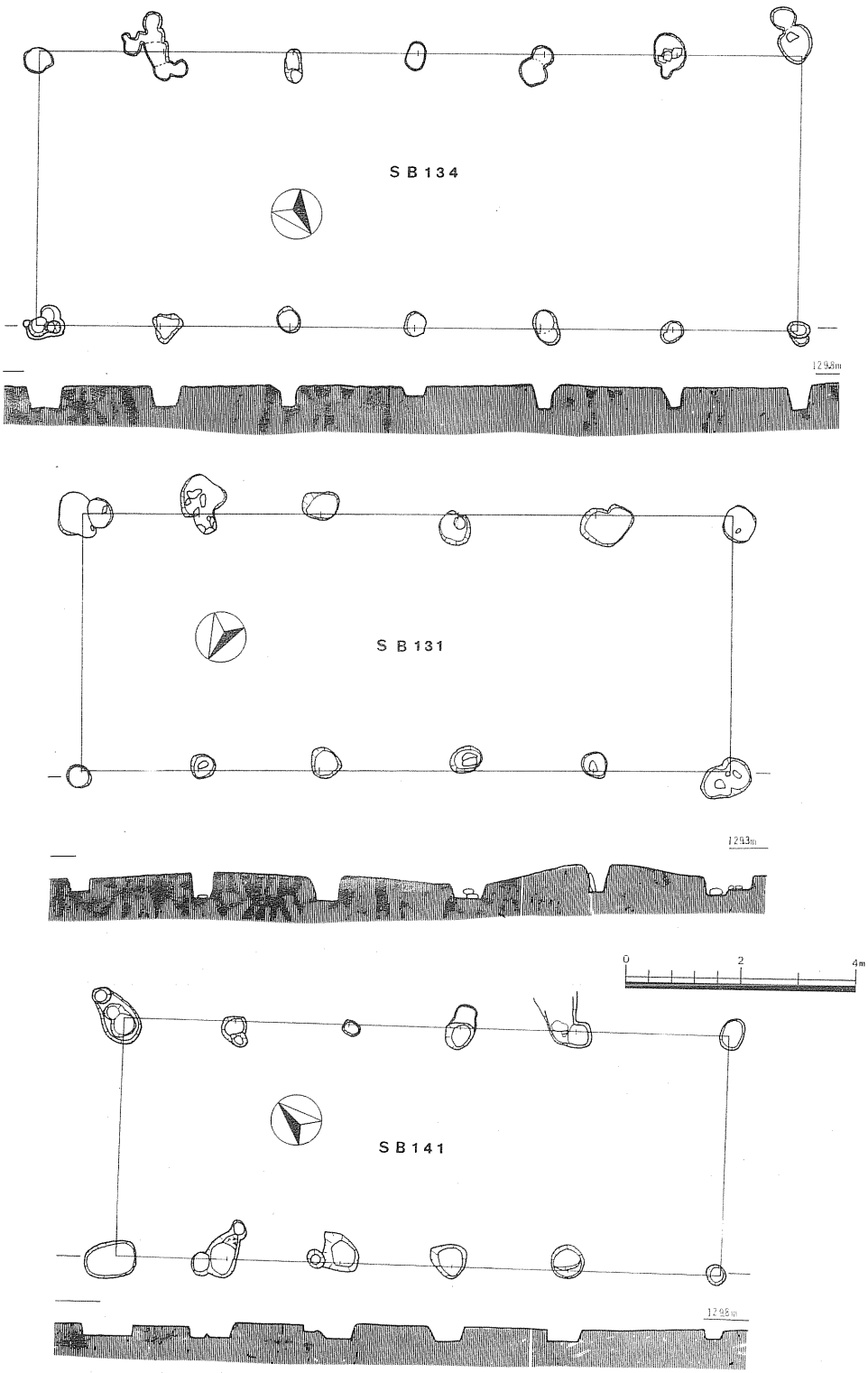
第18図　SB120・121・125・135建物跡

SB 125 遺物跡	検出地点　J3,K2,K3　大グリッド	図版番号	分類番号　B－3
規模　10.25×4.00m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.3cm	
身舎　桁行　5間 10.25m	NW→SE, 208＋217＋198＋205＋197	7尺等間	
身舎　梁間　1間　4.00m	→　,	13.5尺	
廂　面　幅		主軸方位　N53°W	
柱堀方平均値	径　38cm,　深さ　18cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　95　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	桁行方向に対し梁間方向がE→N方向に1.5°回ると対応する掘方が心々で合う。		

SB 135 建物跡	検出地点　K2，L2　大グリッド	図版番号	分類番号　B－3
規模　11.40×4.10m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30cm	
身舎　桁行　6間 11.40m	SW→NE, 200＋182＋188＋182＋195＋192	7＋6＋6＋6＋6.5＋6.5(尺)	
身舎　梁間　1間　4.10m	→　,	14尺	
廂　面　幅		主軸方位　N35.5°E	
柱堀方平均値	径　45cm,　深さ　45cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 120 建物跡	検出地点　K3　大グリッド	図版番号　11	分類番号　B－3	規模　10.68×4.38m
身舎　桁行　5間 10.68m	柱間平均距離　NE→SW, 220＋221＋207＋217＋212cm＝7尺等間			
身舎　梁間　1間　4.38m	＝14尺　(計画尺　1尺≒30.5cm)			
柱堀方平均値	径　40cm,　深さ　40cm,　柱痕の太さ　cm		主軸方位　N35°E	
その他	廂，張り出し等はない。SB121と重複しており，SB121の建て替えか。遺物はない。			

SB 121 建物跡	検出地点　K3　大グリッド	図版番号　11	分類番号　B－3	規模　13.40×4.43m
身舎　桁行　7間 13.40m	柱間平均距離　NE→SW, 203＋201＋216＋211＋210＋161＋138cm			
身舎　梁間　1間　4.43m	＝7尺×5間＋5尺×2間			
	＝15尺　(計画尺　1尺≒29.7cm)			
柱堀方平均値	径　45cm,　深さ　30cm,　柱痕の太さ　cm		主軸方位　N41°E	
その他	SB120とは主軸方位で6°ほど東に振れている。遺物はない。			

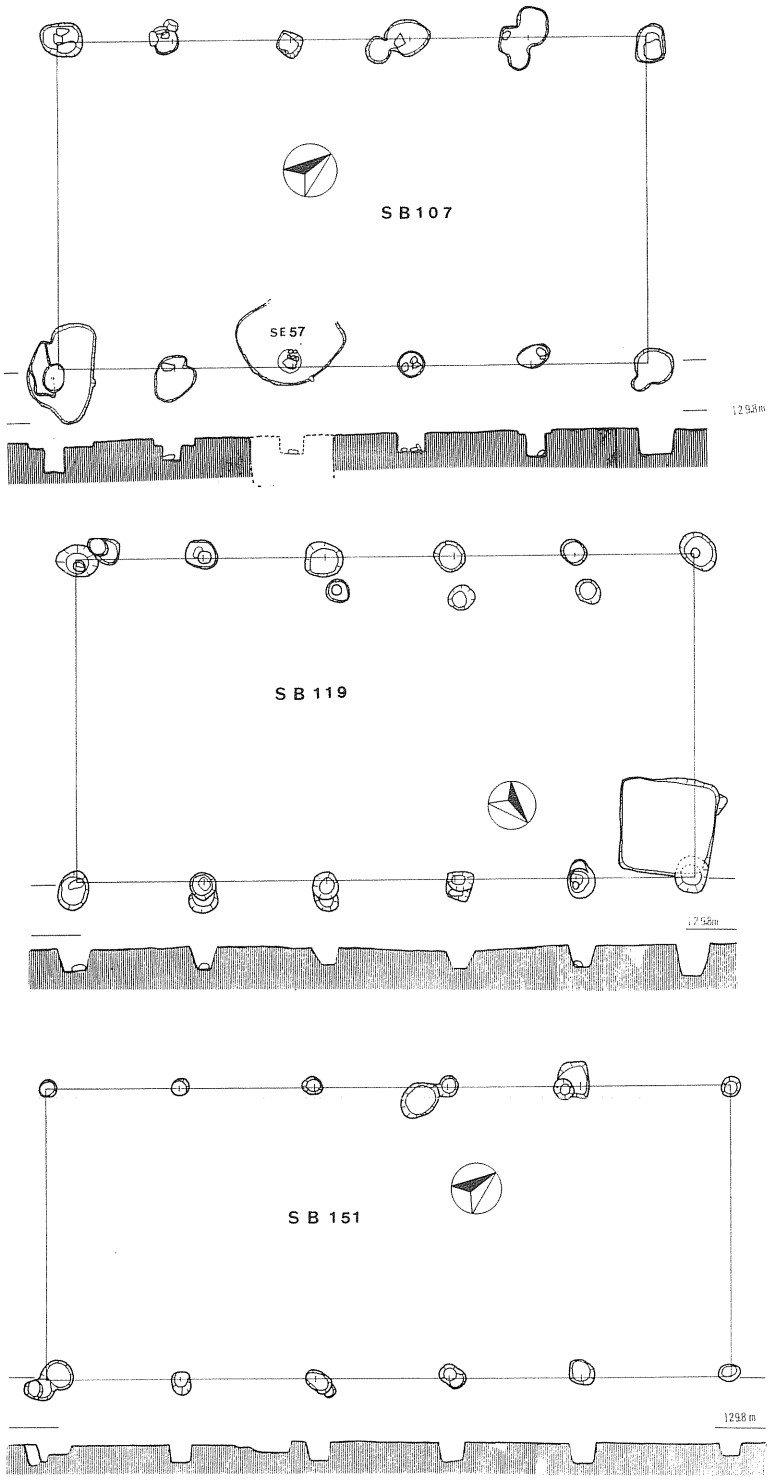


第19図　SB131・134・141建物跡

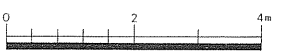
SB 134 遺物跡	検出地点　K 2・L 2　大グリッド	図版番号	分類番号　B－2
規模　13.42×4.84 m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1 尺≒29.8cm	
身舎　桁行　6 間 13.42 m	SE→NW, 220＋228＋220＋220＋232＋220	7.5尺等間	
身舎　梁間　1 間　4.84 m	→　,	16尺	
廂　面　幅		主軸方位　N51.5°W	
柱堀方平均値	径　45cm,　深さ　40cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物	美濃皿, 時期不明擂鉢		
遺物記述頁　95 P	時期　16C 末	挿図番号　57図 7 ～ 9	図版番号　巻頭図版3
その他			

SB 131 建物跡	検出地点　M 2, M 3　大グリッド	図版番号　8	分類番号　B－2
規模　11.40×4.50 m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1 尺≒30.0cm	
身舎　桁行　5 間 11.40 m	SW→NE, 240＋240＋240＋210＋210	8＋8＋8＋7＋7(尺)	
身舎　梁間　1 間　4.50 m	→　,	15尺	
廂　面　幅		主軸方位　N59°E	
柱堀方平均値	径　55cm,　深さ　40cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物	染付碗		
遺物記述頁　95 P	時期　17C 初	挿図番号　57図11	図版番号　巻頭図版3
その他			

SB 141 建物跡	検出地点　L 3　大グリッド	図版番号	公類番号　B－3
規模　10.49×4.20 m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1 尺≒30.3cm	
身舎　桁行　5 間 10.59 m	SE→NW, 270＋204＋195＋195＋195	9＋6.5＋6.5＋6.5＋6.5(尺)	
身舎　梁間　1 間　4.20 m	→　,	14尺	
廂　面　幅		主軸方位　N43.5°W	
柱堀方平均値	径　55cm,　深さ　30cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			



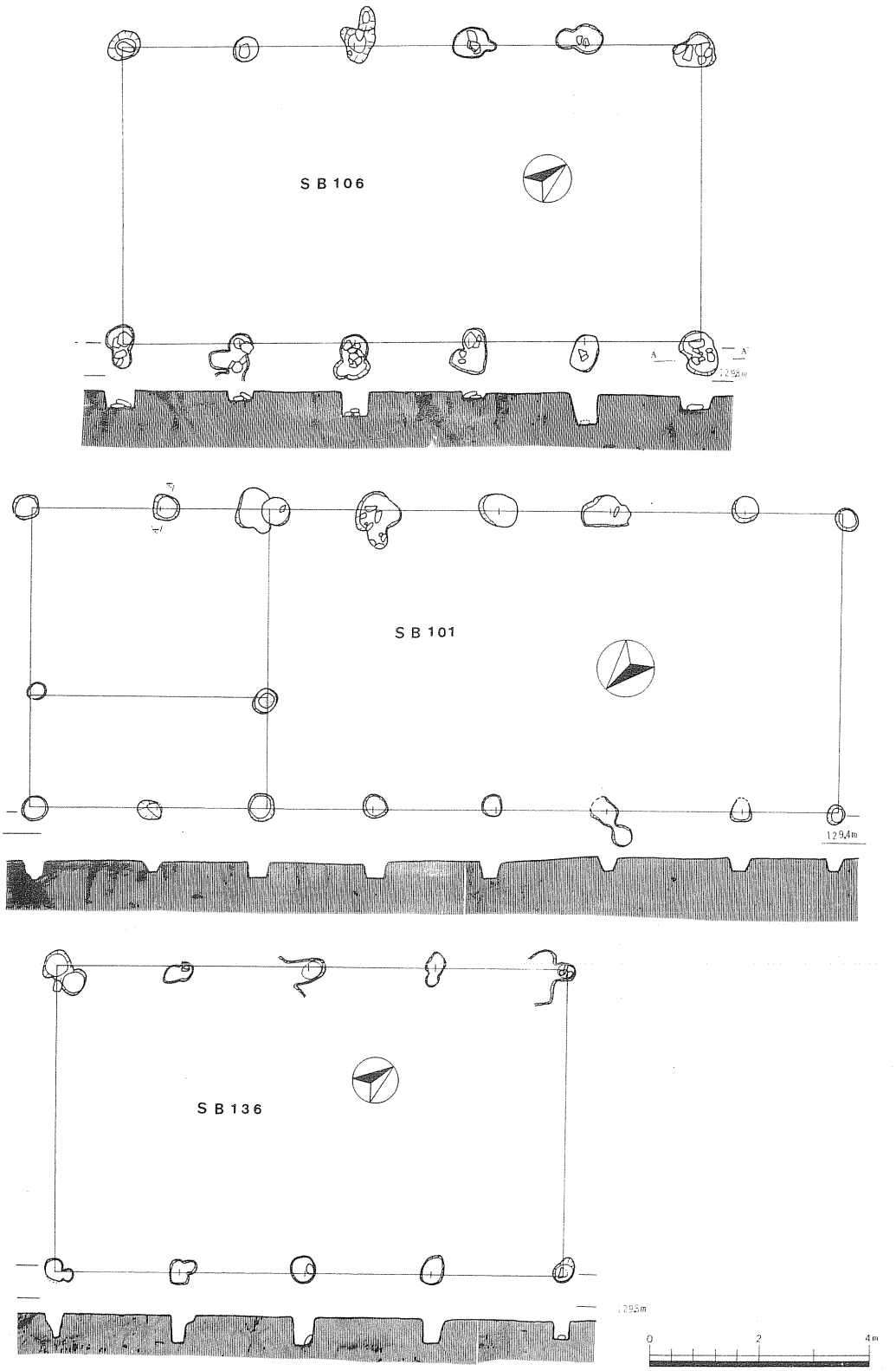
第20図　SB107・119・151建物跡



SB 107 建物跡	検出地点　K 2，L 2　大グリッド	図版番号　7	分類番号　B－2
規模　9.40×5.20m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒31.3cm	
身舎	桁行　5間9.40m	SW→NE，187＋187＋187＋187＋187	6尺等間
	梁間　1間5.20m	→　，	17尺
廂	面　幅		主軸方位　N36°E
柱堀方平均値	径　60cm，　深さ　40cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	柱穴内に根固石が入る。SE57が埋まった後に柱穴を掘っており，SE57より新しい。SB105，106，134，135などと重複する。		

SB 119 建物跡	検出地点　K 3　大グリッド	図版番号　12	分類番号　B－2
規模　9.79×5.14m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.1cm	
身舎	桁行　5間9.79m	SE→NW，205＋192＋204＋192＋187	7＋6＋7＋6＋6(尺)
	梁間　1間5.14m	→　，	17尺
廂	面　幅		主軸方位　N49.5°W
柱堀方平均値	径　45cm，　深さ　35cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 151 建物跡	検出地点　K 3　大グリッド	図版番号	分類番号　B－2
規模　10.85×4.63m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎	桁行　5間 10.85m	SW→NE，214＋212＋211＋211＋236	7＋7＋7＋7＋8 (尺)
	梁間　1間　4.63m	→　，	15尺
廂	面　幅		主軸方位　N38°E
柱堀方平均値	径　40cm，　深さ　28cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	P 6が南西に約1尺ずれている可能性がある。		

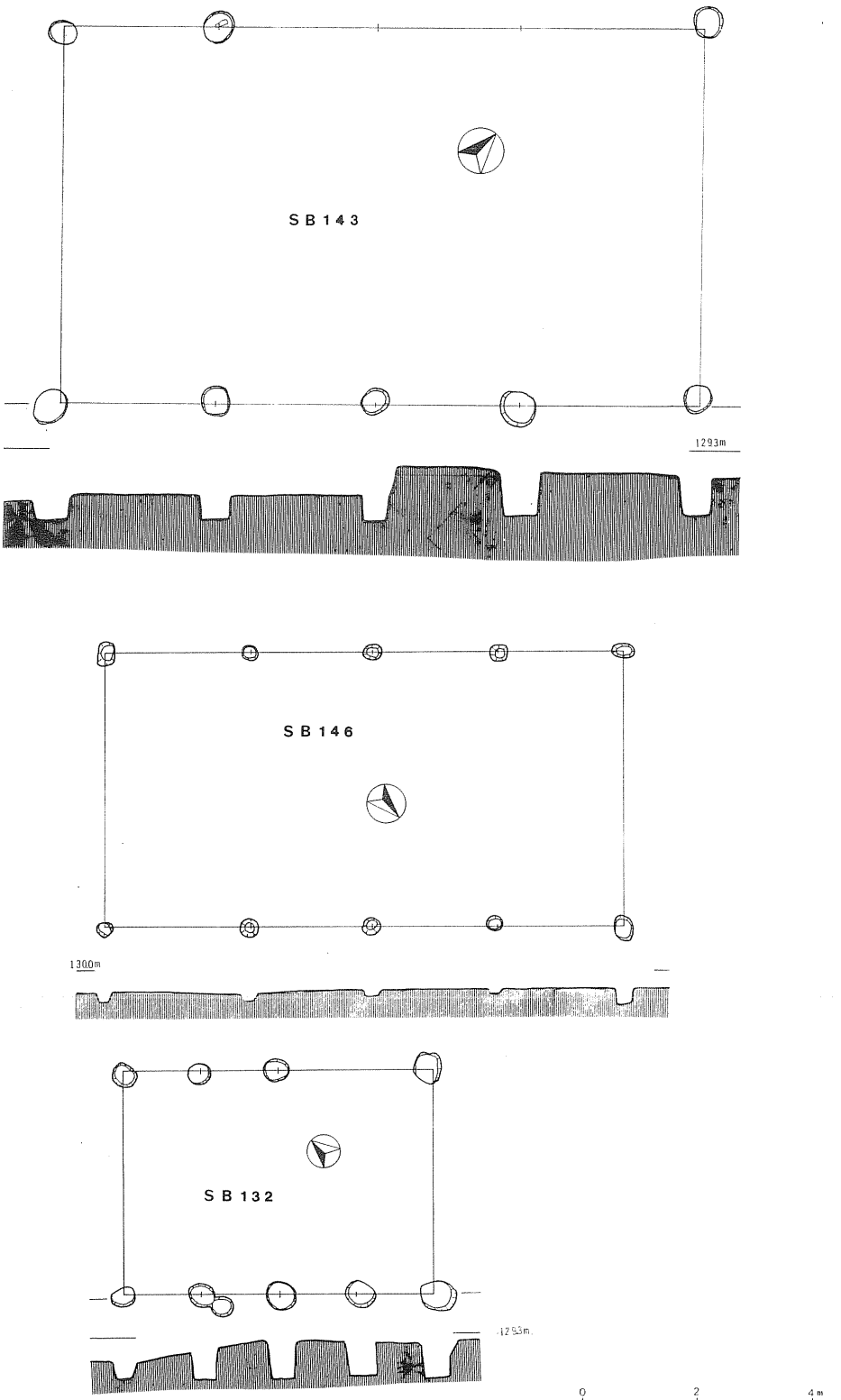


第21図　SB101・106・136建物跡

SB 106 遺物跡	検出地点　K２・L２　大グリッド	図版番号　7	分類番号　B－２
規模　10.61×5.45m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎	桁行　5間 10.61m	SW→NE, 212＋212＋212＋212＋212	7尺等間
	梁間　1間　5.45m	→　,	18尺
廂	面　幅		主軸方位　N36°E
柱堀方平均値	径　53cm,　深さ　33cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	柱穴には大小の河原石が詰まっているが，柱抜き取り後に投げ込まれたものと思われる。SB105，107，134，135等と重複している。		

SB 101 建物跡	検出地点　M２，M３　大グリッド	図版番号　8	分類番号　B－２
規模　14.80×5.50m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.0cm	
身舎	桁行　7間 14.80m	SW→NE, 180＋247＋203＋224＋196＋200＋232	6＋8＋7＋7＋7＋7＋7 (尺)
	梁間　1間　5.50m	→　,	18尺
廂	面　幅		主軸方位　N50°E
柱堀方平均値	径　52cm,　深さ　31cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物	染付皿		
遺物記述頁　95P	時期　江戸時代前葉	挿図番号　57図１	図版番号
その他			

SB 136 建物跡	検出地点　K２，L２　大グリッド	図版番号	分類番号　C－２
規模　9.30×5.61m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.1cm	
身舎	桁行　4間9.30m	SW→NE, 228＋231＋233＋241	8尺等間
	梁間　1間5.61m	→　,	19尺
廂	面　幅		主軸方位　N35°E
柱堀方平均値	径　50cm,　深さ　50cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

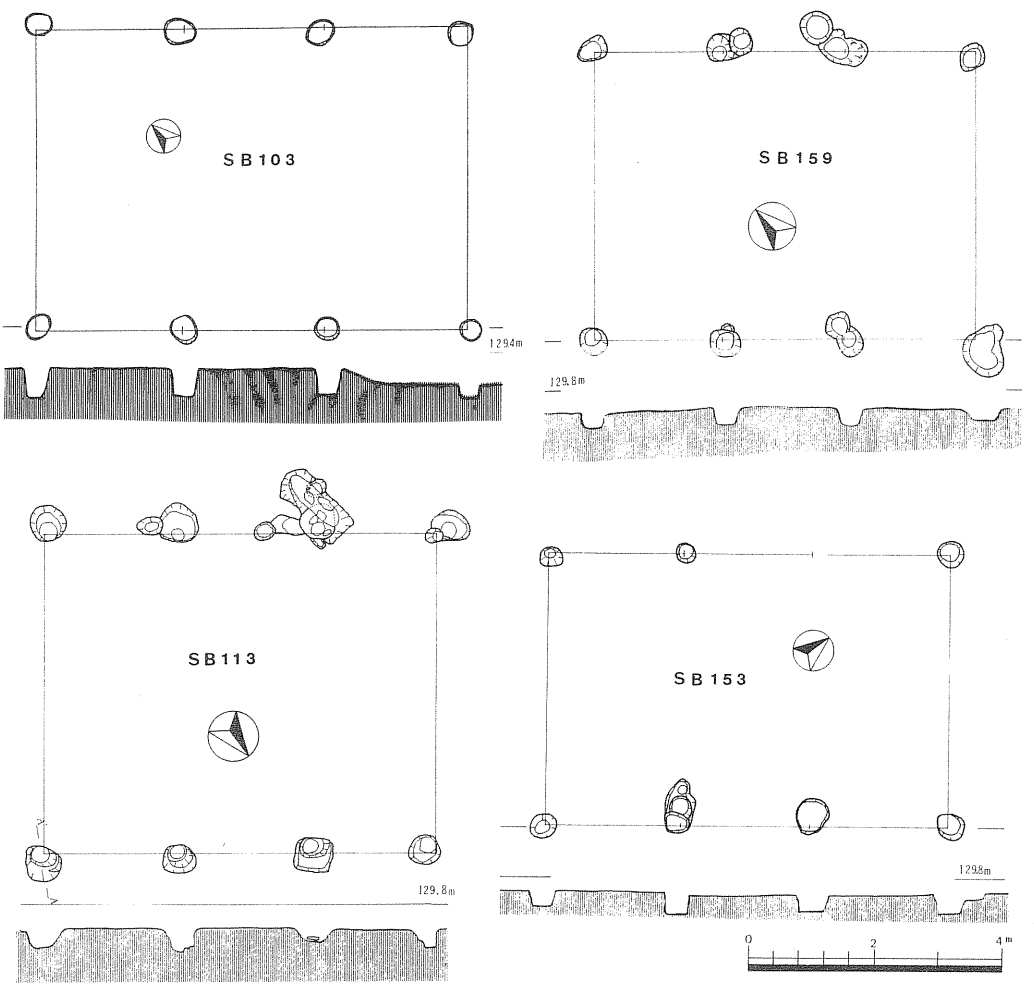


第22図　SB132・143・146建物跡

SB 143 建物跡	検出地点　M 3，N 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－1
規模　11.18×6.76m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.6cm	
身舎 桁行　4間 11.18m	SW→NE，270＋281＋250＋317	9＋9＋8＋10.5（尺）	
身舎 梁間　1間　6.70m	→　，	22尺	
廂　面　幅		主軸方位　N48°E	
柱堀方平均値	径　53cm，　深さ　72cm，　柱痕の太さ　17cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他	SE70井戸が埋まった後，その掘方内に柱穴の1本がある。SE70より新しい。		

SB 146 建物跡	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－3
規模　9.09×4.83m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎 桁行　4間9.09m	NW→SE，222＋218＋213＋257	7.5＋7＋7＋8.5（尺）	
身舎 梁間　1間4.83m	→　，	16尺	
廂　面　幅		主軸方位　N47°W	
柱堀方平均値	径　32cm，　深さ　20cm，　柱痕の太さ　　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SB 132 建物跡	検出地点　M 3　　大グリッド	図版番号　9	分類番号　C－4
規模　5.44×3.94m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.2cm	
身舎 桁行　4間5.44m	SE→NW，136＋136＋136＋136	4.5尺等間	
身舎 梁間　1間3.94m	→　，	13尺	
廂　面　幅		主軸方位　N33°W	
柱堀方平均値	径　45cm，　深さ　70cm，　柱痕の太さ　　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他	桁行は2間2.72m＋2.72m（9尺＋9尺）とも考えることができる。建物存在時の掘込面がほとんど失われていないと考えられ，柱穴の深さが70cmと深い。		



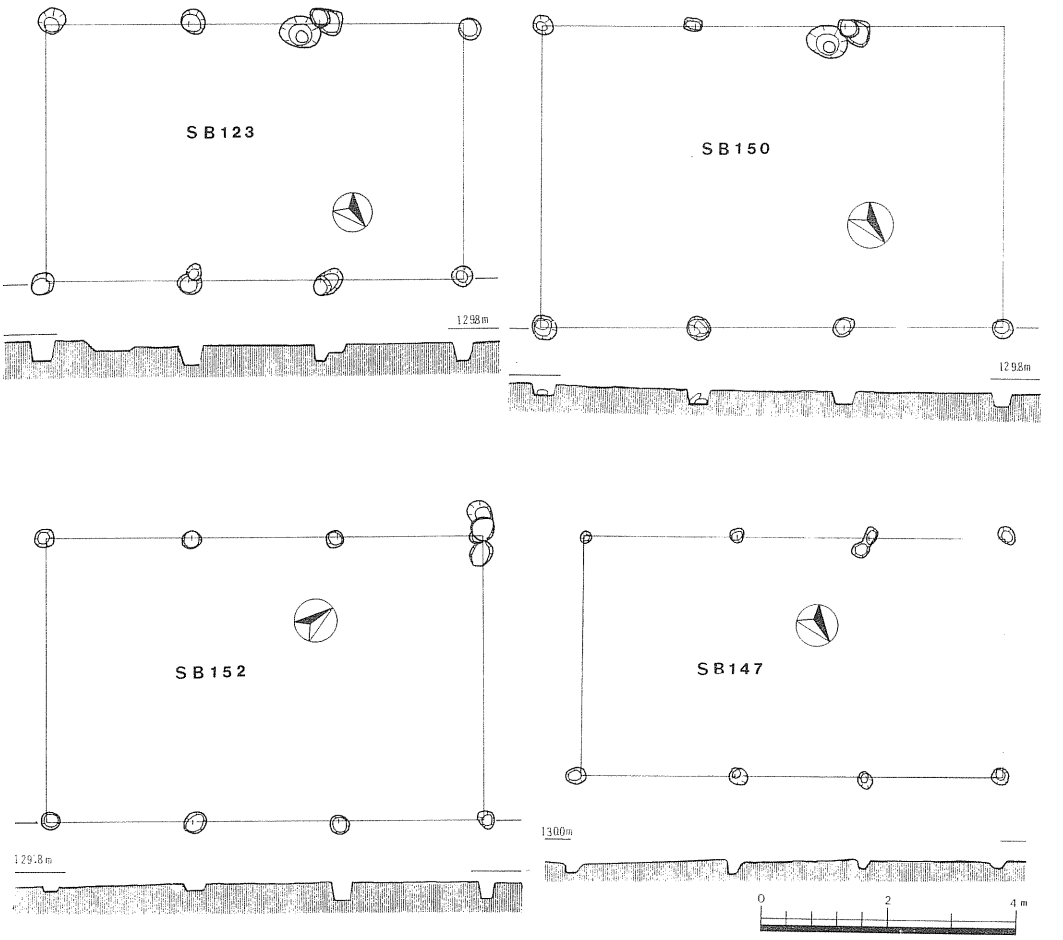
第23図　SB103・113・153・159建物跡

SB 103 建物跡	検出地点　M1，M3　大グリッド		図版番号　6	分類番号　D－1
規模　6.81×4.85m		柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎	桁行　3間6.81m	SE→NW，227＋227＋227	7.5尺等間	
	梁間　1間4.85m	→　，		
廂	面　幅		主軸方位　N46.5°W	
柱堀方平均値	径　40cm，　深さ　40cm，　柱痕の太さ　cm			
出土遺物				
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号	
その他				

SB 159 建物跡	検出地点　L 3，L 4　　大グリッド	図版番号	分類番号　D－2
規模　6.05×4.60m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒31cm	
身舎	桁行　3間6.05m	SE→NW，209＋194＋201	6.5尺等間
	梁間　1間4.60m	→　，	15尺
廂	面　幅		主軸方位　N43°W
柱堀方平均値	径　50cm，　深さ　30cm，　柱痕の太さ　　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SB 113 建物跡	検出地点　K 2　　大グリッド	図版番号　10	分類番号　D－1
規模　6.21×5.08m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎	桁行　3間6.21m	SW→NE，210＋214＋195	7＋7＋6.5（尺）
	梁間　1間5.08m	→　，	17尺
廂	面　幅		主軸方位　N37°E
柱堀方平均値	径　55cm，　深さ　35cm，　柱痕の太さ　25cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SB 153 建物跡	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　D－2
規模　6.37×4.33m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎	桁行　3間6.37m	SW→NE，213＋205＋219	7尺等間
	梁間　1間4.33m	→　，	12尺
廂	面　幅		主軸方位　N39°E
柱堀方平均値	径　44cm，　深さ　28cm，　柱痕の太さ　　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期　　-	挿図番号　　図	図版番号
その他			



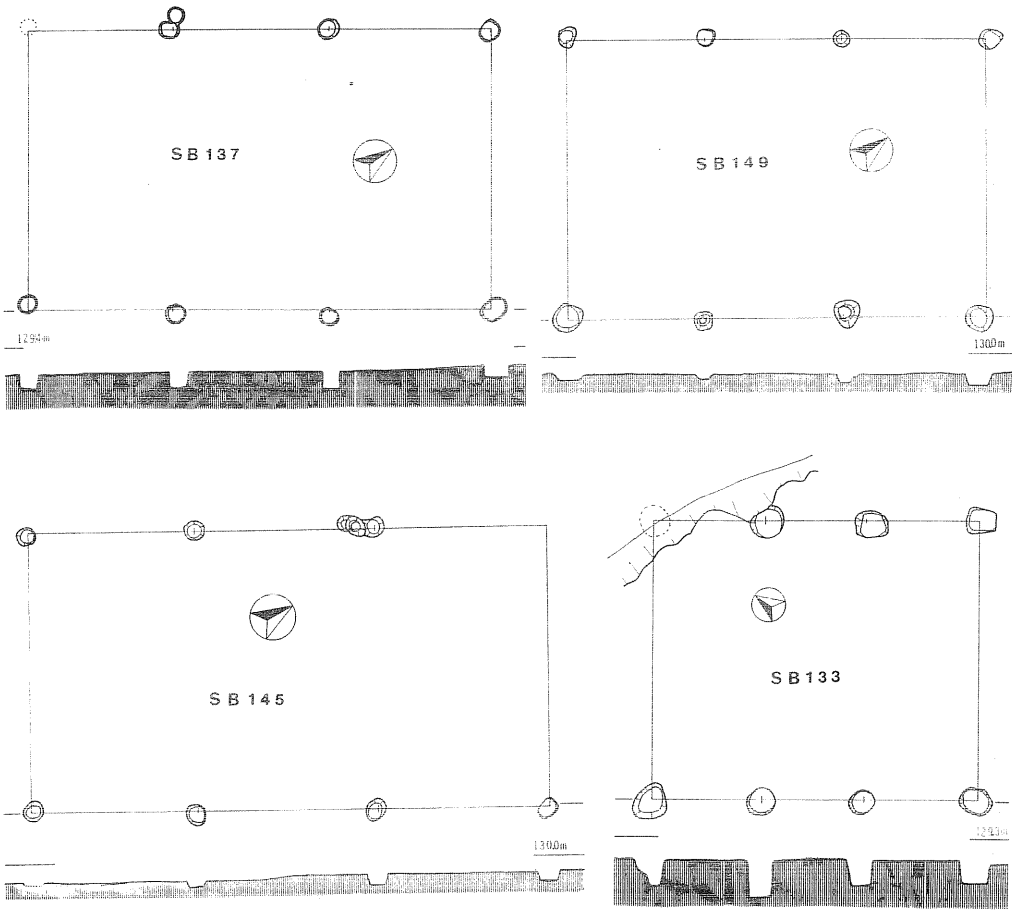
第24図　SB123・147・150・152建物跡

SB 123 建物跡	検出地点　K 3　　大グリッド		図版番号	分類番号　D－3
規模　6.56×4.07m		柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.5cm	
身舎	桁行　3間6.56m	SE→NW, 228＋209＋219	7.5＋7＋7（尺）	
	梁間　1間4.07m	→　,	13.5尺	
廂	面　幅		主軸方位　N48°W	
柱堀方平均値	径　44cm,　深さ　28cm,　柱痕の太さ　cm			
出土遺物				
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号	
その他				

SB 150 建物跡	検出地点　K 2，K 3　大グリッド	図版番号	分類番号　D－1
規模　7.29×4.80 m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1 尺≒30.3cm	
身舎	桁行　3 間7.29 m	SE→NW，241＋237＋251	8 尺等間
	梁間　1 間4.80 m	→　，	16尺
廂	面　幅		主軸方位　N 50°W
柱堀方平均値	径　34cm，　深さ　20cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 152 建物跡	検出地点　K 2，K 3　大グリッド	図版番号	分類番号　D－2
規模　6.87×4.51 m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1 尺≒30.5cm	
身舎	桁行　3 間6.87 m	SW→NE，227＋231＋229	7.5尺等間
	梁間　1 間4.51 m	→　，	15尺
廂	面　幅		主軸方位　N 37.5°E
柱堀方平均値	径　32cm，　深さ　22cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 147 建物跡	検出地点　K 3　大グリッド	図版番号	分類番号　D－3
規模　6.66×3.81 m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1 尺≒30.3cm	
身舎	桁行　3 間6.66 m	SE→NW，242＋210＋215	8 ＋ 7 ＋ 7 (尺)
	梁間　1 間3.81 m	→　，	12.5尺
廂	面　幅		主軸方位　N 52°W
柱堀方平均値	径　28cm，　深さ　16cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			



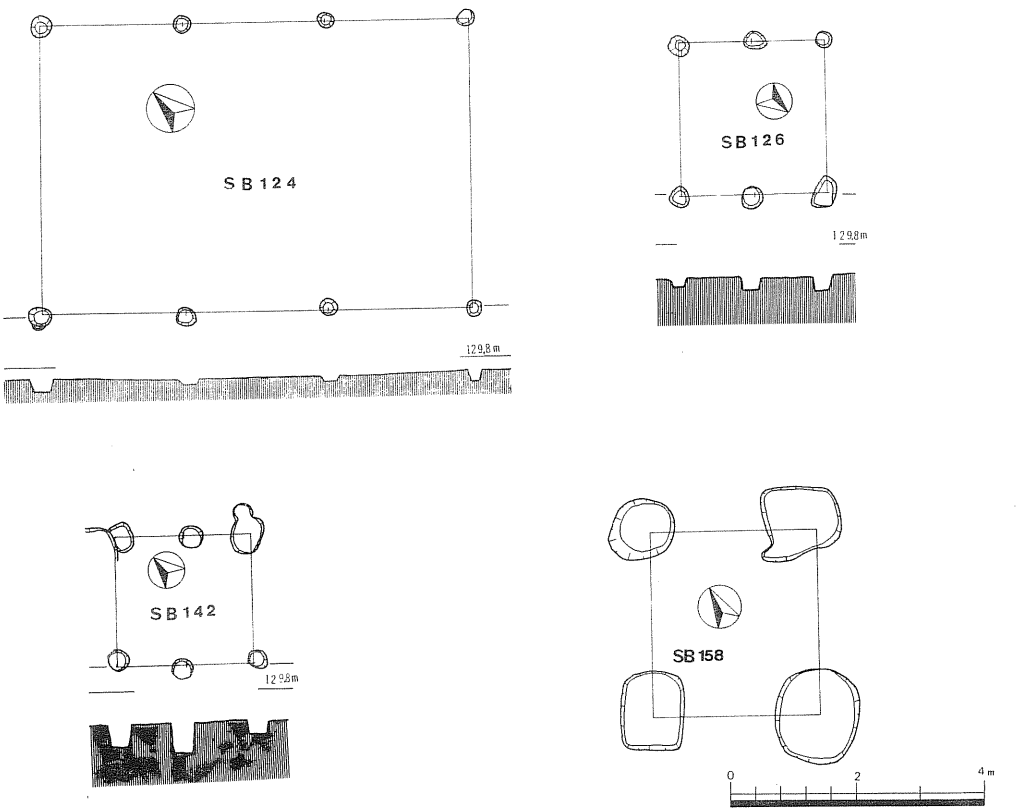
第25図　SB133・137・145・149建物跡

SB 137 建物跡	検出地点　L 2，M 2　　大グリッド		図版番号	分類番号　D－2
規模　7.32×4.48m	柱間平均距離　　(cm)		計画尺　1尺≒30.5cm	
身舎	桁行　3間7.32m	SW→NE，232＋248＋252	8尺等間	
	梁間　1間4.48m	→　，	15尺	
廂	面　　幅		主軸方位　N33°E	
柱堀方平均値	径　40cm，　深さ　27cm，　柱痕の太さ　　cm			
出土遺物				
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号	
その他				

SB 149 建物跡	検出地点　K２，K３　大グリッド	図版番号	分類番号　D－２
規模　6.66×4.45m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　１尺≒29.6cm	
身舎　桁行　３間6.66m	SW→NE, 220＋218＋228	7.5尺等間	
身舎　梁間　１間4.45m	→　,	15尺	
廂　面　幅		主軸方位　N36°E	
柱堀方平均値　径　32cm,　深さ　16cm,　柱痕の太さ　cm			
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 145 建物跡	検出地点　J２，K２　大グリッド	図版番号　10	分類番号　D－２
規模　8.20×4.45m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　１尺≒30.4cm	
身舎　桁行　３間8.20m	SW→NE, 265＋284＋270	９尺等間	
身舎　梁間　１間4.45m	→　,	15尺	
廂　面　幅		主軸方位　N27.5°E	
柱堀方平均値　径　32cm,　深さ　14cm,　柱痕の太さ　cm			
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 133 建物跡	検出地点　M３　大グリッド	図版番号　9	分類番号　D－２
規模　5.16×4.43m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　１尺≒29.5cm	
身舎　桁行　３間5.16m	SE→NW, 180＋162＋174	６＋5.5＋６（尺）	
身舎　梁間　１間4.43m	→　,	15尺	
廂　面　幅		主軸方位　N32.5°W	
柱堀方平均値　径　40cm,　深さ　50cm,　柱痕の太さ　cm			
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他　桁行北西隅柱は削平されていて不明。			



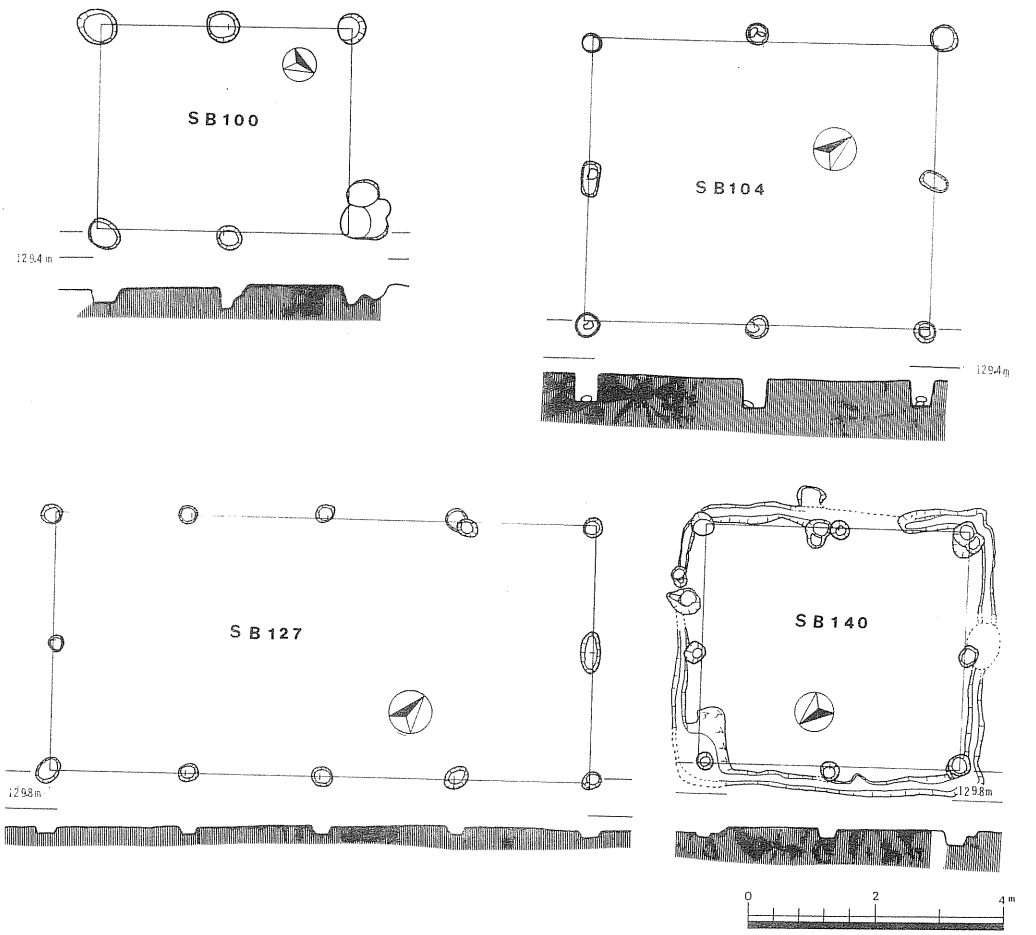
第26図　SB124・126・142・158建物跡

SB 124 建物跡	検出地点　K 3　大グリッド		図版番号	分類番号　D－2
規模　6.80×4.61m		柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.2cm	
身舎	桁行　3間6.80m	SE→NW, 228＋227＋225	7.5＋7.5＋7.5（尺）	
	梁間　1間4.61m	→　,	15尺	
廂	面　幅		主軸方位　N46°W	
柱堀方平均値	径　28cm,　深さ　18cm,　柱痕の太さ　cm			
出土遺物				
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号	
その他				

SB 126 建物跡	検出地点　L 2　大グリッド	図版番号	分類番号　E－1
規模　2.32×2.44m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.0cm	
身舎	桁行　2間2.32m	SE→NW, 116＋116	4＋4（尺）
	梁間　1間2.44m	→　,	8尺
廂	面　幅	主軸方位　N41°W	
柱堀方平均値	径　32cm,　深さ　23cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 142 建物跡	検出地点　L 3　大グリッド	図版番号	分類番号　E－1
規模　2.20×2.10m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.0cm	
身舎	桁行　2間2.20m	SE→NW, 110＋110	3.5＋3.5（尺）
	梁間　1間2.10m	→　,	7尺
廂	面　幅	主軸方位　N45°W	
柱堀方平均値	径　35cm,　深さ　40cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物	青緑釉(?)碗		
遺物記述頁　95P	時期　16C末	挿図番号　57図10	図版番号
その他			

SB 158 建物跡	検出地点　K 2　大グリッド	図版番号	分類番号　F
規模　2.96×2.63m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.6cm	
身舎	桁行　1間2.96m	→　,	10尺
	梁間　1間2.63m	→　,	9尺
廂	面　幅	主軸方位　N32°W	
柱堀方平均値	径　100cm,　深さ約30cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	位置，掘方の大きさ等から門跡かと思われる。		



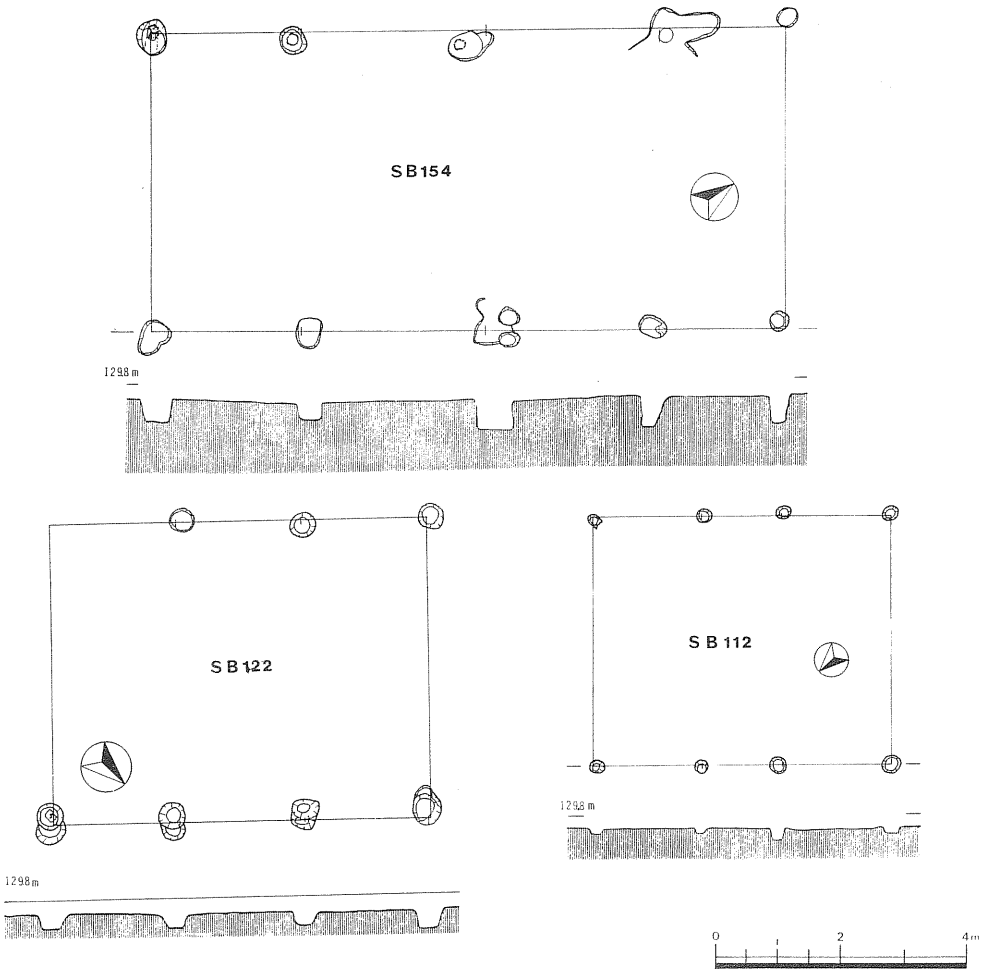
第27図　SB100・104・127・140建物跡

SB 100 建物跡	検出発点　M2，M3　大グリッド		図版番号　8	分類番号　E－2
規模　3.97×2.36m		柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.5cm	
身	桁行　2間3.97m	SE→NW，197＋200	6.5＋6.5（尺）	
舎	梁間　1間2.36m	→　，	8尺	
廂	面　幅		主軸方位　N30°W	
柱堀方平均値	径　50cm，　深さ　35cm，　柱痕の太さ　cm			
出土遺物				
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号	
その他				

SB 104 建物跡	検出地点　M1，M2　大グリッド	図版番号　6	分類番号　F
規模　5.44×4.54m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎　桁行　2間5.44m	SW→NE，269＋275	9＋9（尺）	
身舎　梁間　2間4.54m	SE→NW，227＋227	7.5＋7.5尺	
廂　面　幅		主軸方位　N52.5°W	
柱堀方平均値	径　35cm，　深さ　46cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他	柱穴底部に径20cm前後の礎石と思われる河原石があるものもある。		

SB 127 建物跡	検出地点　L3　大グリッド	図版番号	分類番号　F
規模　8.48×4.09m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.3cm	
身舎　桁行　4間8.48m	SE→NW，210＋214＋212＋212	7尺等間	
身舎　梁間　2間4.09m	SW→NE，204＋205	7尺等間	
廂　面　幅		主軸方位　N41°W	
柱堀方平均値	径　30cm，　深さ　20cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号　図	図版番号
その他			

SB 140 建物跡	検出地点　L4　大グリッド	図版番号　12	分類番号　F
規模　4.18×3.80m	柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒29.9cm	
身舎　桁行　2間4.18m	SW→NE，208＋210	7＋7（尺）	
身舎　梁間　2間3.80m	SE→NW，200＋180	6.5＋6尺	
廂　面　幅		主軸方位　N42°E	
柱堀方平均値	径　35cm，　深さ　20cm，　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　P	時期	挿図番号	図版番号
その他	幅20～30cm，深さ10cmの溝がめぐり，竪穴住居風でもあるが，床面等に焼土等の痕跡は認められない。		



第28図　SB112・122・154建物跡

SB 154 建物跡	検出地点　K 2，L 2　大グリッド		図版番号	分類番号　C－3
規模　10.03×4.73m		柱間平均距離　(cm)	計画尺　1尺≒30.4cm	
身舎	桁行　4間 10.03m	SW→NE, 238＋290＋274＋200	8＋9＋9＋7（尺）	
	梁間　1間　4.73m	→　,	15.5（尺）	
廂	面　幅		主軸方位　N34°E	
柱堀方平均値	径　40cm,　深さ　45cm,　柱痕の太さ　cm			
出土遺物	明白磁染付			
遺物記述頁　95P	時期　14C～15C	挿図番号　57図12	図版番号　巻頭図版3	
その他				

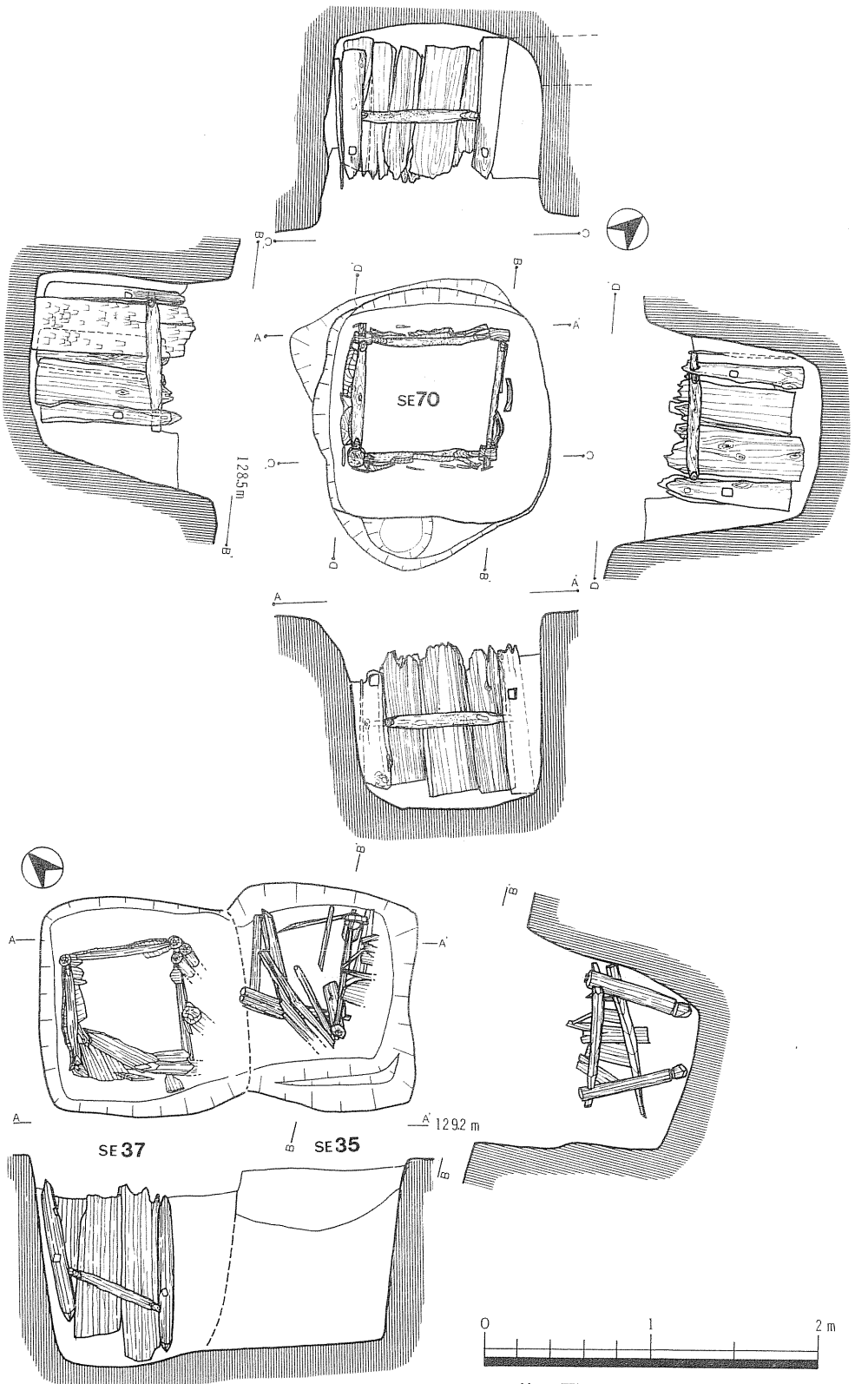
SB 122 建物跡	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　D－1
規模　　×　　m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒30.0cm	
身舎　桁行　3間 6.0m 梁間　1間 4.8m	SE→NW, 200＋200＋200 →　,	総長で20尺 16尺	
廂　面　幅		主軸方位　N40.5°W	
柱堀方平均値	径　42cm,　深さ　23cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SB 112 建物跡	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　D－3
規模　4.72×3.95m	柱間平均距離　　(cm)	計画尺　1尺≒29.5cm	
身舎　桁行　3間4.72m 梁間　1間3.95m	SW→NE, 172＋128＋172 →　,	6＋4＋6（尺） 13尺	
廂　面　幅		主軸方位　N42°E	
柱堀方平均値	径　25cm,　深さ　10cm,　柱痕の太さ　cm		
出土遺物			
遺物記述頁　　P	時期	挿図番号　　図	図版番号
その他			

2　井戸跡

今回の発掘調査では計68基の井戸跡を発見した。井戸跡は全て微高地上にあり，南西～西部にかけ多く分布し，北部では極端に少ない。この分布密度の多寡は掘立柱建物跡のそれに反比例し，東部ではおおよそ正比例する。南西～西部にある井戸跡は後世の耕作および耕地整理などで上部が削平されていると思われるものがほとんどである。

井戸跡が分布する微高地での地山層位は，上から，硬い砂質土(I)，小礫を含む硬い砂利(II)，黒色粘質土(III)，縞状に堆積した砂(IV)，青灰～黄褐色で砂混じりの砂利(V)などの層が各々の厚さ10～30cmくらいであり，地山上面から1.0～1.3mの深さにあるV層（標高約127.6～128.0m）



第29図　SE70・37・35井戸跡

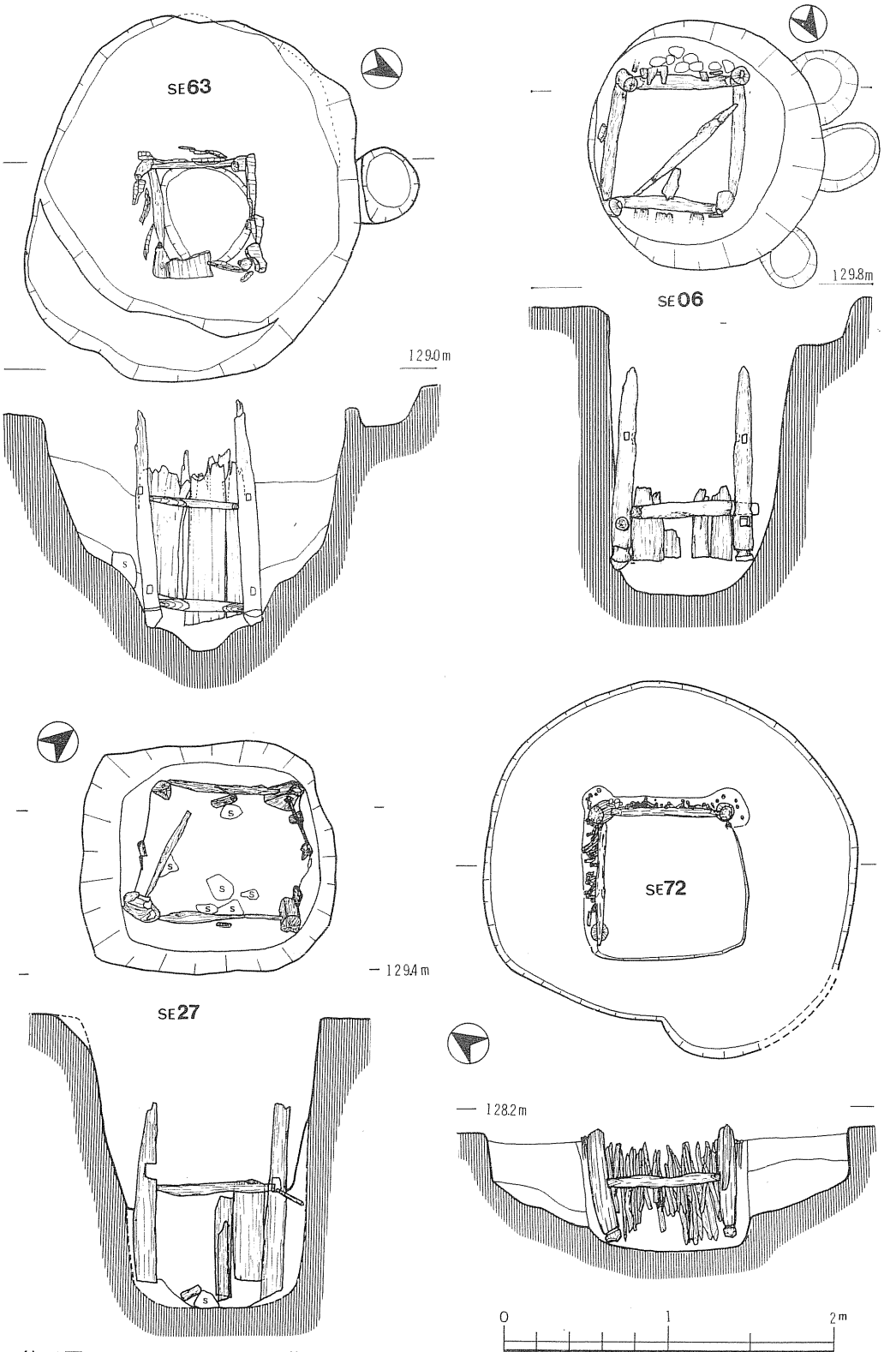
SE 70 井 戸	検出地点 N 3 大グリッド	図版番号 14	分類番号 A－I－1
掘方の形状	平面形 1.4m×1.4m，口径 m，底形 m，深さ 1.2m		
井筒の形状（方形）	大きさ 0.8m×0.7m，径 m，		
隅柱（有）	側板（19枚），一辺の平均 4枚，材質 杉	横桟 1（ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	各部の保存状態が良く，A－Iの典型例である。埋土上部には焼けたモミガラが約20ℓほどもあった。		

SE 37 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号 15	分類番号 A－I－1
掘方の形状	平面形 1.3m×1.3m，口径 m，底形 m，深さ 1.3m		
井筒の形状（方形）	大きさ 0.7m×0.7m，径 m，		
隅柱（有）	側板（14枚），一辺の平均 4枚，材質	横桟 2（1）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	SE35と重複している。SE37の方が新しい。		

SE 35 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号 15	分類番号 A－I－1
掘方の形状	平面形 1.3m×1.2m，口径 m，深さ 1.1m		
井筒の形状（方形）	大きさ 0.7m×0.7m，径 m，		
隅柱（有）	側板（12枚），一辺の平均 7枚，材質	横桟 1（ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	SE37と重複している。		

から湧水がある。各井戸は必ずこのV層より深く掘り込んで底面としており，標高も若干低く上部が削平されている南西～西部にかけては浅い井戸となっている。また，地山井筒の井戸跡の中には，深さ1.0m前後のところで，井壁が崩れたと思われるものも多い。

発見した井戸跡を井壁の形状及びその構造から4つに大別しA～D類とした。（84Pにつづく）



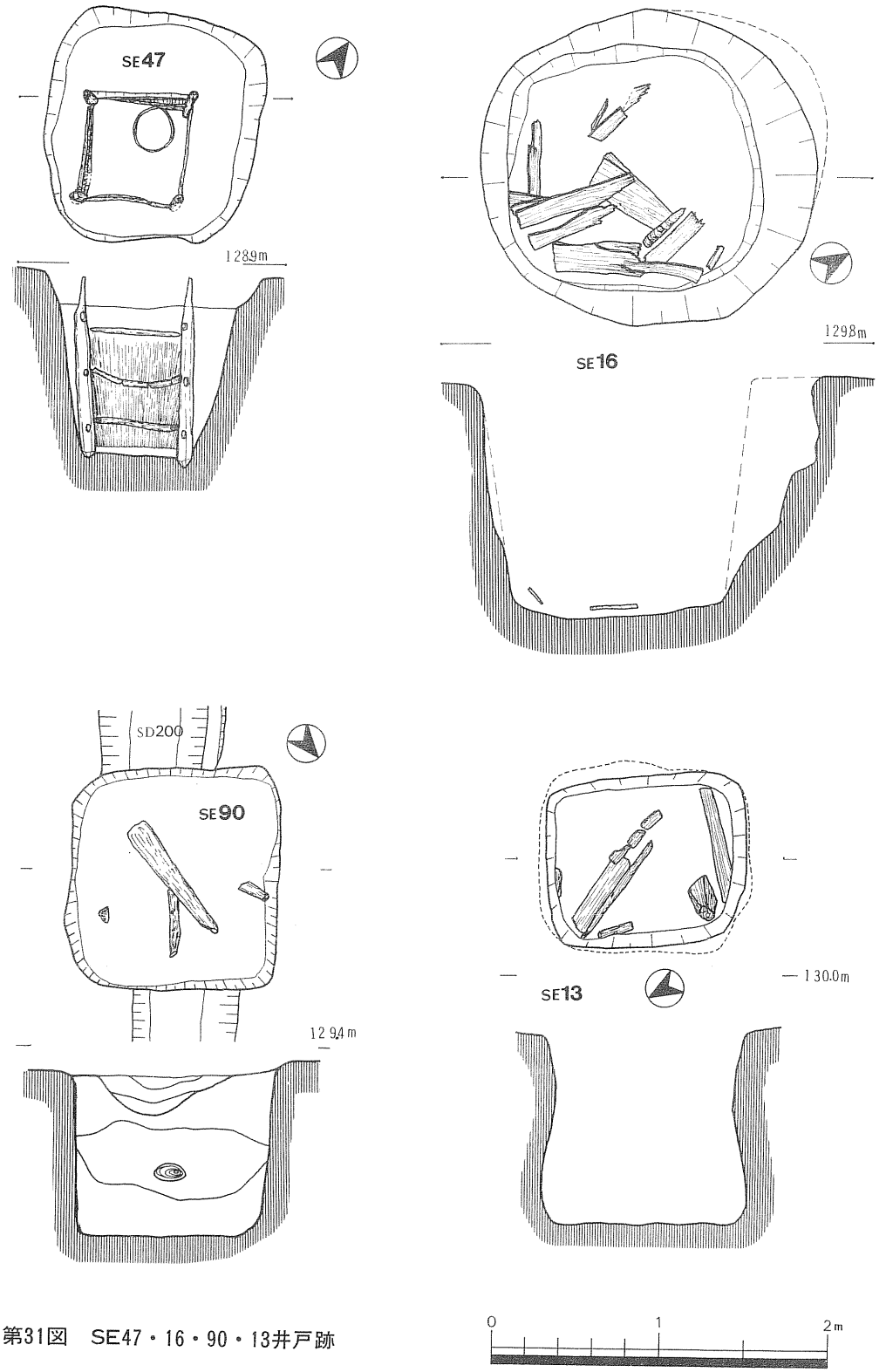
第30図　SE63・06・27・72井戸跡

SE　63 井　戸	検出地点　M 3　　大グリッド	図版番号　15	分類番号　A－I－1
掘方の形状	平面形　2.3m×2.0m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.5m		
井筒の形状（方形）	大きさ　0.6m×0.6m，径　　m，		
隅柱（有）	側板（15枚），一辺の平均　4 枚，材質		横桟　2（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	掘方が平面円形で非常に大きい。		

SE　06 井　戸	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号　16	分類番号　A－I－1
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.5m，底形　0.9m，深さ　1.8m		
井筒の形状（方形）	大きさ　0.8m×0.7m，径　　m，		
隅柱（有）	側板（10枚），一辺の平均　5 枚，材質		横桟　2（1）段
遺物出土状況　埋土下層			
遺物　須恵器大甕破片	遺物記述頁　95P	挿図番号　58図14	図版番号
その他	掘方が平面円形である。		

SE　27 井　戸	検出地点　K 4　　大グリッド	図版番号　17	分類番号　A－I－1
掘方の形状	平面形　1.5m×1.4m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.8m		
井筒の形状（方形）	大きさ　0.8m×0.8m，径　　m，		
隅柱（有）	側板（7 枚），一辺の平均　7 枚，材質		横桟　1（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SE　72 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号　19	分類番号　A－I－2
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　2.3m，底形　2.2m，深さ　0.7m		
井筒の形状（方形）	大きさ　0.8m×0.8m，径　　m，		
隅柱（有）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　1（　　）段
遺物出土状況　埋土中層			
遺物　唐津系陶器	遺物記述頁　95P	挿図番号　60図36	図版番号　30
その他	側板の替わりに粗朶を用いている。掘方が円形で非常に広く浅い。		



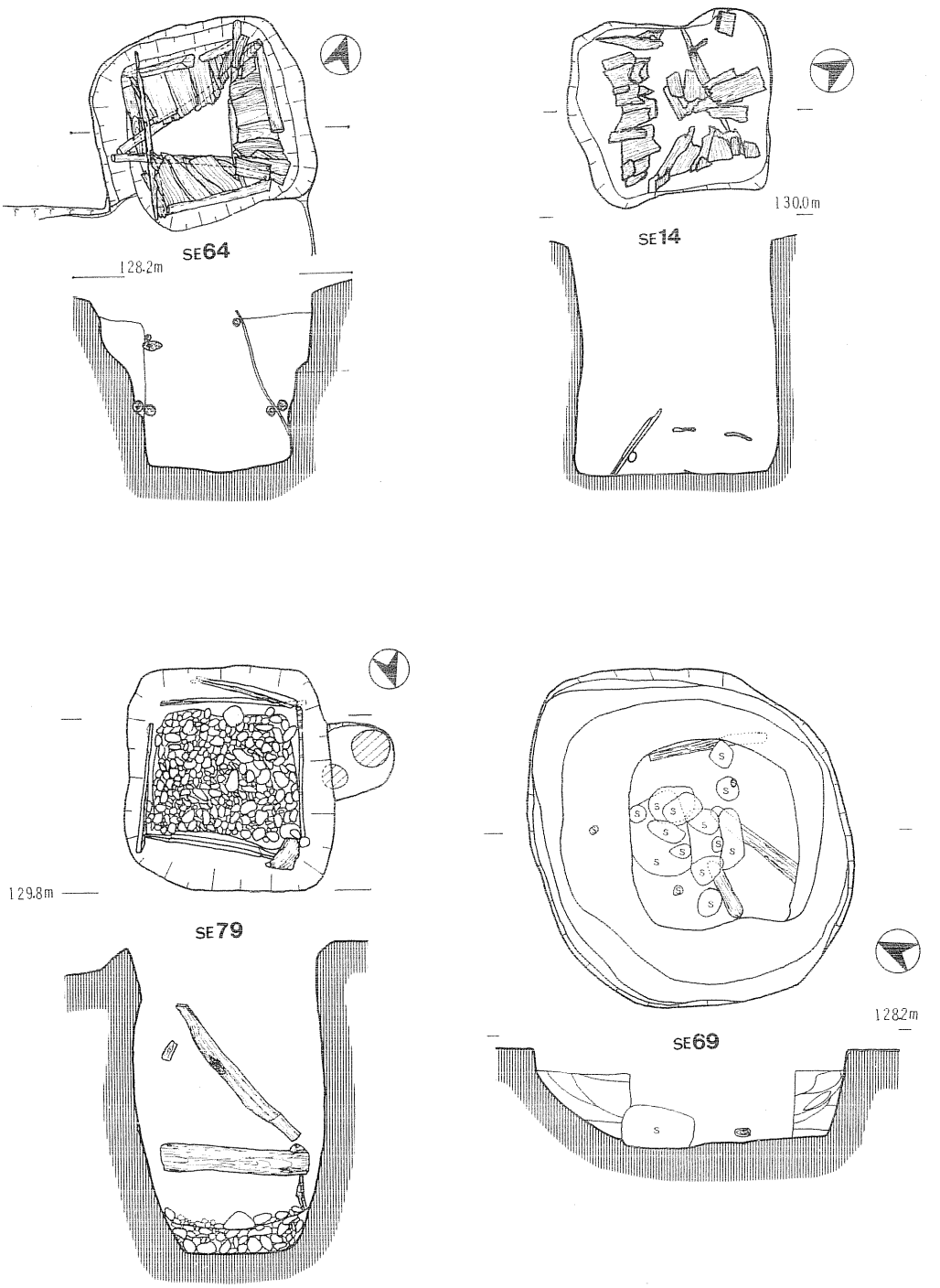
第31図　SE47・16・90・13井戸跡

SE 47 井 戸	検出地点 M 2 大グリッド	図版番号 20	分類番号 A－I－2
掘方の形状	平面形 1.3m×1.3m，口径 m，底形 m，深さ 1.1m		
井筒の形状（方形）	大きさ 0.6m×0.6m，径 m，		
隅柱（有）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 3（ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	側板の替わりに葦を使っている。底部に径25cmの曲物があった。		

SE 16 井 戸	検出地点 K 3 大グリッド	図版番号	分類番号 A－I－3
掘方の形状	平面形 1.7m×1.5m，口径 m，底形 m，深さ 1.4m		
井筒の形状（ ）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	底部に板が散在し，A－I類と推測される。		

SE 90 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 A－I－3
掘方の形状	平面形 1.3m×1.3m，口径 m，底形 m，深さ 1.0m		
井筒の形状（ ）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	隅柱らしい物が残っており，板井だった可能性がある。SD200に切られている。		

SE 13 井 戸	検出地点 K 2 大グリッド	図版番号 16	分類番号 A－I－3
掘方の形状	平面形 1.2m×1.0m，口径 m，底形 m，深さ 1.2m		
井筒の形状（ ）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（有）	側板（3枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	内部に隅柱らしい物や板が残っており，A－I類と推測される。		



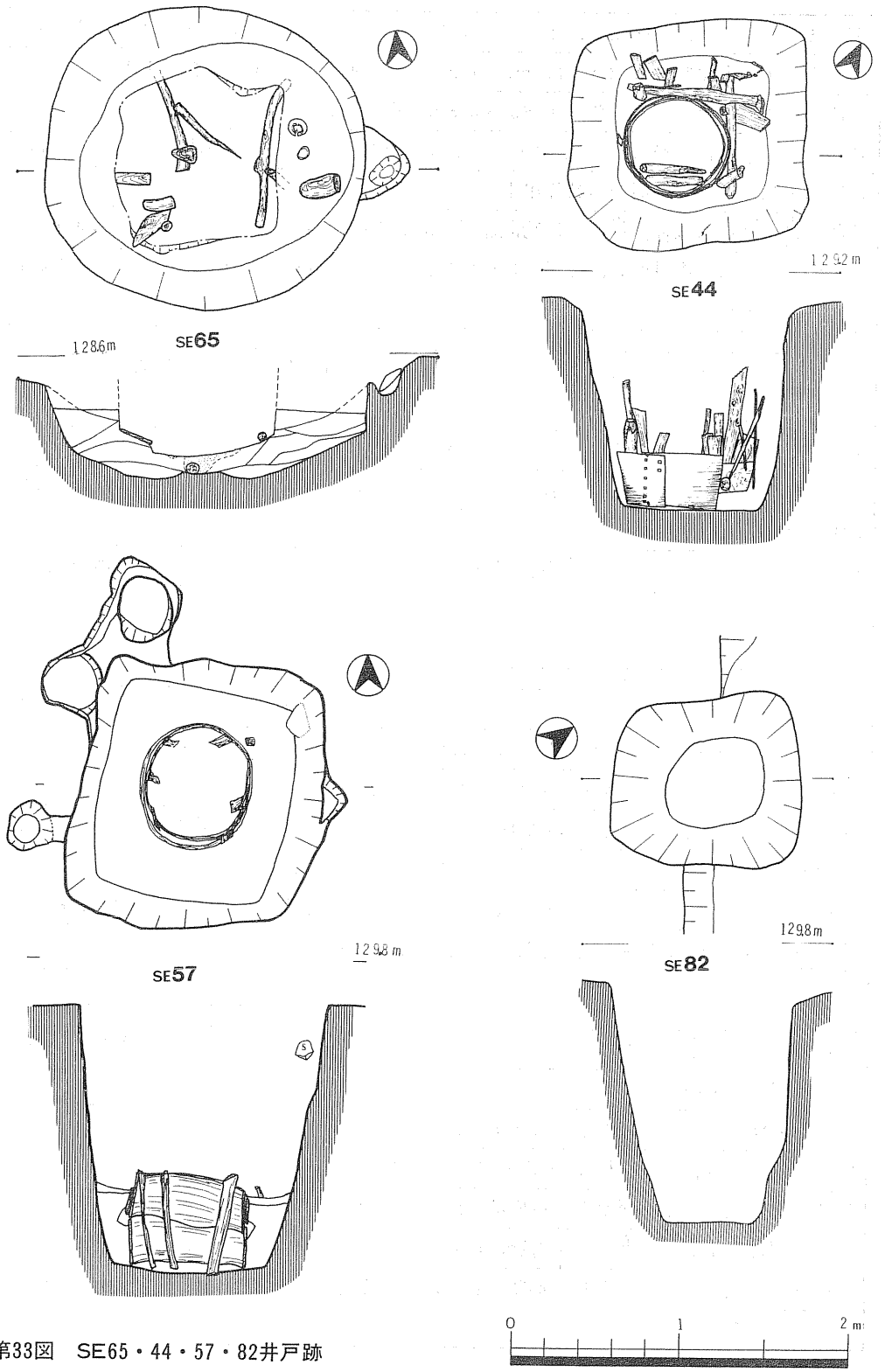
第32図　SE64・14・79・69井戸跡

SE　64 井　戸	検出地点　N 2　　大グリッド	図版番号　18	分類番号　A－II
掘方の形状	平面形　1.2m×1.1m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.1m		
井筒の形状（方形）	大きさ　0.8m×0.8m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（25枚），一辺の平均　7枚，材質		横桟　2（　　）段
遺物出土状況　埋土中層から数片出土			
遺物　青緑釉陶器，伊万里系染付，江戸後期磁器	遺物記述頁　95P	挿図番号　60図25～29	図版番号　30
その他　縦板を内外から，2段の横桟で挟んでいる。縦板は非常にうすく，厚さ5㎜前後である。			

SE　14 井　戸	検出地点　K 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　A－II
掘方の形状	平面形　1.1m×1.0m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.4m		
井筒の形状（方形）	大きさ　0.8m×0.8m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（32枚），一辺の平均　10枚，材質		横桟　1（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SE　79 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号　17	分類番号　A－III
掘方の形状	平面形　1.3m×1.1m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.8m		
井筒の形状（方形）	大きさ　0.9m×0.9m，径　　m，		
隅柱（有）	側板（5枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他　底面には2～3段，玉砂利を敷きつめている。			

SE　69 井　戸	検出地点　N 2　　大グリッド	図版番号　23	公類番号　A－IV
掘方の形状	平面形　1.8m×2.0m，口径　　m，底形　1.5m，深さ　0.6m		
井筒の形状（　　）	大きさ　1.0m×1.0m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　埋土下層から井戸底部にかけて出土			
遺物　明青磁2，瀬戸壺，洲珠系大甕	遺物記述頁　95P	挿図番号　60図30～33	図版番号　30
その他　板井であったらしい形跡が見られる。掘方が円形で広く浅い。SE65と良く似ている。			



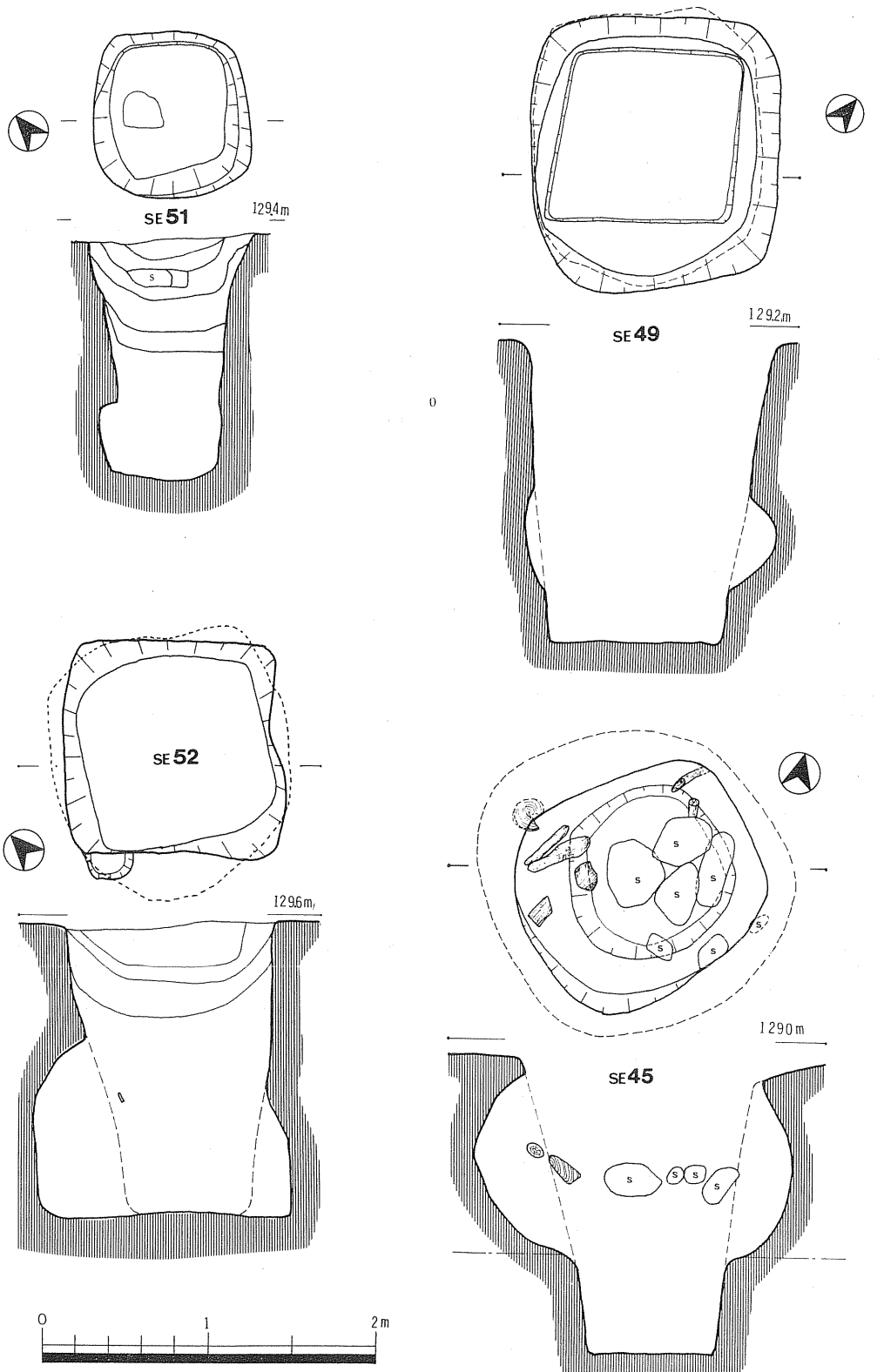
第33図　SE65・44・57・82井戸跡

SE　65 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　A－Ⅳ
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.9m，底形　1.5m，深さ　0.7m		
井筒の形状（　　）	大きさ　0.9m×0.9m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　井戸底部			
遺物　木製蓋	遺物記述頁　　P	挿図番号　78図 2	図版番号　32
その他	板井であったらしい形跡が見られる。掘方が円形で広く浅い。		

SE　44 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号　21	分類番号　B－Ⅰ
掘方の形状	平面形　1.4m×1.3m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.3m		
井筒の形状（円形）	大きさ　0.7m×0.7m，径 0.6m，		
隅柱（有）	側板（9 枚），一辺の平均　6 枚，材質		横桟　（1）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号　32
その他	曲物を挾む様に隅柱，横桟，縦板を使い枠組しているが，隅柱に枘孔をあけた様子はない。		

SE　57 井　戸	検出地点　K 2　　大グリッド	図版番号　21	分類番号　B－Ⅱ
掘方の形状	平面形　1.6m×1.4m，口径　　m，底形　　m，深さ 1.6m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径 0.7m，		
隅柱（無）	側板（8 枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	曲物を積み重ね，内外 6 ～ 8 カ所に小幅の縦板を立てたもの。曲物は 2 段だけ残存していた。		

SE　82 井　戸	検出地点　K 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－Ⅰ－1
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径 1.2m，底形　0.6m，深さ　1.3m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			



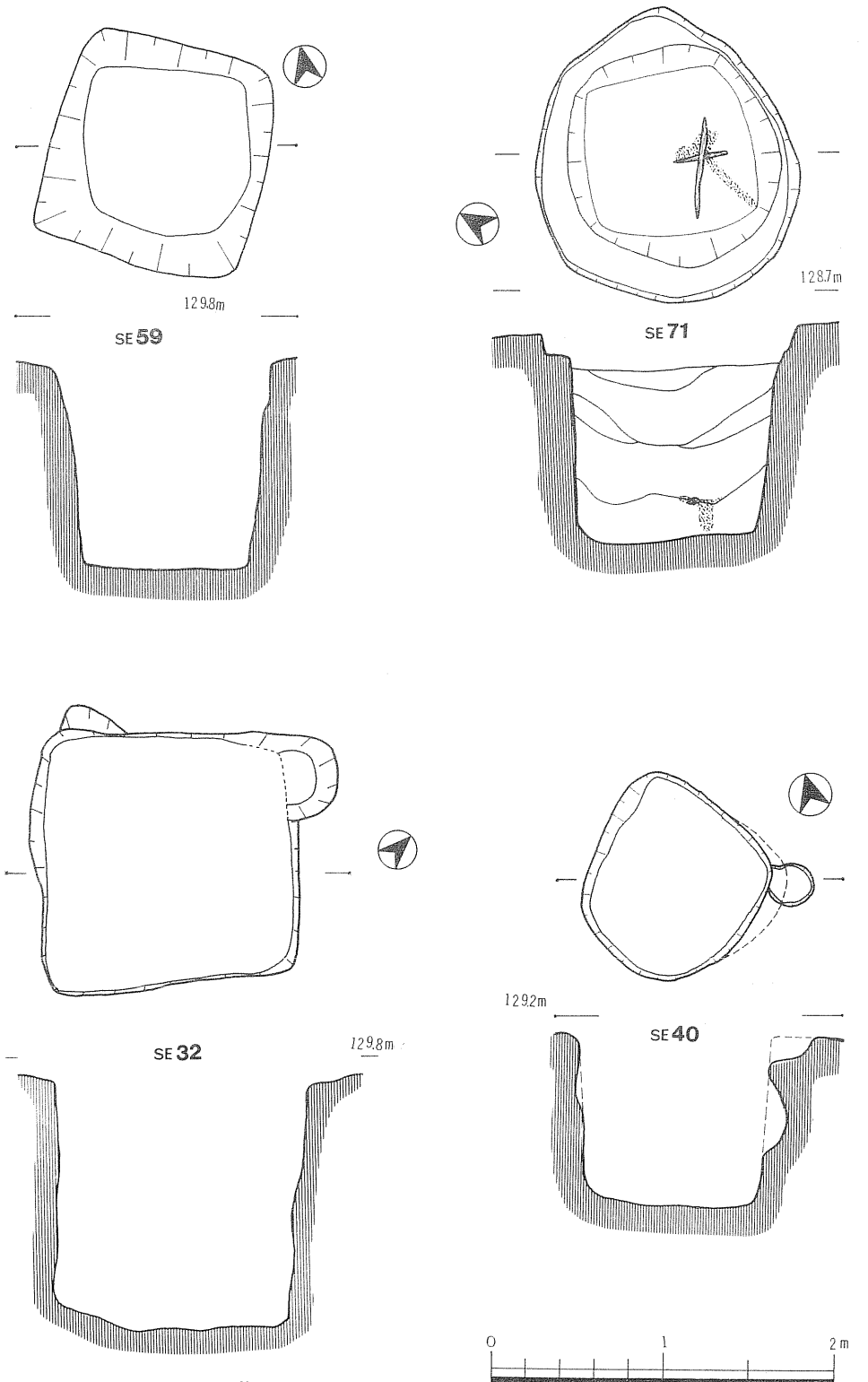
第34図　SE51・49・52・45井戸跡

SE 51 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－I－1
掘方の形状	平面形 1.0m×1.0m，口径 m，底形 m，深さ 1.4m		
井筒の形状（方形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 49 井 戸	検出地点 M 1 大グリッド	図版番号 23 25	分類番号 C－I－1
掘方の形状	平面形 1.6m×1.5m，口径 m，底形 m，深さ 1.8m		
井筒の形状（方形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 板），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	典型的な方形地山井筒である。		

SE 52 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－I－1
掘方の形状	平面形 1.3m×1.3m，口径 m，底形 m，深さ 1.4m		
井筒の形状（方形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	中～下部がフラスコ状に広がっているが，これは水の浸触によるもので，原形は逆台形であったと思われる。		

SE 45 井 戸	検出地点 M 2 大グリッド	図版番号 24	分類番号 C－I－2
掘方の形状	平面形 1.4m×1.3m，口径 m，底形 m，深さ 1.8m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況 埋土下層			
遺物 洲珠系擂鉢	遺物記述頁 95P	挿図番号 59図19～21	図版番号 31
その他	上～中部が膨らんでいるが，水の浸触によると思われる。		



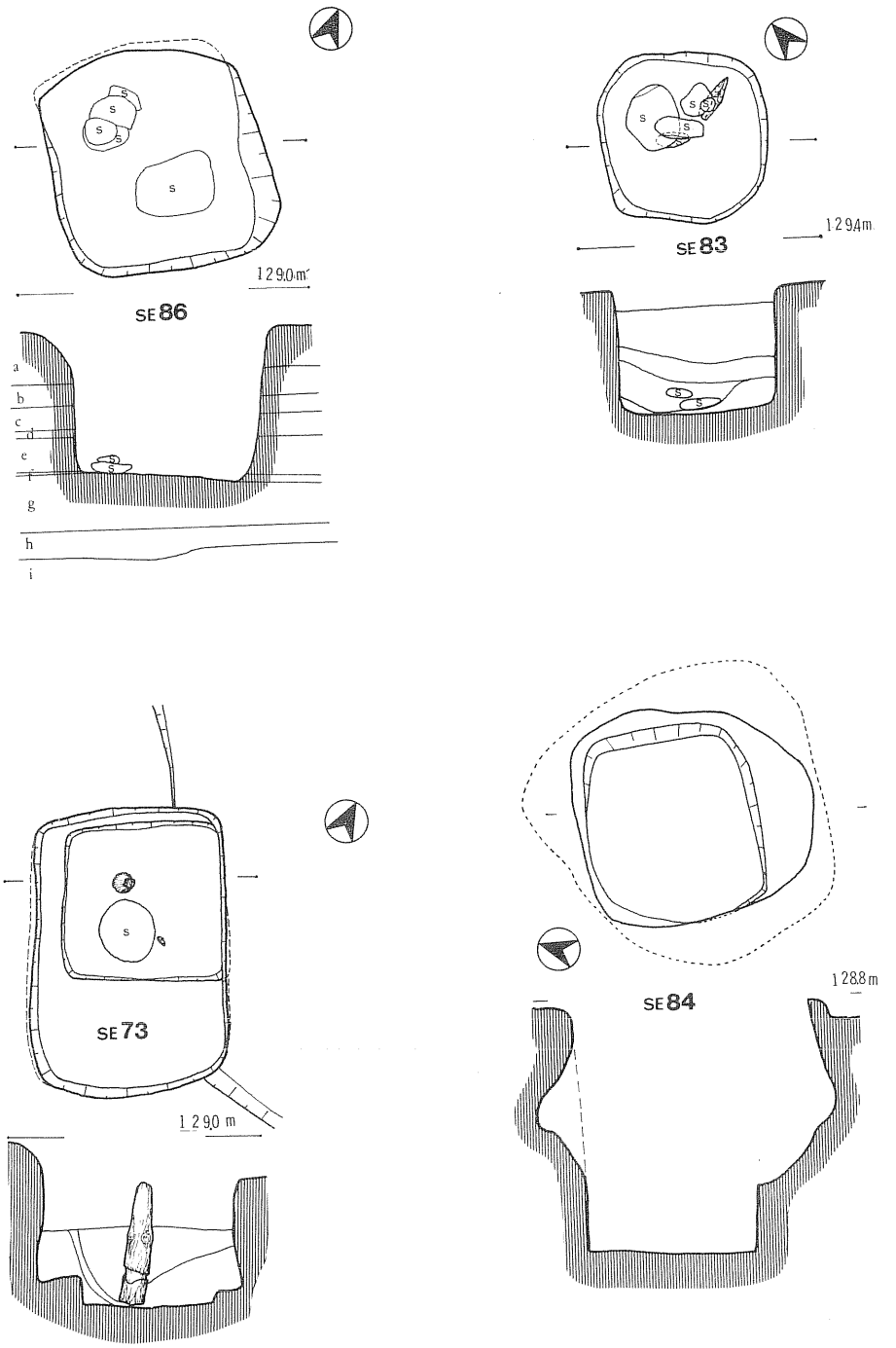
第35図　SE59・71・32・40井戸跡

SE 59 井 戸	検出地点 K 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－I－2
掘方の形状	平面形 1.3m×1.2m，口径 m，底形 m，深さ 1.2m		
井筒の形状（方形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況 埋土中層			
遺物 江戸後期の擂鉢	遺物記述頁 95P	挿図番号 59図24	図版番号
その他			

SE 71 井 戸	検出地点 N 3 大グリッド	図版番号	分類番号 C－I－2
掘方の形状	平面形 1.2m×1.2m，口径 m，底形 m，深さ 1.2m		
井筒の形状（方形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況 埋土中層			
遺物 明青磁・瀬戸壺	遺物記述頁 95P	挿図番号 60図34・35	図版番号 30
その他			

SE 32 井 戸	検出地点 K 3 大グリッド	図版番号	分類番号 C－I－2
掘方の形状	平面形 1.5m×1.5m，口径 m，底形 m，深さ 1.3m		
井筒の形状（方形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況 埋土中層			
遺物 伊万里系染付	遺物記述頁 95P	挿図番号 58図17	図版番号 30
その他			

SE 40 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－I－2
掘方の形状	平面形 1.0m×0.9m，口径 m，底形 m，深さ 1.0m		
井筒の形状（ ）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			



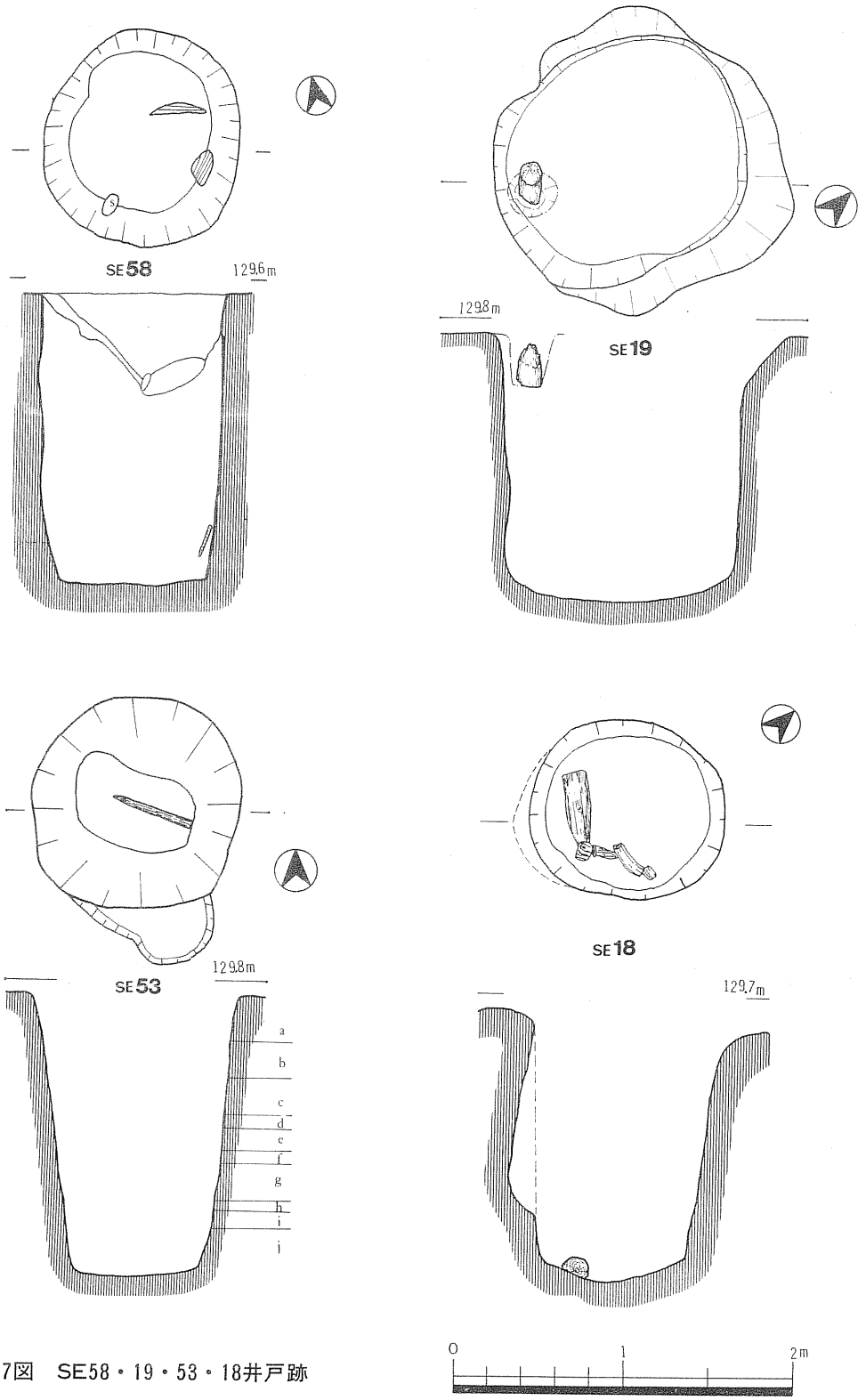
第36図　SE86・83・73・84井戸跡

SE　86 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－I－2
掘方の形状	平面形　1.1m×1.1m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.0m		
井筒の形状（方形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SE　83 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－I－2
掘方の形状	平面形　0.9m×0.9m，口径　　m，底形　　m，深さ　0.9m		
井筒の形状（　　）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SE　73 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－I－2
掘方の形状	平面形　1.5m×1.1m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.0m		
井筒の形状（　　）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　埋土中層と井戸底部			
遺物　瀬戸灰釉皿，棗の蓋	遺物記述頁　95 P	挿図番号　77図 4 60図37	図版番号 30, 32
その他	隅柱らしい物が残っており，板井だった可能性がある。長方形の土壙の中に作られている。		

SE　84 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－I－2
掘方の形状	平面形　1.0m×0.9m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.3m		
井筒の形状（方形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	中部及び上部が崩れたもの。		



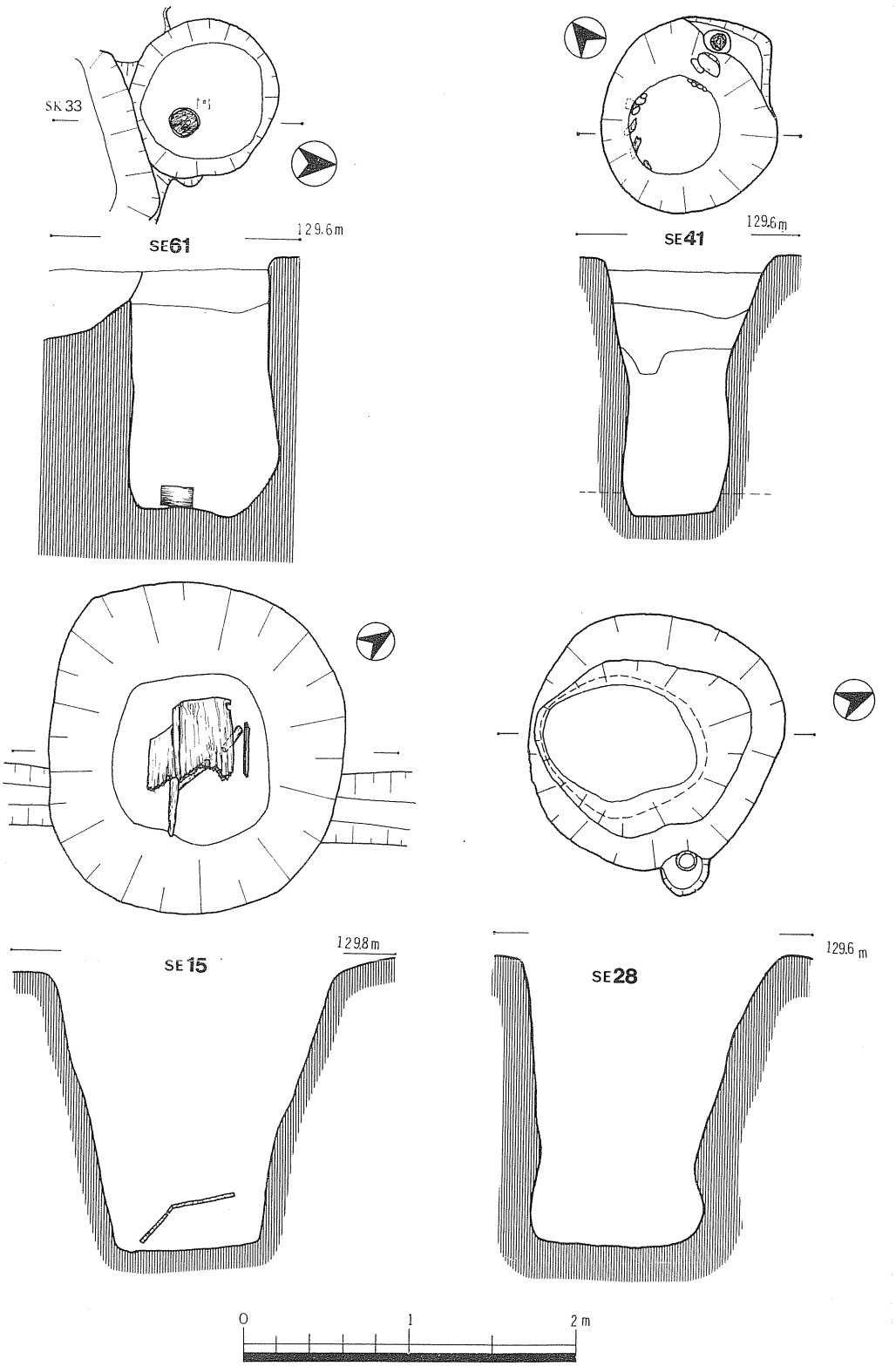
第37図　SE58・19・53・18井戸跡

SE 58 井 戸	検出地点 K 2 大グリッド	図版番号 22	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.2m，底形 0.9m，深さ 1.6m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 19 井 戸	検出地点 K 2 大グリッド	図版番号 25	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.5m，底形 1.3m，深さ 1.6m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	井戸を埋めた後に，柱穴を掘ったもので，柱根が残っている。		

SE 53 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.2m，底形 1.6m，深さ 1.5m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 18 井 戸	検出地点 K 3 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.1m，底形 0.9m，深さ 1.5m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況 埋土中層			
遺物 明青磁	遺物記述頁 95P	挿図番号 58図15・16	図版番号
その他			



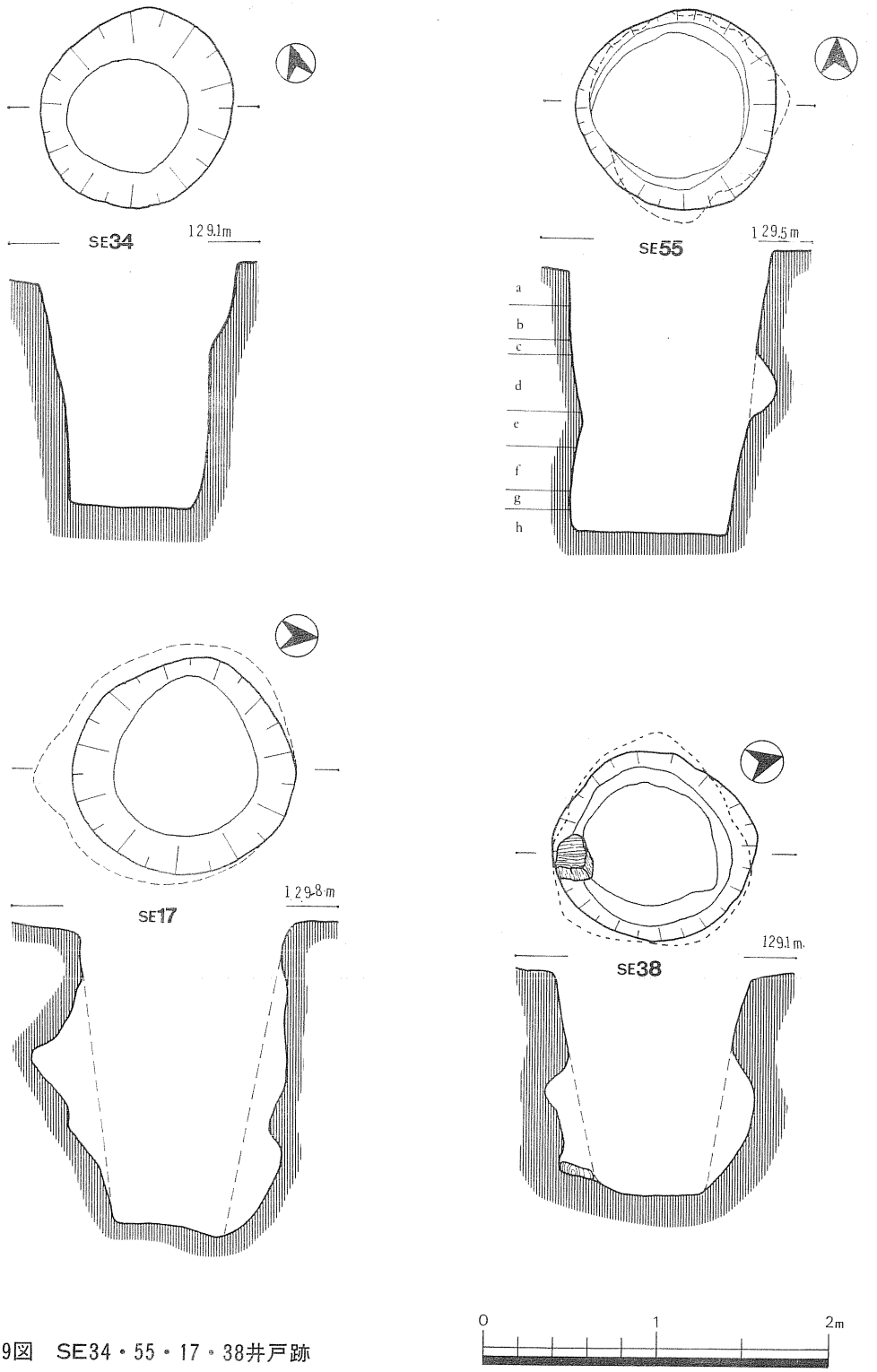
第38図　SE61・41・15・28北戸跡

SE　61 井　戸	検出地点　K 2　　大グリッド	図版番号　22	分類番号　C－II－1
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　0.9m，底形　0.7m，深さ　1.4m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径0.18m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	底部から曲物を出土した。SK33に切られている。		

SE　41 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－1
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.1m，底形　0.6m，深さ　1.5m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SE　15 井　戸	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－1
掘方の形状	平面図　2.0m×1.8m，口径　　m，底形　　m，深さ　1.7m		
井筒の形状（円形）	大きさ　0.9m×0.8m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（2枚），一辺の平均　2枚，材質	横桟　？（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	底部に板があったが，投棄されたものと思われる。		

SE　28 井　戸	検出地点　L 4　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－1
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.5m，底形　0.8m，深さ　1.8m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			



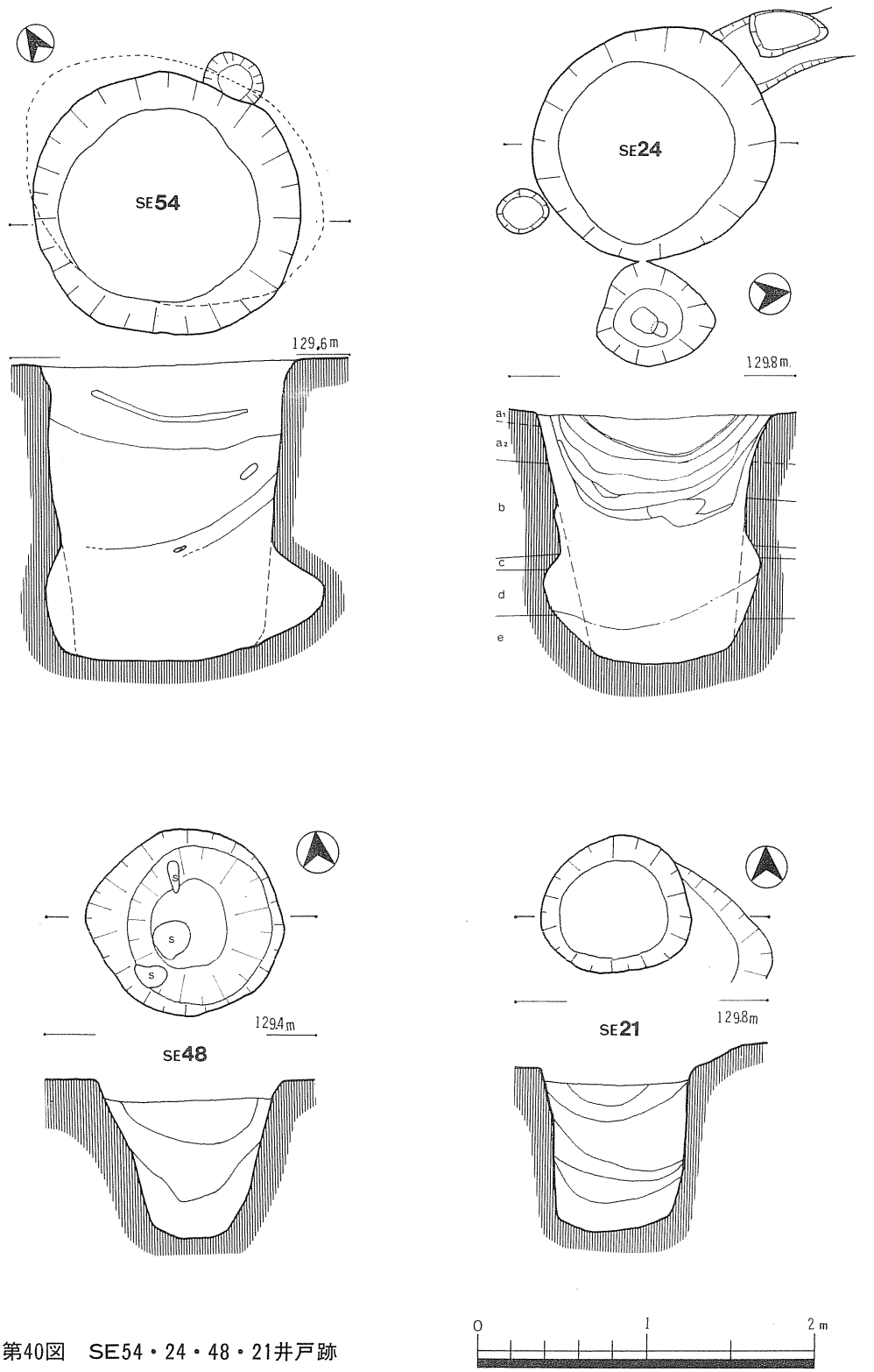
第39図　SE34・55・17・38井戸跡

SE 34 井 戸	検出地点 M 2 大グリッド	図版番号 23	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.1m，底形 0.7m，深さ 1.4m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 55 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.2m，底形 0.9m，深さ 1.6m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 17 井 戸	検出地点 K 3 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.3m，底形 0.8m，深さ 1.7m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 38 井 戸	検出地点 M 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面図 m× m，口径 1.1m，底形 0.7 ，深さ 1.3m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			



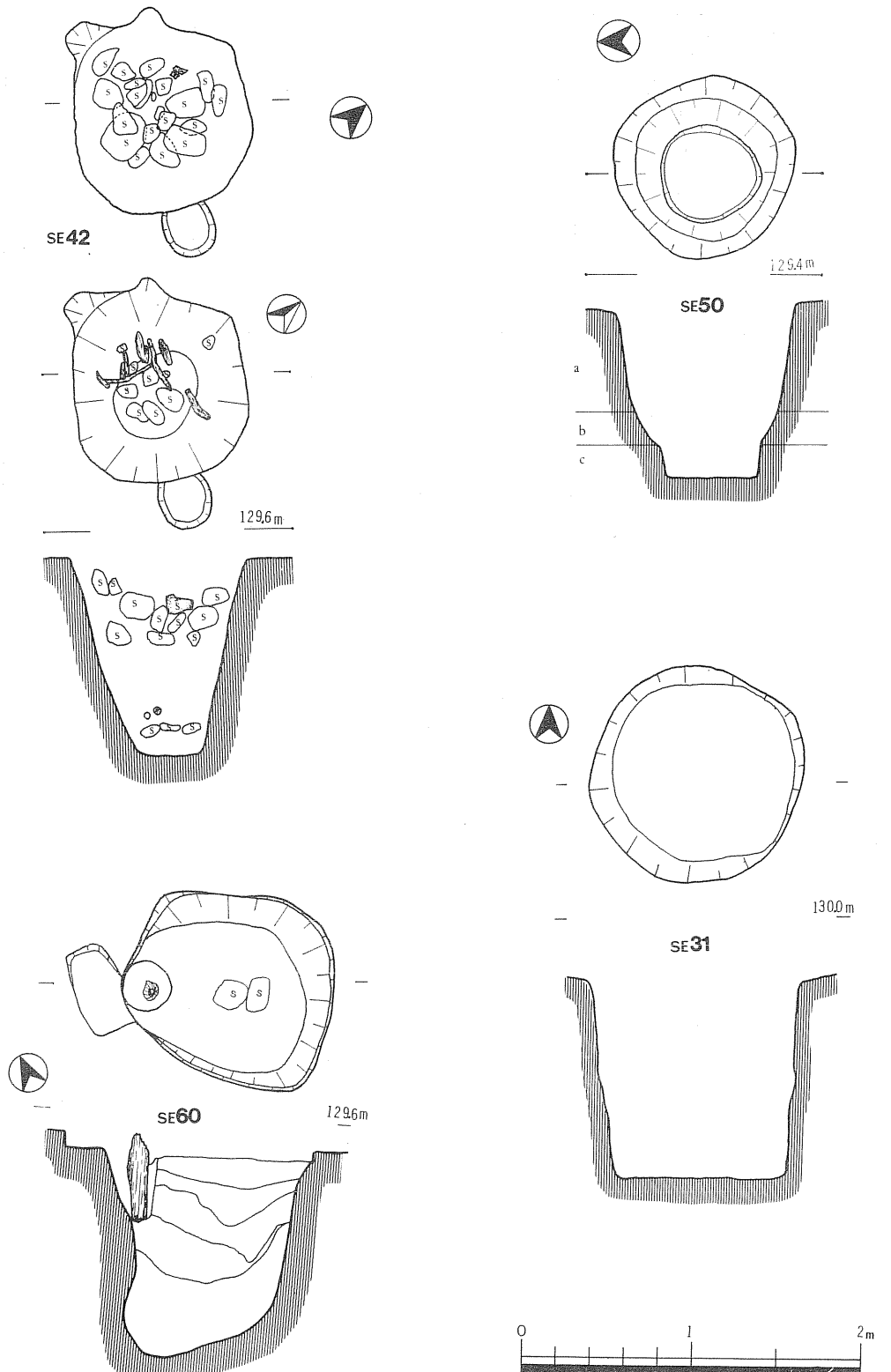
第40図　SE54・24・48・21井戸跡

SE 54 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.6m，底形 1.2m，深さ 1.8m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況 埋土下層			
遺物 箆	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 24 井 戸	検出地点 L 3 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－1
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.4m，底形 1.0m，深さ 1.5m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 48 井 戸	検出地点 M 1 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－2
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.1m，底形 0.5m，深さ 0.9m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 21 井 戸	検出地点 K 3 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－2
掘方の形状	平面形 m× m，口径 0.9m，底形 0.6m，深さ 0.8m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			



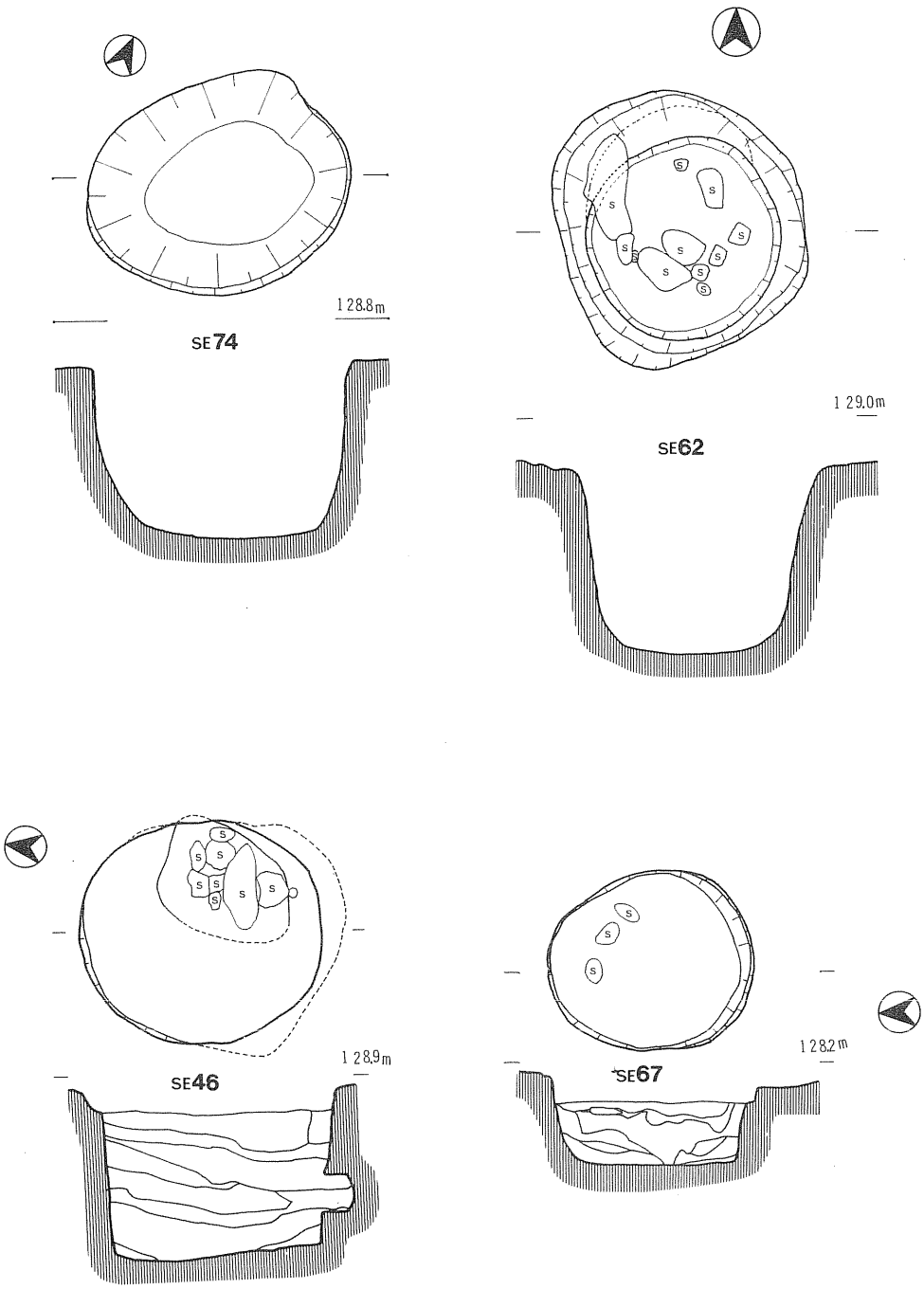
第41図　SE42・50・60・31井戸跡

SE　42 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－2
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.2m，底形　0.5m，深さ　1.2m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　埋土下層			
遺物　瀬戸碗・石臼片	遺物記述頁　95P	挿図番号　58図18	図版番号
その他	上層～中層にかけて多数の河原石と石臼片１個が，投棄された状態であった。さらに下層にも数個の石と木片があった。		

SE　50 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号　23	分類委号　C－II－2
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.1m，底形　0.5m，深さ　1.0m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	図中C層のところで径が狭くなり，井底まで垂直に掘っている。		

SE　60 井　戸	検出地点　K 2　　大グリッド	図版番号　23	分類番号　C－II－2
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.2m，底形　1.0m，深さ　1.1m		
井筒の形状（　　）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	井戸跡に柱穴・柱根が残っている。井戸が埋まってからのもので，井戸の方が古い。		

SE　31 井　戸	検出地点　K 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.3m，底形　1.1m，深さ　1.2m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			



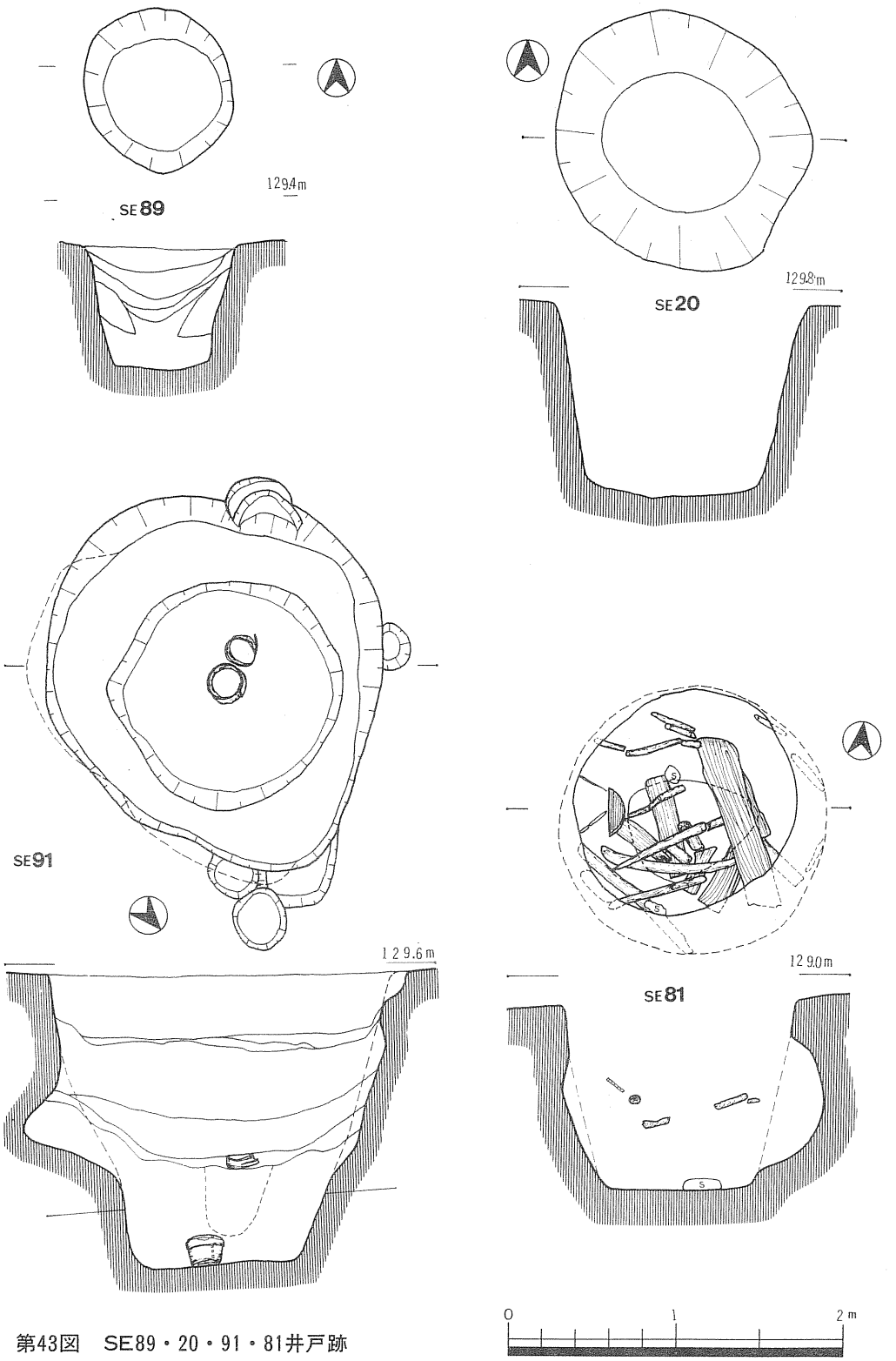
第42図　SE74・62・46・67井戸跡

SE 74 井 戸	検出地点 M 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－3
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.3m，底形 0.8m，深さ 1.0m		
井筒の形状（楕円）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			

SE 62 井 戸	検出地点 M 3 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－3
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.4m，底形 1.0m，深さ 1.0m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	埋土上～中層にかけて，径10～60cmの川原石が検出されたが投棄された様子である。		

SE 46 井 戸	検出地点 M 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－3
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.3m，底形 1.2m，深さ 0.9m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	井底東部にSB102の柱穴の１つがあり，SB102よりも古い井戸である。		

SE 67 井 戸	検出地点 N 2 大グリッド	図版番号	分類番号 C－II－3
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.1m，底形 1.0m，深さ 0.5m		
井筒の形状（円形）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（無）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他			



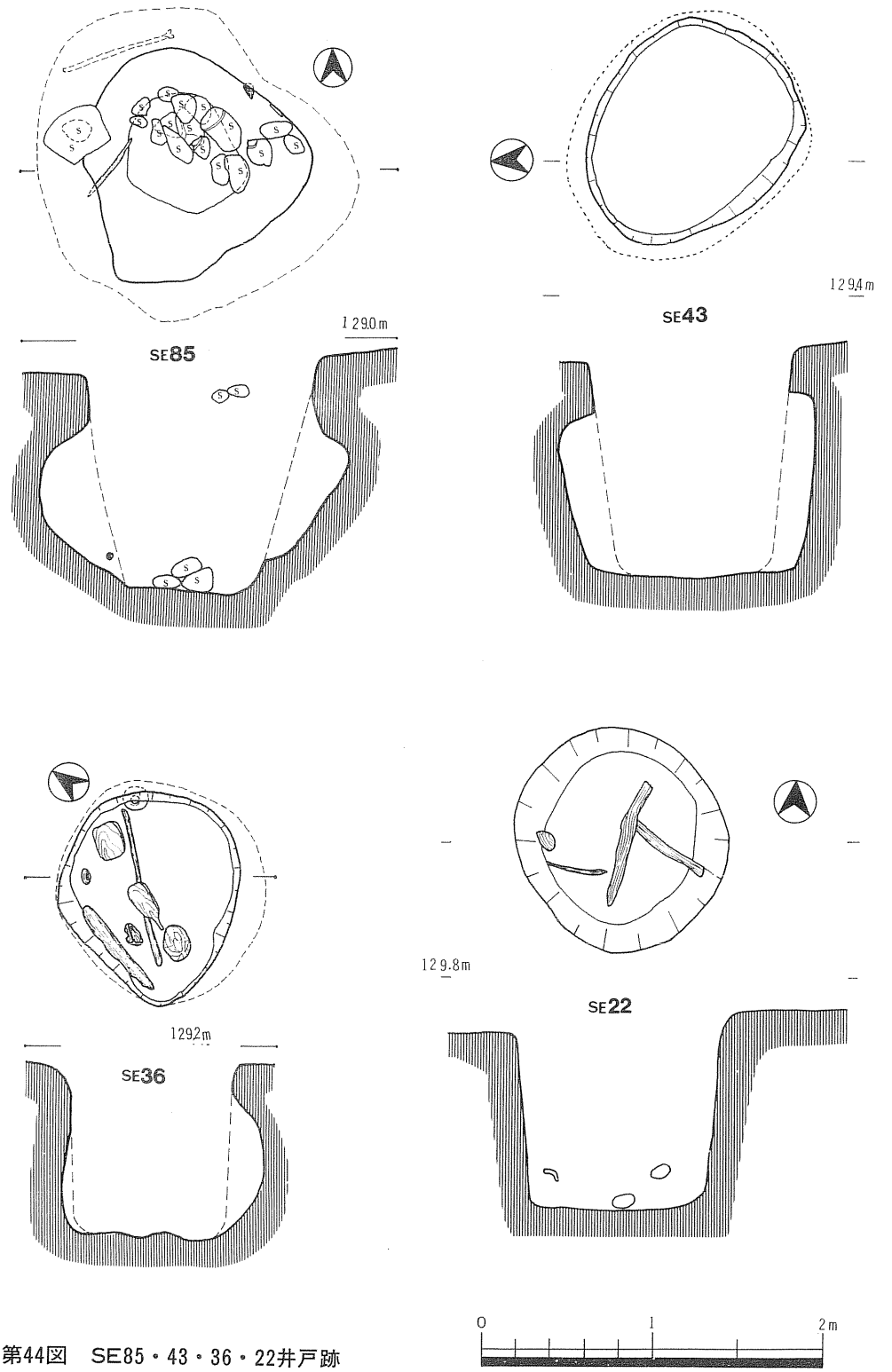
第43図　SE89・20・91・81井戸跡

SE　89 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　0.9m，底形　0.7m，深さ　0.8m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SE　20 井　戸	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.5m，底形　0.8m，深さ　1.1m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他			

SE　91 井　戸	検出地点　L 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　2.1m，底形　1.4m，深さ　1.7m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況　曲物本体が底部に，異なる曲物の蓋が中位下部にあった。			
遺物　曲物 2 個	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号　32
その他	底部に曲物があったが，人意的に置いたものかは不明である。		

SE　81 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号　24	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.3m，底形　0.7m，深さ　1.1m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況　埋土下層			
遺物　曲物底部	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	埋土中層に多数の丸木，板等があったが，乱雑に重なり，投棄された様子である。これらはほとんどが焼けている。		



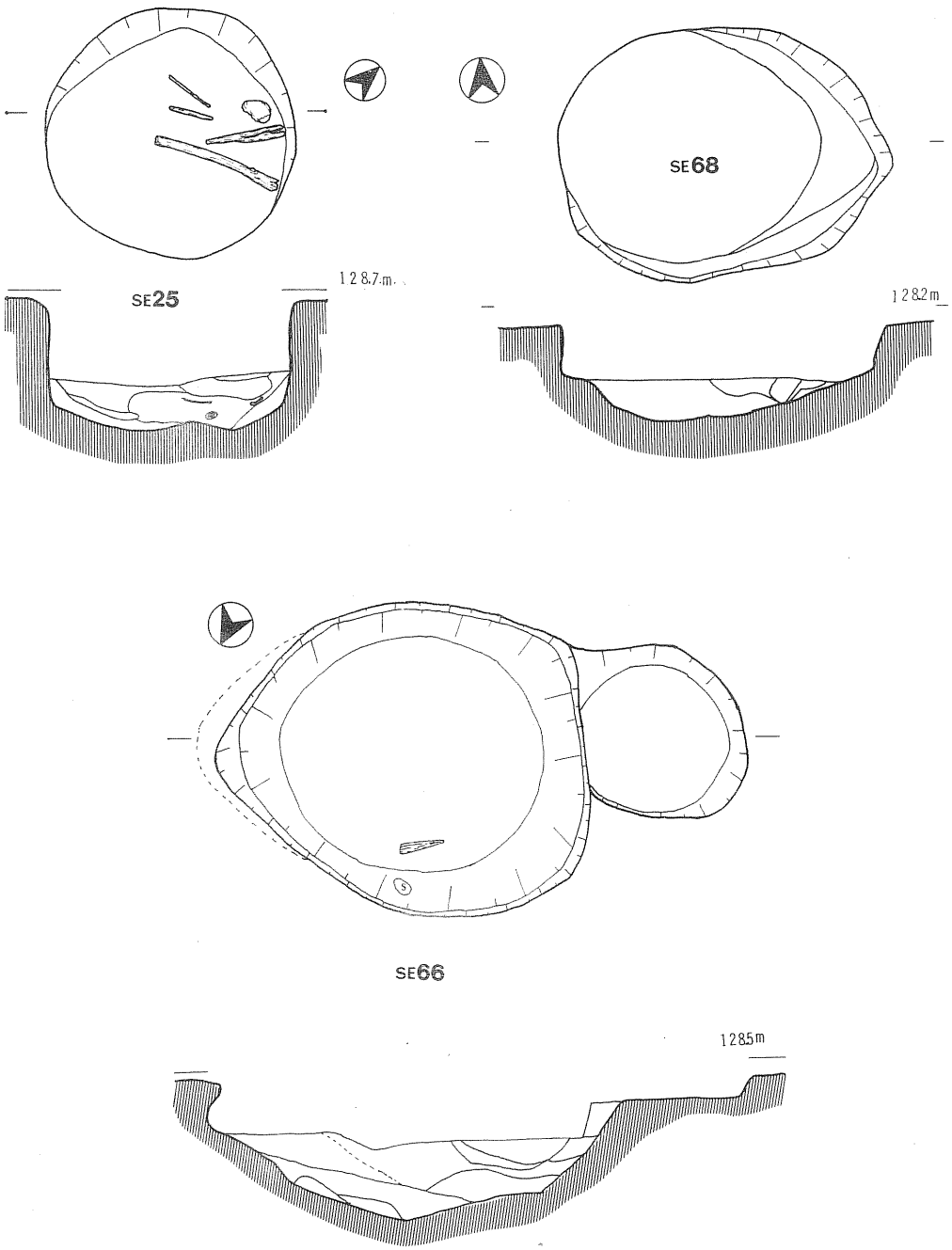
第44図　SE85・43・36・22井戸跡

SE　85 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.3m，底形　0.7m，深さ　1.3m		
井筒の形状（　　）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　上部井壁			
遺物　珠洲系擂鉢	遺物記述頁　95P	挿図番号　61図38	図版番号　30
その他	中部がかなり崩れているが，原形は逆台形であったと思われる。底部に多数の川原石があり，投入された様相である。		

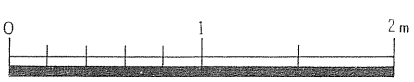
SE　43 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.2m，底形　1.1m，深さ　1.3m		
井筒の形状（　　）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　埋土下層			
遺物　漆椀	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	平面楕円形で中～下部の壁が崩れて，甕状になっている。		

SE　36 井　戸	検出地点　L 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径 1.1m，底形　1.0m，深さ　1.0m		
井筒の形状（　　）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　埋土下層			
遺物　漆椀下駄・箆	遺物記述頁　　P	挿図番号　78図5	図版番号　32
その他	割合多くの遺物が検出されたが，投棄されたものの様である。		

SE　22 井　戸	検出地点　K 3　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.2m，底形　0.9m，深さ　1.1m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質		横桟　（　　）段
遺物出土状況　埋土下層			
遺物　漆椀	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	下層に丸木があったが，投棄された様子である。		



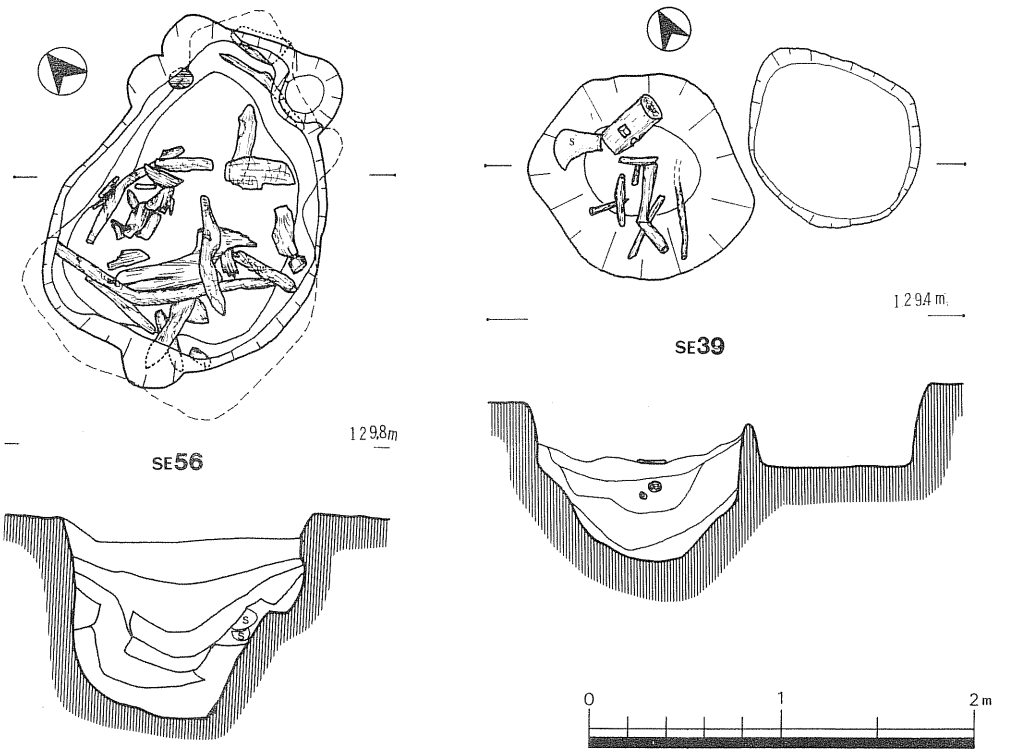
第45図　SE25・68・66井戸跡



SE　25 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　C－II－3
掘方の形状	平面形　　m×　　m，口径　1.4m，底形　1.2m，深さ　0.7m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況　井戸底部			
遺物　漆椀	遺物記述頁　　P	挿図番号　77図1	図版番号　32
その他			

SE　68 井　戸	検出地点　N 2　　大グリッド	図版番号	分類番号　D－I
掘方の形状	平面形　1.9m×1.4m，口径　　m，底形　1.4m，深さ　　m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	SE66と同じく，掘方が広く浅い。		

SE　66 井　戸	検出地点　M 2　　大グリッド	図版番号　、	公類番号　D－I
掘方の形状	平面形　2.0m×1.7m，口径　　m，底形　1.4m，深さ　0.8m		
井筒の形状（円形）	大きさ　　m×　　m，径　　m，		
隅柱（無）	側板（　枚），一辺の平均　　枚，材質	横桟　（　　）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁　　P	挿図番号　　図	図版番号
その他	掘方が広く浅い。土坑とも考えられる。底部が鍋底状を呈する。		



第46図　SE56・39井戸跡

A類：井壁に板を用いた井筒

A－Ⅰ＝隅柱・縦板・横桟型

①四隅に隅柱を立て枘穴を穿ち，１～２段の横桟があり，各面外側を４～７枚の縦板で囲んで井壁としたもの。

②A－Ⅰ－①の縦板の代わりに，特殊な材料を用いたもの。

③詳細は不明であるが，埋土中の木片や掘方等からA－Ⅰ類と推測される。

A－Ⅱ＝縦板・横桟型

隅柱を使わず，横桟を１～２段組み合わせて外側を縦板で囲んだもの。

A－Ⅲ＝隅柱・横板型

四隅に隅柱を立て，外側に横板を積み重ねて井壁としたもの。

A－Ⅳ＝その他

B類：曲物を使った井筒

B－Ⅰ＝複合井筒

SE 39 井 戸	検出地点 L 2 大グリッド	図版番号	分類番号 D－II
掘方の形状	平面形 m× m，口径 1.1m，底形 0.5m，深さ 0.9m		
井筒の形状（ ）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（有）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況			
遺物	遺物記述頁 P	挿図番号 図	図版番号
その他	隅柱と横桟らしき物は有るが，乱雑で井筒の規模はわからない。投棄された材のほとんどは焼けている。		

SE 56 井 戸	検出地点 K 1 大グリッド	図版番号 24	分類番号 D－II
掘方の形状	平面形 1.8m×1.4m，口径 m，底形 m，深さ 1.0m		
井筒の形状（ ）	大きさ m× m，径 m，		
隅柱（有）	側板（ 枚），一辺の平均 枚，材質	横桟 （ ）段	
遺物出土状況 埋土下層			
遺物 漆椀・下駄・洲珠系擂鉢	遺物記述頁 P	挿図番号 77図3 59図22・23	図版番号
その他	隅柱と横桟らしき物は有るが，乱雑で井筒の規模はわからない。		

井底に大型の曲物を納め，それを囲んで隅柱・縦板・横桟を組んだもの。

B－II＝曲物井筒

曲物を数段積み重ね，6～8カ所を内外から小巾の板で挟んだもの。

C類：地山井筒（素掘井筒）

C－I＝方形地山井筒

①平面方形で深さが，一辺の長さを上回るもの。

②平面方形で深さと一辺の長さが同程度のもの。

C－II＝円形地山井筒

①平面円形で比較的大型，かつ深さが口径を上回るもの。

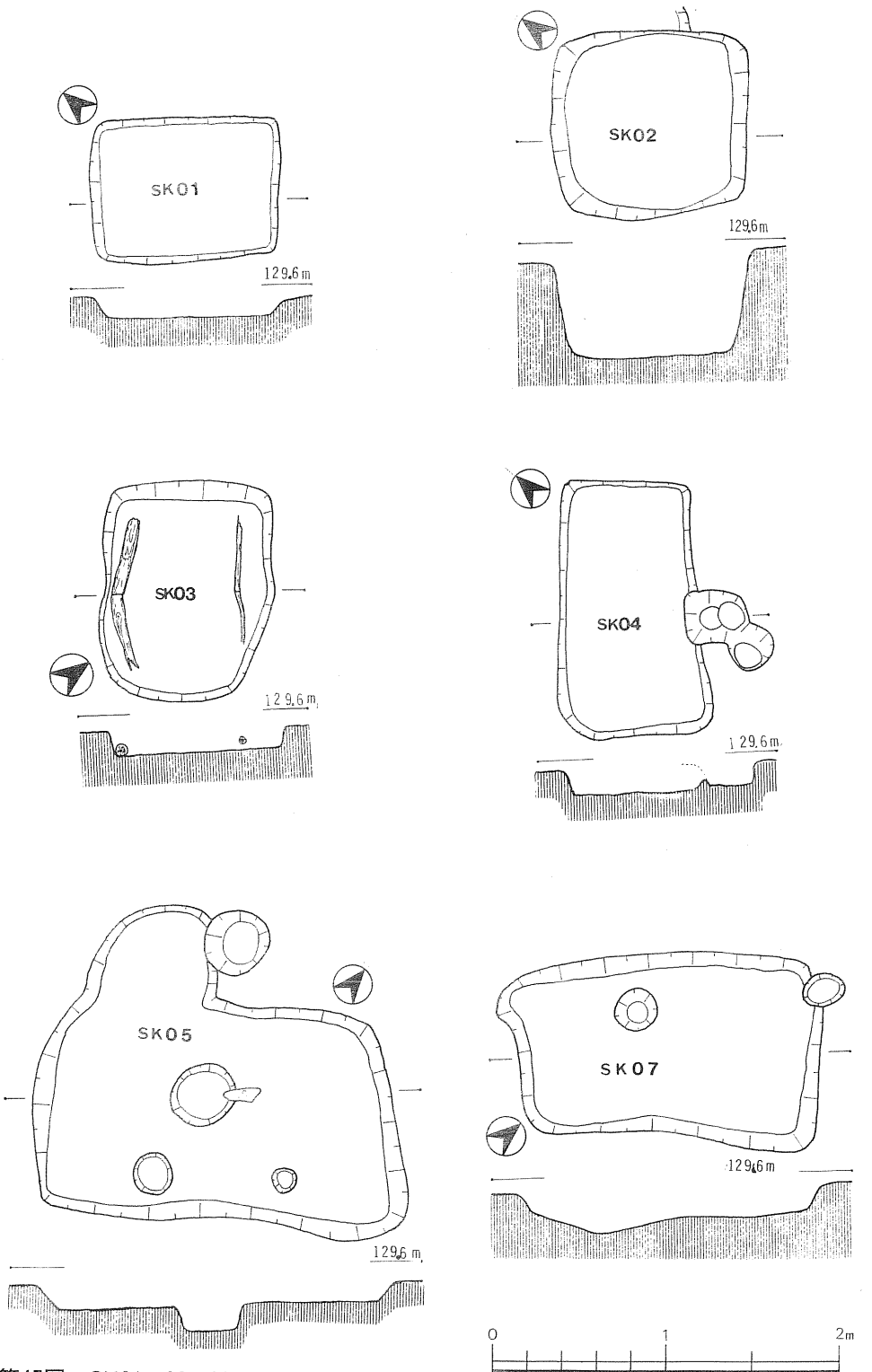
②平面円形で小型，かつ深さが口径を上回るもの。

③平面円形で深さと口径がほぼ同じもの。

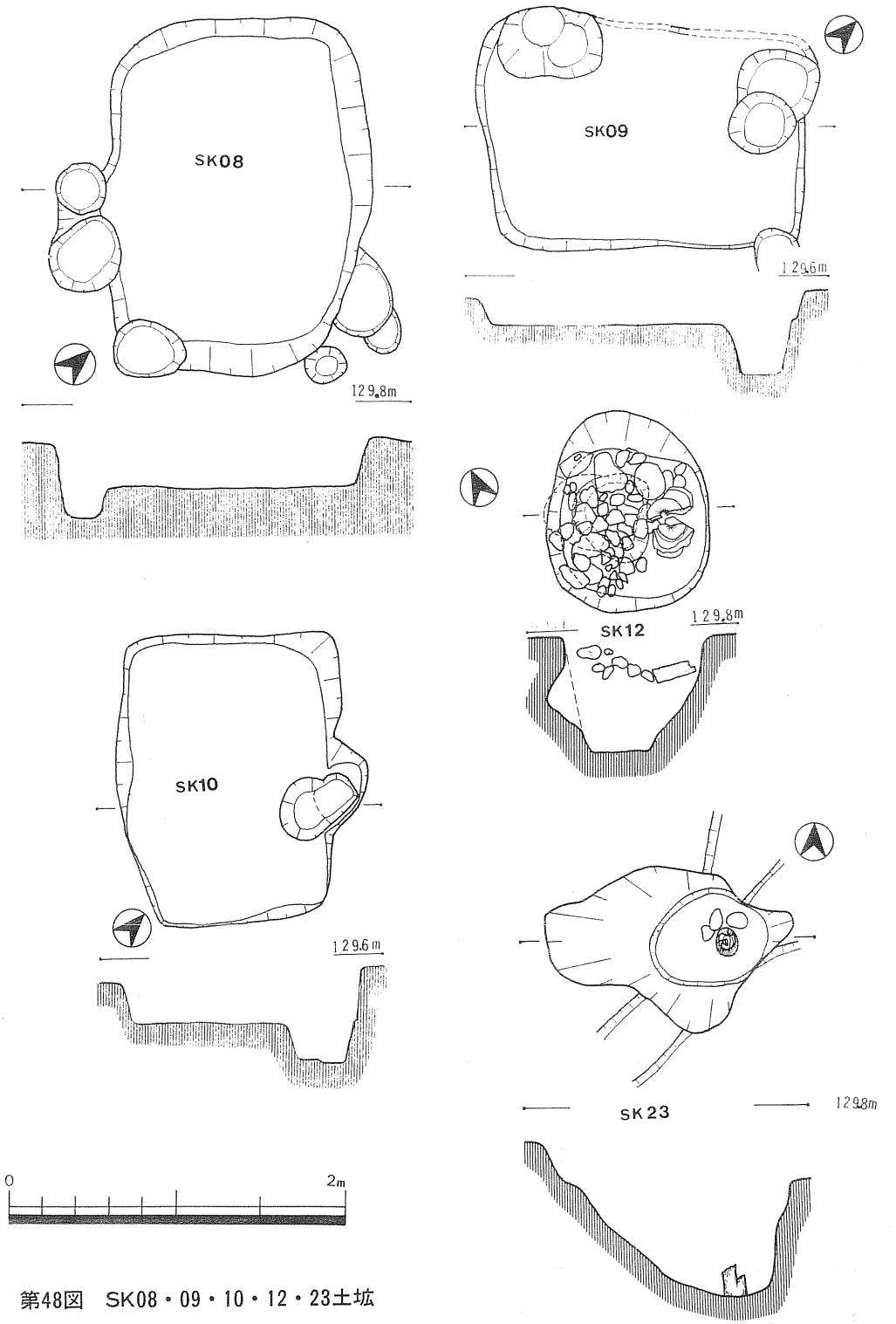
D類：その他

D－I＝井戸ではあるが極端に浅いもの。

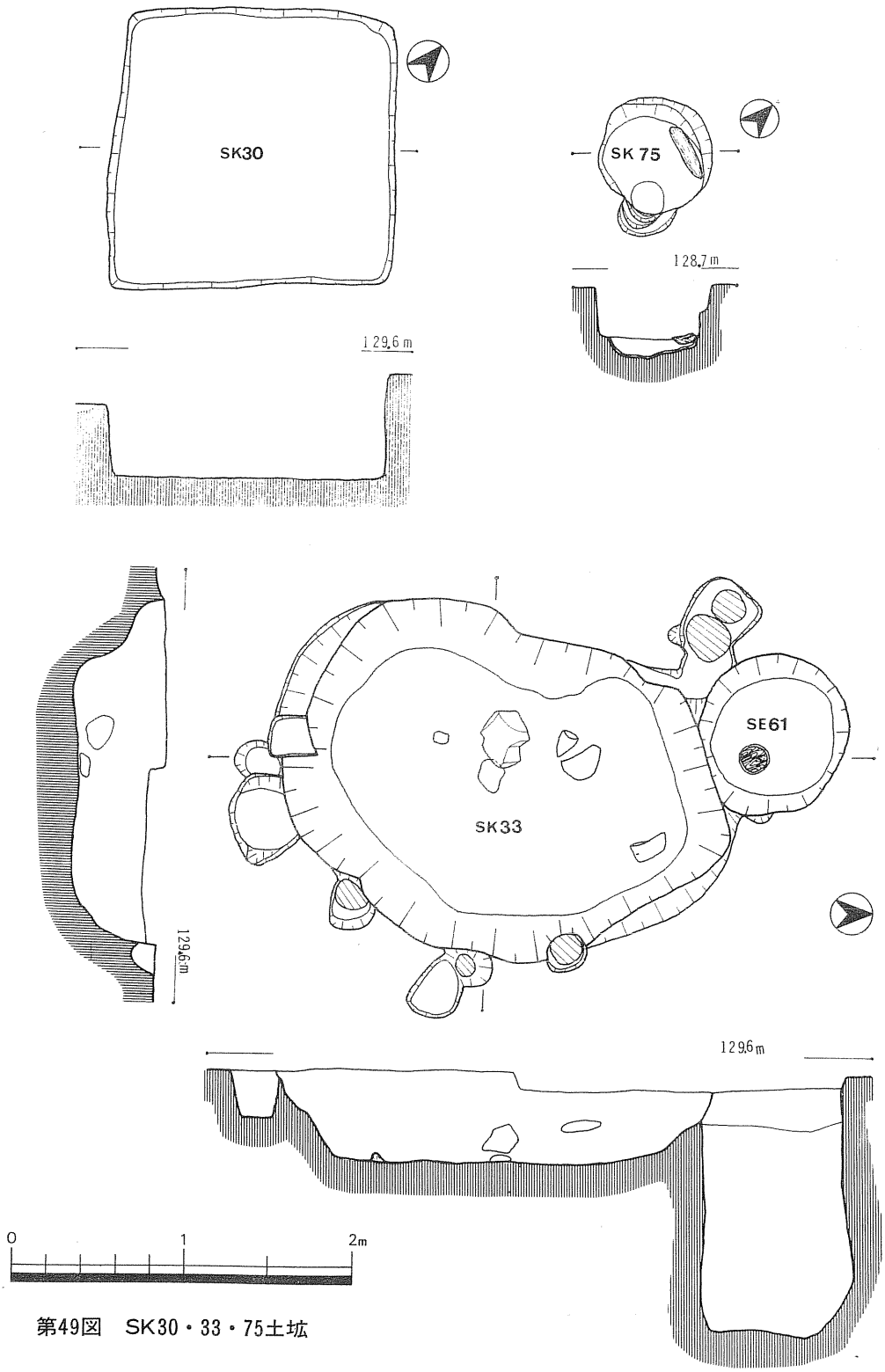
D－II＝掘方が不整形で分類不能なもの。



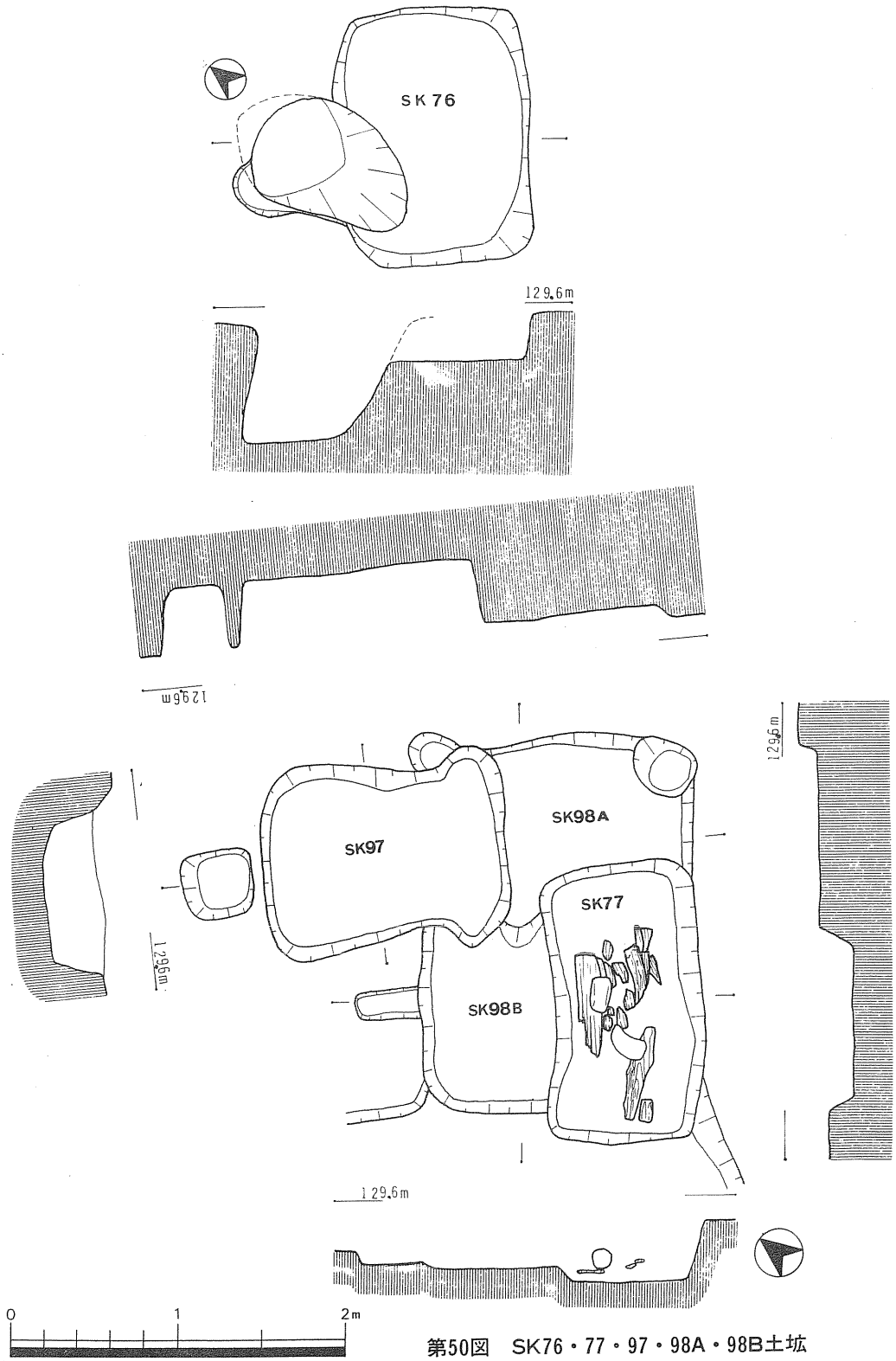
第47図　SK01・02・03・04・05・07土坑



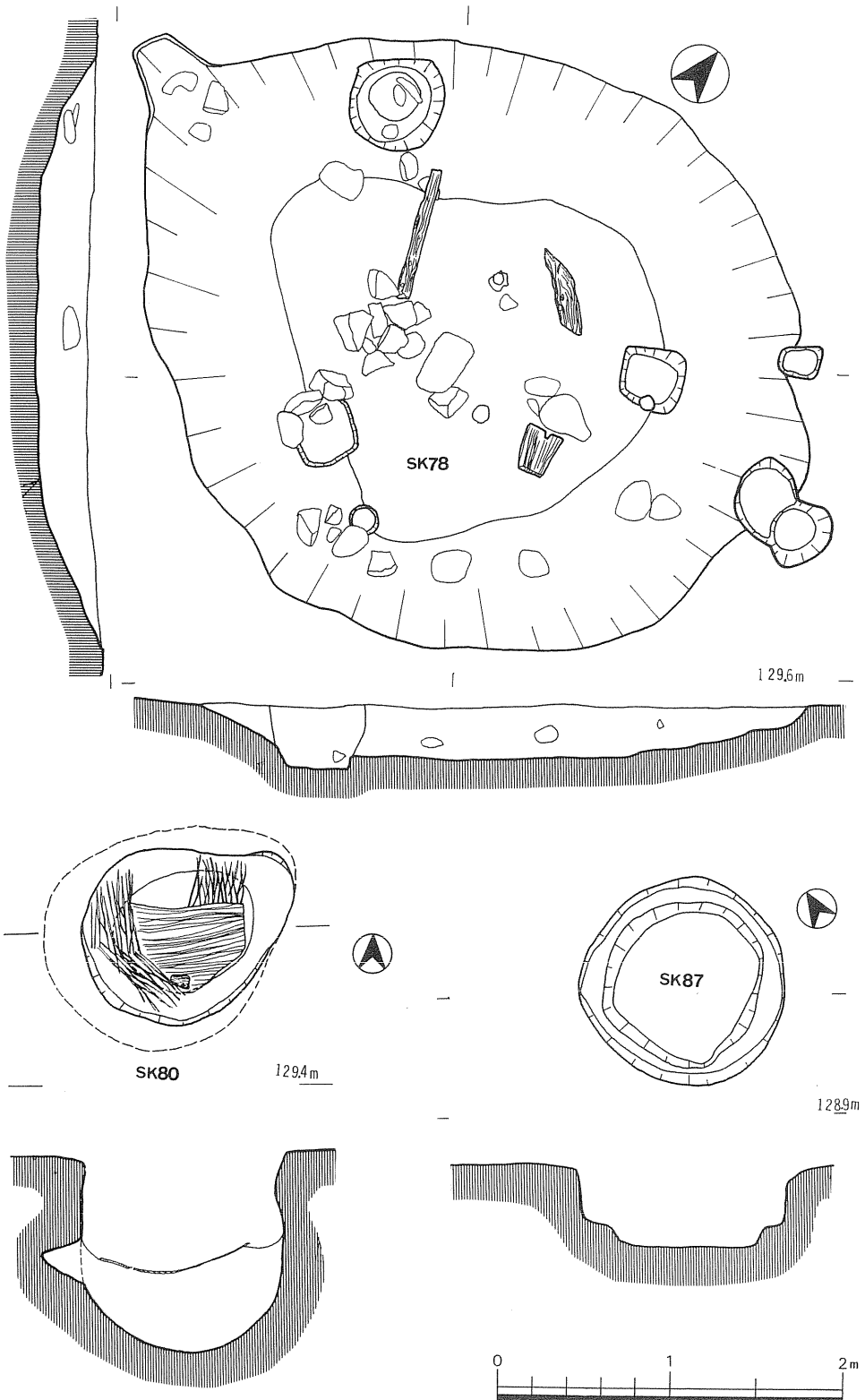
第48図　SK08・09・10・12・23土坑



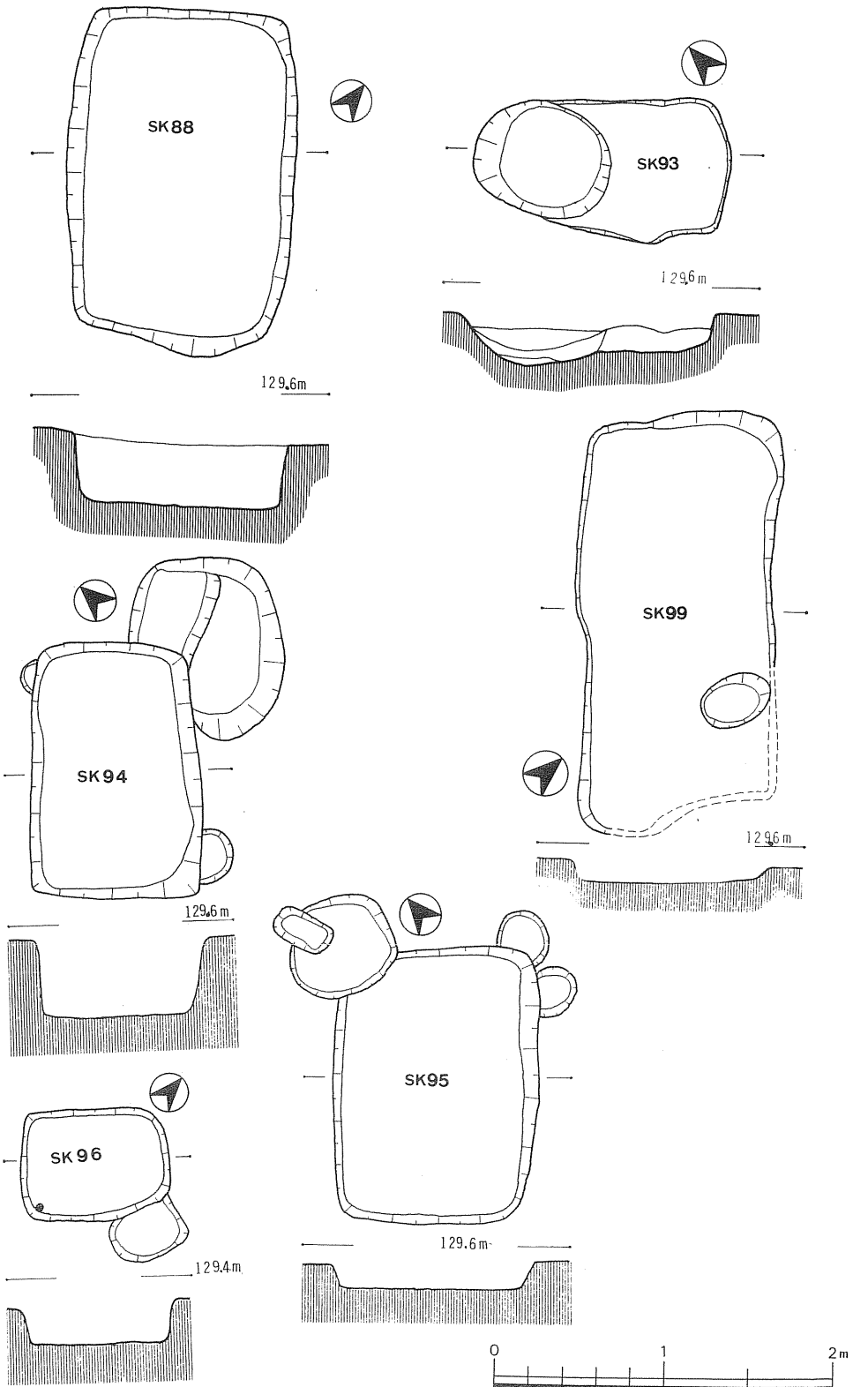
第49図　SK30・33・75土坑



第50図　SK76・77・97・98A・98B土坑



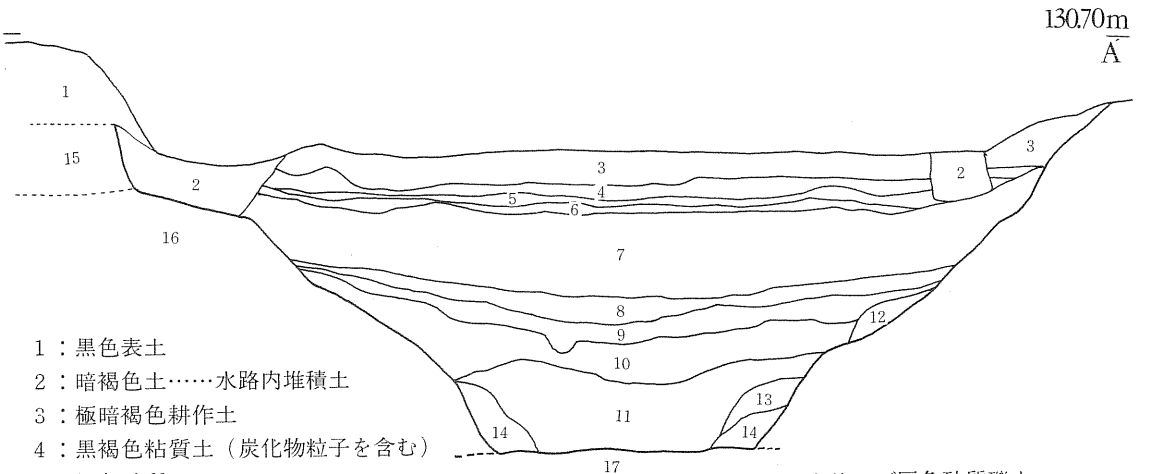
第51図　SK78・80・87土坑



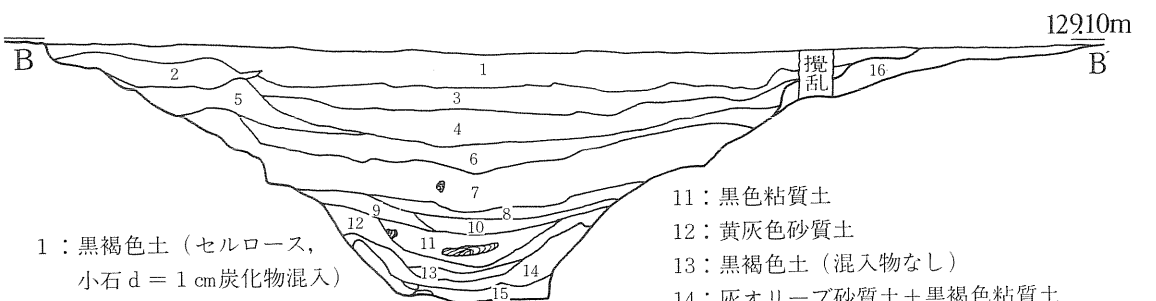
第52図　SK88・93・94・95・96・99土坑

3　土坑（第47～52図，図版25）

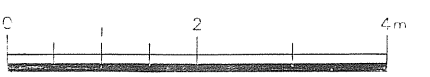
土壙は計27基発見した。大きく分けて３種類に分けられる。SK12・23・75・80・87は円形でやや深く，断面U字形（A類)。SK33・78は円形ないし楕円形の擂鉢状の断面を呈する土壙である。（B類)。SK78埋土下部からは青緑釉皿などが出土しており，SB105・107の柱掘方が



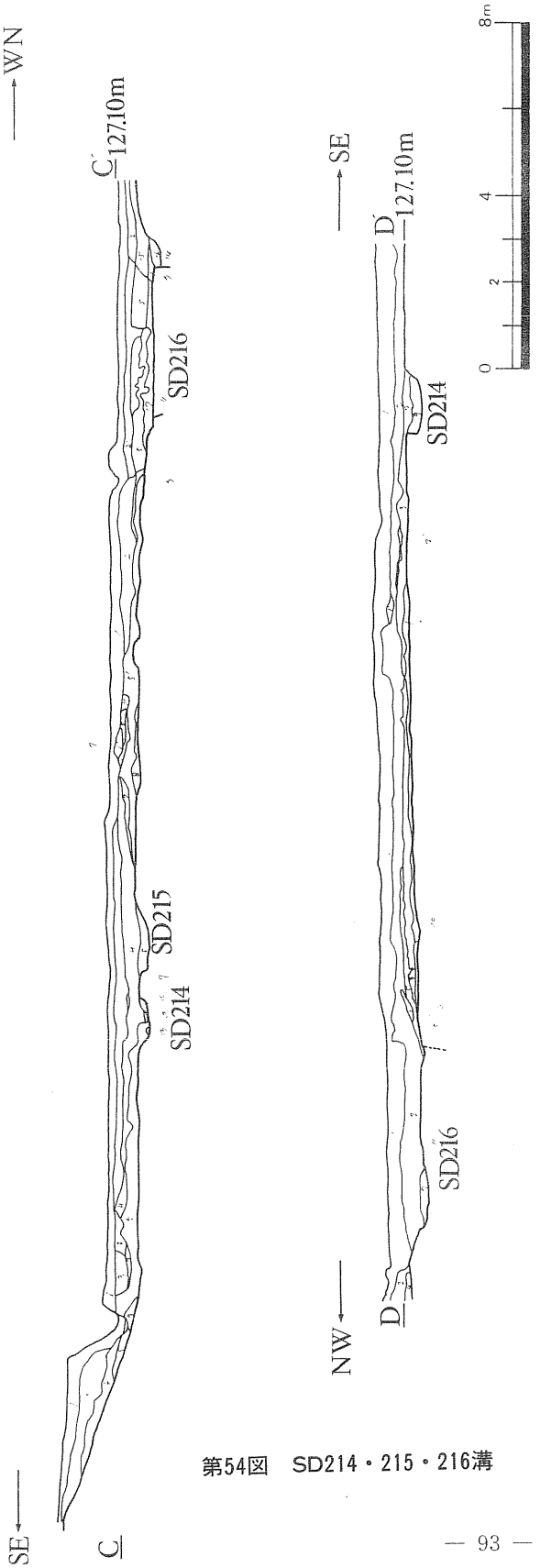
1：黒色表土
2：暗褐色土……水路内堆積土
3：極暗褐色耕作土
4：黒褐色粘質土（炭化物粒子を含む）
5：褐色砂質土
6：暗オリーブ灰色砂質土
7：黒褐色砂質土
8：黒褐色粘質土
9：灰色砂質土
10：黒色粘質土（青色微粒子を含む）
11　黒色粘質土（混入物なし）
12：オリーブ灰色砂質礫土
13：黒褐色砂礫粘質土
14：オリーブ灰色砂質土
15：黄褐色地山土（砂利を含む）
16：オリーブ灰色粘質地山土
17：灰色砂質地山土



1：黒褐色土（セルロース，小石ｄ＝１cm炭化物混入）
2：暗赤褐色土（局部的に砂が密集）
3：黒褐色粘質土
4：黒褐色強粘質土
5：黒褐色粘質土（灰オリーブ土少量混入）
6：黒色弱粘質土（オリーブ灰色砂質土下方に混入）
7：黒色粘質土（上方に砂層あり）
8：黒褐色粘質土（青色微粒子含有）
9：灰黒褐色弱粘質土
10：黒色粘質土（青色微粒子含有）
11：黒色粘質土
12：黄灰色砂質土
13：黒褐色土（混入物なし）
14：灰オリーブ砂質土＋黒褐色粘質土
15：黒褐色粘質土
16：上半黒色粘質土，下半黒褐色弱粘質土



第53図　SD216堀跡・断面図



第54図　SD214・215・216溝

埋土上面から掘り込まれている。この他の土坑はＳＫ30・02が方形であるのを除き，全て長方形で浅い（Ｃ類）。　ＳＫ03は両長側辺内側に太さ５cmと８cmの丸太材がある。Ｃ類のほとんどは微高地北部に限られている。

4　堀・溝跡

微高地上からは14条の溝跡，低地からは１条の堀跡及び２条の溝跡を発見した。微高地上の溝跡14条のうち大部分は後世の水田に係わるものであった。低地部分の堀跡及び溝跡は調査期間等の事情により，数本のトレンチ調査で断面の観察などを行うに止まった。

SD216堀跡（第53図，図版26，27）

鵜沼城の内と外を分ける堀跡であり，東西約170ｍ，南北約150ｍの不正五角形を呈し，北西辺でやや内側に入り込んでいる。

断面図Ａ～Ｄによると東辺（Ａ—Ａ′）では上幅約10ｍ下幅約2.6ｍ，深さ約3.6～4.2ｍ，南辺（Ｂ—Ｂ′）では上幅約９ｍ，下幅約1.6ｍ，深さ約2.7ｍ，北西辺（Ｃ—Ｃ′，Ｄ—Ｄ′）では上幅約７ｍ，下幅約４ｍ，深さ約0.6～0.8ｍである。このように，東～南辺での堀の深さと西～北辺でのそれが大きく異なるが，現在の標高では東～

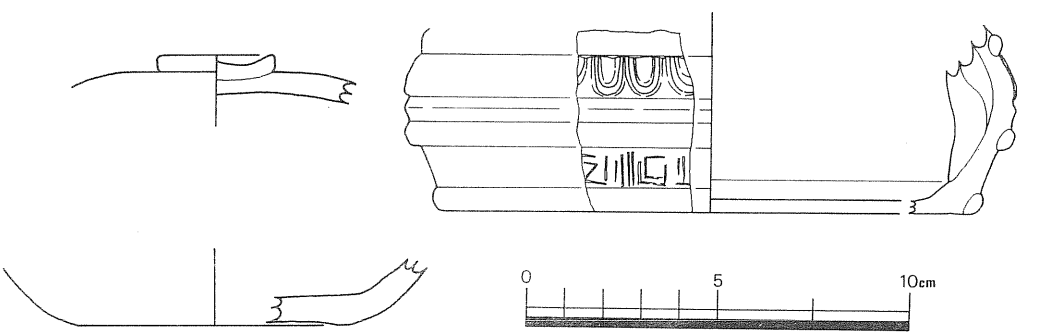
南辺が約2.5～3.0mほど高い。従ってそれぞれの地点での堀底面のレベルは126.3m～126.5mでほとんど変わらない。また，堀の底面幅は西～北辺で東～南辺の1.5～2倍に達している。

ＳＤ214・215溝跡（第54図）

堀跡の内側約7m～12mにあり，堀とほぼ並行して走る2条の溝跡である。上幅1.1～1.5m，下幅0.6～1.0m，深さ0.3～0.5m。南西部でＳＤ215が214を切っており，前者が新しいことがわかる。また南～東辺では発見されなかった。

ＳＤ200・201溝跡（第3・4図，図版27）

微高地北部ＳＢ155・156などを囲繞するようにして走り，つながっていたと思われる2条の溝跡である。両者ともほぼ直線で，その走行方向はＳＤ200がN47°E，ＳＤ201がN45°W，約92°の角度をもっている。ＳＤ200の上幅0.6～0.8m，下幅0.3～0.5m，深さ0.2～0.5mであるが，ＳＤ201は最大深0.15mで，上部はほとんど削平されている。



第55図　奈良～平安時代の遺物

第2節　出土遺物

今回の発掘調査では中世～江戸期の遺物の他，縄文時代，奈良～平安期のものもわずかに出土した。

1．縄文時代の遺物（第55図）

約30片の後期の土器片と，9点の石器が出土した。微高地北部と西部黒色土層からのものがほとんどである。

2．奈良～平安時代の遺物（第56図）

須恵器蓋の破片と杯底部破片の2点のみ出土した。杯は底部ヘラ切り離しで，2次調整はない。両者とも奈良時代末～平安時代初め頃のものと思われる。

3は中世に属する火鉢の脚部破片である。

3．中世～江戸期の遺物

1）　遺構内出土陶磁器（第57図1～61図48，図版30，巻頭図版3）

掘立柱建物掘方内や井戸埋土及び底面から出土した遺物である。

14は須恵器大甕破片。内面に漆様の付着物がある。

13・19・20～23・38は洲珠系の擂鉢。33は洲珠系の甕口縁部。

15・31・32・34は明の青磁。40は明陶磁で乳白色を呈する。

12は明の白磁染付。

37は黄瀬戸。18は瀬戸系。

42は美濃灰釉皿。46・47・78は美濃系の施釉陶器。

43～45は唐津系施釉陶器

1・11・17は伊万里系の染付で3・5・39は鉄釉も使用されている。

2・4・10・26・41は青緑釉といわれるものか。48は不明であるが，中世末に多い。

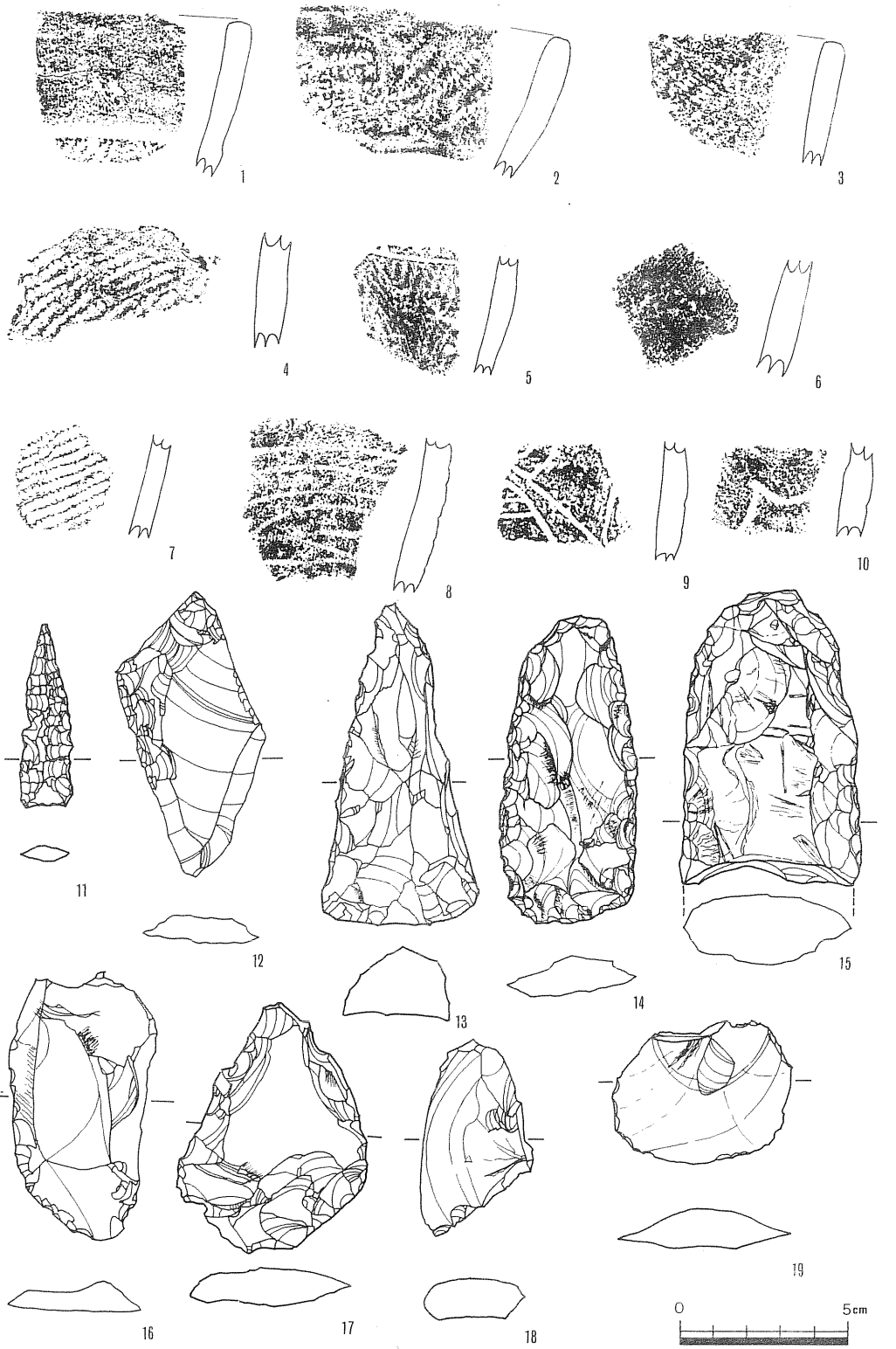
25は江戸後期の磁器。

2）　柱穴・溝内出土陶磁器（第62～64図，図版30，巻頭図版3）

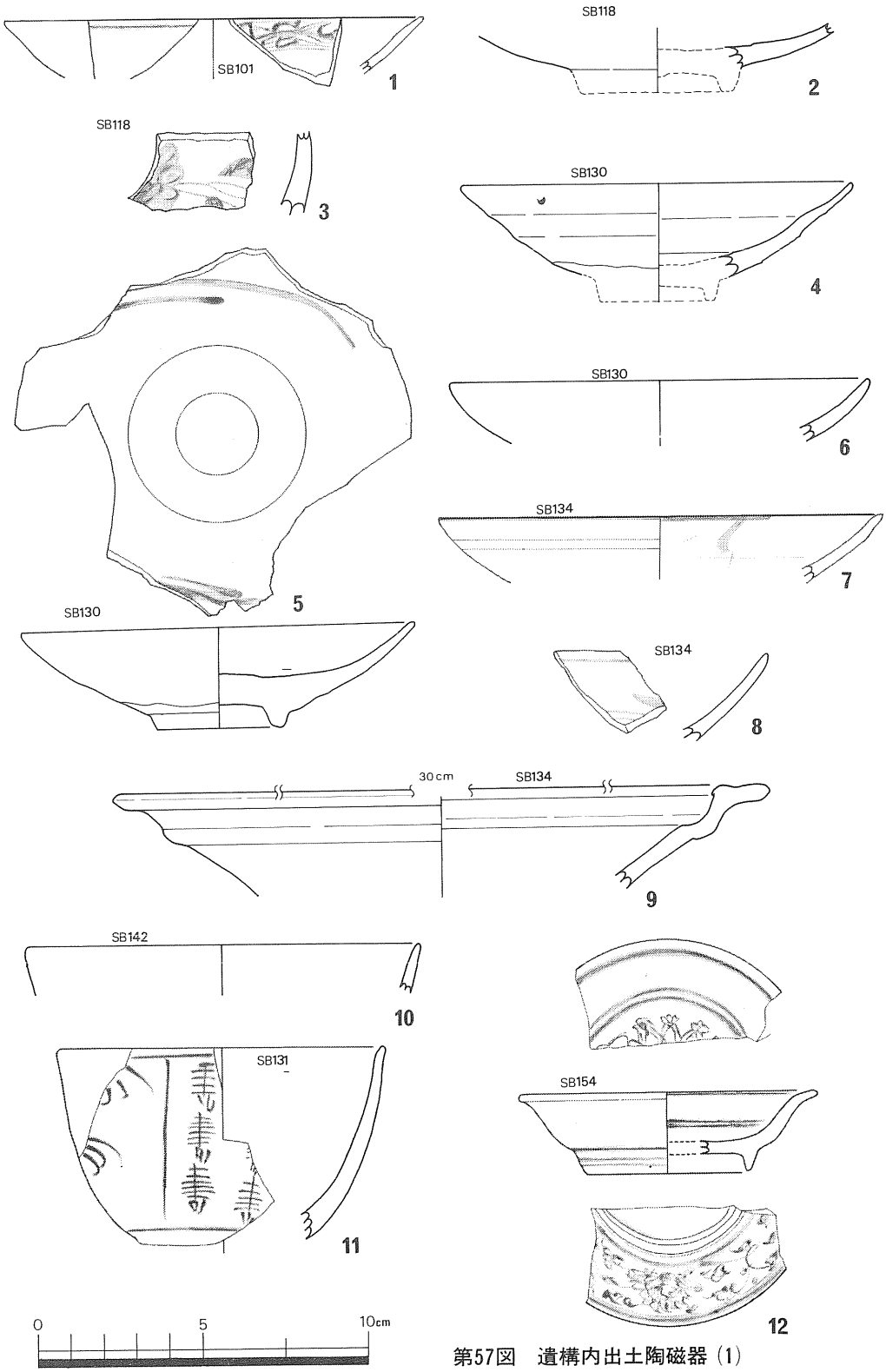
建物にできなかった柱穴埋土中あるいは溝埋土中から出土したもの。第64図は溝内のものである。

49・50は元～明の青磁。49は内外面共に，50は内面に暗文がある。

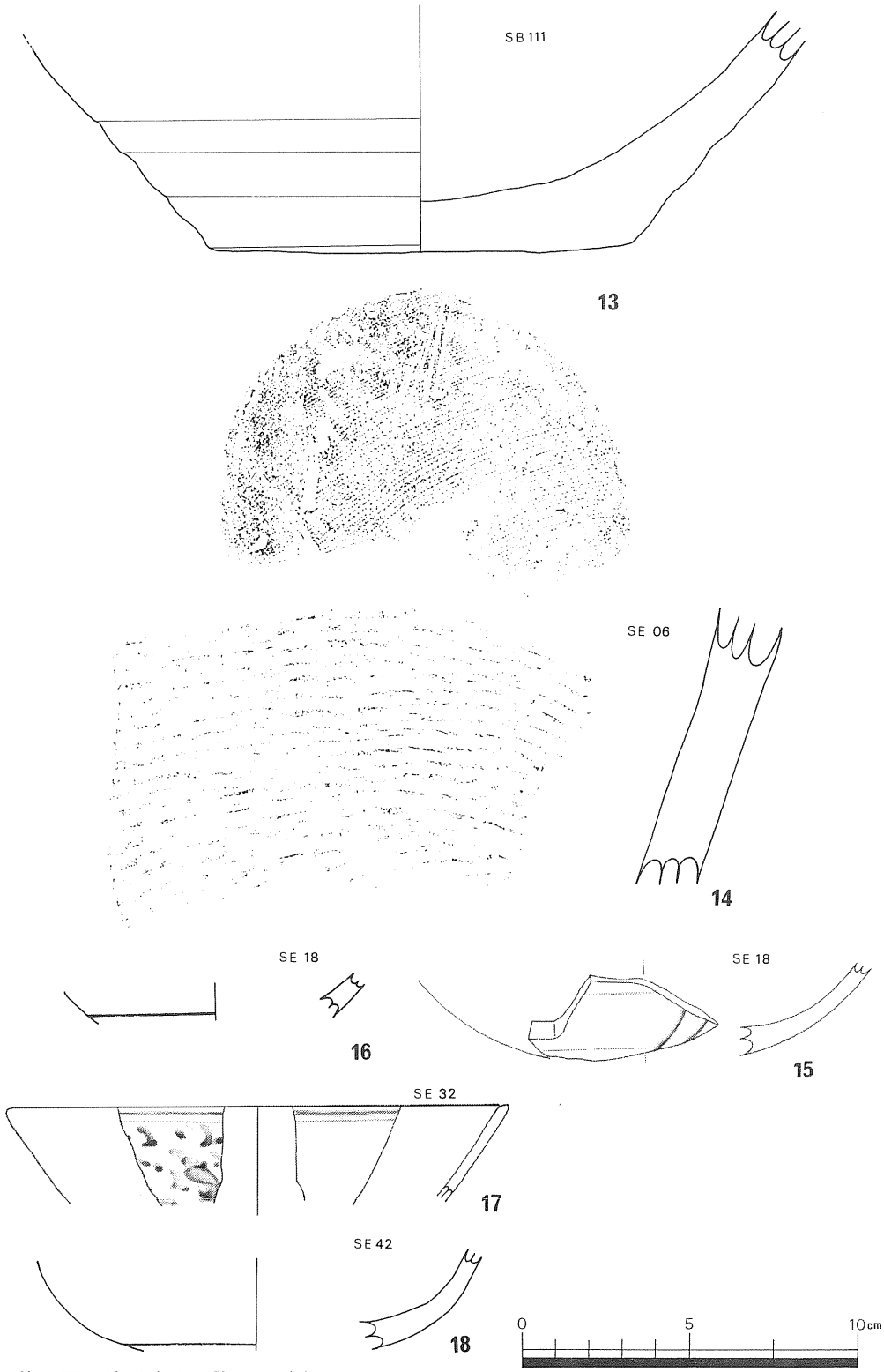
57は中世末の青磁皿。



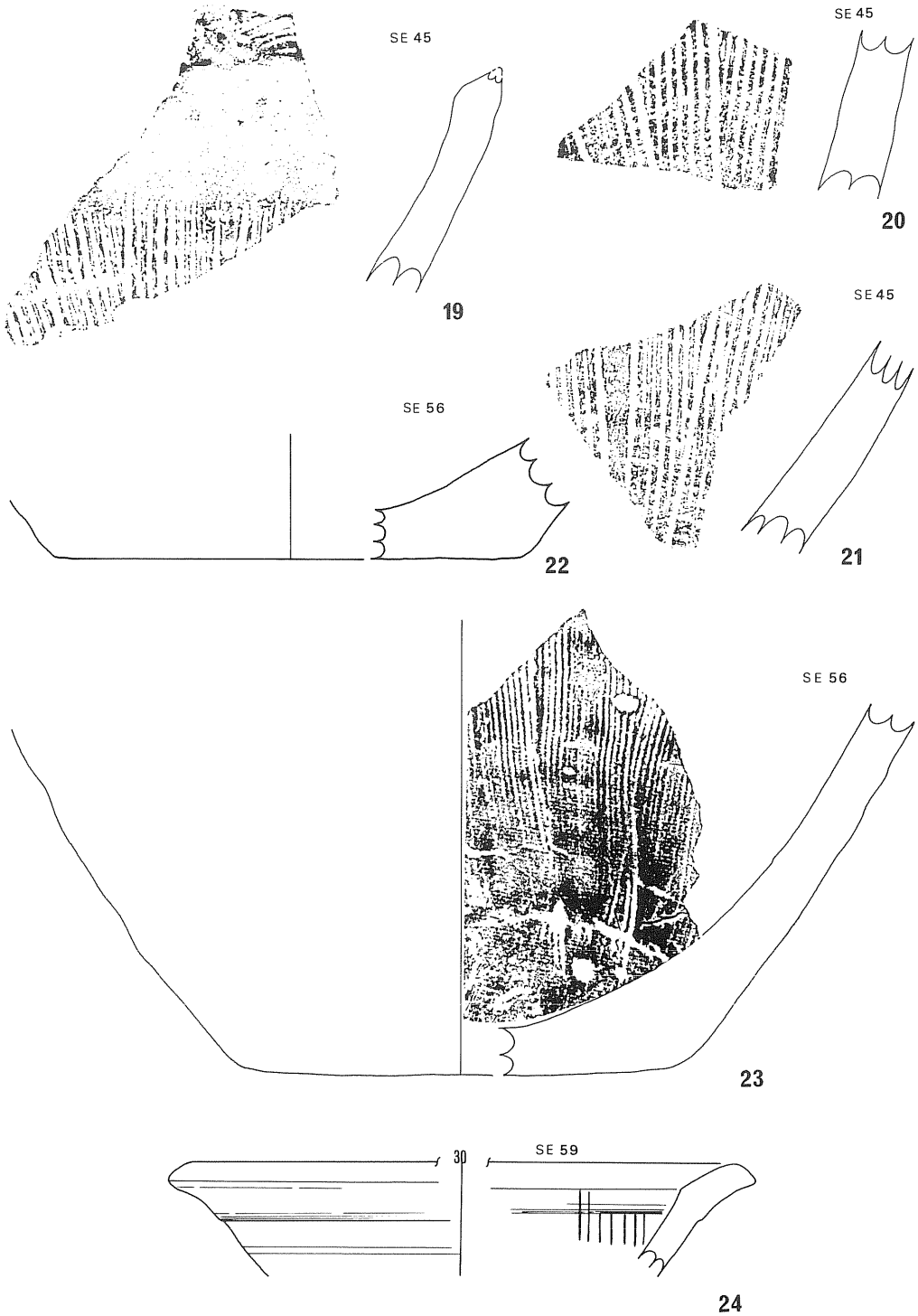
第56図　縄文時代の遺物



第57図　遺構内出土陶磁器（1）

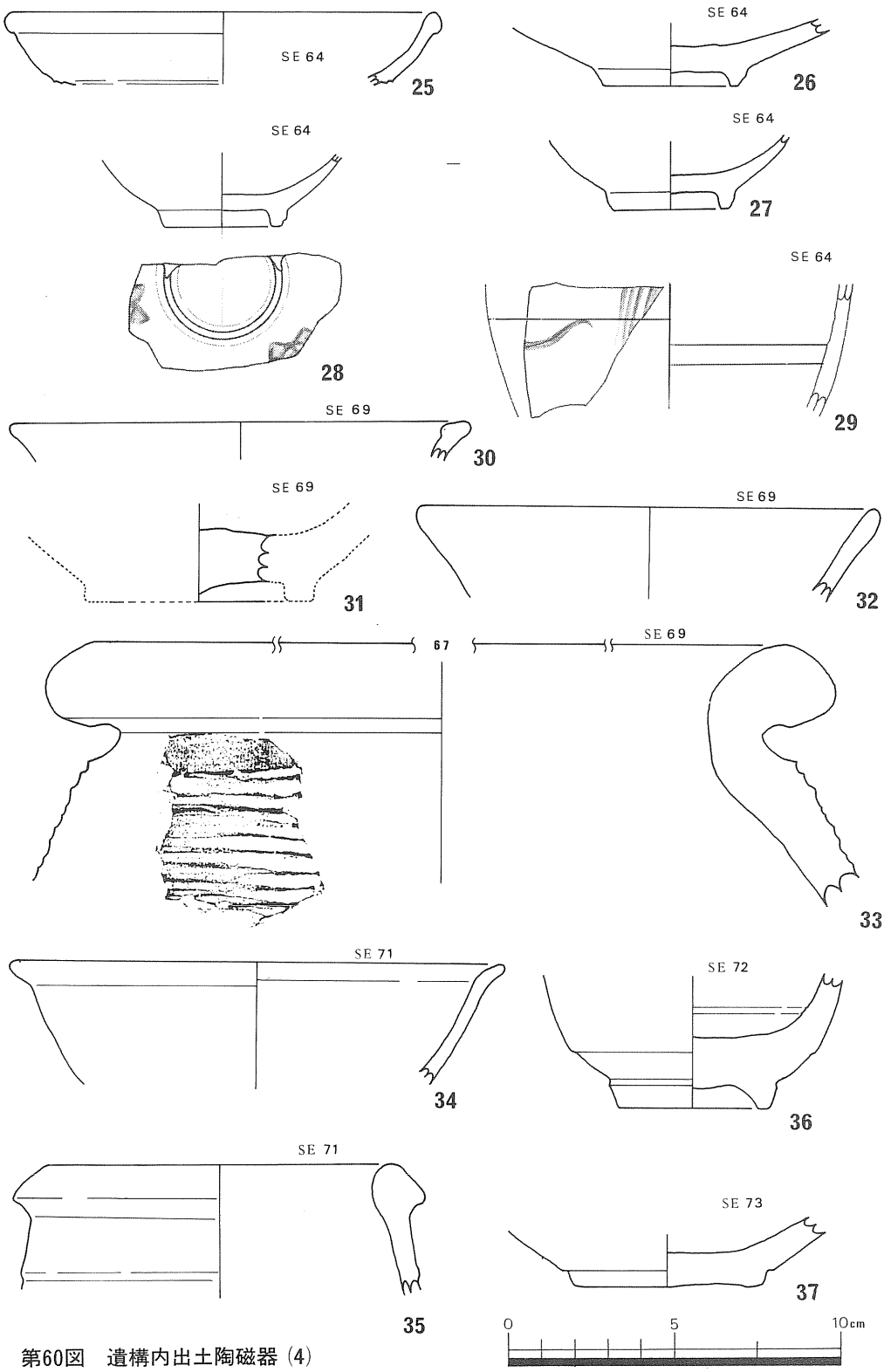


第58図　遺構内出土陶磁器 (2)

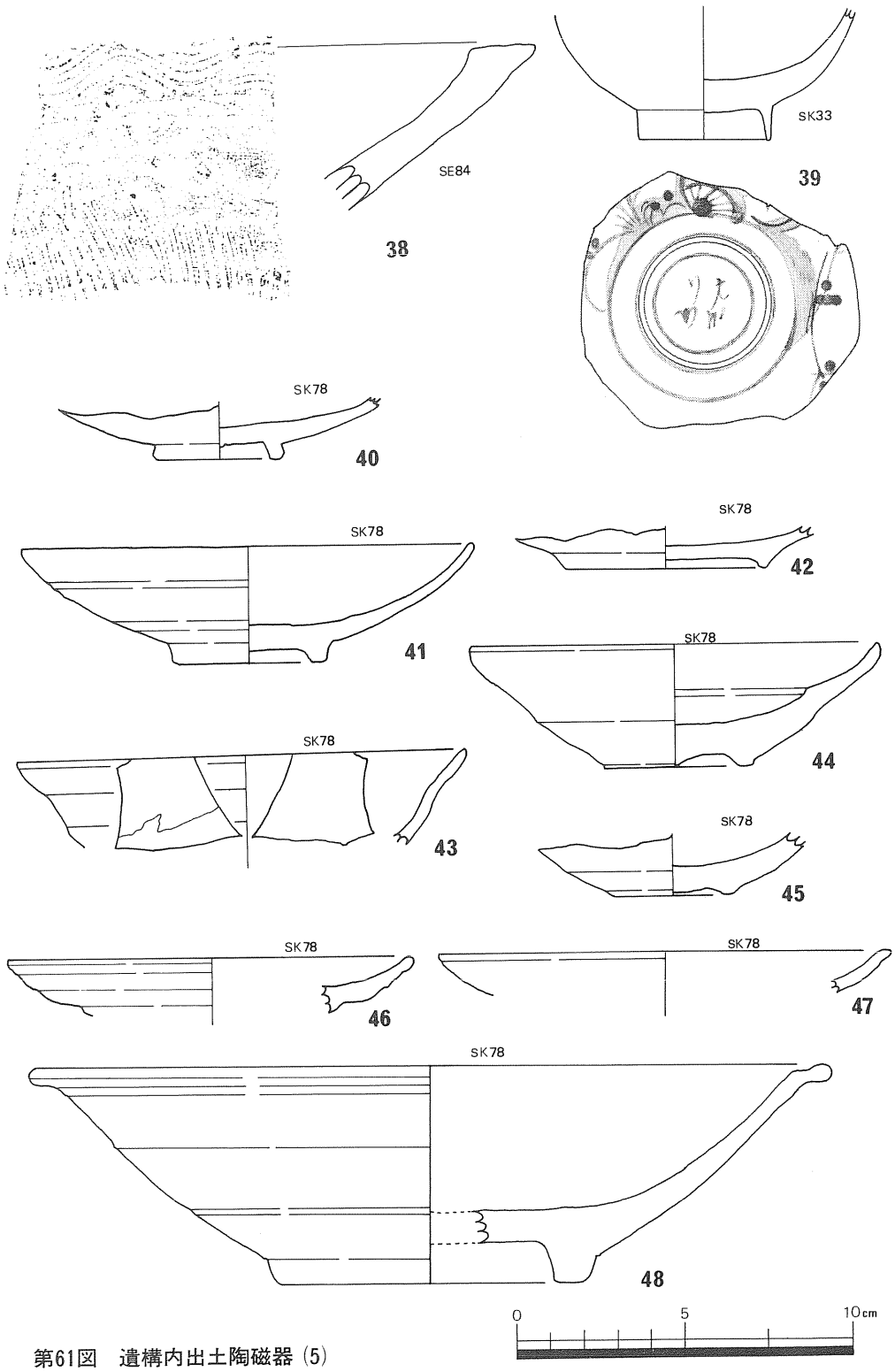


第59図　遺構内出土陶磁器 (3)

0　5　10cm



第60図　遺構内出土陶磁器 (4)



第61図　遺構内出土陶磁器 (5)

51は瀬戸灰釉皿。59・60・76は15世紀に入ると思われる瀬戸。59は茶入れと思われる。

52は美濃系志野輪花皿。

53・75は唐津系施釉磁器。

54・56・58は青緑釉皿。

80は不明で鉄釉を薄くかけている。

62は 123 と同じ個体かも知れない。

3） その他の出土陶磁器（第65～74図，図版30・31，巻頭図版３）

81～83・88・89は元～明の青磁。81は内面，82は外面に暗文がある。83は香炉，88は筒形。

84～86も青磁であるが，81・83などの胎土が白～灰白色で緻密なのに対し，これらはやや胎土が粗く須恵器色を呈する。

91・92は青緑釉磁器。

95・96は黄瀬戸で96は小さな仏花器。98は瀬戸鉄釉蓋。

97・ 101 は美濃系陶器。

94・99・ 100 ・ 103 ・ 114 は唐津系陶器。

115～119は洲珠系擂鉢。

120～122は須恵器大甕胴部破片。

126～155は伊万里系の染付。藍色の他鉄釉を用いたものもある。

159～161は江戸後期の擂鉢。

4） 石製品（第75・76図）

柱穴や溝の埋土中などから石製品が出土している。

75図１・２は紡錘車。３・４は砥石であろう。

５は内面が焼けて黒く焦げている。円形であったと思われる。

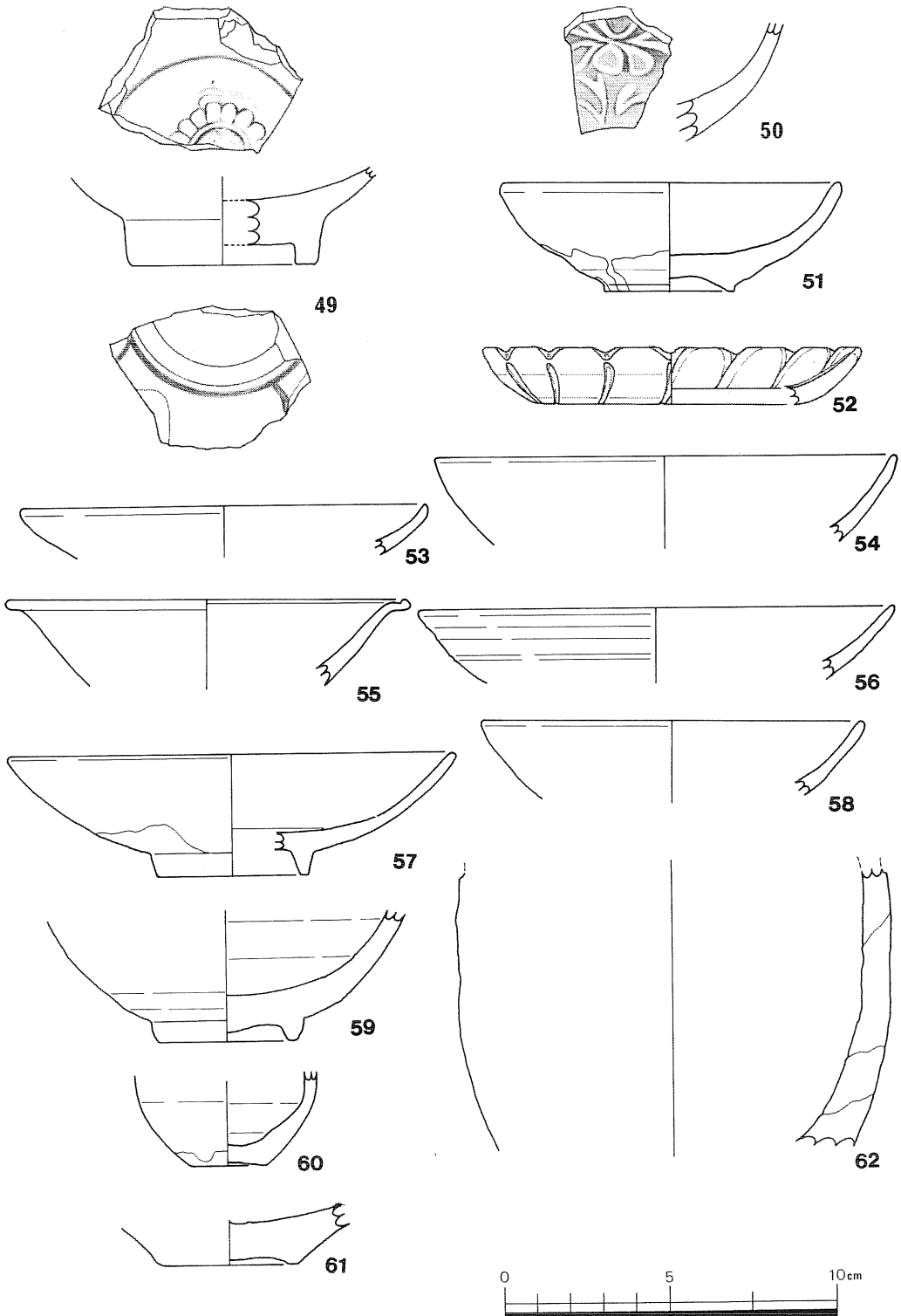
75図６～76図９は石臼。７は回転させた際の擦痕がある。

5） 漆器（第77・78図，図版32）

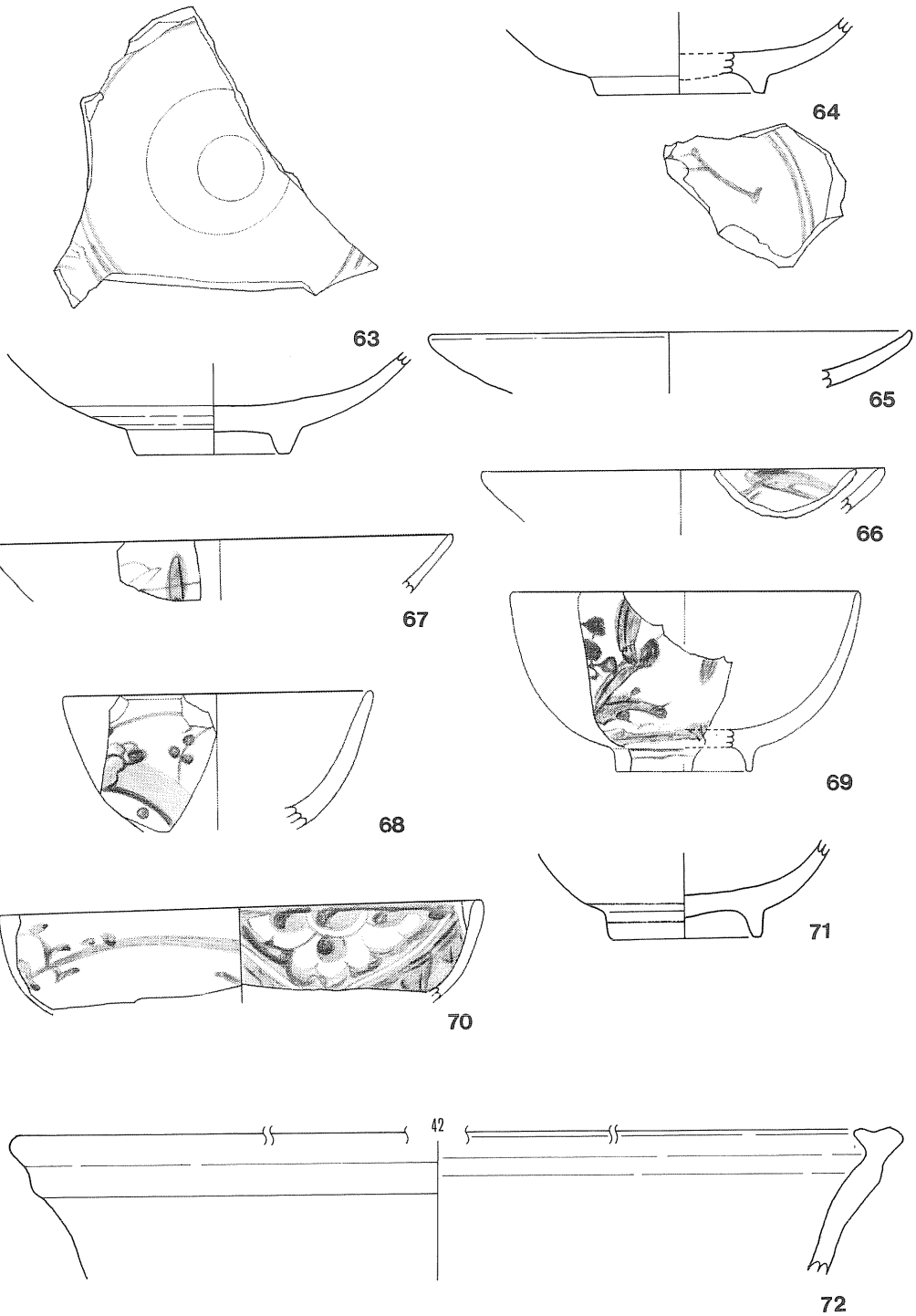
井戸底面及び溝・堀埋土より椀・皿などの漆器が出土している。いずれも下地黒漆の上に，赤漆で絵模様を描いたもので，図示したものの他，外底面に「一」，「二」，「三」などの字を入れたものもある。

77図４は棗の蓋か。

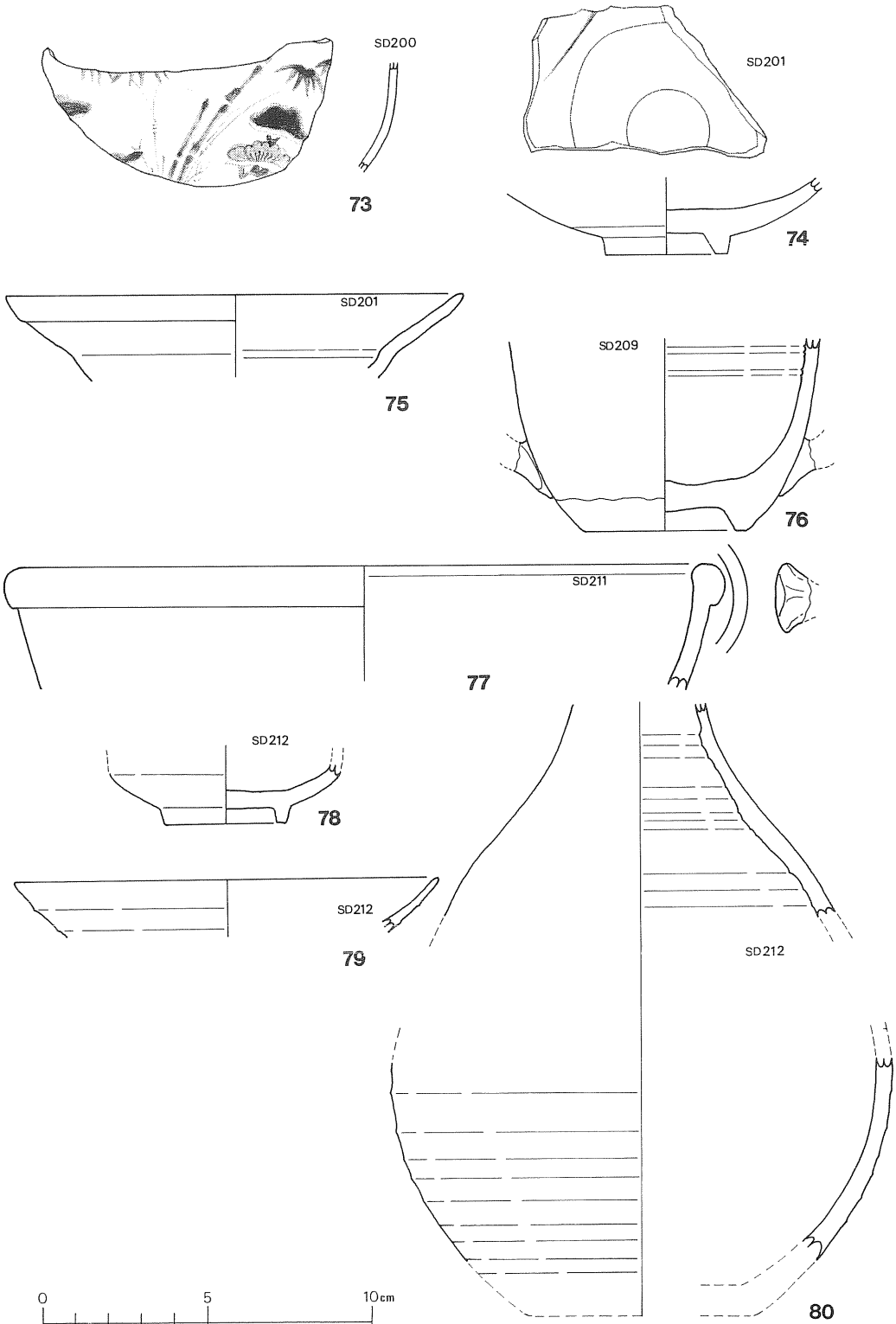
78図６は漆器ではなく，桜樺皮のつまみのついた木製蓋である。



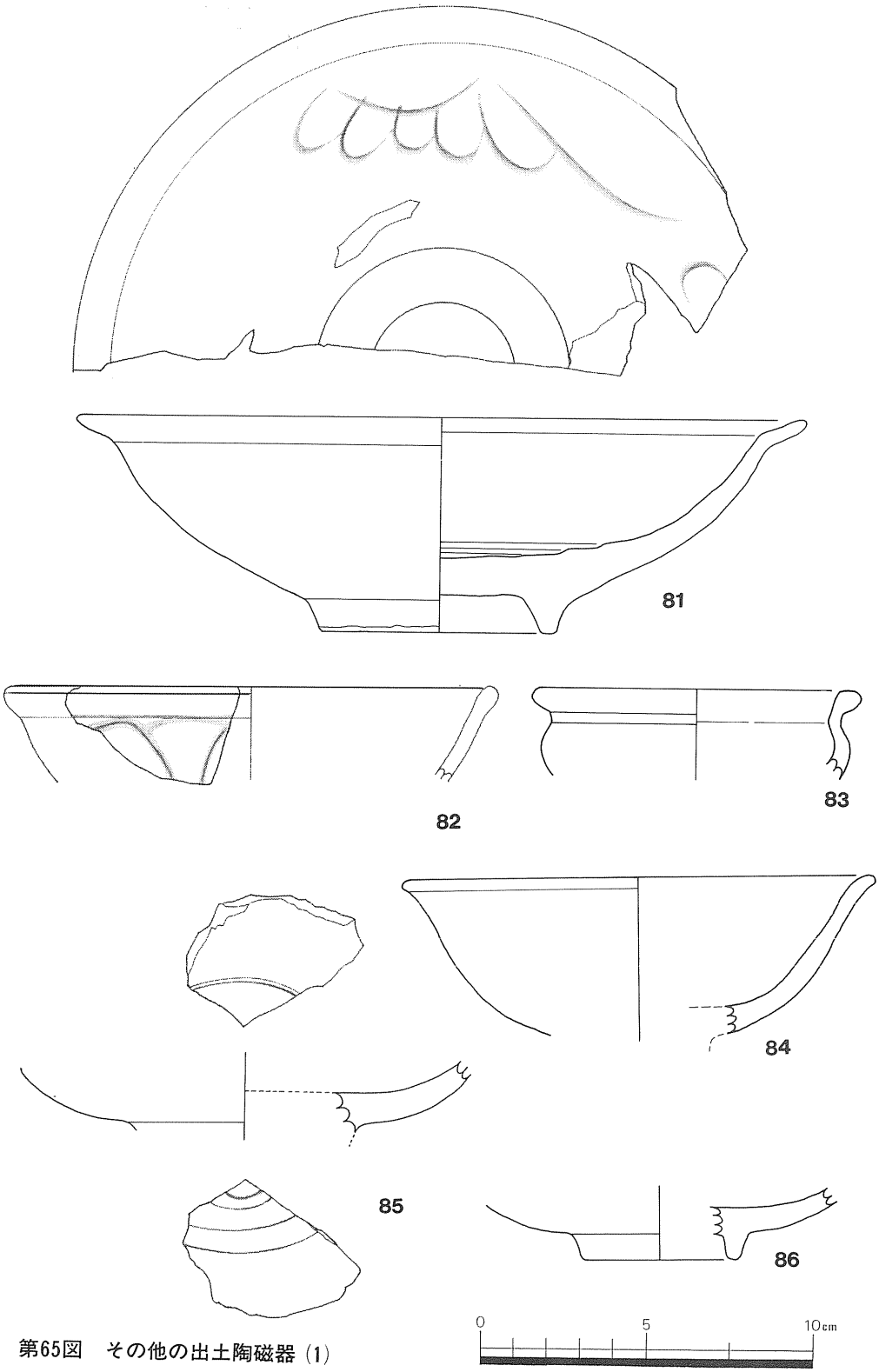
第62図　柱穴内出土陶磁器（1）



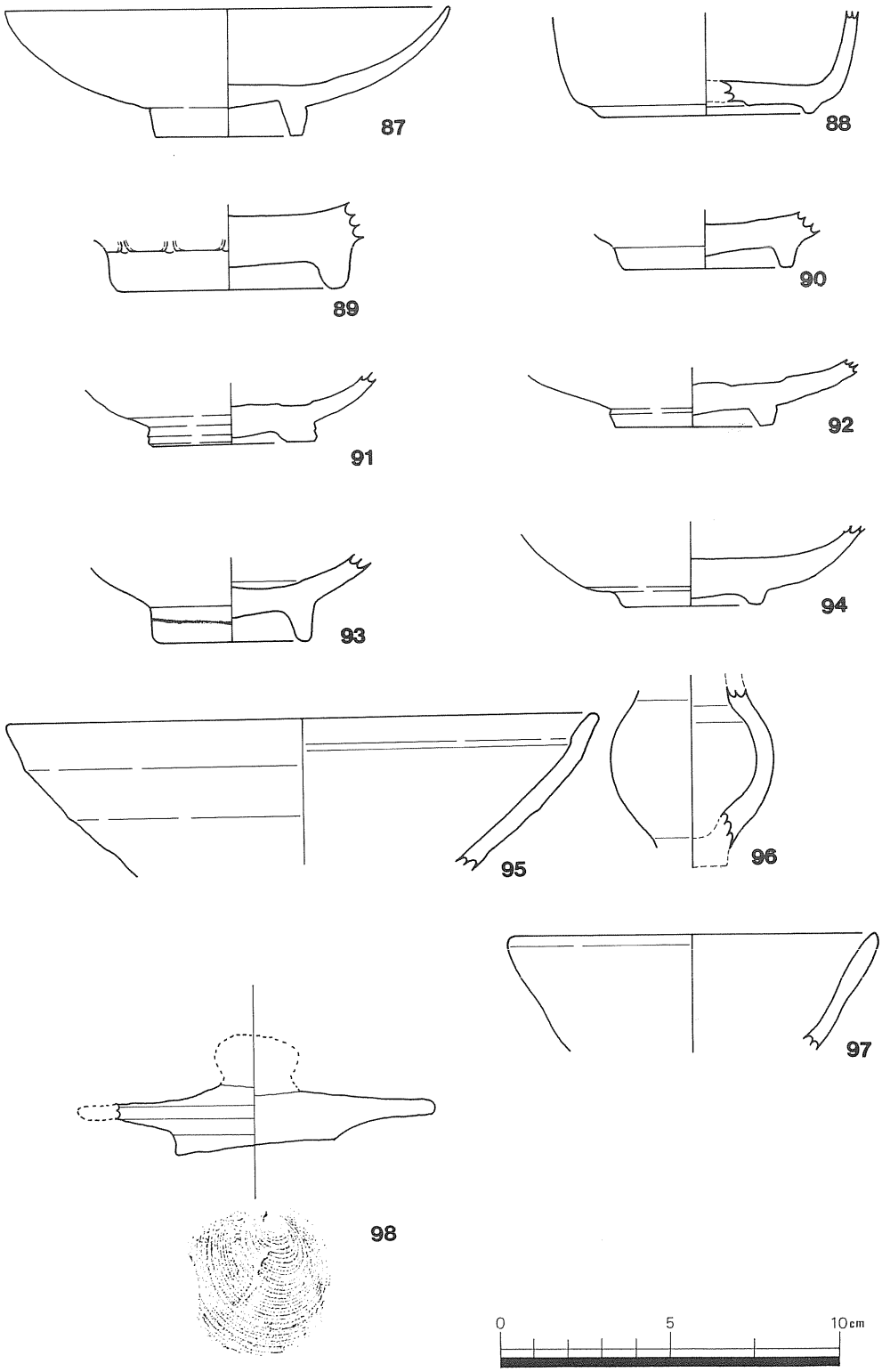
第63図　柱穴内出土陶磁器 (2)



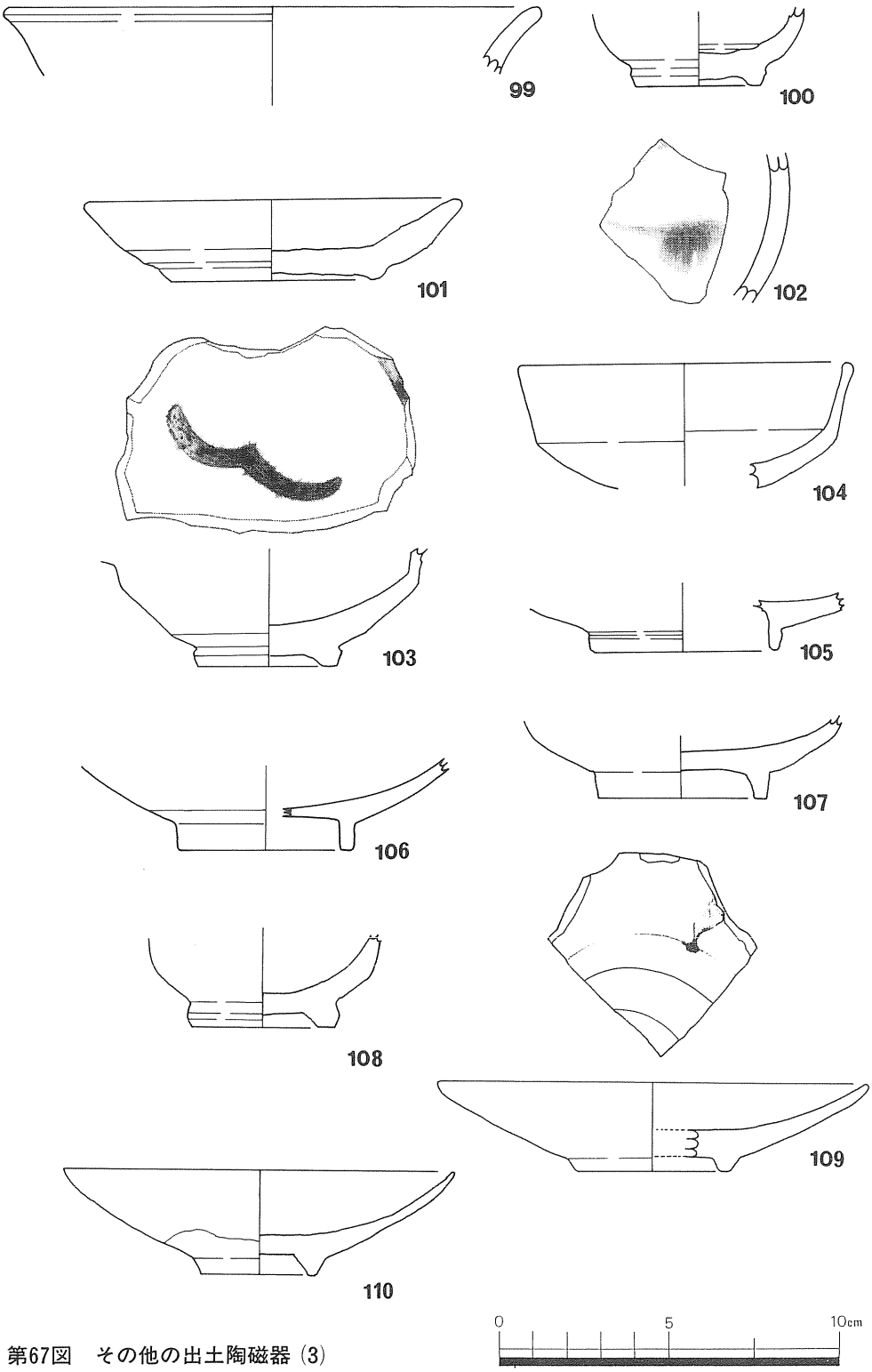
第64図　構内出土陶磁器



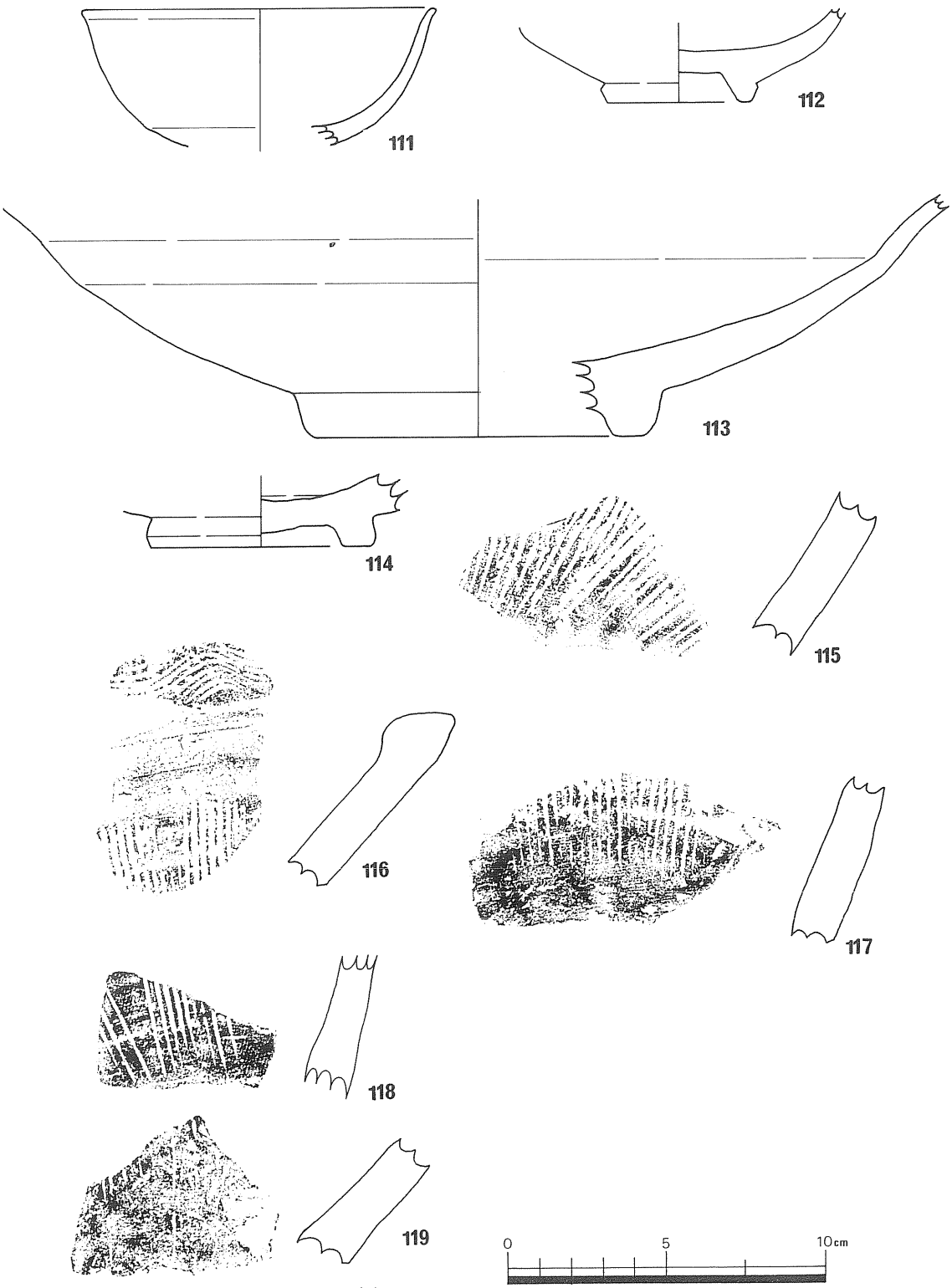
第65図　その他の出土陶磁器（1）



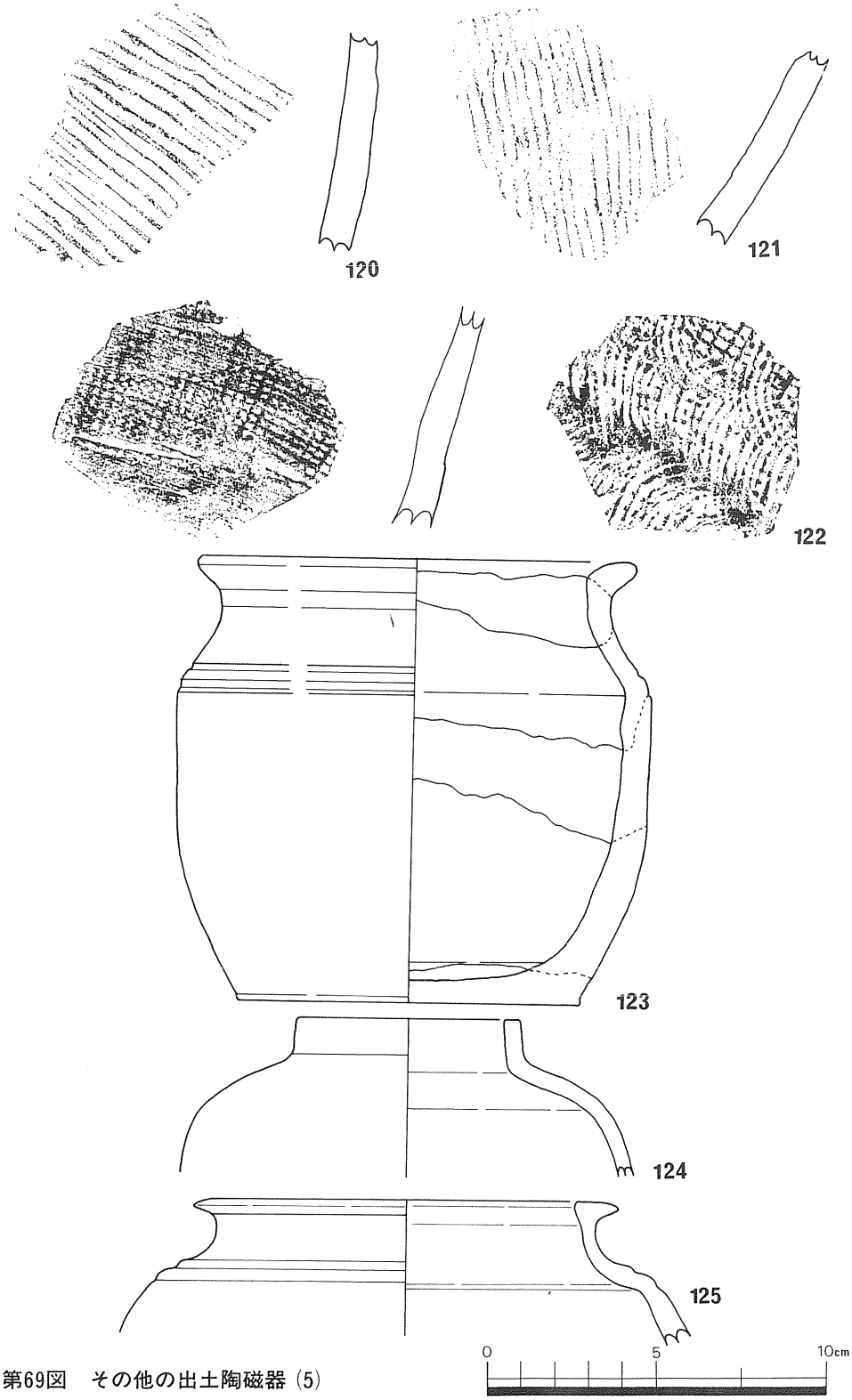
第66図　その他の出土陶磁器 (2)



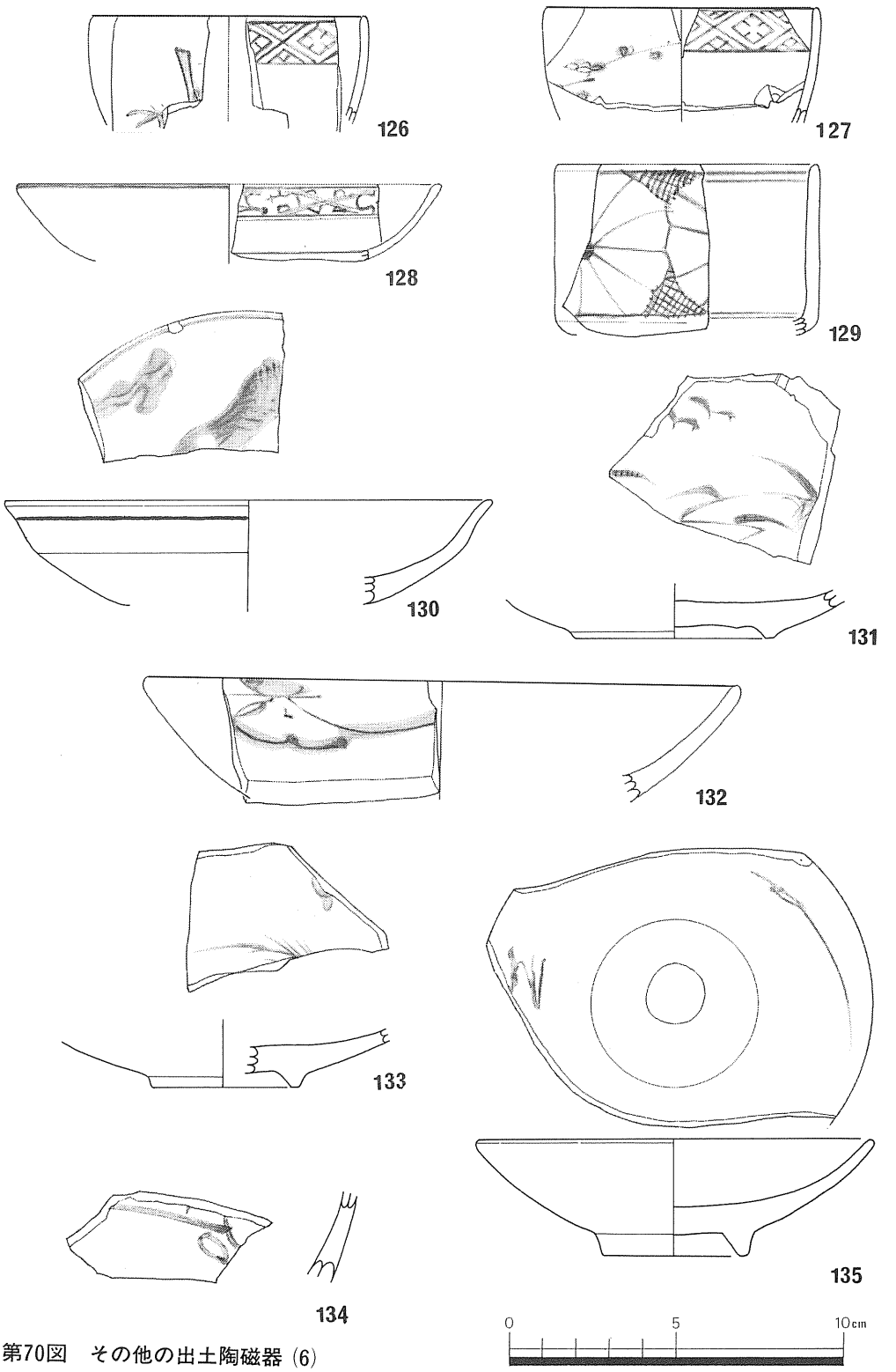
第67図　その他の出土陶磁器 (3)



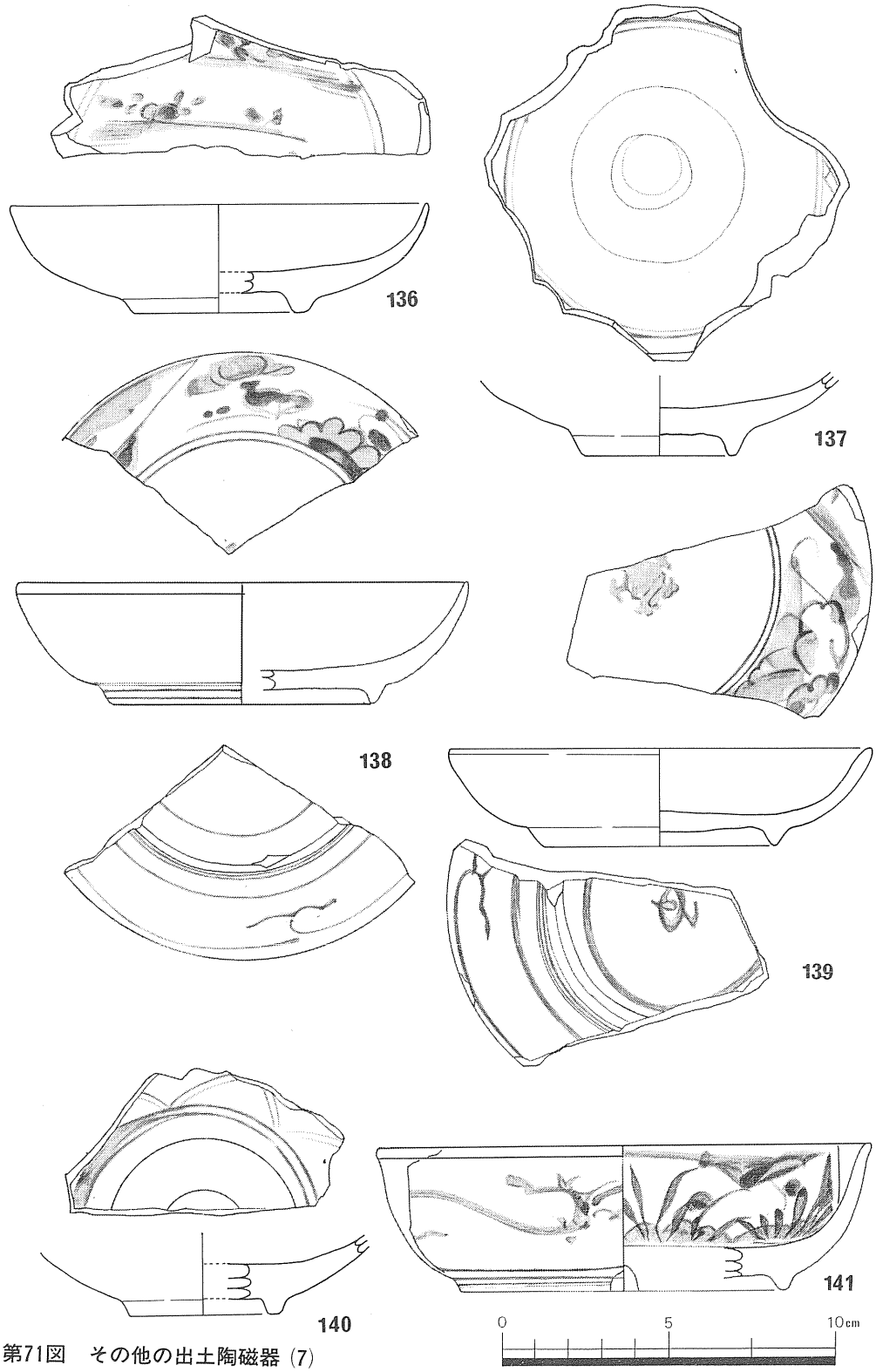
第68図　その他の出土陶磁器 (4)



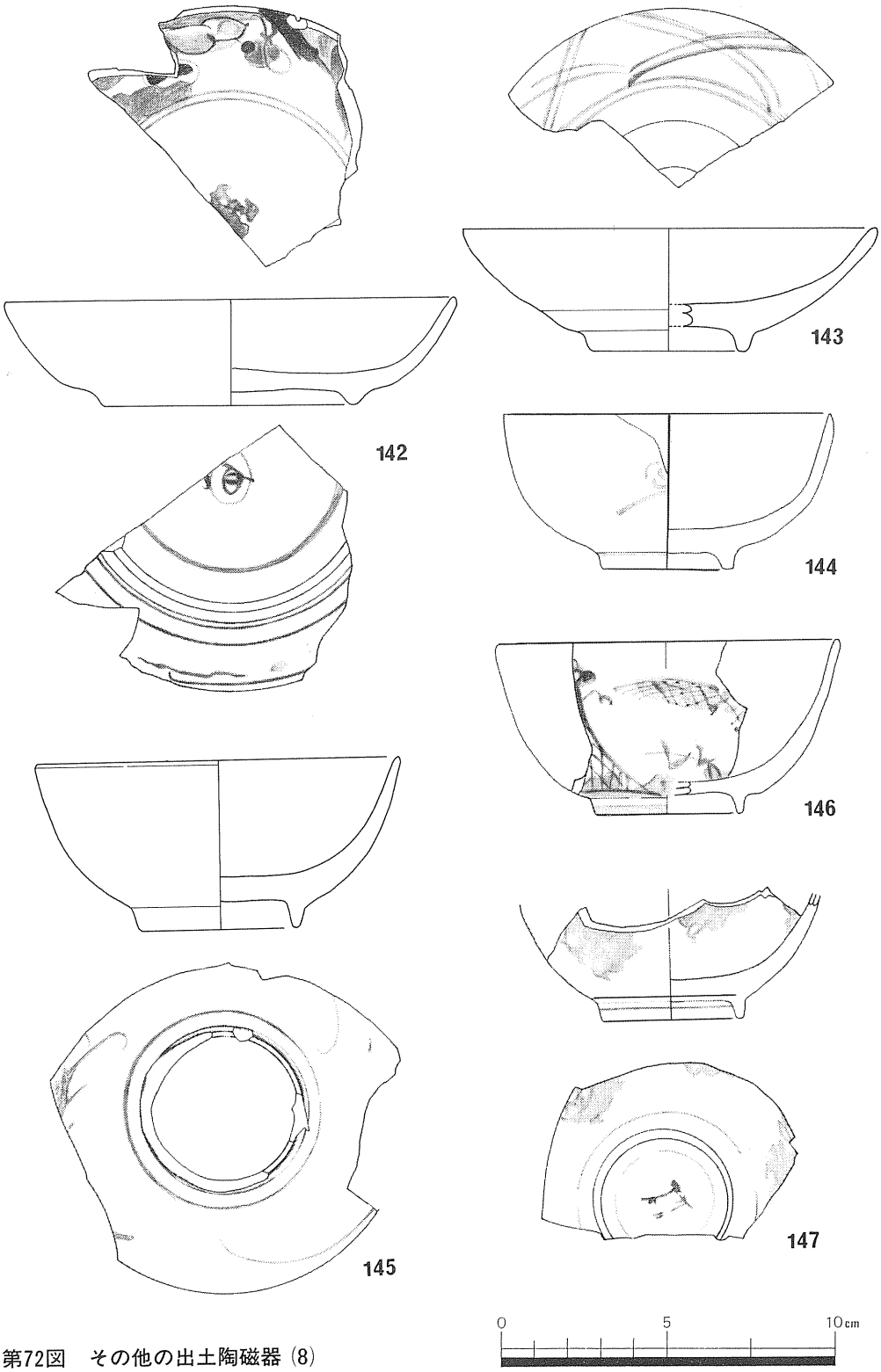
第69図　その他の出土陶磁器 (5)



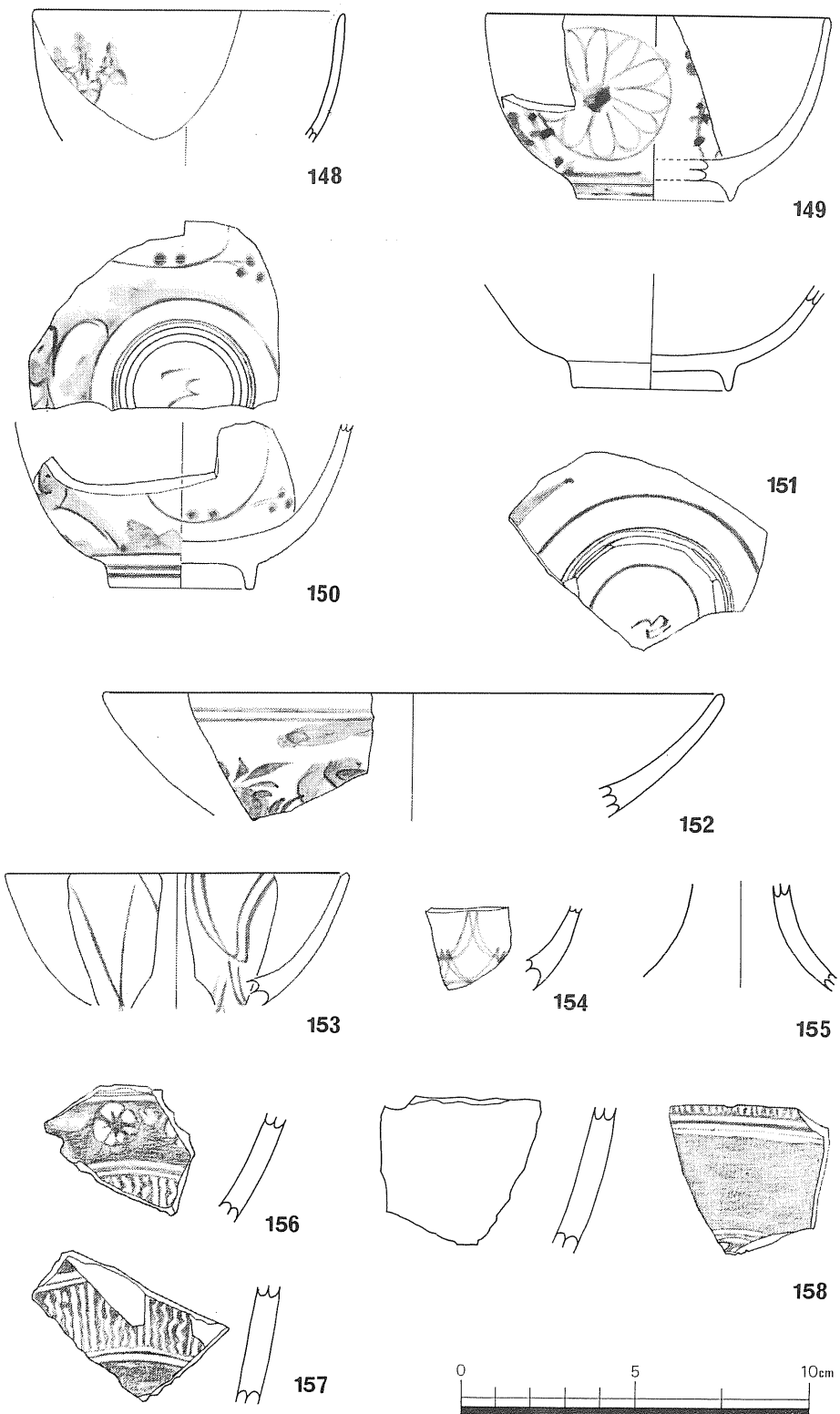
第70図　その他の出土陶磁器 (6)



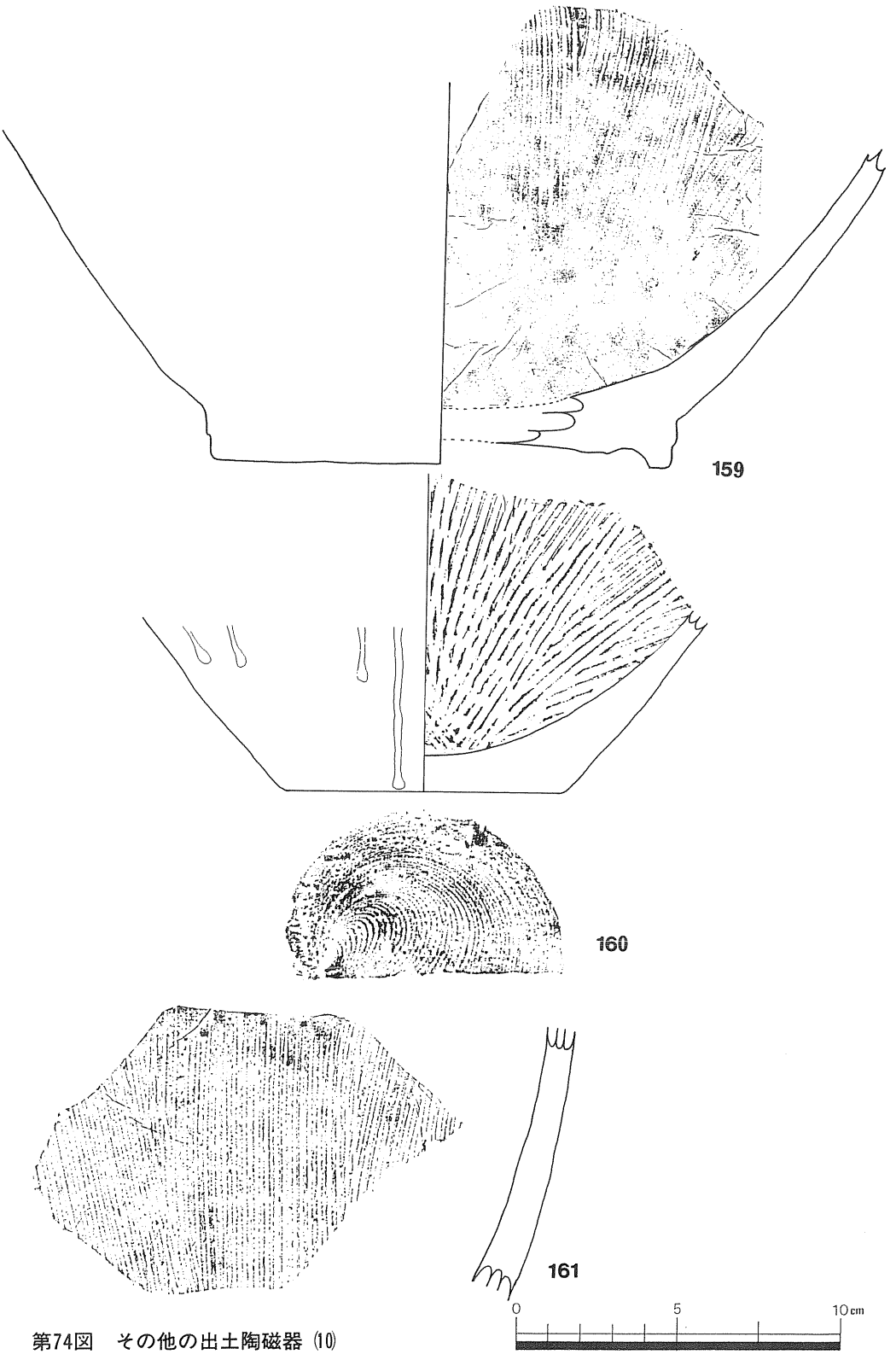
第71図　その他の出土陶磁器 (7)



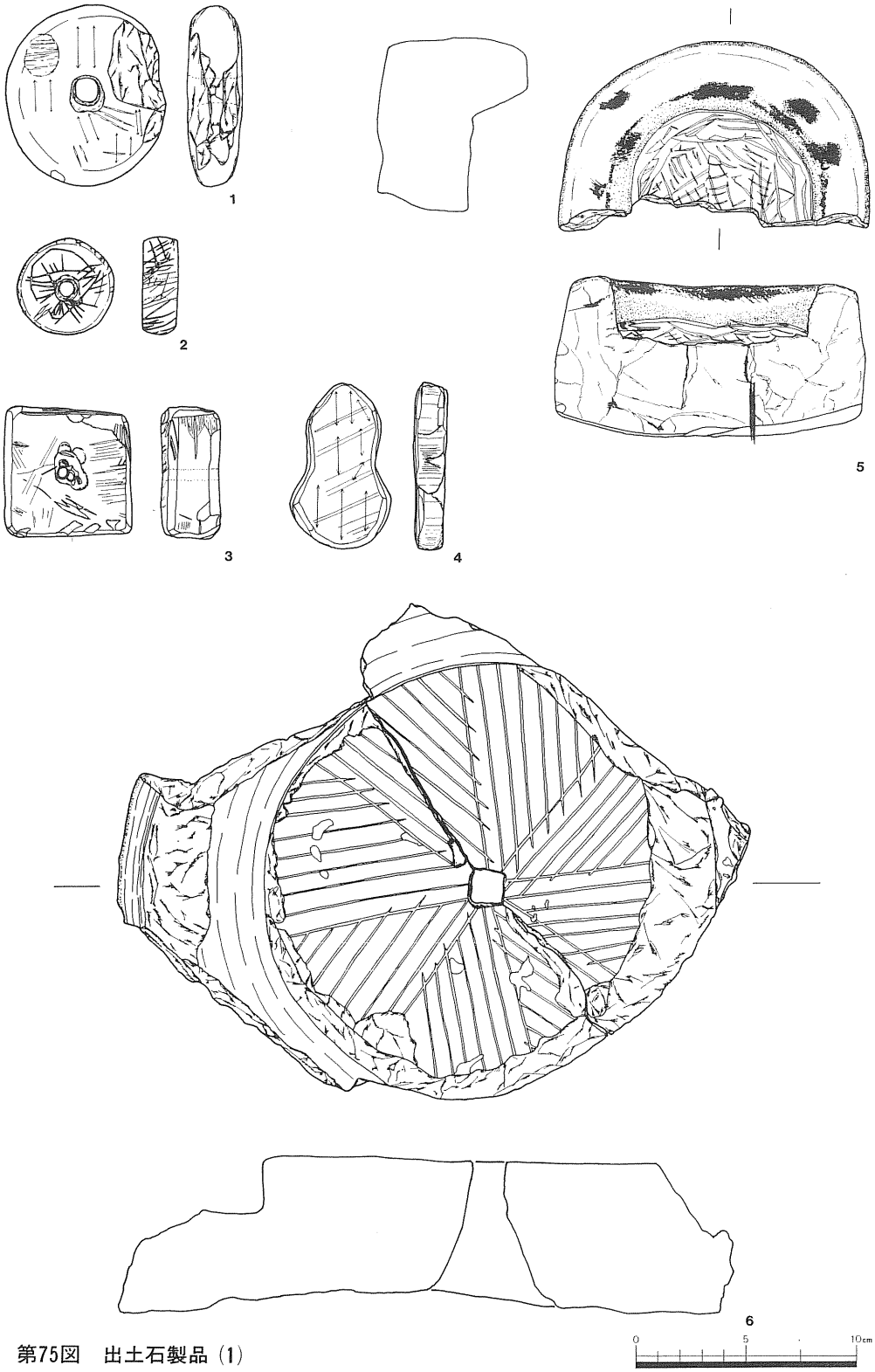
第72図　その他の出土陶磁器 (8)



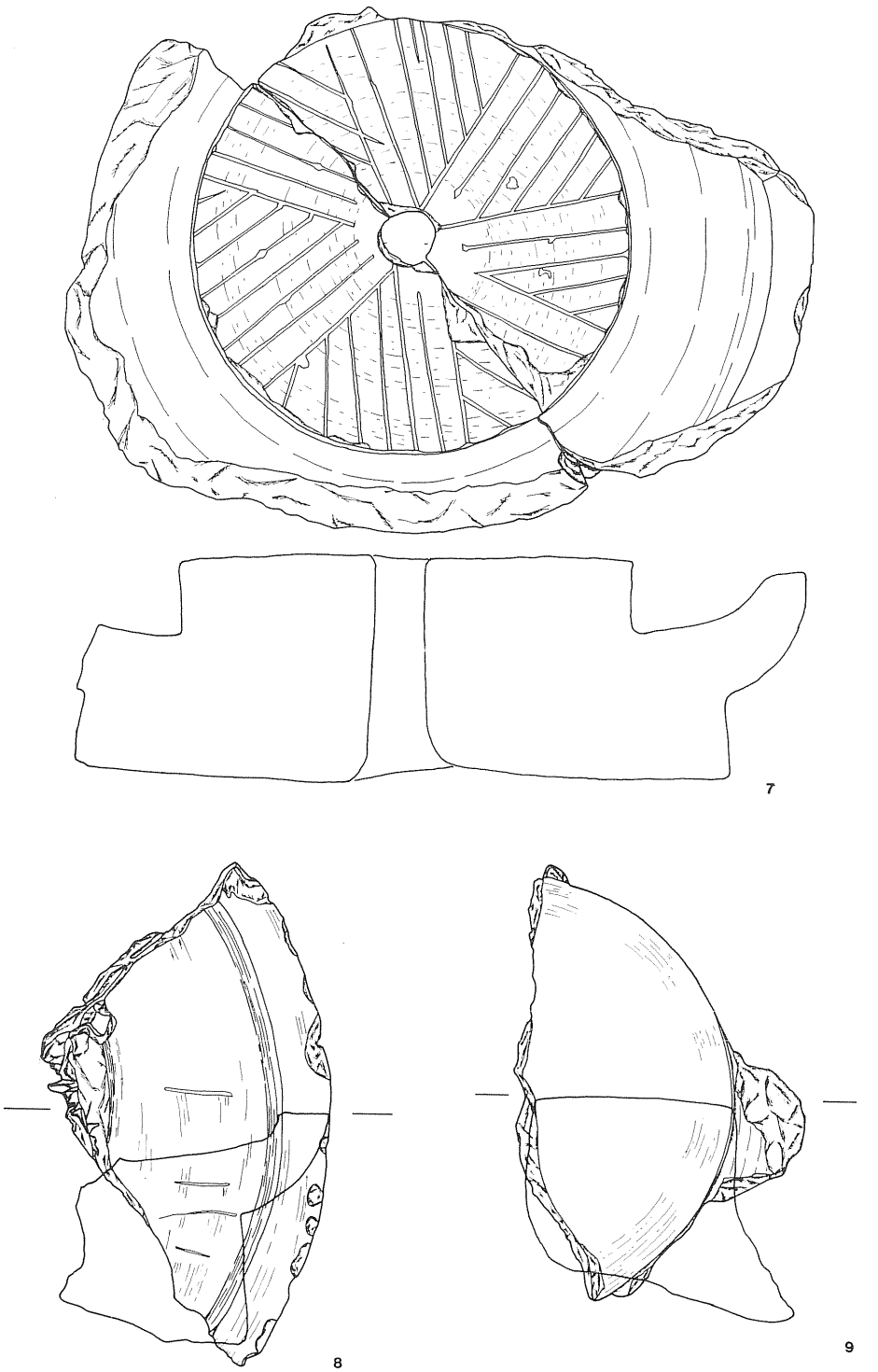
第73図　その他の出土陶磁器 (9)



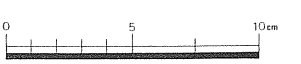
第74図　その他の出土陶磁器 (10)

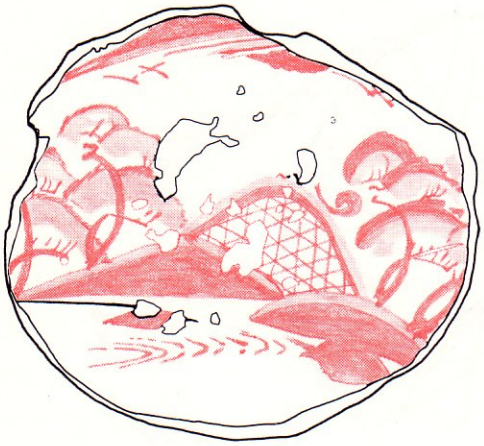


第75図　出土石製品（1）

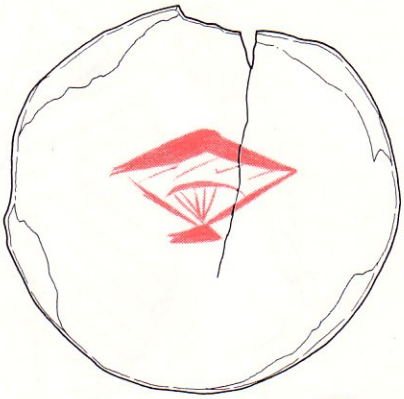


第76図　出土石製品 (2)

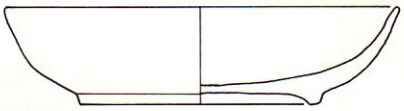


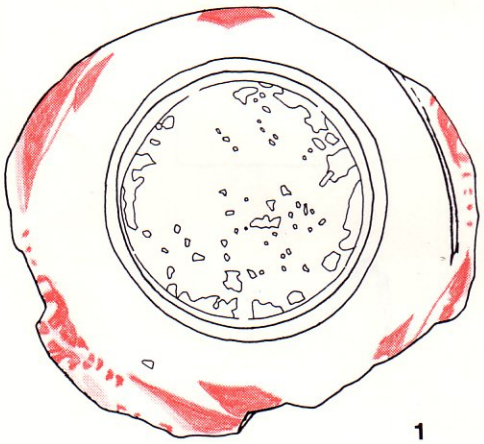


SE 25

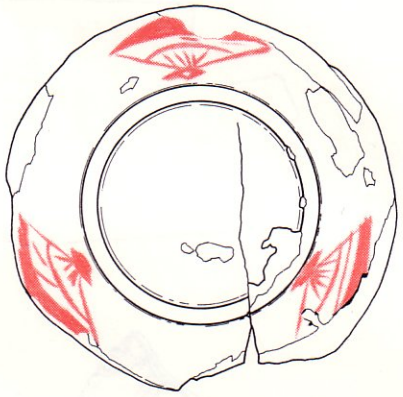


SE 65





1

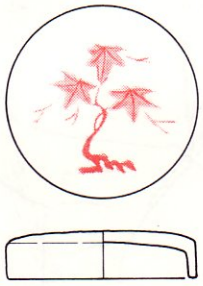


2

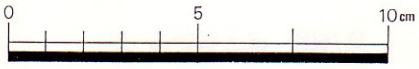
SE 56

3

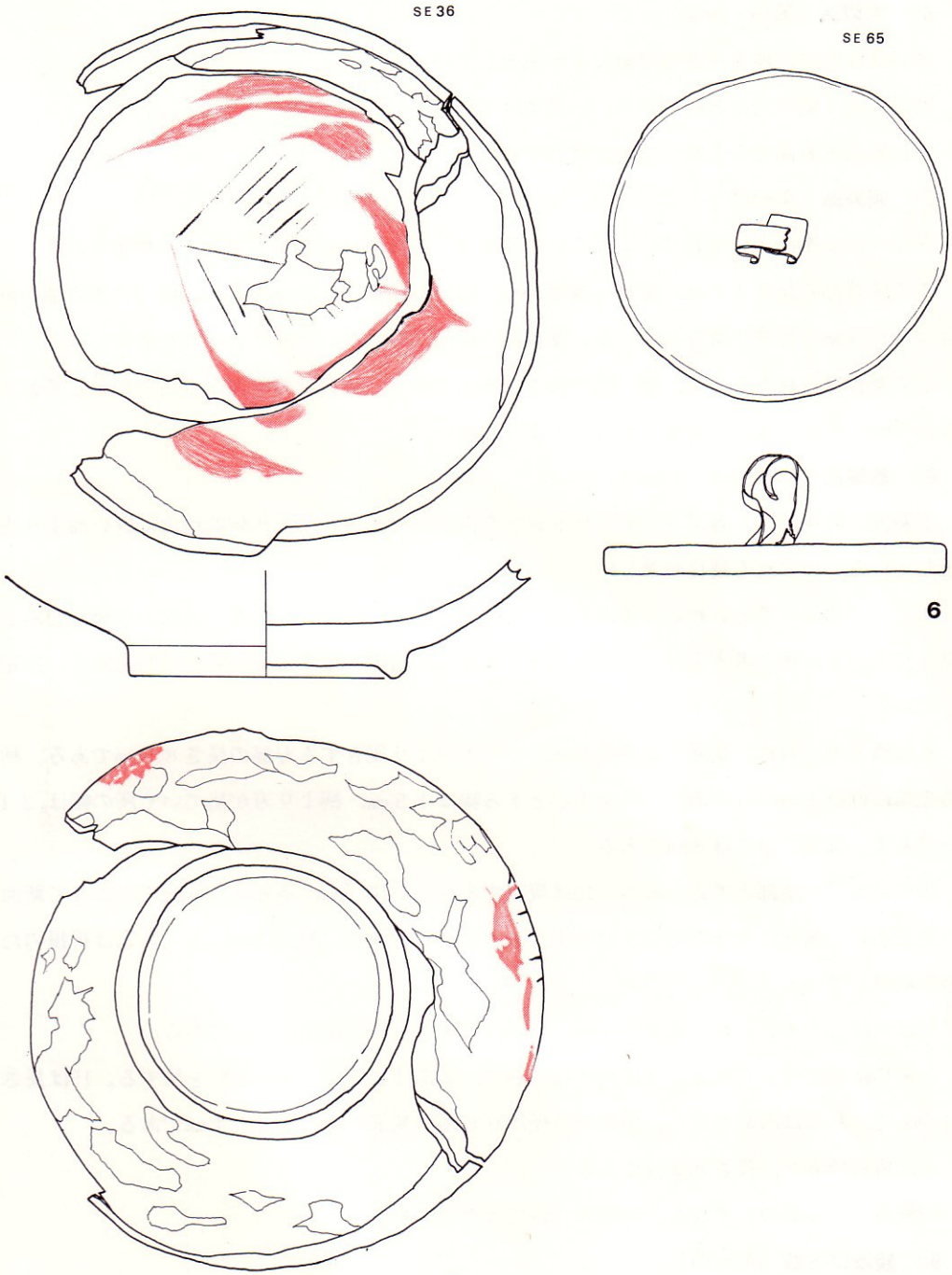
SE 73



4



第77図　出土漆器(1)



第78図　出土漆器(2)

6） 木製品（第79・80図）

井戸底面及び，埋土中から下駄などが出土している。

79図１は４個の穴があいており，一部焼けている。

４は箆状木製品で５と共にこれで完形である。

7） 銅製品（第82図１・２）

キセルが２本出土しており，１はトレンチより，２はＭＧ40グリッド内より検出された。

１の雁首部の長さ4.7㎝，雁首の直径10㎜，吸口部の長さ9.7㎝である。両方の接合部の直径は８～９㎜で竹管が遺存している。雁首部の横面，吸口部の下面に合せ目がある。

２の雁首部の長さ5.2㎝，吸口部の長さ6.8㎝である。吸口部の断面は六角形を呈しており，直径８㎜である。雁首は直径1.8㎝で１より大きい。

8） 鉄製品（第82図３～83図16）

広範囲に散在して，各グリッド及びトレンチ内より検出された。比較的地山に近い面より出土している。いずれも銹化が著しい。

４・５は馬具と考えられる。４は長軸6.5㎝の８字形の輪がつながる。各輪の内側は凹みが見られる。５は轡と考えられ，長径6.4㎝と4.3㎝の楕円を呈する輪に鋲をうち込んで，固定している。

６は鎌と考えられ，柄部の長さ6.3㎝，コーナーより現存する刃部の長さ8.5㎝である。柄の先端に直径４㎜の孔があく。孔を中心とする幅は1.5㎝，柄より刃が出ていく所の幅は，2.1㎝である。背面の厚さは３㎜である。

10・11は刀の茎部と考えられる。10は現存する長さが16.2㎝，茎先より10㎝のところで断面の角がとれ，茎先に丸味を持つ。11は現存する長さが12.9㎝，断面は角ばる。茎元は折損のためか肥厚している。

14は火ばしと考えられ，長さ24.0㎝，基部は丸味をもった角で径５㎜である。

９・15は楔と考えられる。９は長さ12.5㎝で，基部は２×1.7㎝の角形を呈する。15は長さ24.9㎝で，基部は円形を呈し，頭部の直径は0.8㎝，基部の最大径は1.4㎝である。

３は角釘であり，長さ8.9㎝である。

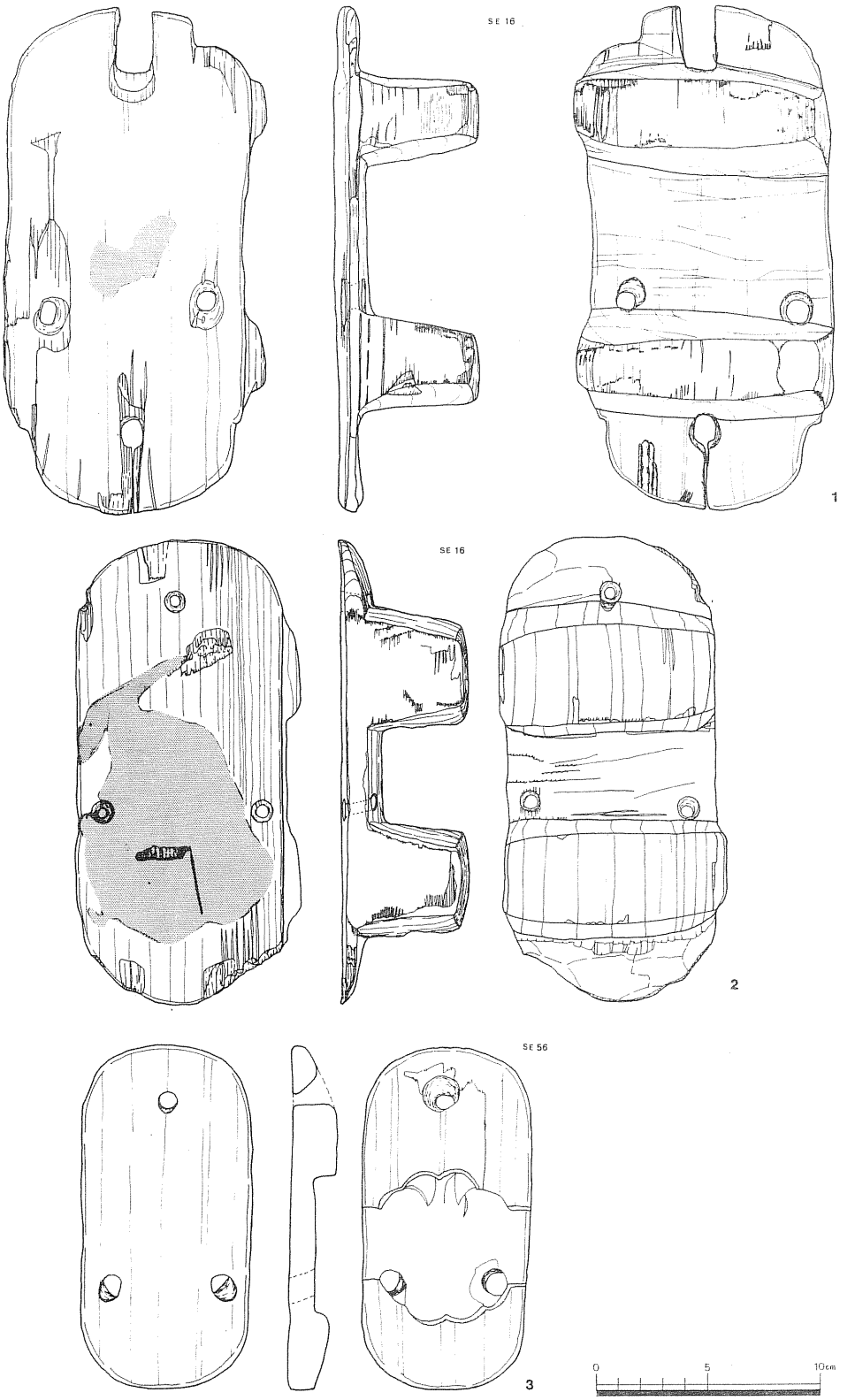
銅製品・鉄製品のいずれも，時期については不明である。

9） 鏡及び古銭（第81図）

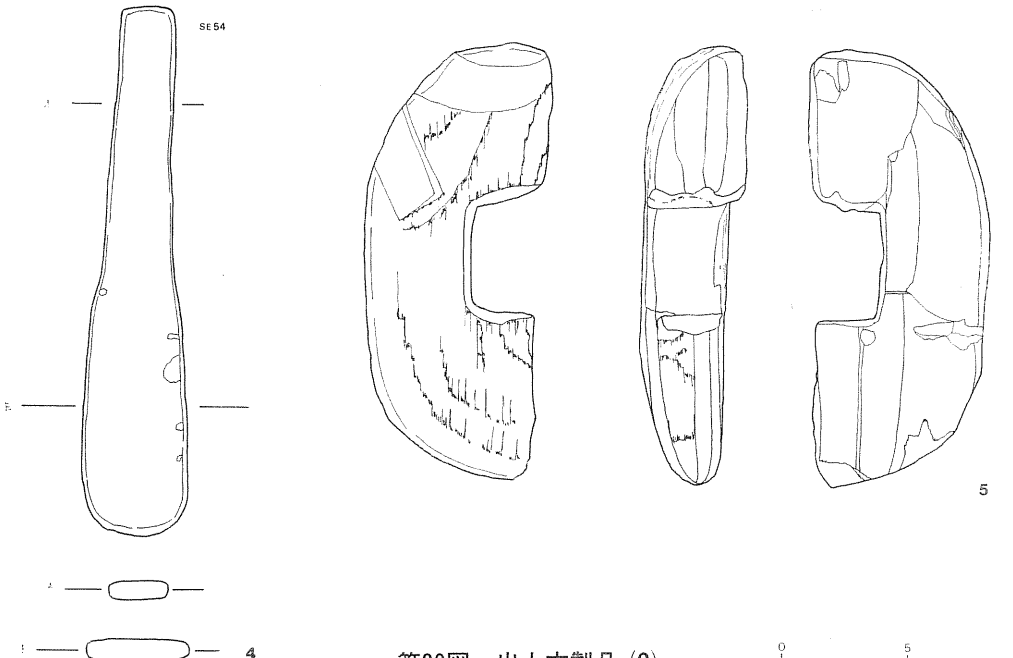
中世末に属すると思われる鏡と，中世から江戸期の古銭が出土している。

２は皇宋通寶かと思われる。３は治平通寶かと思われる。４は洪武通寶。

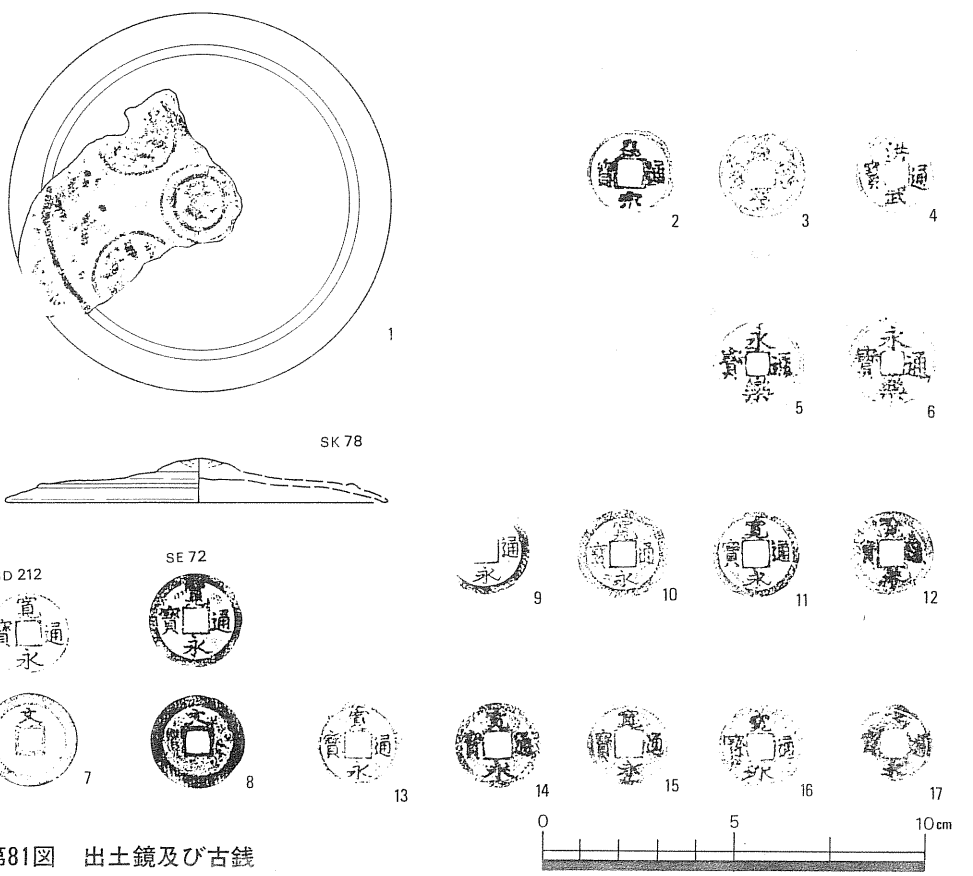
５・６は永樂通寶で，５は５枚重なって出土したもの（実際は６枚あった可能性がある）の１枚で，紐で結んでいた痕跡が残っている。７～17は寛永通寶。



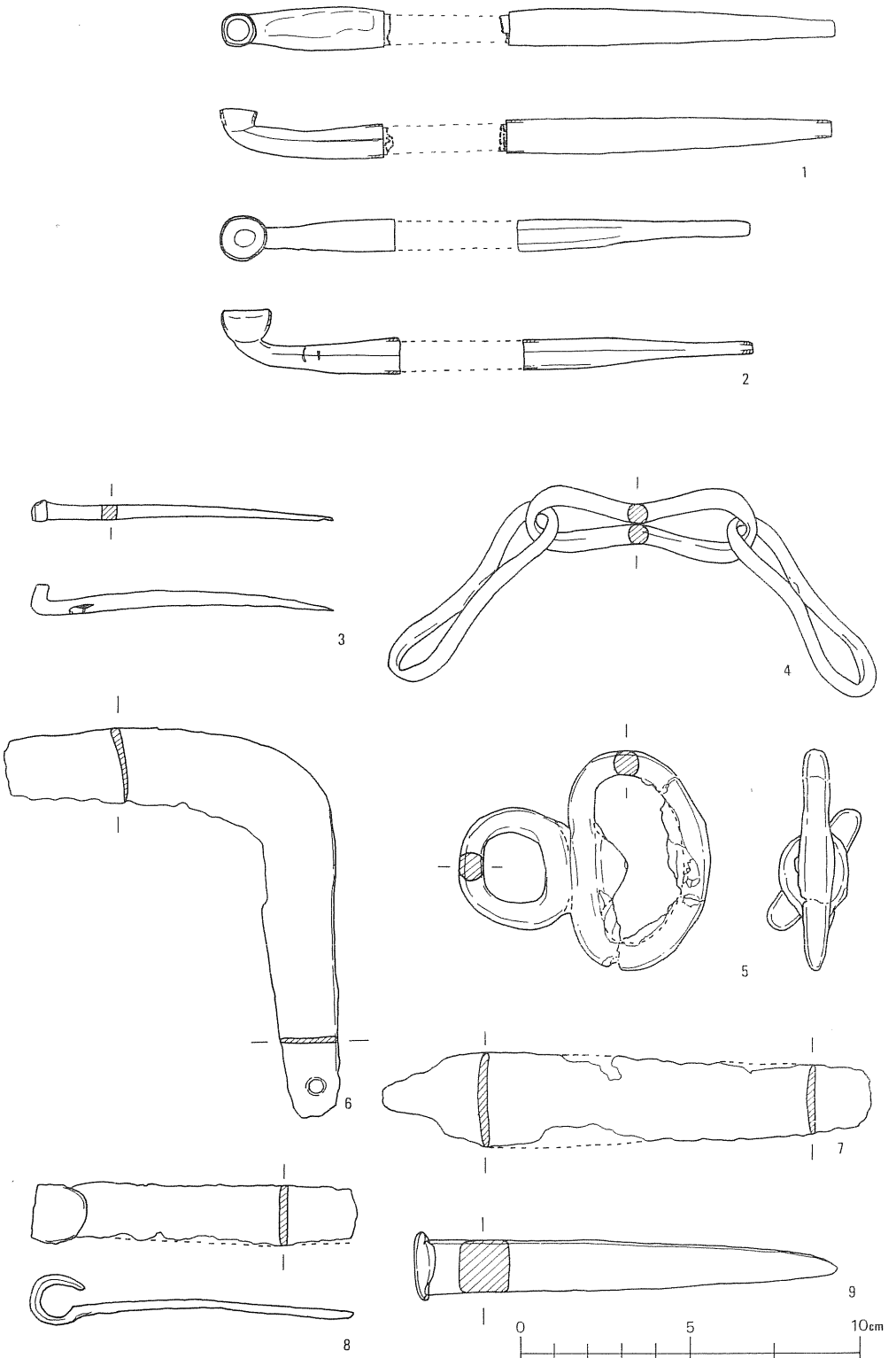
第79図　出 土 木 製 品



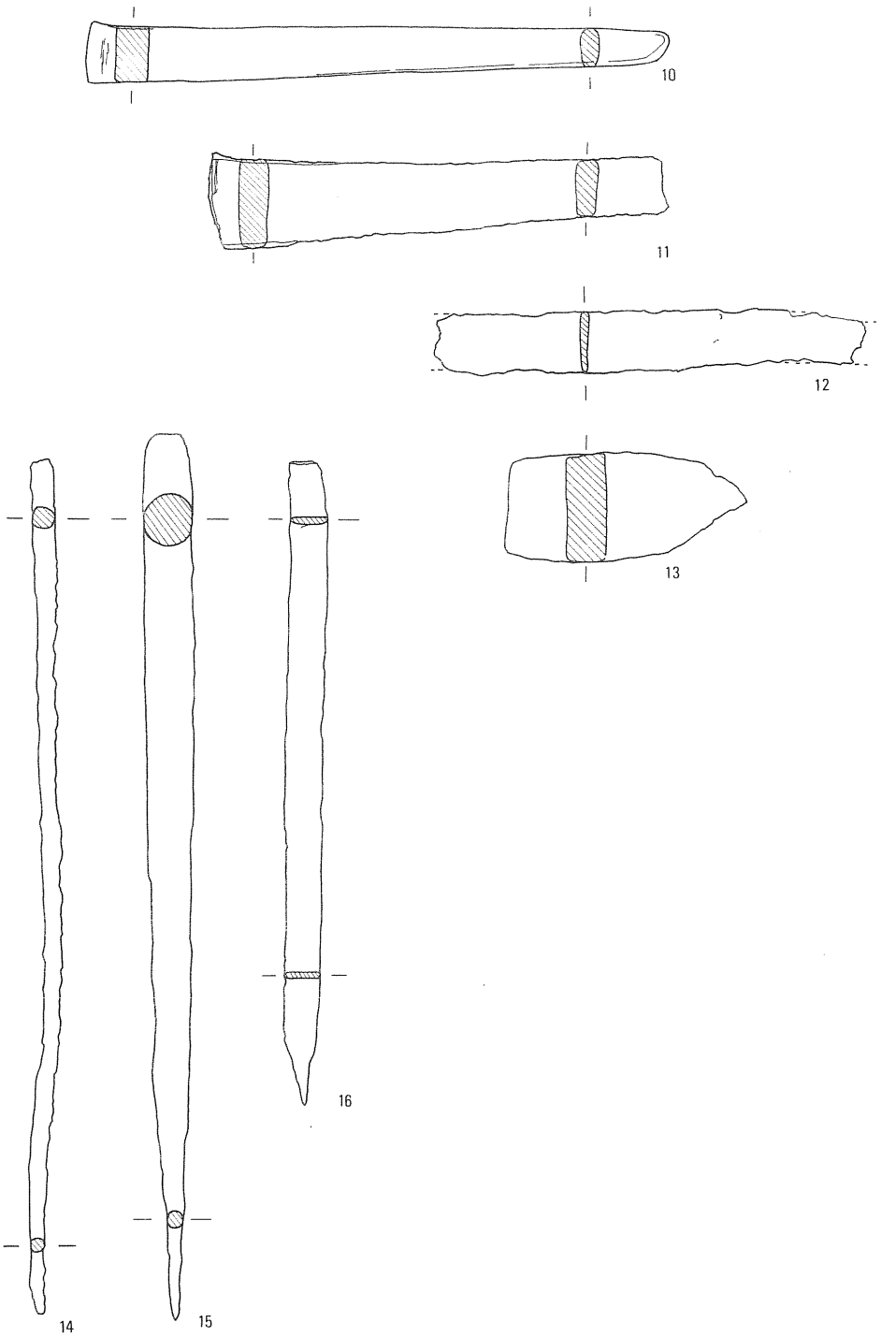
第80図　出土木製品 (2)

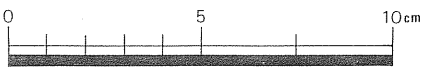


第81図　出土鏡及び古銭



第82図　出土銅・鉄製品





第33図　出 土 鉄 製 品

第5章　鵜沼城の周辺

第1節　雄勝地方の国人層

北羽の安東氏領・浅利氏領についても言えるのであるが，中世後期のこの種に関する史料は全県的に殆んど見当らず，国人＝地侍の実態把握は非常に難しい。勿論それは小野寺氏領も同様である。しかし，現実に中世後期に構築されたと思われる城館が県内に6～700カ所あり，それらは地域的に多少の違いはあるが，一村一館か或いは一郷一館型の分布を示している。また一方，村・郷単位の地域を支配する館主の分布が，江戸時代の史・資料からであるがほぼ確認できる。地侍が村落に支配権・動員権，或いは軍事統卒権をもっているが故に，館の構築が可能であったのであり，結局，館の存在そのものが地侍の分布を示すわけで，現に山形県内には，村民が動員され館の壁ぬりをした記録が残っている。

いずれにせよ雄勝地方でも地侍の広範な分布が見られるわけであるが,「雪の出羽路」・「秋田風土記」等にもとづいて整理したのが第一表である。即ち，例えば「雪の出羽路」雄勝郡1の八乙女村の項に，「八乙女の古城は金助といふ家の前畠なるよし。其跡さだかならねど，むかし八乙女相模守其此城に籠れり」等とあるのを抜き書きしたもので，必ずしも一等史料とは言えないが，勿論荒唐無稽とも言えない。城館にまつわる伝承が真澄等により記録化されたものであろう。

ここには小野寺一族を合わせ30いくつかの地侍が見える。しかし現在判明している当地方の館は，現雄勝郡だけで凡そ70あり，それには当然館主がいたのであるから，それに相当する地侍の分布していたことが予想される。ただし城館・地侍が同時に機能・分布していた場合である。これら第一表に見える地侍のうち小野寺家臣の伝承をもつもの，及び村落名と姓の一致する松岡・八乙女・御辺事・関口・柳田・山田は戦国後期に機能していたと考えて先ずよかろう。他方，「永慶軍記」巻37の「奥羽両国名有る陪臣の事」に，雄勝・南平鹿の地侍に関して，

山北小野寺遠江守義道家方

小野寺五郎康道大森城主・同甲斐高寺城主・同孫市郎陣道吉田城主・同茂道西馬音内城主・同孫兵衛山田城主・同二郎・同上野介稲庭城主・同蔵人川連城主・同小五郎・同孫七郎湯沢城主・関口喜介春道本名佐々木・関口城主・小笠原伝七三梨城主・小笠原弥之助合川城主・御返事三郎桑ケ崎城主・小柳左馬深堀城主・足田要害・植田要害・河熊城主・今泉太郎左衛門・馬倉右兵衛本名は関口・馬倉城主樋口要害・新田目・南部倉金蔵鍋倉城主・岩崎河内岩崎城主・飯詰三郎飯詰城主黒沢長門南部口・同甚兵衛・松岡越前松岡城主・田子内二郎・西野修理亮道俊黒川住・大築地織部沼館城主・八木藤兵衛・岩井川久内・栗

田市介・大沢中務・戸波惣右衛門，（下略）

と見える。これは勿論同時に機能していた地侍であるが，これを第一表に重ねた場合同時点における城館・地侍がかなり明白になる。即ち永慶軍記のこの記事は，戦陣を意識した家臣団機構を一族・重臣を中心に記したもので，小さい地侍は出ていない。しかしそこに出ている城館は第一表に殆んど記されており，残った地侍も永慶軍記の他の箇所に菅・八反田・町田・八乙女・柴田・真崎の各氏が見えている。第一表にありながら永慶軍記に見えないのは，見落としがなければ岩倉・石川・館山・鵜沼等，いわゆる枝郷級の集落を支配する小地侍だけである。結局，第一表に見える地侍層は，出羽郡司小野良実等２・３を除いては，殆んどが戦国後期の国人層と考えてよく，生産力の増大から，在地に成長した有力農民が小武士団を構成し，村落支配をすすめる過程で館を構築，小野寺氏の被官・永臣となっていった実態を示すものと判断されるのである。

第２節　記録に見る鵜沼城

鵜沼城に関する当時の記録はない。従って，近世のものを通じて分析する以外にない。「雪の出羽路」桑箇崎郷の項に，

平城村　松田とて松の生ひたてる田面に，古城の跡ありて鵜沼別当某の城なり，さるよしをもて比良城の字ありゆゑよしつばらかならず，なほ考べし

鳳凰山桐善寺といふ禅林あり，此寺旧は天台宗門にして小野郡司良実の菩提寺にて小野に在りしが（略）

城内村　むかしの鵜沼の城の内なりしよし，天明の末，寛政のはしめまで家ありしが，今は一戸もなしといへり，鵜沼三重郎といふ翁あり，鵜沼の別当の後にや

とあるが，これが鵜沼城に関する唯一の文献資料である。ここで考えられることは，先ず，

①「松の生ひたてる田面に」とあるから，もともと水田面に構築したものでなく，山地が切れて平地になるところに造ったものである。現地は西に向かって傾斜しており，東に向かっては山地に連なり，山麓に集落が存立，街道は城と集落の間を縦断，集落北側で東西に分かれている。恐らく水田になったのは江戸期に入ってからであり，しかも真澄の頃はまだ付近に松が生ひたてていたものであろう。

②枝郷城内村は「鵜沼の城の内なりしよし」とある。これをそのまま信用すると，城は集落をも含み，発掘した地点は城の一角ということになる。たしかに掘に囲まれた鵜沼城と称する現発掘地点は面積的に狭い。　県内に分布するいくつかの平城を考察した場合，存立上二つの形態が考えられるが，館立が山城から本拠を平地に移す過程で造られたものと，例えば平鹿郡の

第84図　鵜沼城周辺の地侍の分布図

I : 50,000

メートル 1000　500　0　1000　2000　3000　4000

永慶軍記・雪の出羽路・秋田風土記等による。
●印は集落名の頭に付したもので，館の位置ではない。なお，館の数はほぼこの２倍である。

第1表　雄勝地方の地侍（南平鹿も含む）

村名	地侍　「雪の出羽路」による	村名	地侍　「秋田風土記」による
松岡郷 中田村	千葉九郎（享保郡邑記） 柴田平九郎　○	上院内	眞崎五郎・鶴若丸 小野寺義道臣　○
松岡郷 新城村	松岡越前守　小野寺家臣　○	下院内	三浦氏（臼館）・最上氏（館山）
床舞郷 寺沢村	岩倉大夫勝元	川井	樋口五郎道尚・次郎頼道　○
高松郷 久爾合村	石川弾正・采女	湯沢	三春信濃守　○
高松郷 中屋敷村	館山讃岐守	山田支郷 土沢	山田孫兵衛　小野寺家臣　○
高松郷 八乙女村	八乙女相模守　○	深堀	小柳伝左衛　○
相河郷 外野目村	小笠原能登守高経　大野寺家臣 麓村・中山村に小笠原 高経の古城あるという　○	貝沢	貝沢太郎？
桑箇崎郷 平城村	鵜沼別当某	田代	某　小野寺家臣
桑箇崎郷 御返事村	御返事三郎貞久　小野寺家臣○	堀回	小野寺肥前守重道　○
三梨郷 京政村	麻生平左衛門　小野寺家臣	大沢	不明　「永慶軍記」の大沢中務○
稲庭郷 稲庭村	小野寺氏　○	八幡	白子河内守　小野寺家臣
関口郷 関口村	関口喜助春道　「秋田風土記」では細川千太郎○	森	伊藤吉兵衛
泉沢郷 京櫃村	町田長左衛門某　○	仁井田	河内守　小野寺永臣
小野郷 水口村	町田長左衛門為邦　○ 「永慶軍記」では町田長右エ門	三梨	小笠原太郎左衛門尉　○
杉宮郷 新町村	八段田美濃守久昌　○ 「永慶軍記」では八反（田）	川連	小野寺経道　○
寺沢郷 十連寺村	小野良実（出羽郡司）　○ 「永慶軍記」では小野・姉崎等とある		
中村郷 下樺山	菅加賀守　○		
役内郷 内城村	役内尾張守宗冬　○ 「永慶軍記」では平将門末葉八口内定冬とある		
役内郷 柳田村	柳田治兵衛尉藤原定道 小野寺家臣　○		

江戸期の記録によるから確実なものと言えない。しかし○印は永慶軍記にも出てくる。

小野良実・貝沢・森の伊藤吉兵衛以外は単なる伝承でなく，戦国後期の地侍と考えて先ずよかろう。

植田城・睦合城の如く山城を伴なわない単独のものがそれになる。鵜沼城の場合，地形的には舌状地を利用した山城を構築するのが他の例から推して当然であり，集落より低い所に平城を設けた点で特異と言えよう。或いはこの記録にある如く，現集落の存立する山手に城があり，平城はその一角であったのかも知れない。

③永慶軍記には，地侍御辺事氏は桑箇崎城にいたとある。江戸期の桑箇崎は惣名で，中泊・平城・城内・御辺事・谷地中・上谷地中・三ツ村・二ツ森の各村を含んでいた。恐らく中世においてはこれらを含む郷であった事が容易に推測され，それ故に惣名となって残ったものであろう。従ってそれに含まれる平城，及び城内村に君臨した鵜沼氏は，桑箇崎城に拠って桑箇崎郷を支配した御辺事氏と比べた場合，下級の地侍ということになる。現実にこの両者の関係がどうであったかは不明であるが，永慶軍記に御辺事氏だけが見え，鵜沼氏の現れないのはその為かも知れない。

④城を構築したものは誰か。それは農民を夫役労働に動員できる勢力である。「永慶軍記」に，「小野の土民等三百余人具して小野の城に楯籠る」という記事がある。小野氏＝小野土民（百姓）＝小野城という結びつきは戦国後期の地侍の実態をよく示しているが，鵜沼城の場合も基本的にはこの線に沿うと思われる。

第3節　まとめ

①鵜沼城は集落城内・平城を支配した地侍の構築した戦国期の城であり，地侍は「雪の出羽路」に見える鵜沼氏と思われる。従ってこの城は御辺事氏，或いは小野寺氏等と直接の関係はない。

②集落城内があることから推して，城は舌状地が切れて平地になるところに造られたもので発掘地点は城の一角の公算が大きい。或いは，戦国風潮の終末した時点で，街道に面した現平城のみが鵜沼氏の屋敷として利用されたのかも知れない。

③現在判明している県内平城の中では小の規模に属する。地侍としての地位も低い。しかし小野寺氏の家臣団に編入され，村民を動員して，御返事氏等と共に行動した事は相違ないところである。

第6章　ま　と　め

今回の発掘調査で発見した遺構は掘立柱建物跡59棟，井戸跡68基，土坑27基，堀跡１条，溝跡16条等である。このうち建物として復原できなかった柱穴が多くあり，それらが全て建物になるものとすると鵜沼城跡における総建物数は180～240棟前後に達するものと思われる。

掘立柱建物，井戸をいくつかに分類したが，それは時期差を表わすものではない。建物あるいは井戸相互間の新旧関係を明らかにし得たものはごく少数であり，建物と井戸との関連も把えることはできなかった。このため，建物の重複関係からは，５～６期以上の遺構の流れのあることの推定はできたが，具体的な遺構の変遷としてこれを示すことはできなかった。

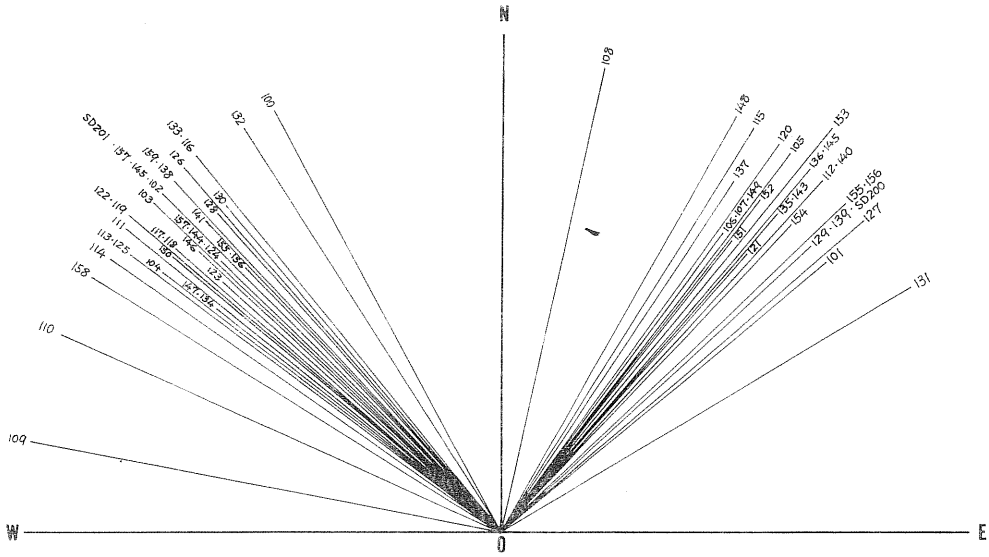
出土した遺物は当時の生活面がほとんど失われてしまっていたとはいえ，予想を上回る量であり，その内容も予想をくつがえすものであった。つまり，遺物（陶磁器）は大きく４時期に分けられる。１：14～15世紀のものと思われる元末～明の青磁，珠洲系擂鉢，古瀬戸など，２：16世紀と思われる明青磁，美濃など，３：17世紀と思われる唐津系，伊万里染付など，４：江戸中～後期の地元窯かと思われる陶磁器，擂鉢などがある。

遺構，特に掘立柱建物と井戸の分布の状況に特徴があり，第３章第２節で述べたとおりである。またこの他に，北部～北西部には建物分類のＡ類に属する大型のものが多く，東～南～西部では中型～小型の長方形の建物が多い。これらのことを合わせ考えると，北部～北西部には継続的に大型の建物跡が配置され，その厨家的な役割を南～南西部が果したようにも窺える。そして，東～南東部では井戸を側に持つ中型の建物群があったのではなかろうか。このことは後述する建物の主軸方位とも合わせて，遺構の配置全体に強い規制が支配し続けた時期が存在したことを物語るように思える。

第85図に示したのが，確認した掘立柱建物跡の桁行方向である。この中では，９割近い建物が，N40°～55°W，N30°～55°Eの範囲に主軸方位を持っており，N45°～50°W，N45°E前後が最も集中している。このことは，南西方向及び北東方向が重視され，建物の桁行方向に対して，強い規制が働いた結果と考えられる。建物の中には江戸期のものも含まれていると考えられ，中世末に小野寺氏が衰退した後もそのような規制が存続したものであろうか。

以上により，鵜沼城跡は中世を中心とする平城及び，江戸時代初期～中期頃の集落と思われる遺跡であることが，判明した。しかしながら，諸々の事情により，遺跡の大半を占め中心部である微高地上の調査に主力を注がざるを得ず，城の内外を画すると考えられる堀跡，溝跡及びその周辺についての調査は不十分なものであった。しかしながら，本県としては初めての本格的な中世平城跡の発掘調査であり，いくつかの興味ある新事実が明らかになったと思う。ま

たこれと同時に，今後の同時期の遺跡の発掘調査に残した課題も多く，反省材料としたい。



第85図　掘立柱建物跡主軸方位

図版 1　　鵜沼城跡全景（航空写真　左が北）

図版 2　上　遺跡遠景（東▶西）

下　調査区北部遺構群（南東▶北西）

図版 3　　上　調査区北東～東部遺構群

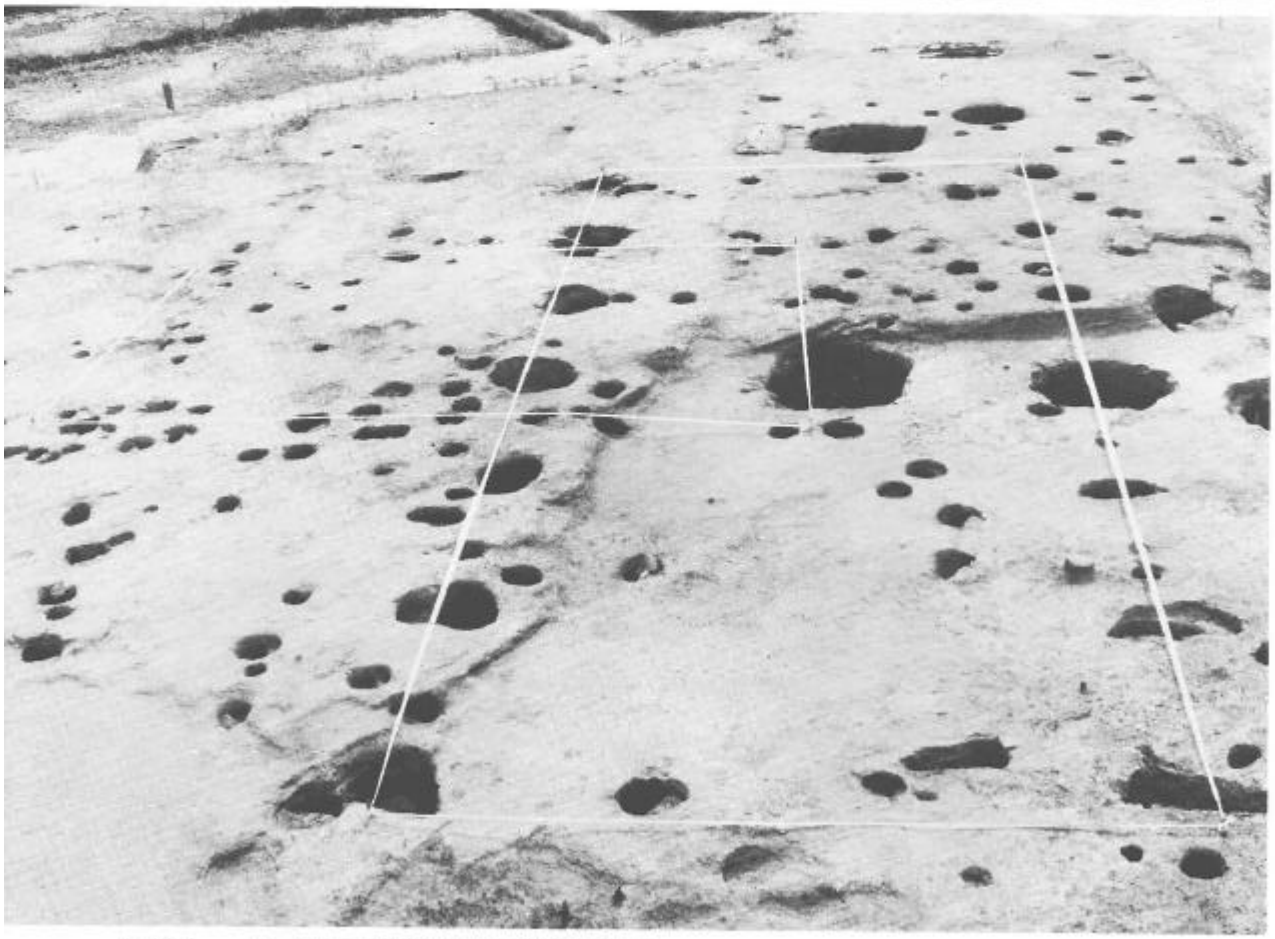
　　下　調査区南東～南部遺構群

図版 4　　上　調査区南西～西部遺構群（北東▶南西）

　　下　SB155 建物跡（南東▶北西）

図版5　上　SB117,118,128,130 建物跡（南西▶北東）

下　SB117,118 建物跡（南東▶北西）

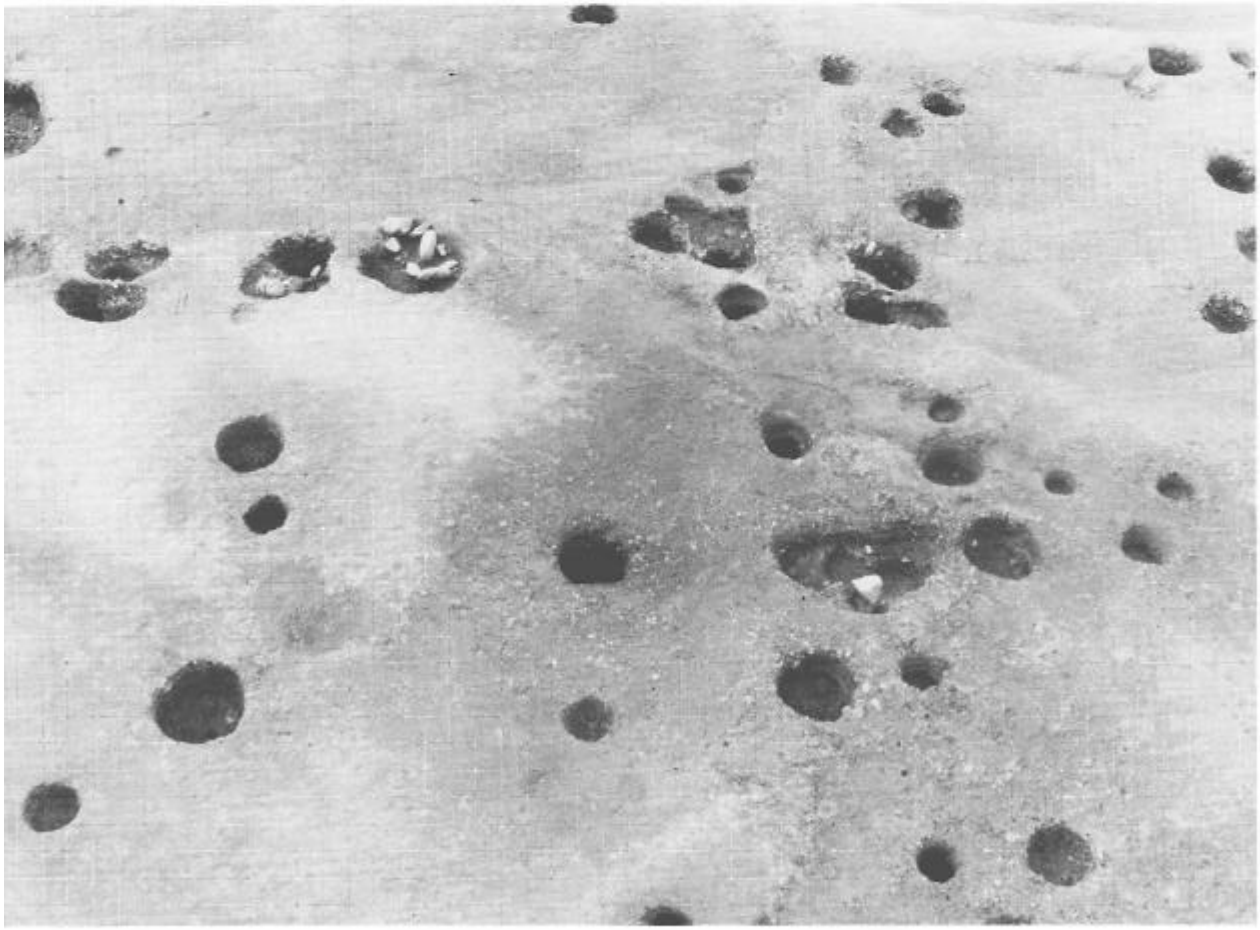


図版 6　上　SB110 建物跡（北西▶南東）

下　SB102, 103, 104 建物跡（北東▶南西）

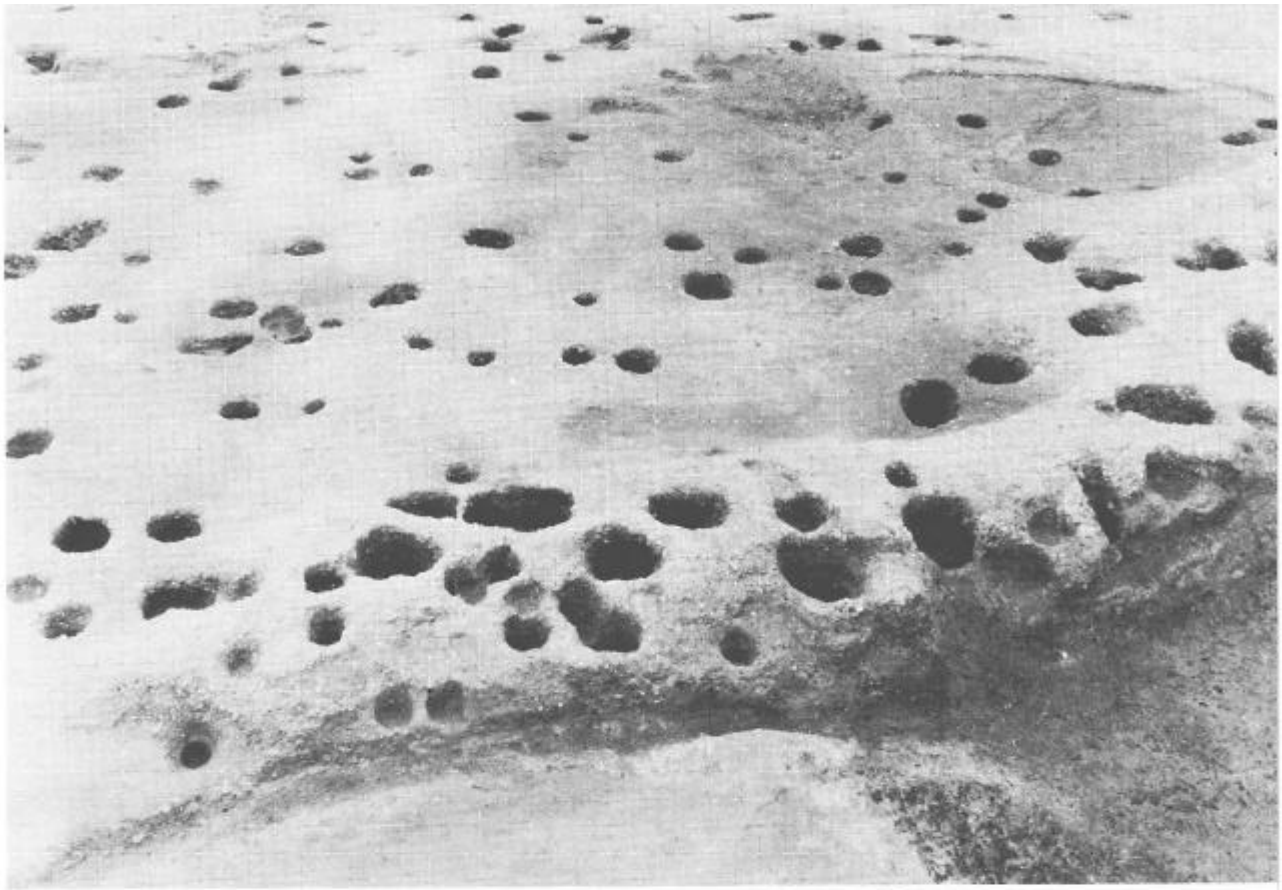
図版7　上　SB105 建物跡（南東▶北西）

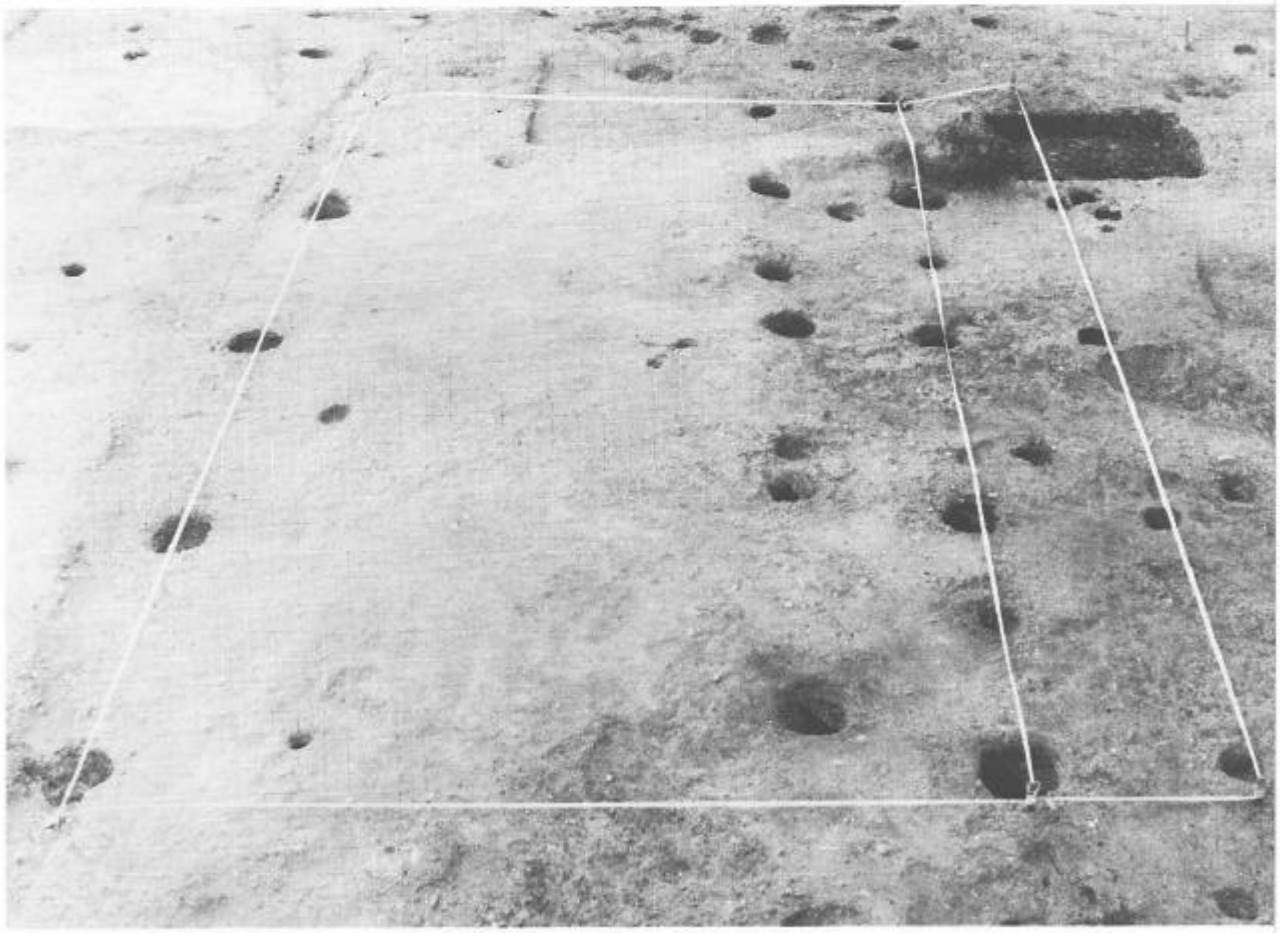
下　SB106, 107, 134, 135, 154建物跡（南東▶北西）



図版 8　上　SB101, 131 建物跡（北東▶南西）

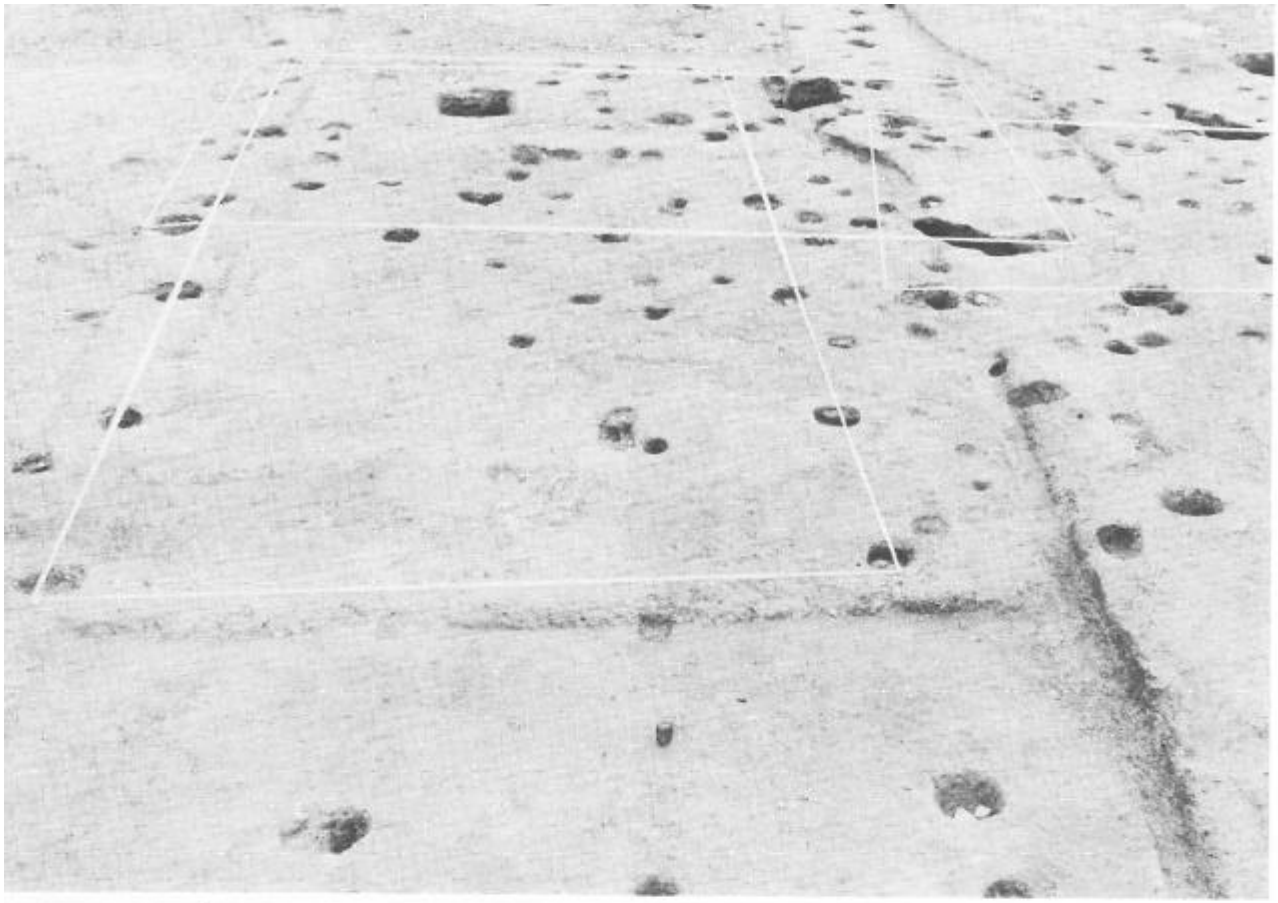
下　SB100 建物跡（南東▶北西）

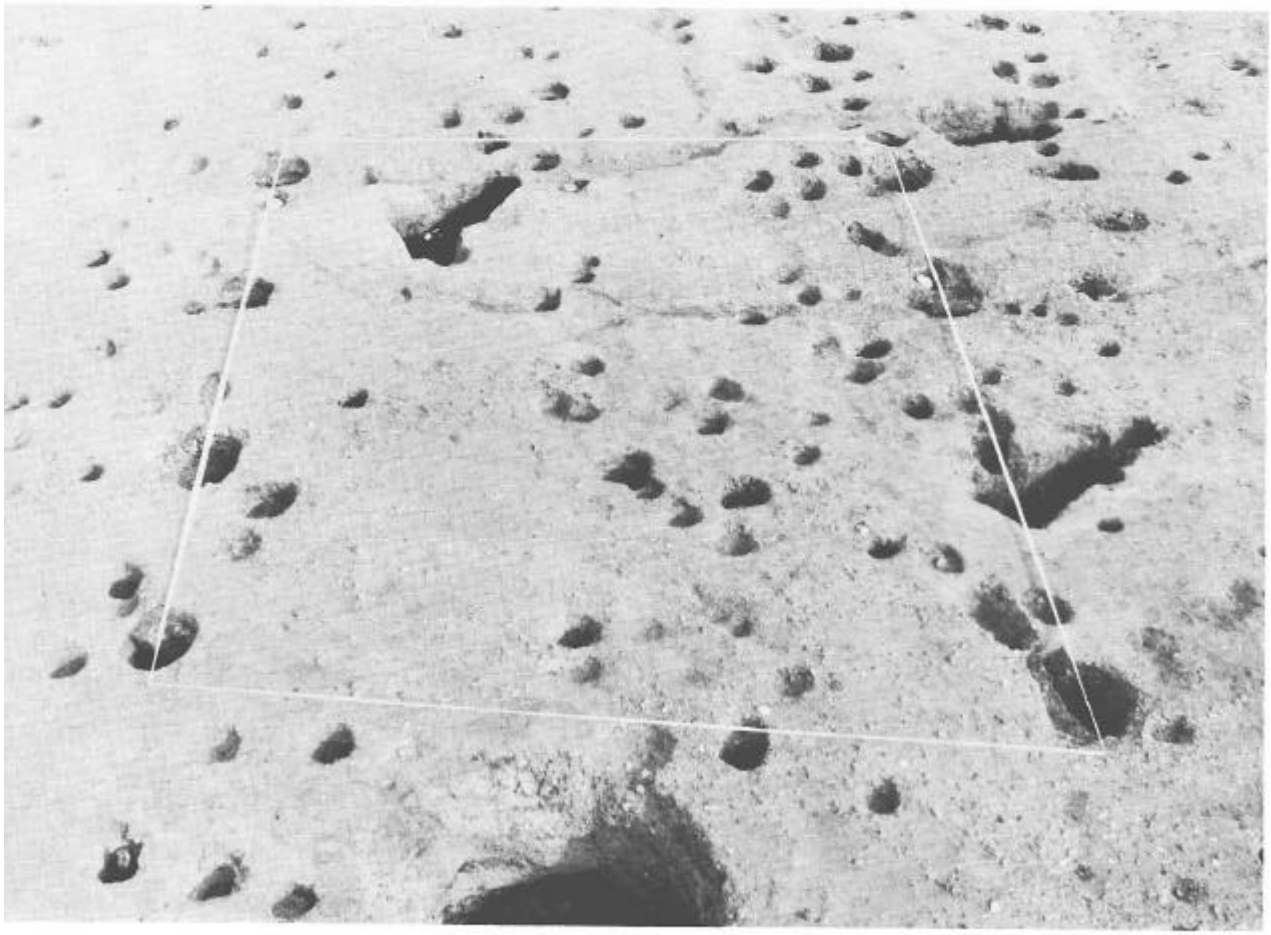




図版 9　上　SB132, 133 建物跡（北東▶南西）

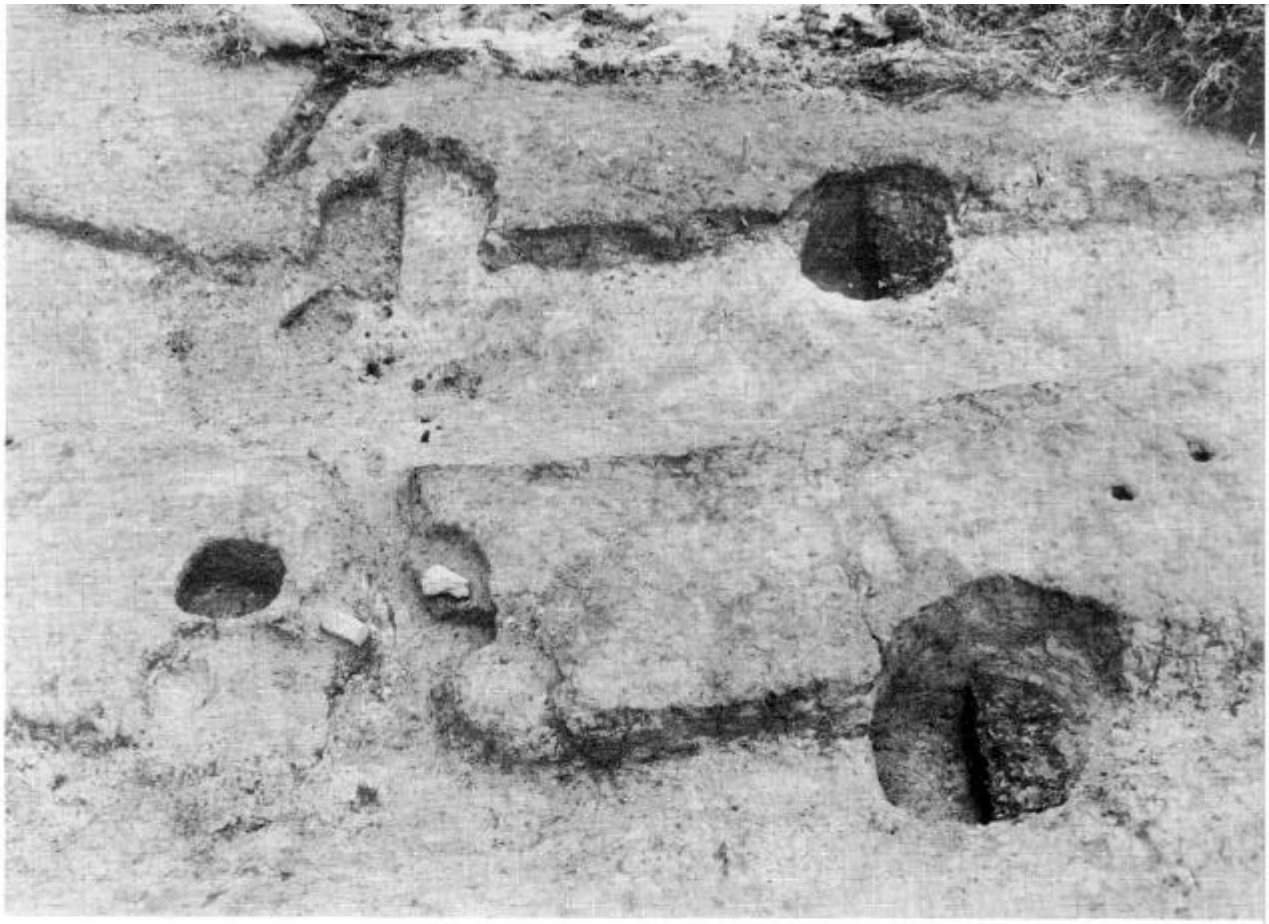
下　SB116 建物跡（南東▶北西）

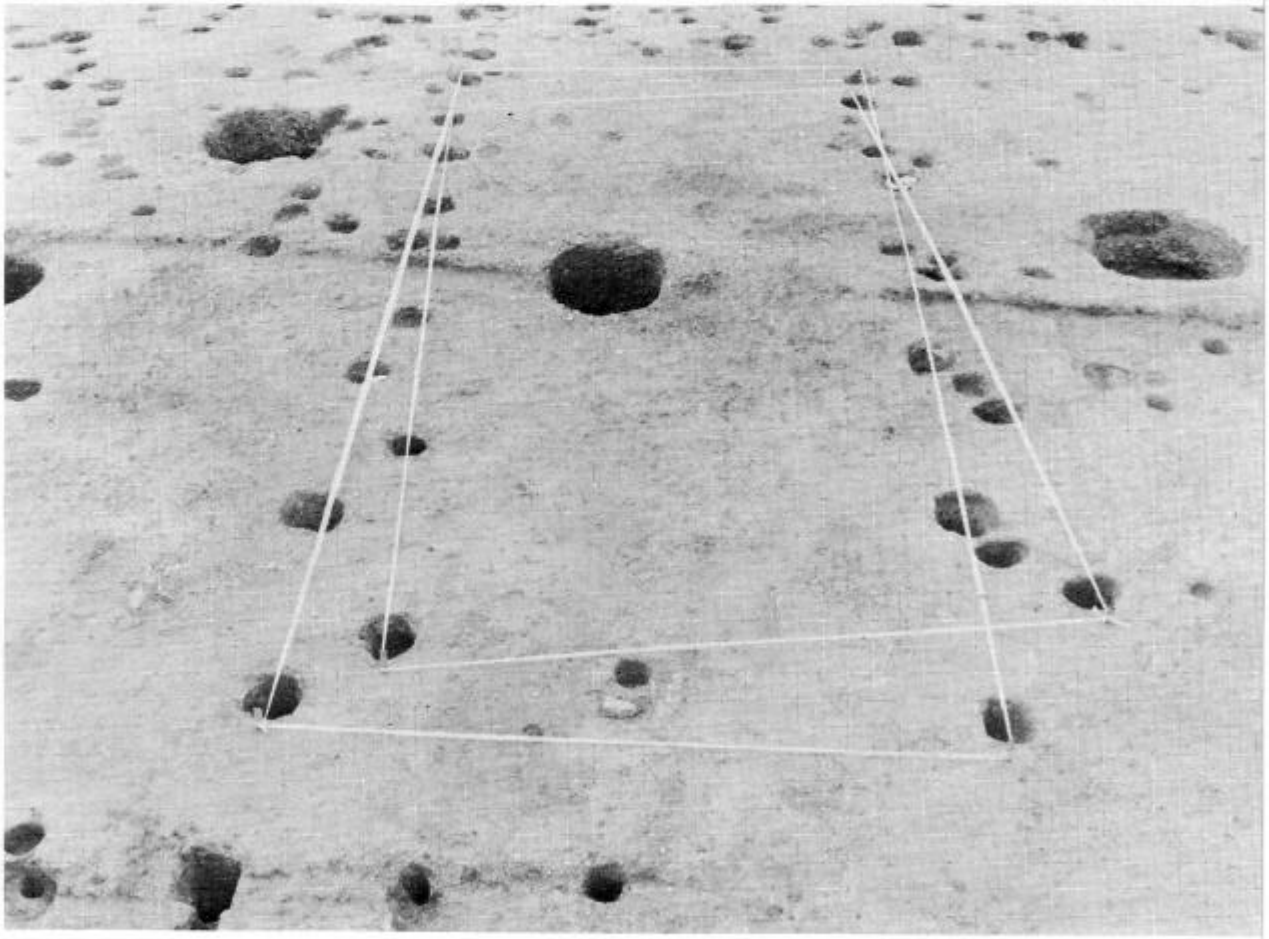




図版10　上　SB114, 115, 144, 145建物跡（北東▶南西）

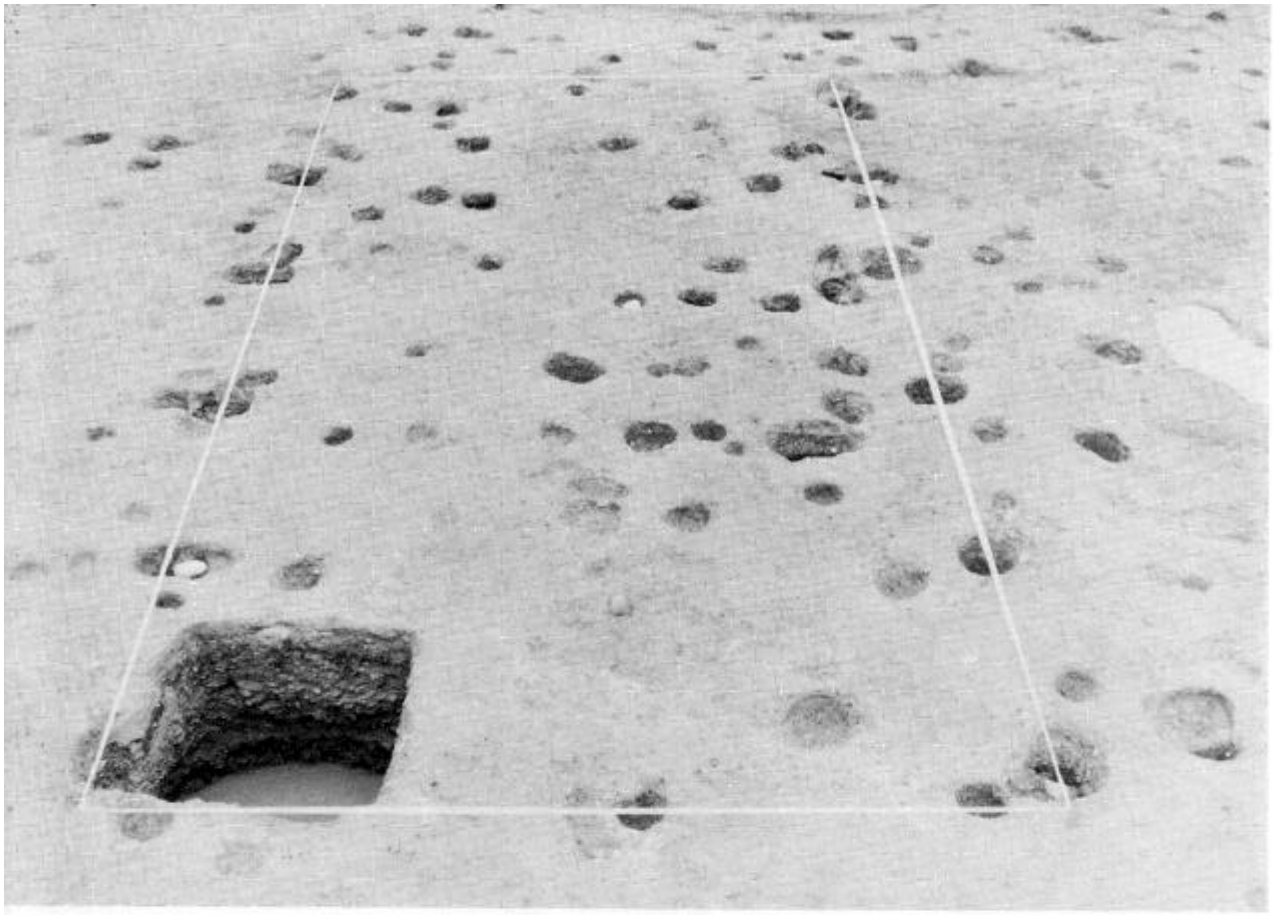
下　SB113 建物跡（北西▶南東）





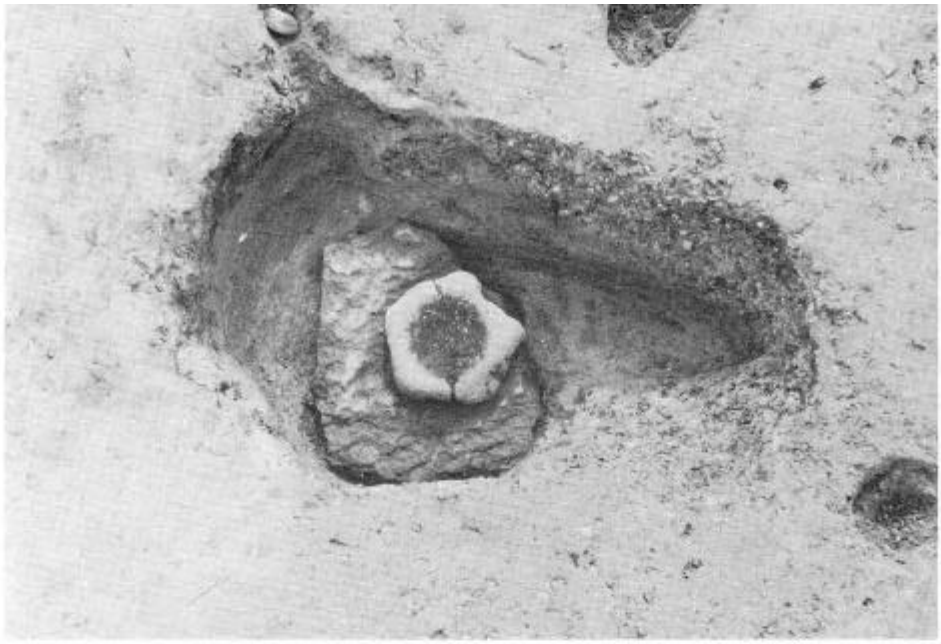
図版11　上　SB158 建物跡

下　SB120, 121 建物跡

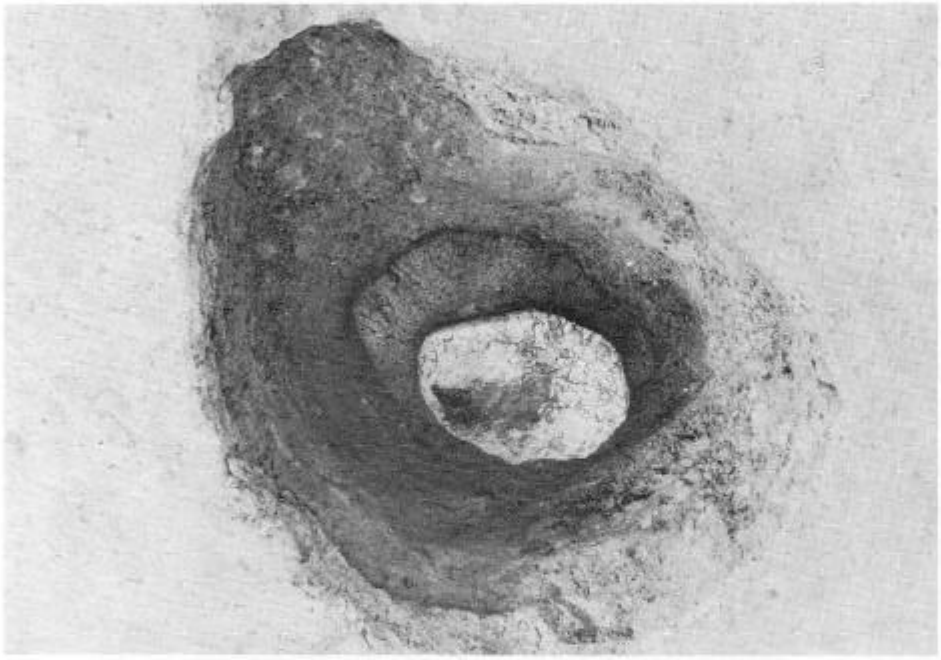


図版12　上　SB119 建物跡

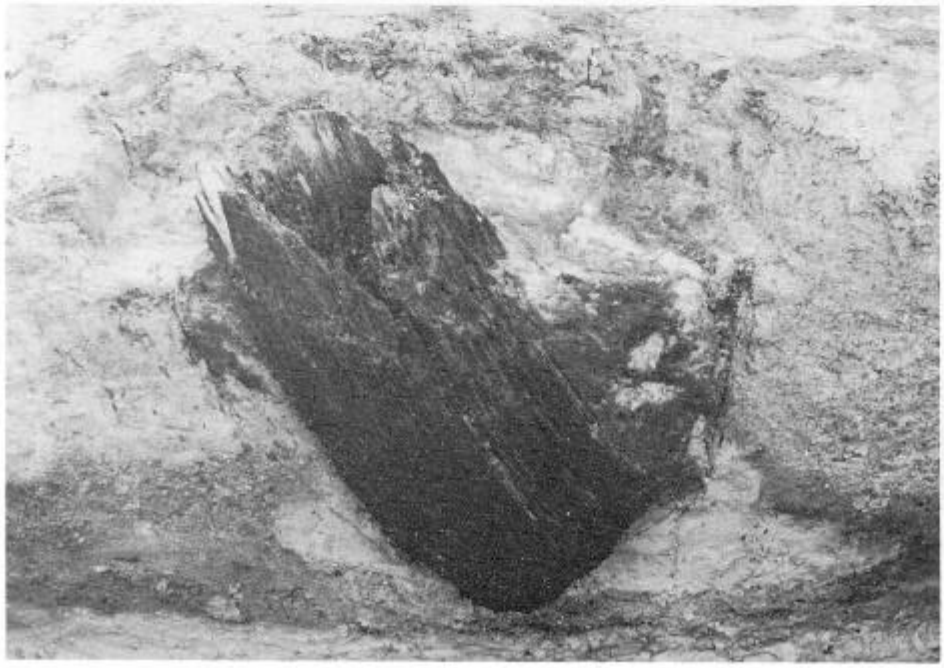
下　北部 SB140 周辺



SB102 礎石

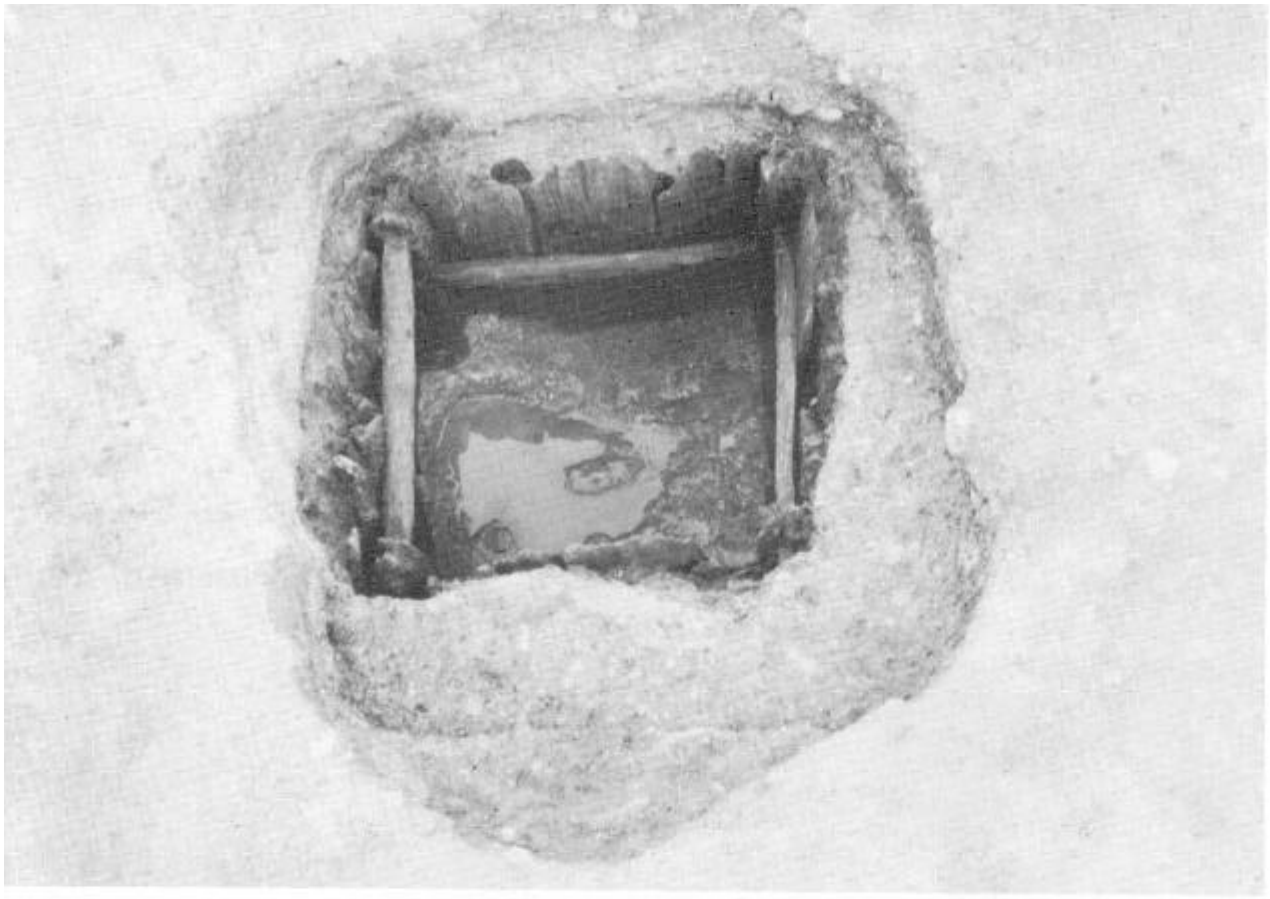


同　上

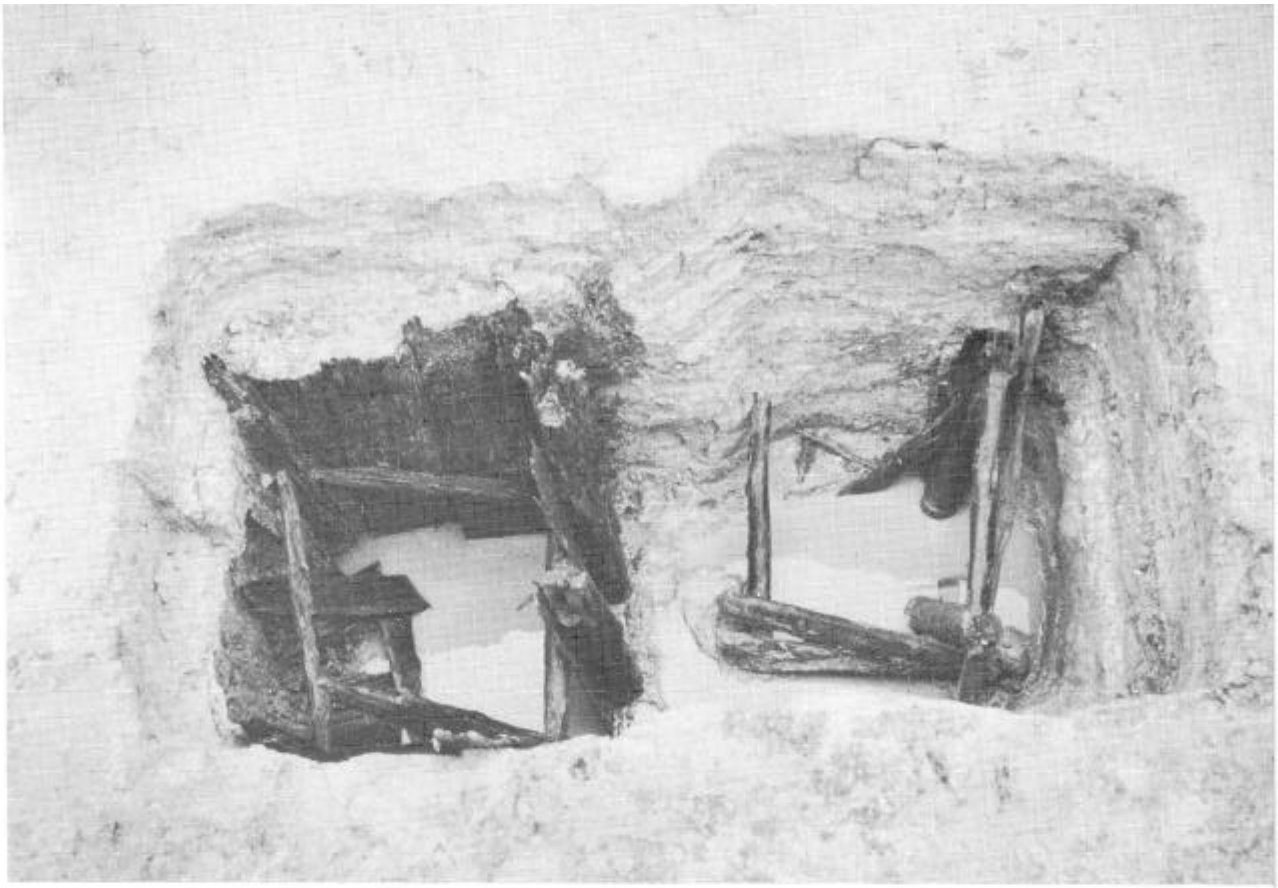


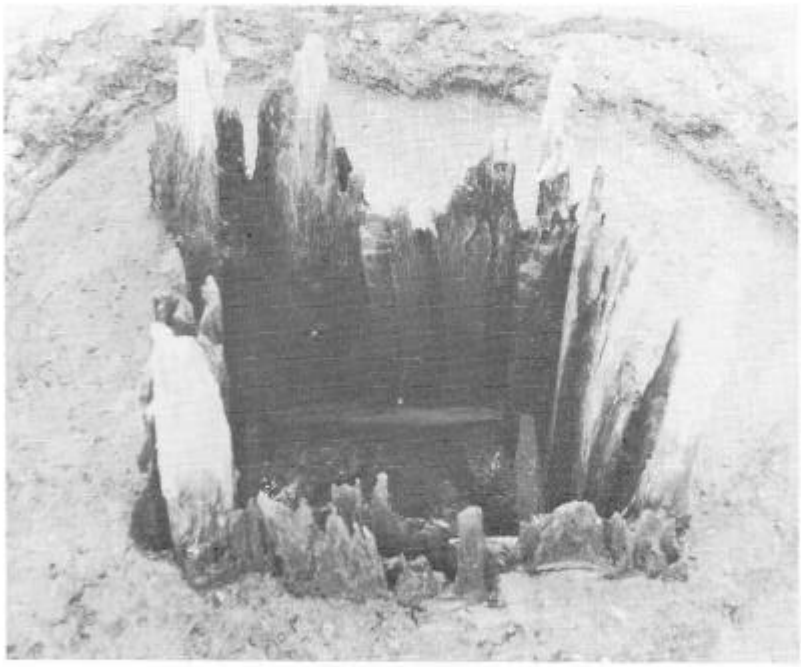
SB105 柱根

図版13



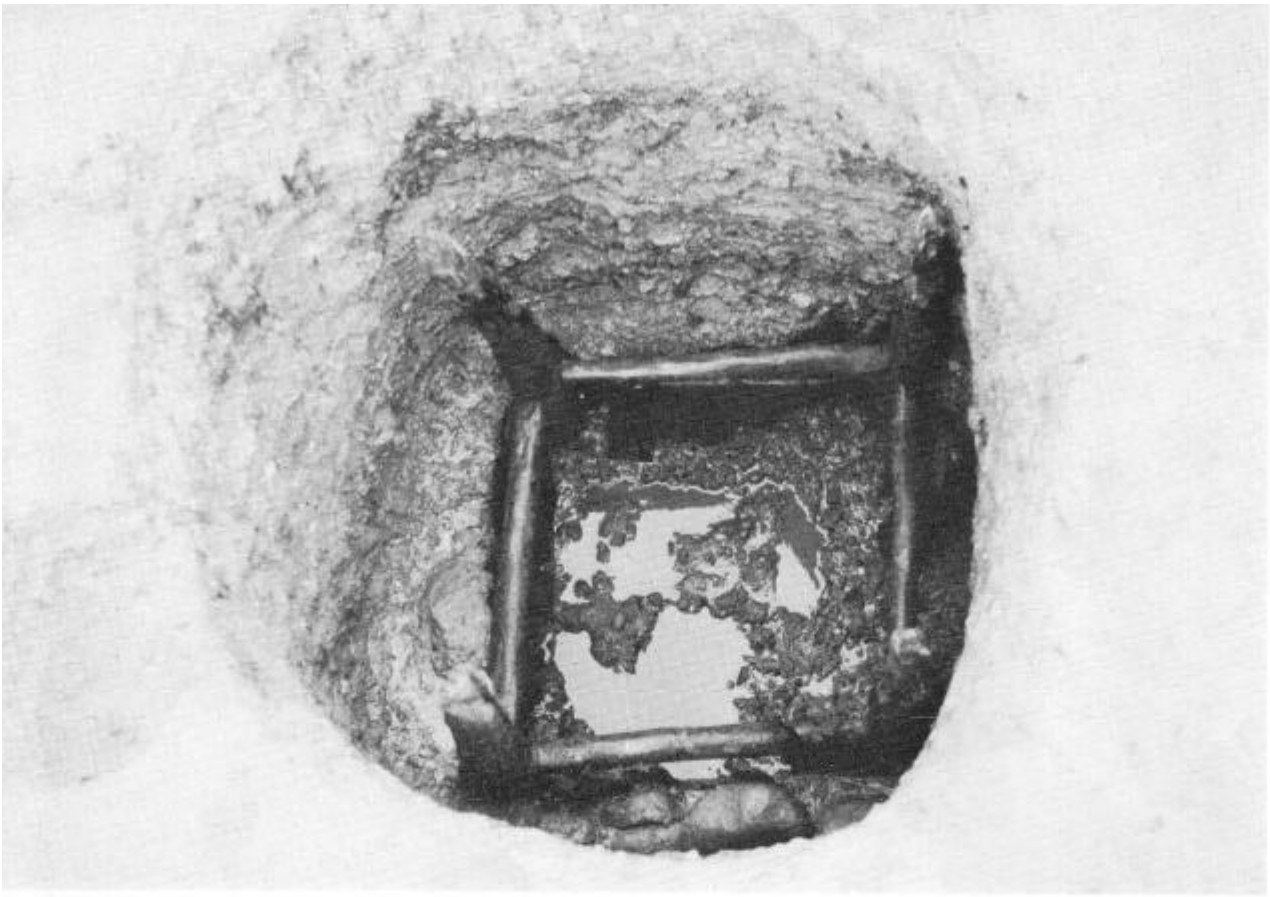
図版14　　SE70 井戸跡





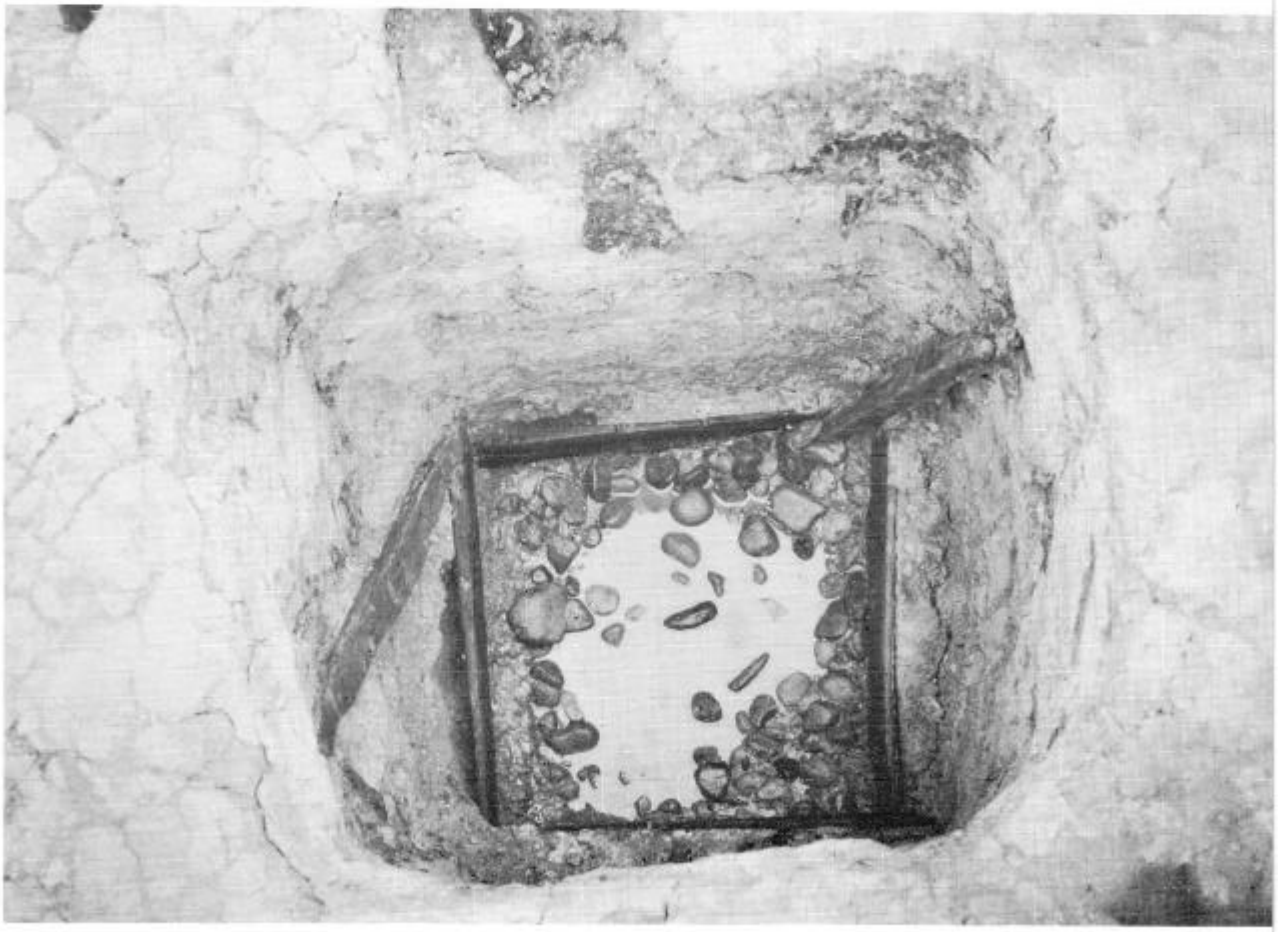
図版15　上　SE35,37 井戸跡

下　SE63 井戸跡



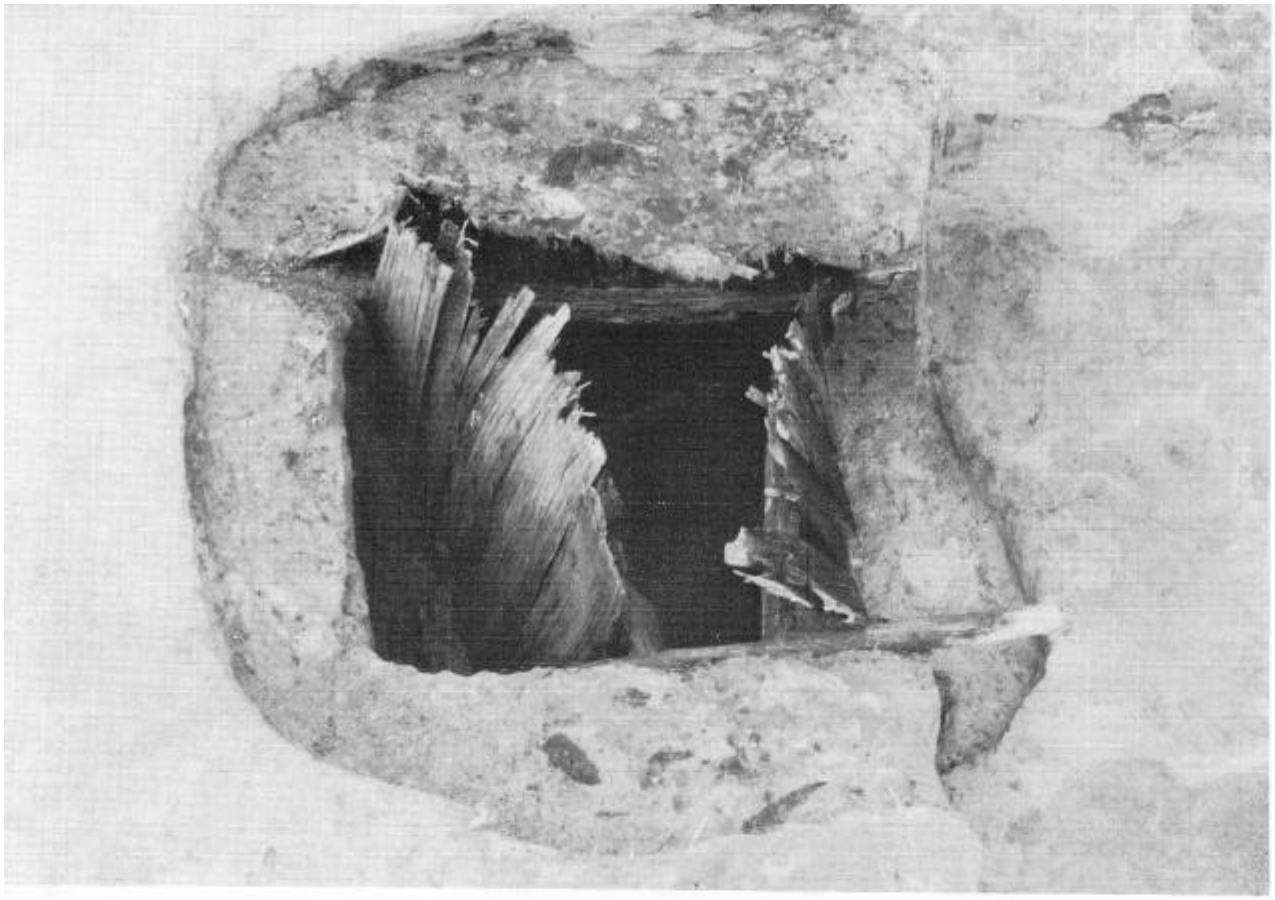
図版16　上　SE06 井戸跡

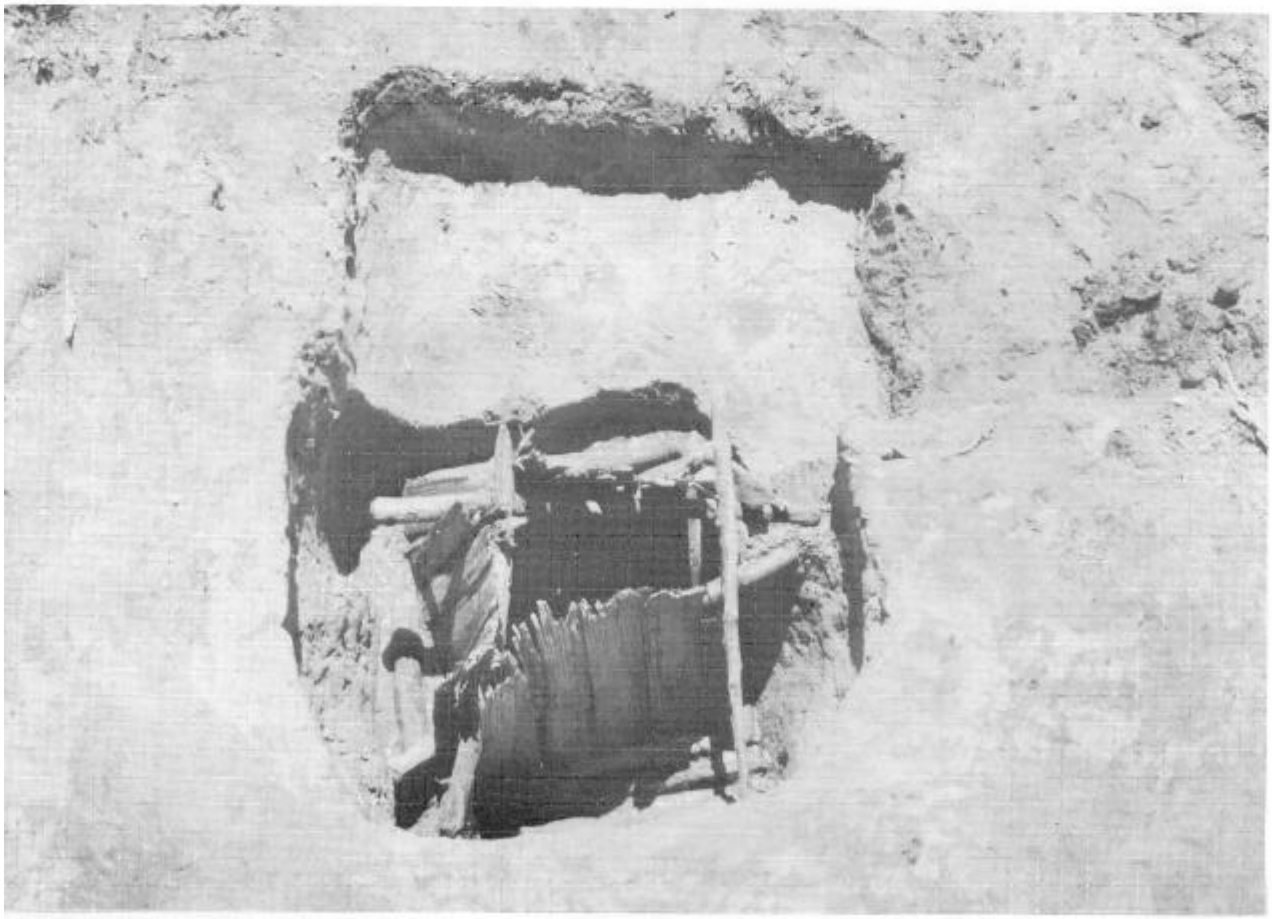
下　SE13 井戸跡



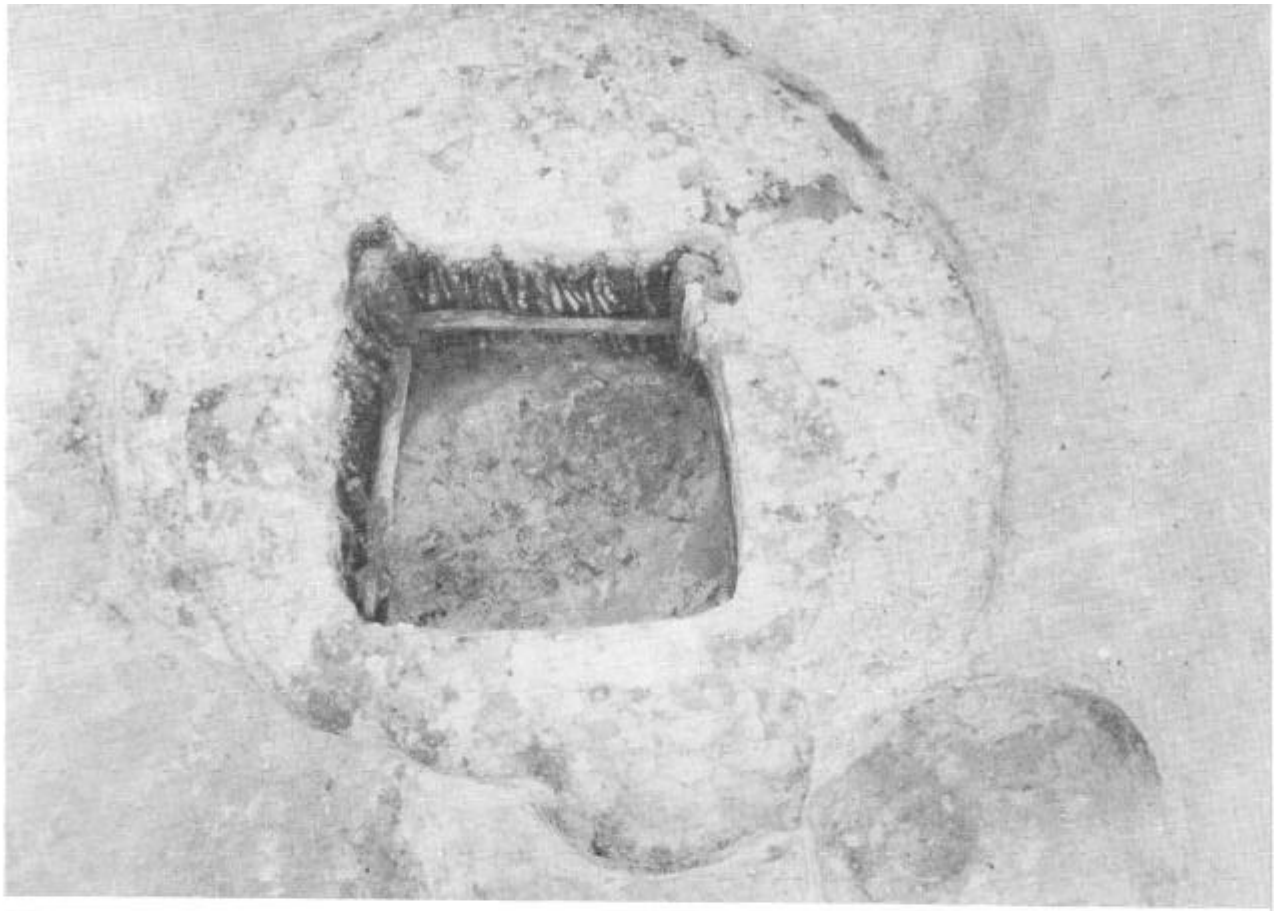
図版17　上　SE27 井戸跡

下　SE79 井戸跡

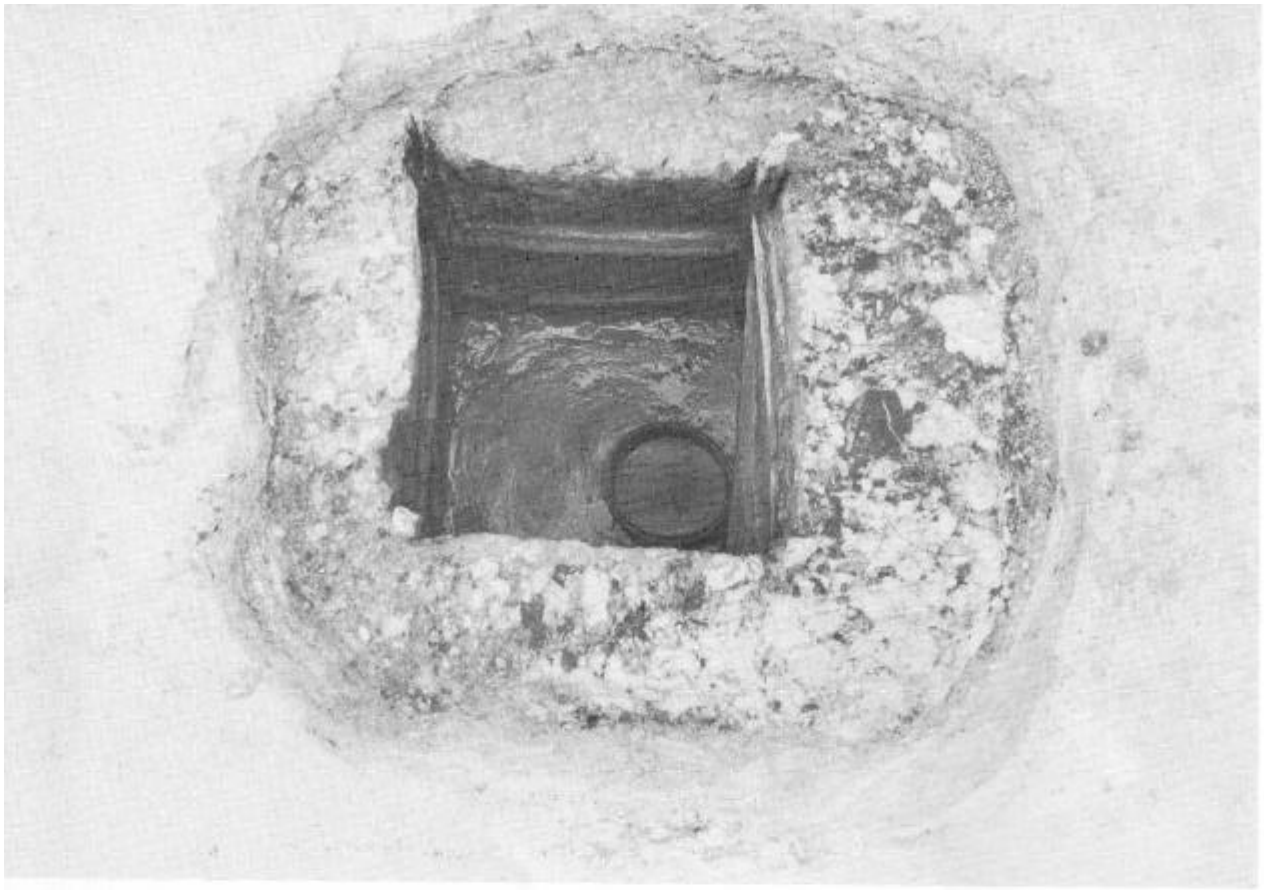




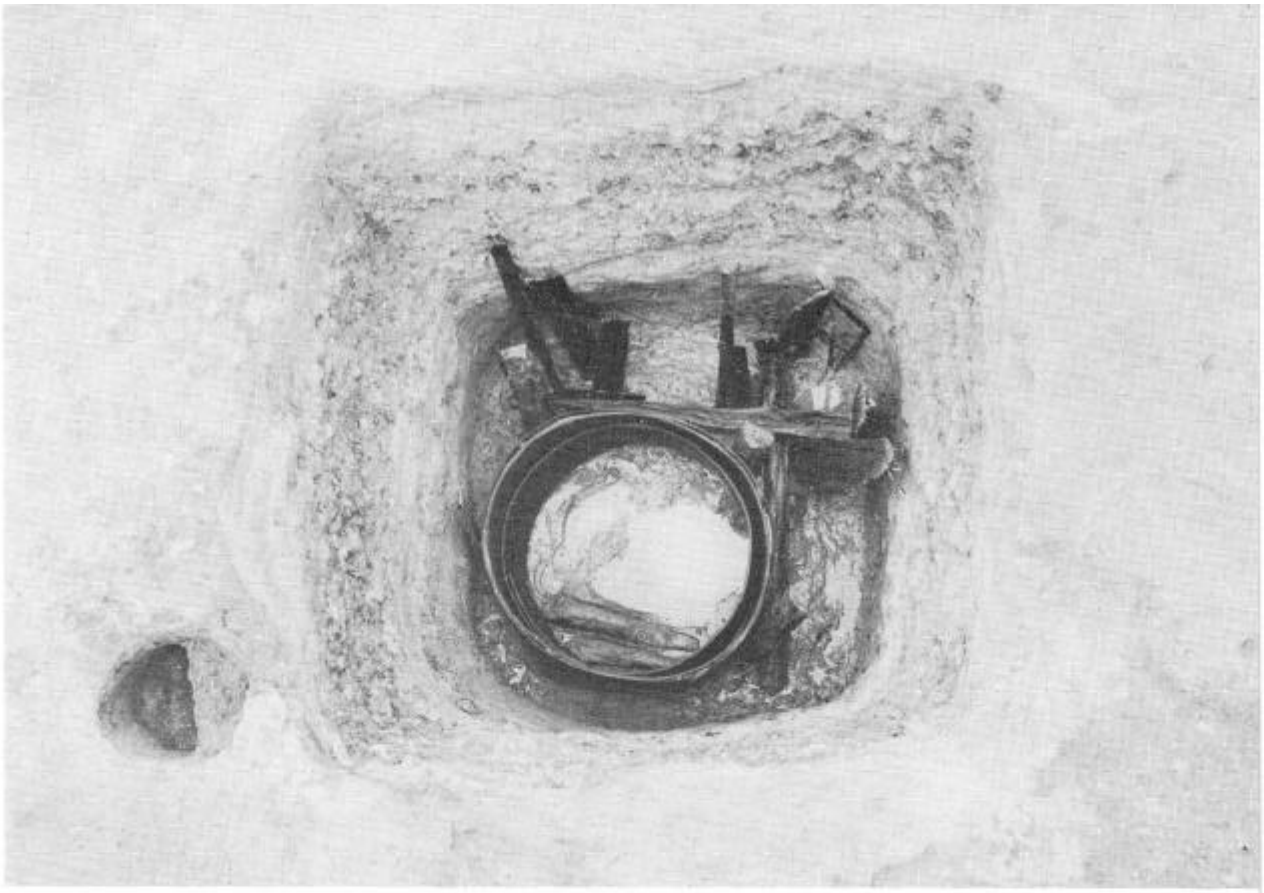
図版18　SE64 井戸跡



図版19　SE72 井戸跡

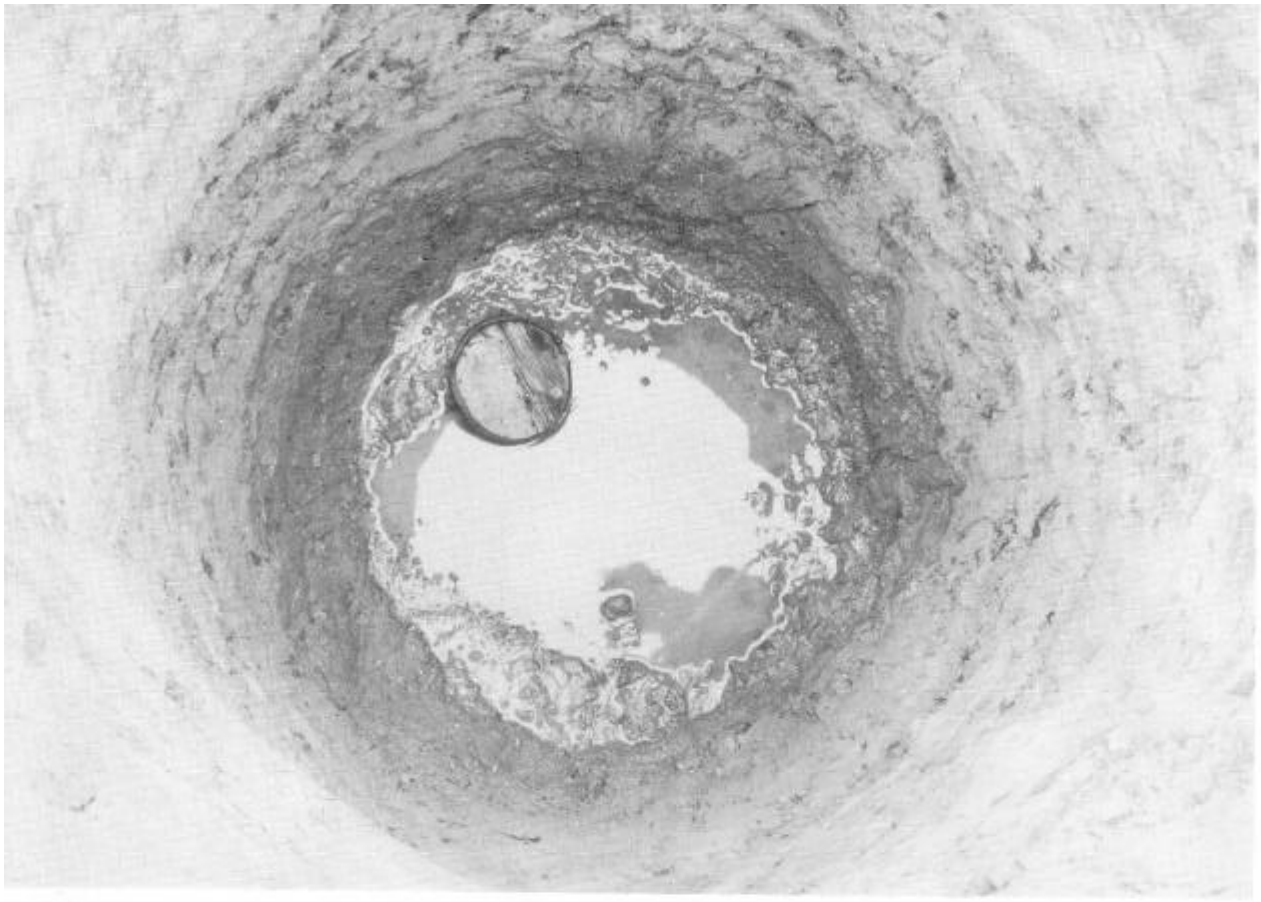


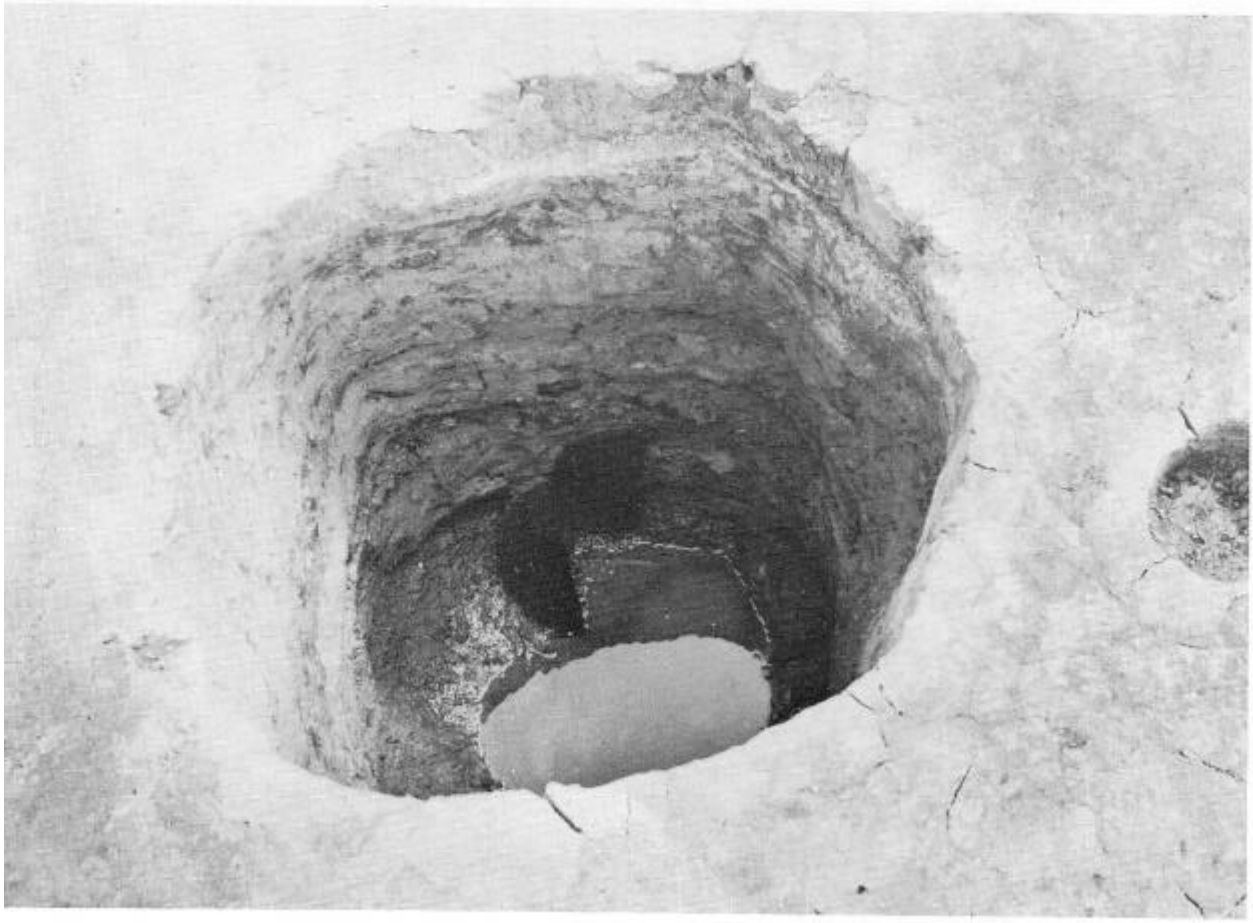
図版20　SE47 井戸跡



図版21　上　SE44 井戸跡

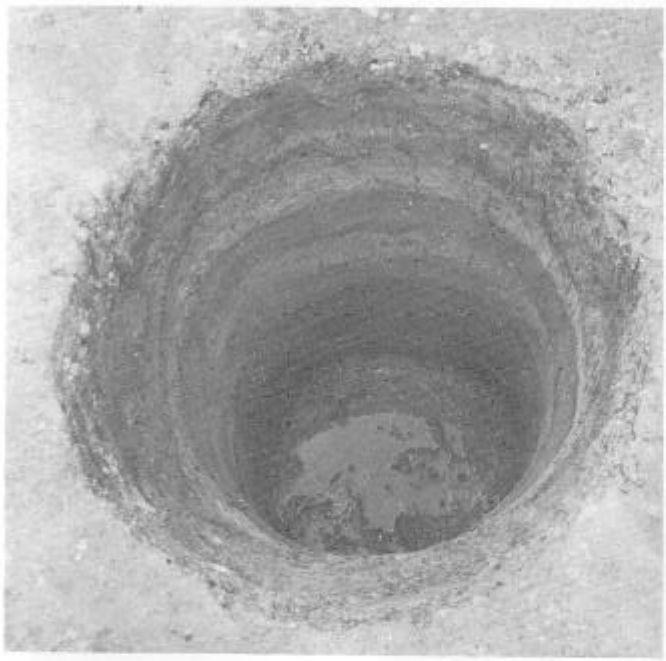
下　SE57 井戸跡

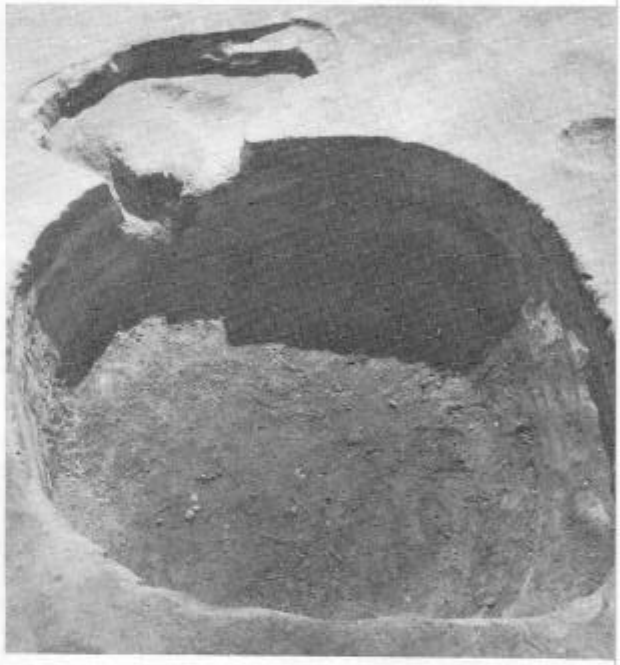


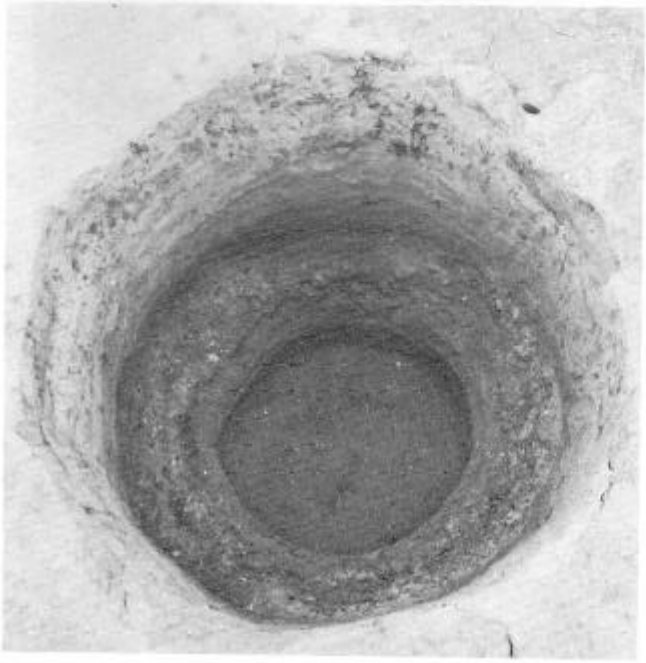


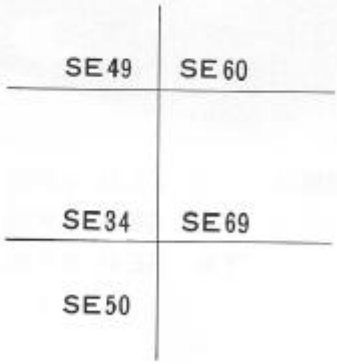
図版22　上　SE61 井戸跡

下　SE58 井戸跡

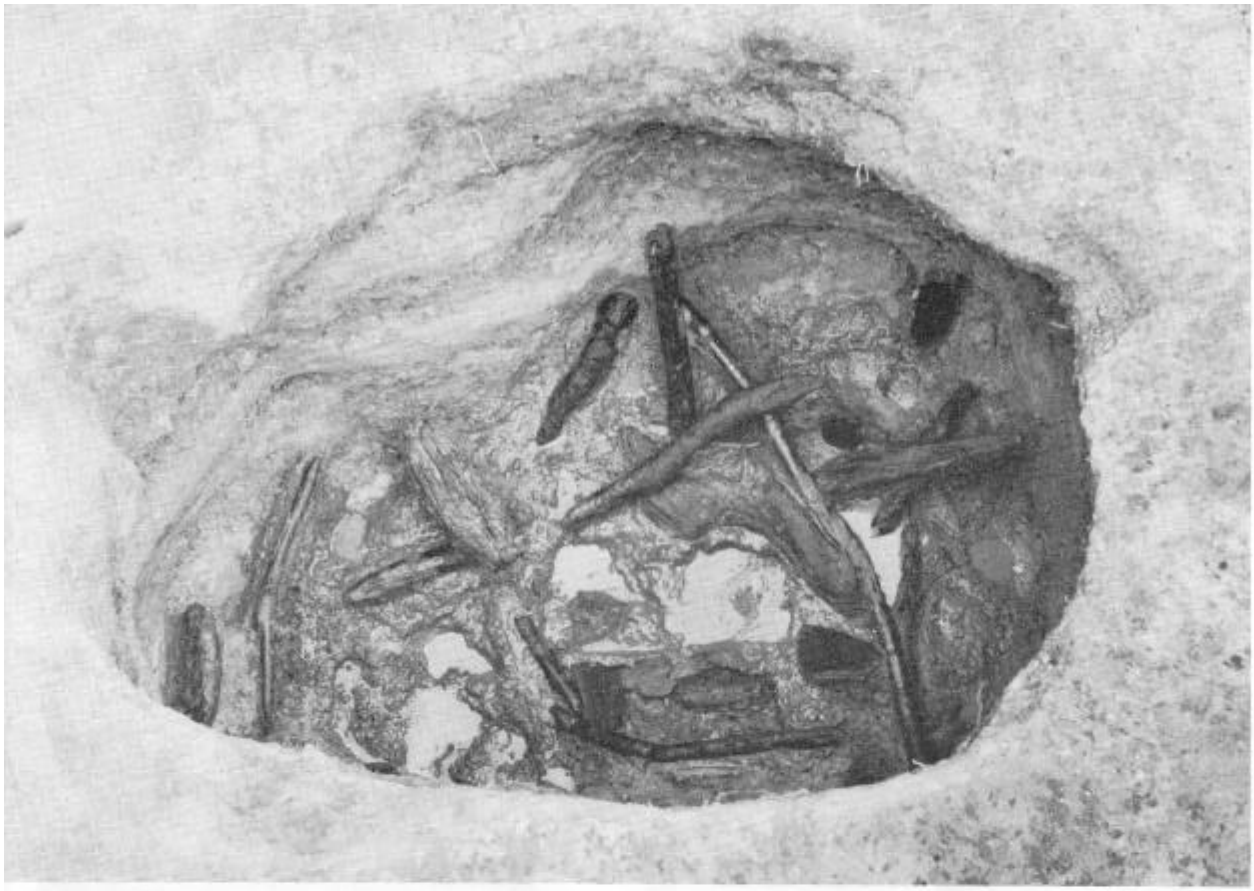


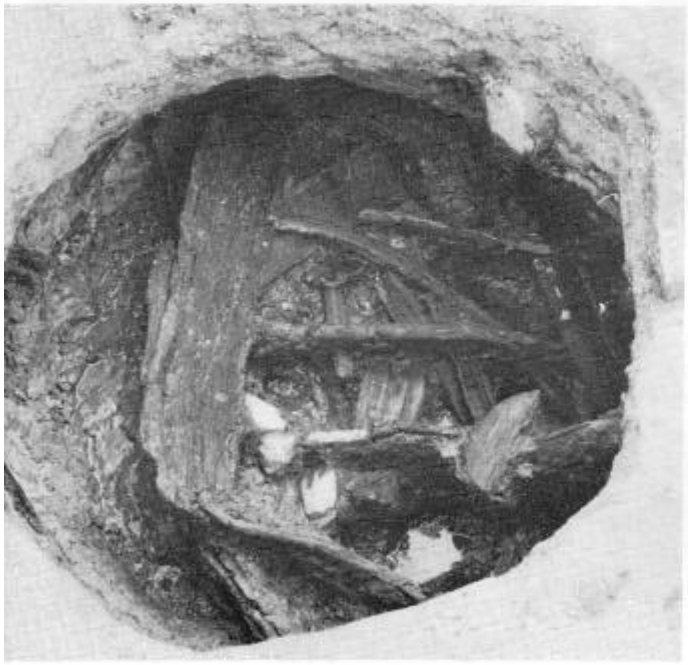


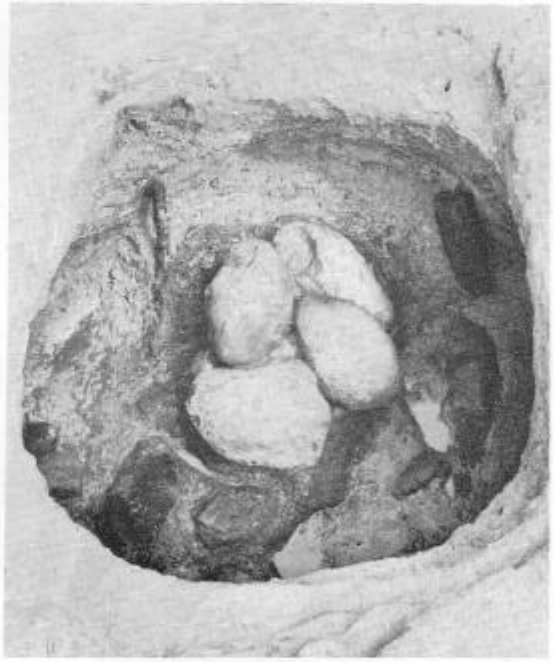




図版23　井　戸　跡







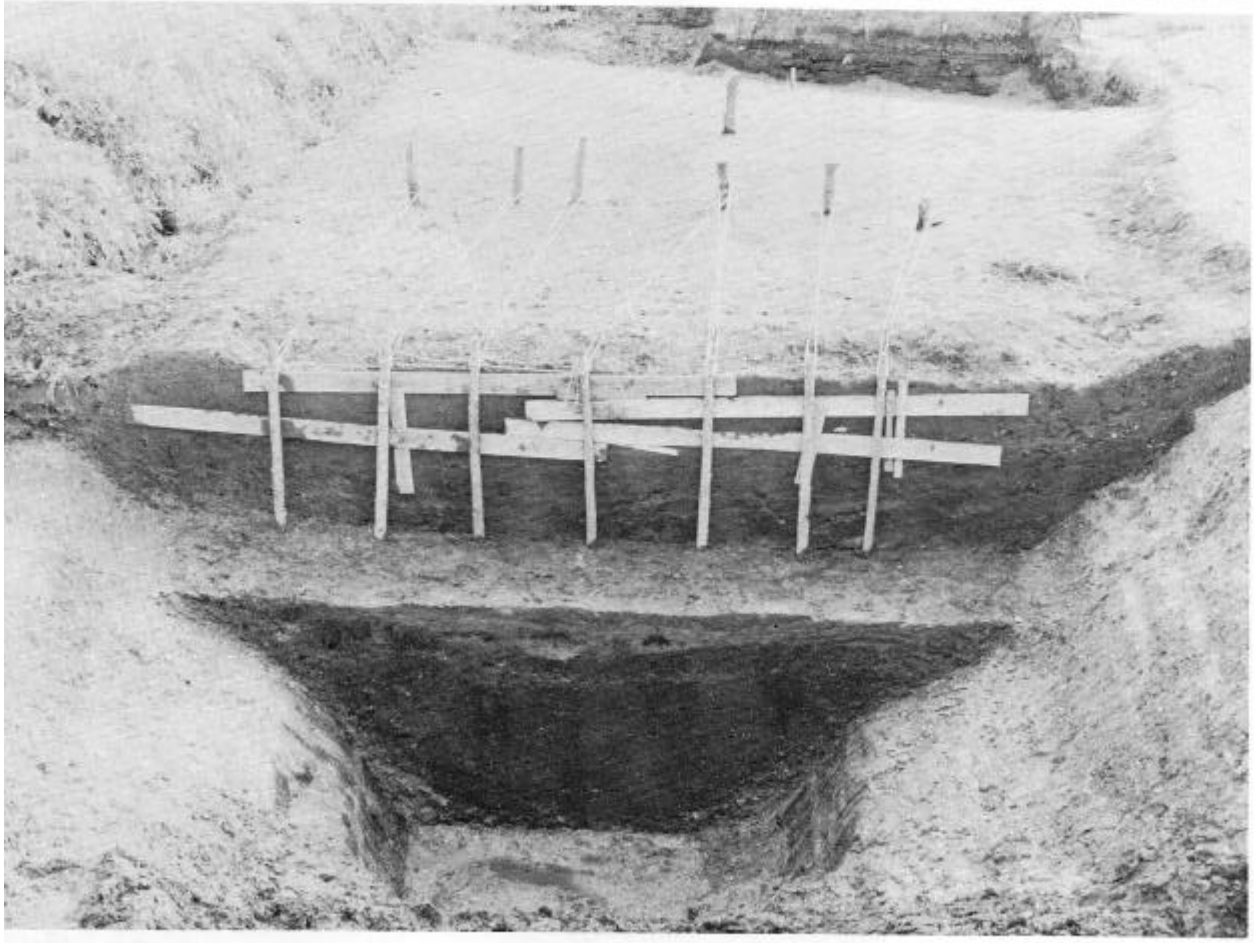
図版24　上　SE56 井戸跡
下左　SE81 井戸跡
下右　SE45 井戸跡

SE49 井戸跡断面

SE19 井戸跡断面

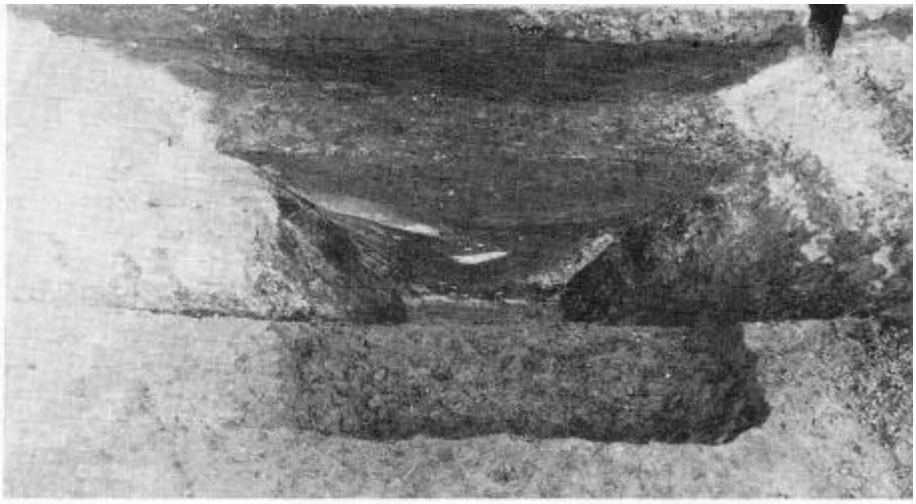
SK03 土　坑

図版25

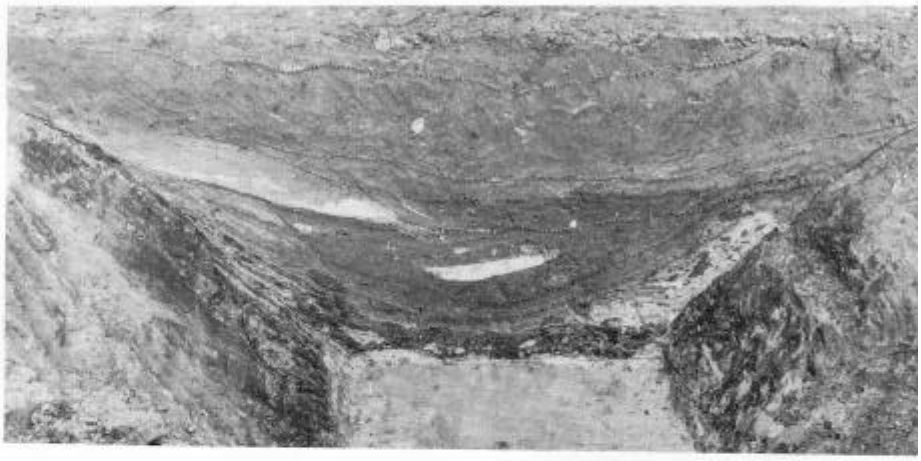


図版26　上　SK03,78 土坑，SE41,55 井戸跡分布状況

下　SD216堀（A－A′）断面



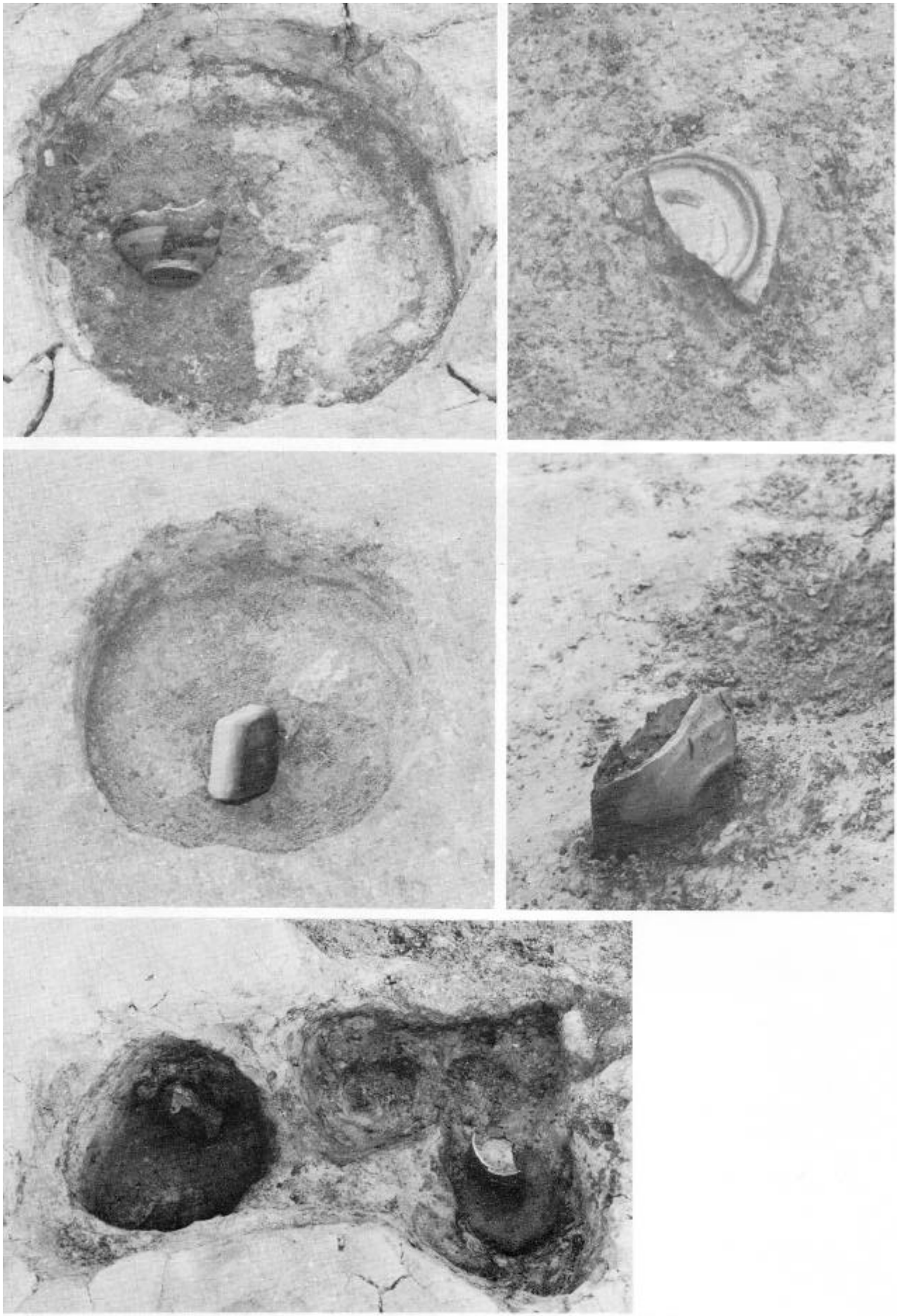
SD216堀（B－B′）断面



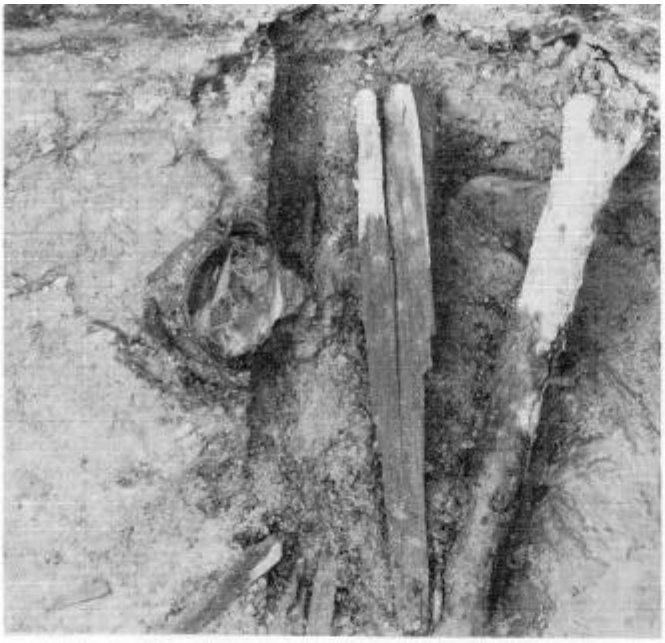
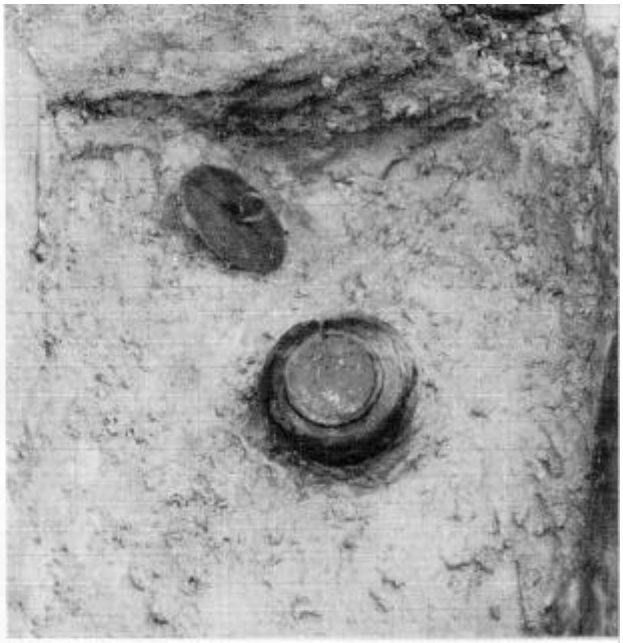
同上底部の状況

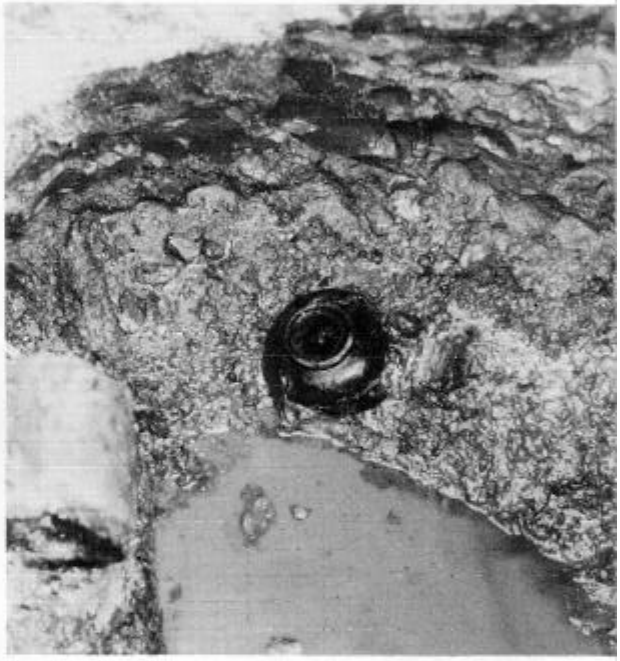
SD200溝（南西▶北東）

図版27

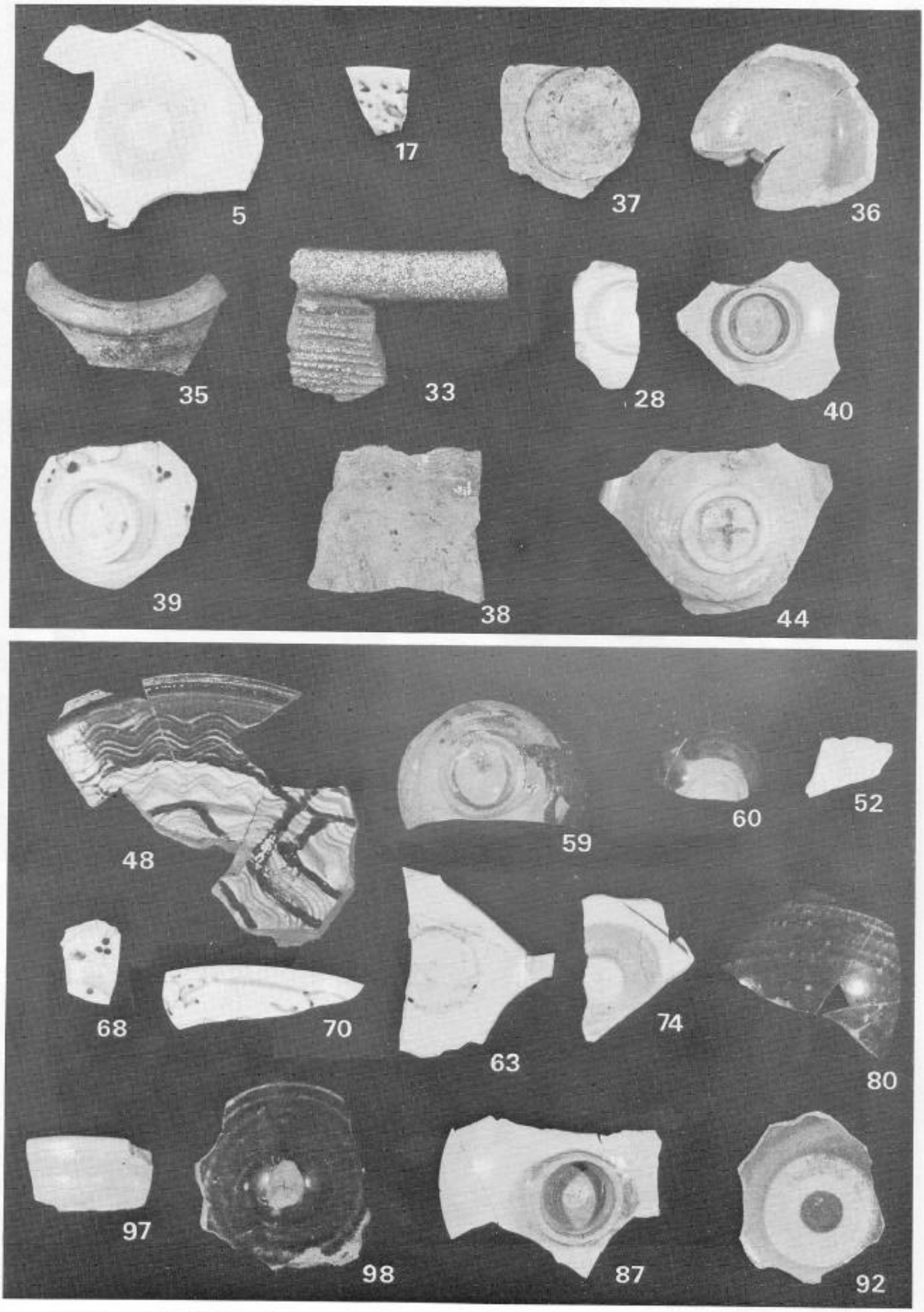


図版28　遺物出土状況

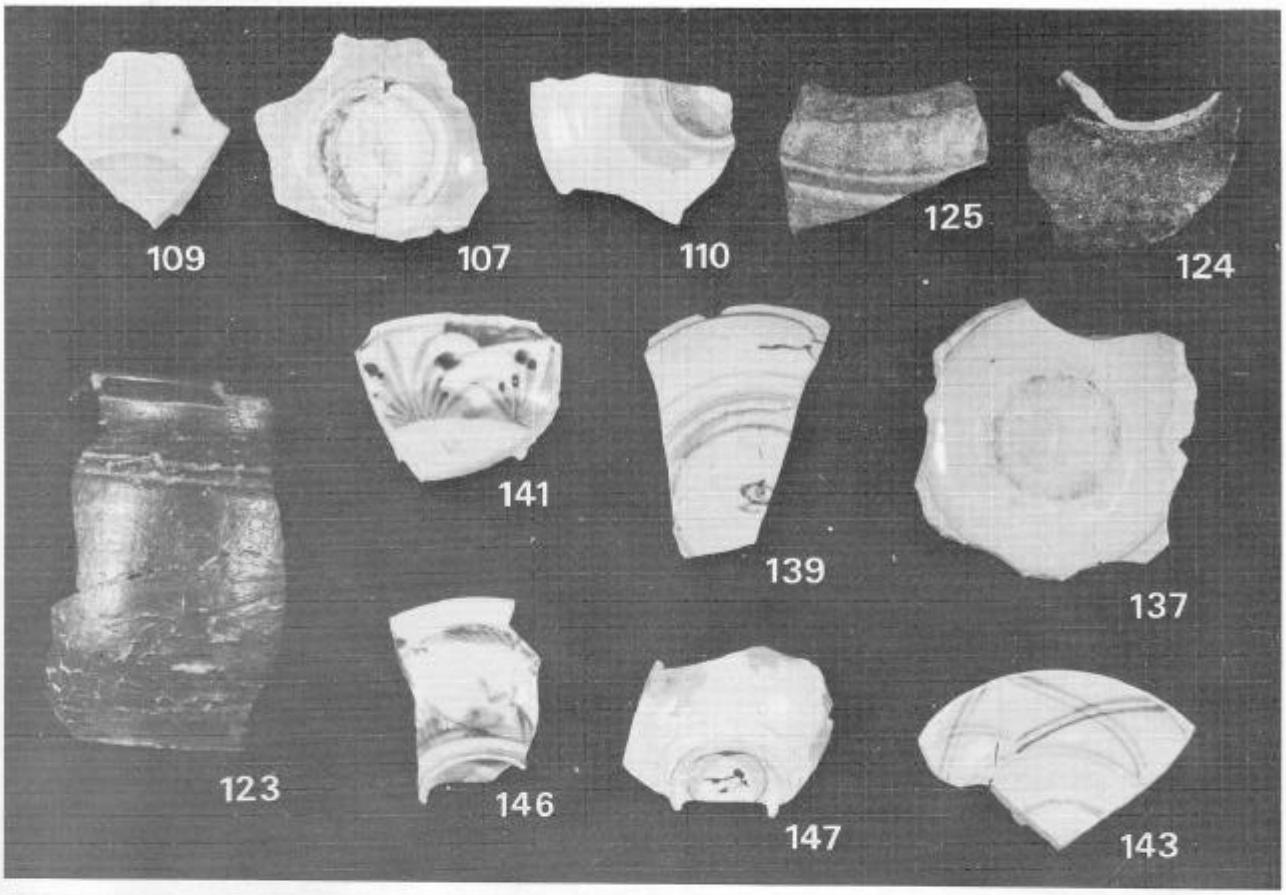



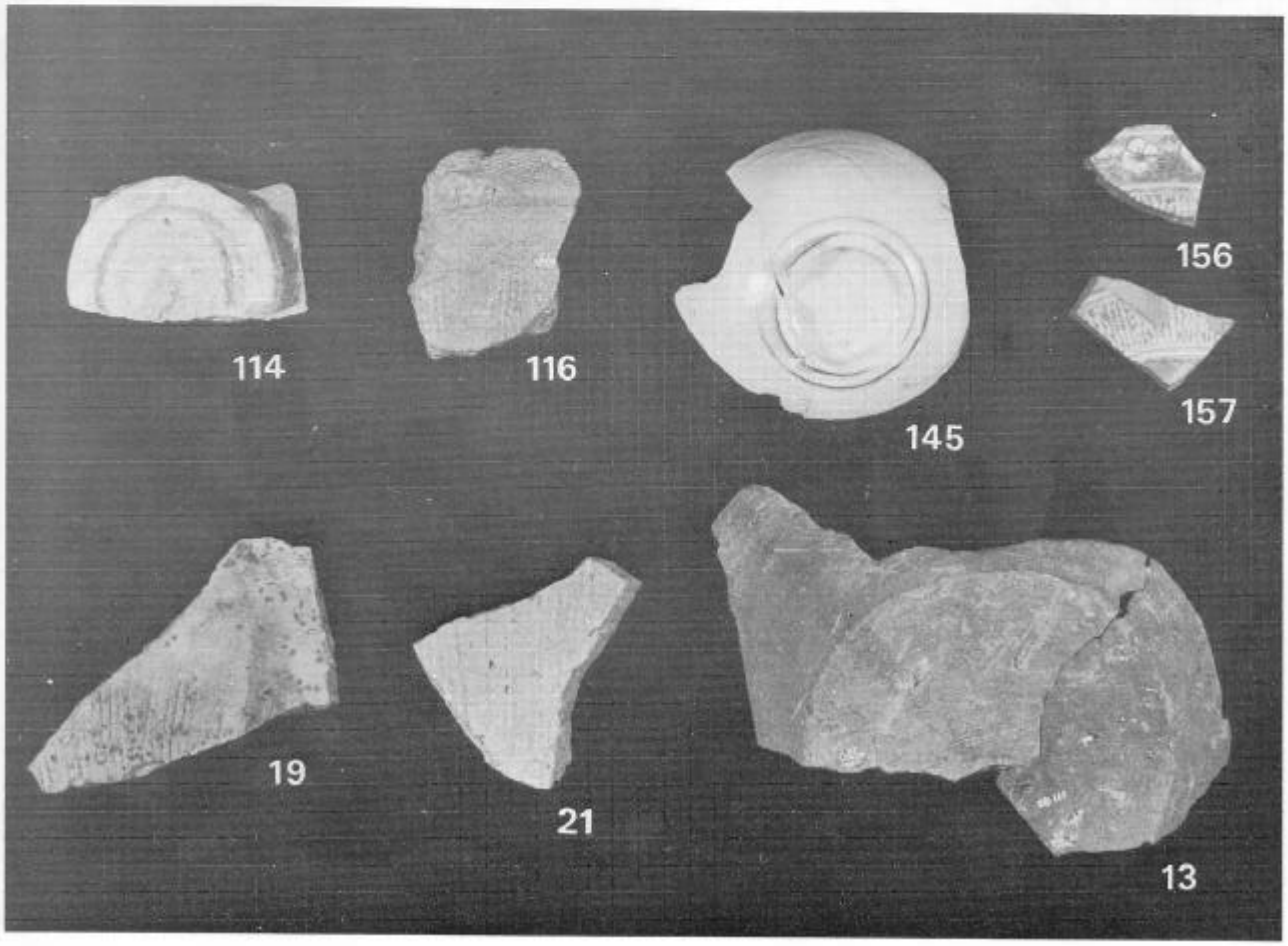


図版29　遺物出土状況

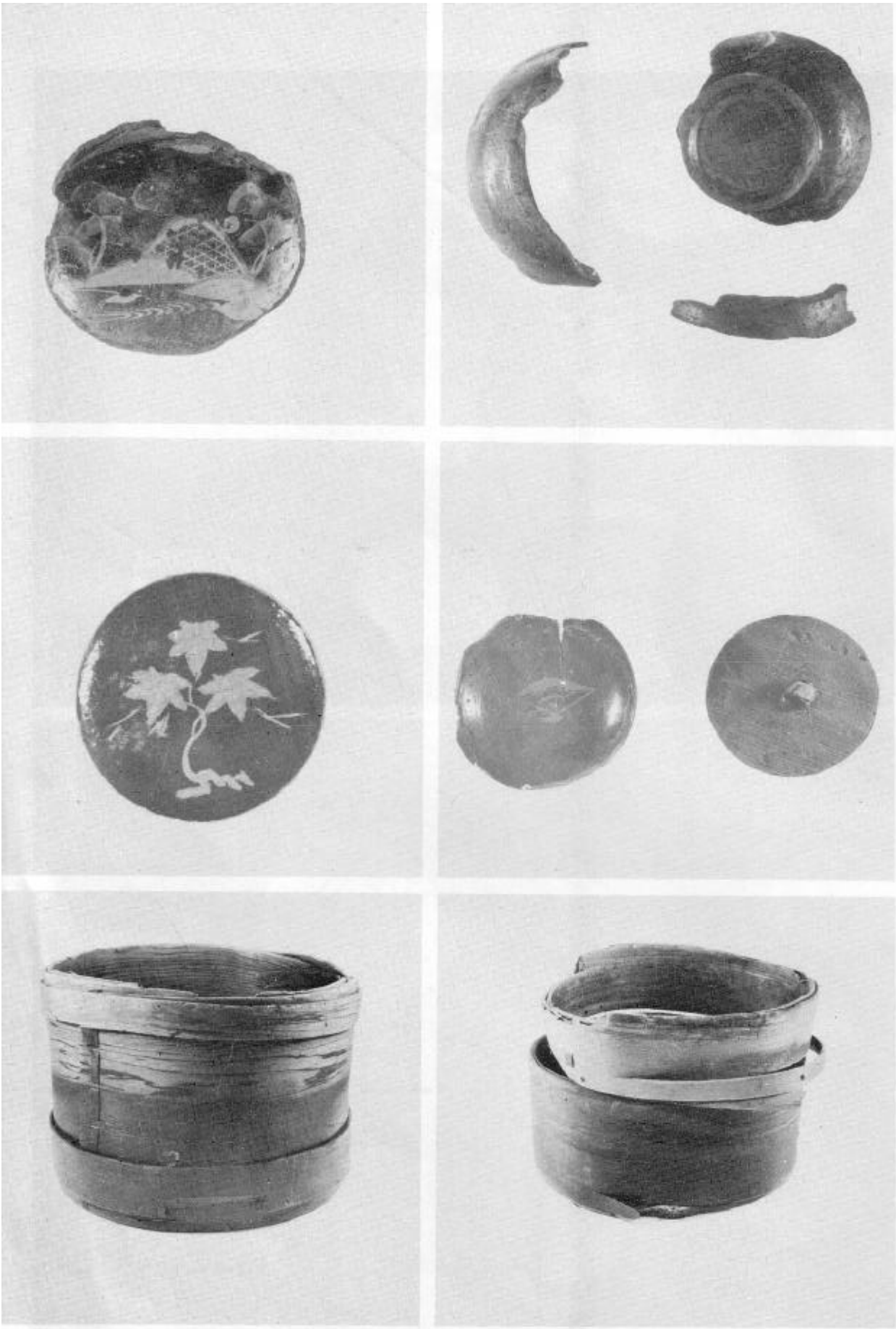


図版30　出土陶磁器(1)

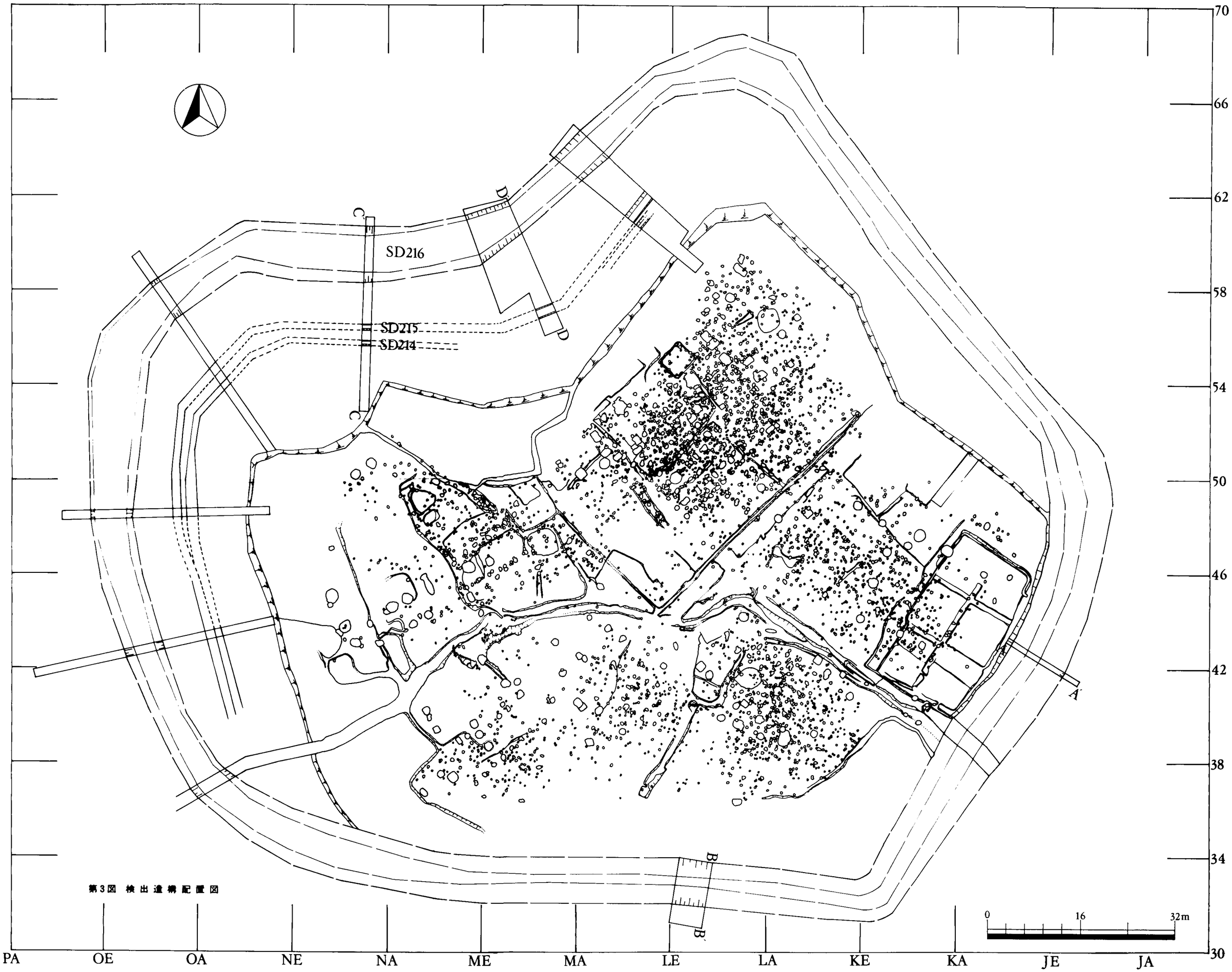

109
107
110
125
124
141
139
137
123
146
147
143


114
116
145
156
157
19
21
13

図版31　出土陶磁器(2)



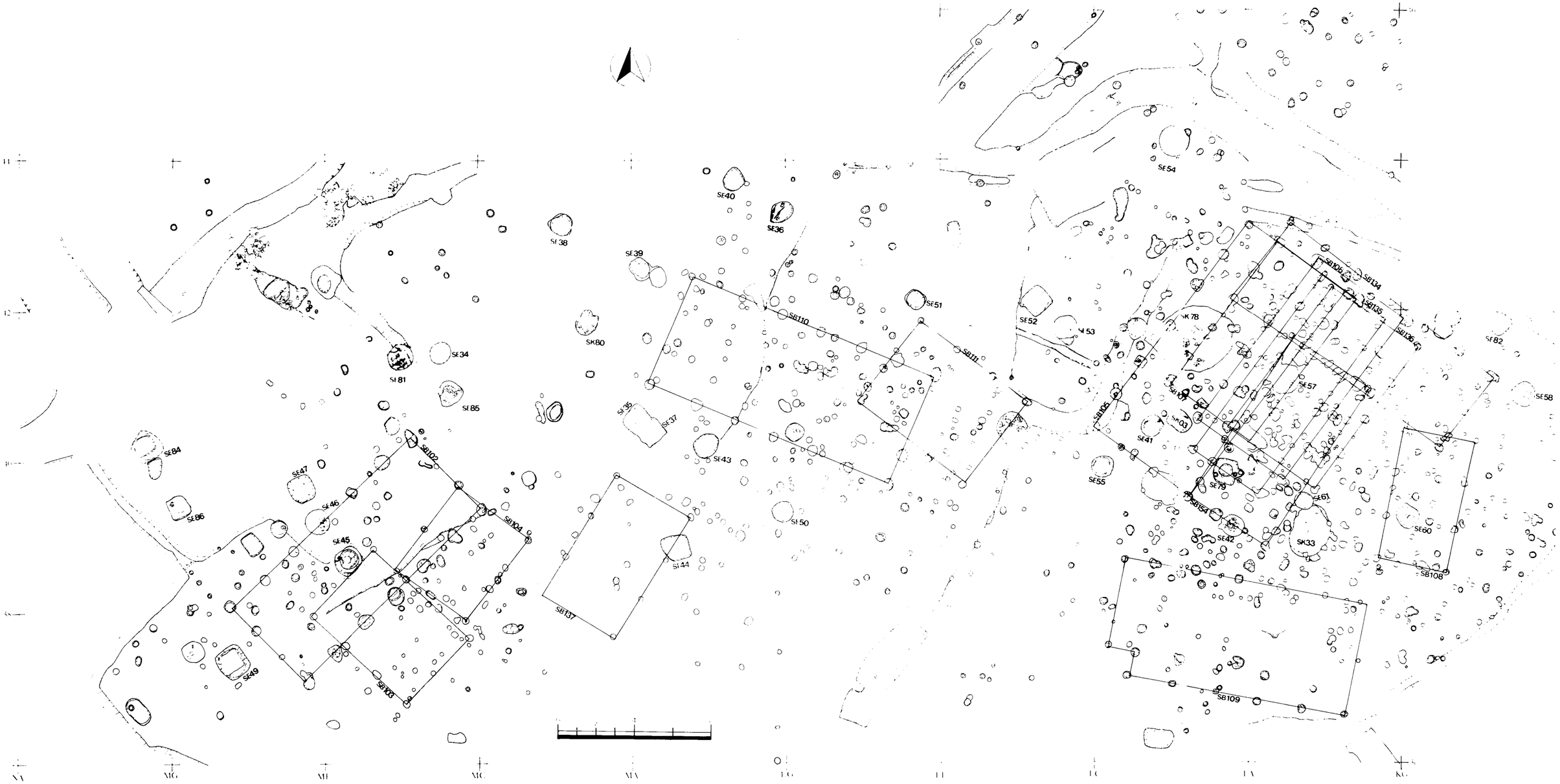
図版32　出土木製品


SD216
SD215
SD214
C
C'
D
D'
A
A'
B
B'
70
66
62
58
54
50
46
42
38
34
30
PA
OE
OA
NE
NA
ME
MA
LE
LA
KE
KA
JE
JA
0
16
32m

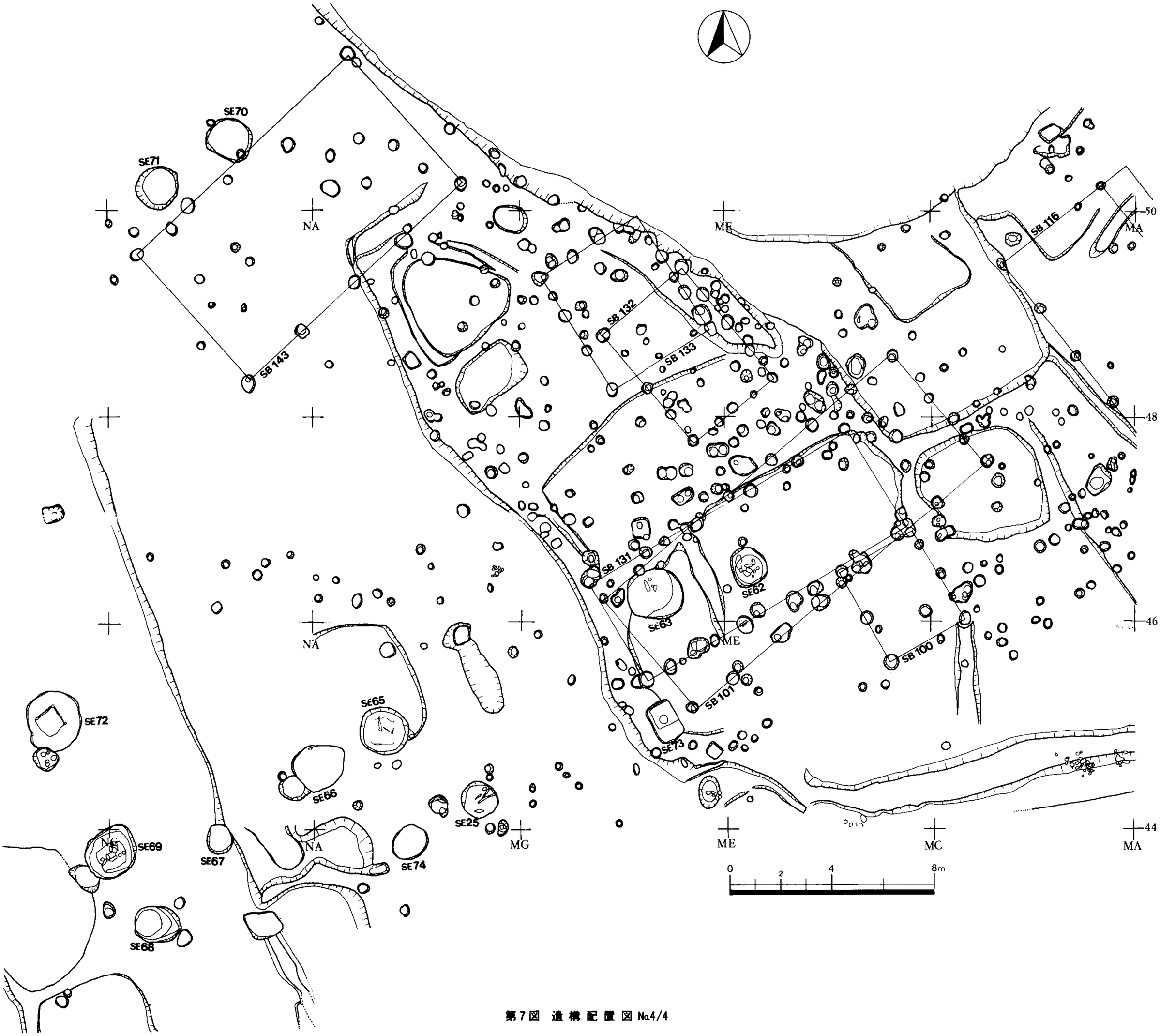
第3図 検出遺構配置図

第４図　遺構配置図No.１／４

第5図 遺構配置図 No.2/4



第6図　遺構配置図No.3／4



第7図 遺構配置図 No.4/4